

厚木市民意識調査報告書

平成 26 年 1 月

厚 木 市

は じ め に

厚木市では、第9次厚木市総合計画「あつぎ元気プラン」に掲げる将来都市像「元気あふれる創造性豊かな協働・交流都市あつぎ」の実現に向け、市民の皆様の参加と協働のもと、様々な施策を展開しているところです。

こうした中、平成25年7月に市民の皆様5,000人の方を対象に、皆様が日ごろ感じている安心・安全や環境、子育て、文化、福祉など、多岐にわたる生活に深く関わる事柄について、アンケートの御協力をお願いいたしました。この調査は、アンケートを通じた市政に対する市民参加のひとつであり、市民の皆様が主体のまちづくりを行うためのルールである「自治基本条例」の理念を実践するものです。

本報告書にまとめました調査結果は、社会経済情勢の変化や多様化する市民の皆様のニーズに即した行政サービスを提供できるよう活用してまいります。

厚木市では、平成24年2月に制定いたしました「第5次厚木市行政改革大綱」に基づき、行政改革に取り組んでおります。財政状況が厳しいなか、最小の経費で最大の効果を挙げられるよう市民サービスの向上に努めてまいります。そして市民の皆様が暮らしやすいまちの実現、県央の雄都としての礎を築いていく強い信念を持って、全国に誇れるまちを目指して市政運営に邁進してまいります。

今回の調査に当たり、御協力いただきました市民の皆様に対しまして、心からお礼を申し上げます。これからも市民の皆様により一層のお力添えをお願い申し上げます。

平成26年1月

厚木市長 小林 常良

◇◇◇ 目 次 ◇◇◇

I. 調査の概要

1	調査の目的	3
2	調査項目	3
3	調査設計	3
4	回収結果	3
5	報告書の見方	4

II. 回答者の属性

1	回答者の属性	7
(1)	性別（ア）	7
(2)	年齢（イ）	7
(3)	家族構成（ウ）	7
(4)	住居形態（エ）	8
(5)	居住地区（オ）	8
(6)	居住年数（カ）	9
(7)	利用駅（キ）	9
(8)	自宅から最寄駅までの交通手段（ク）	9
(9)	職業（ケ）	10
(10)	通勤（通学）先（コ）	10
(11)	自治会への加入（サ）	10

III. 意識調査結果

1	暮らしの状況	13
(1)	定住意向	13
(2)	住み続けたい理由	16
(3)	市外に転居したい理由	19
2	市の現状と将来	21
(1)	市の現在のイメージ	21
(2)	市の将来のイメージ	24
3	産業・商業	27
(1)	買い物をする場所	27
(2)	産業の活性化	29
(3)	観光地活性化のための取組	31
(4)	農業・林業振興のための取組	33

4	福祉・人権	35
	(1) 介護保険料の金額設定	35
	(2) 高齢時の居住形態	37
	(3) 子どもを産み育てられる環境	39
5	男女共同参画社会の推進	42
	(1) 男女の地位	42
6	スポーツ	50
	(1) スポーツをする頻度	50
	(2) 参加してみたいスポーツイベント	52
	(3) 取り組んでいるスポーツの種目	55
7	国際交流	57
	(1) 国際交流の取組	57
8	環境	60
	(1) ごみの減量化・資源化の推進	60
	(2) 資源とごみの分別	63
	(3) 地球温暖化防止のための取組	65
	(4) 地球温暖化防止に関する情報の提供方法	67
9	交通・安全・防災	69
	(1) 本厚木駅周辺の治安	69
	(2) 防犯対策に望むもの	71
	(3) 地域の防犯活動	73
	(4) セーフコミュニティの考え方	75
	(5) 住宅用火災警報器の設置	77
	(6) 実行可能な応急手当	79
	(7) 家庭で行っている災害対策	81
	(8) 自転車保険への加入	84
10	教育・生涯学習・文化	86
	(1) 子どもの教育のために最も大切なこと	86
	(2) 生涯学習活動に参加する上で支障になること	88
	(3) 優先すべき文化芸術施策	90
11	市民生活	93
	(1) 市の施設の利用状況	93
	(2) 整備が必要な施設	95
	(3) 市の施設の利用の有料化について	97
	(4) 公共施設の駐車場の有料化について	99
	(5) 高齢時の交通手段	101
	(6) 窓口開庁日時について	104

12 保健・健康	106
(1) 市立病院のイメージ	106
(2) かかりつけ医	108
(3) 「あつぎ健康相談ダイヤル24」	110
(4) がん検診の受診状況	112
(5) 自殺への対策	114
13 広報・広聴	116
(1) 市の情報の入手方法	116
(2) 「広報あつぎ」の入手方法	119
(3) ケーブルテレビ「あつぎ元気Wave」の視聴頻度	121
(4) 行政サービスの情報化・ICT化	123
(5) 家庭で利用する情報機器	126
(6) 「マイタウンクラブ」の認知度	128
14 まちづくり	131
(1) 本厚木駅周辺のイメージ	131
(2) まちづくり全般の変化	133
(3) まちづくりへの参加	151
(4) 本厚木駅周辺の活性化	155
(5) 本厚木駅周辺の買物で不満を感じる事	157
(6) 本厚木駅周辺にあればよいと思う施設	159
(7) 本厚木駅周辺で買物をするときの交通手段	162
(8) 本厚木駅周辺で主に利用する駐車場	165
(9) 市の将来の土地利用	166
(10) 厚木市内の道路の現状	169
(11) 道路整備に望むもの	173
(12) 河川環境の整備状況	177
15 行政	180
(1) 市民の声を行政に反映させる仕組み	180
(2) 行政情報の公開状況	182
(3) 「市民協働によるまちづくり」	184
(4) 「あゆコロちゃん」の認知度	186

IV. 調査票と集計結果

1 調査票 (A)	191
2 調査票 (B)	205

I. 調査の概要

1 調査の目的

市民のまちづくりに対する考えや市民生活に関係の深い事項について、市民意識の変化や市民ニーズを的確に把握し、今後の市政運営等の資料とすることを目的に実施したものである。

2 調査項目

- (1) 暮らしの状況
- (2) 市の現状と将来
- (3) 産業・商業
- (4) 福祉・人権
- (5) 男女共同参画社会の推進
- (6) スポーツ
- (7) 国際交流
- (8) 環境
- (9) 交通・安全・防災
- (10) 教育・生涯学習・文化
- (11) 市民生活
- (12) 保健・健康
- (13) 広報・広聴
- (14) まちづくり
- (15) 行政

3 調査設計

- | | |
|------------|----------------------------|
| (1) 調査地域 | 厚木市全域 |
| (2) 調査対象 | 厚木市在住の18歳以上の男女 |
| (3) 調査対象者数 | 調査票A：2,500人
調査票B：2,500人 |
| (4) 抽出方法 | 無作為抽出法 |
| (5) 調査方法 | 郵送配布・郵送回収法 |
| (6) 調査期間 | 平成25年7月5日～23日 |

4 回収結果

- | | |
|-----------|----------------------------|
| (1) 有効回収数 | 調査票A：1,270人
調査票B：1,284人 |
| (2) 回収率 | 調査票A：50.8%
調査票B：51.4% |

5 報告書の見方

- (1) 図表中の「n」(Number of Cases の略) は、各設問の回答者数のことである。
- (2) 集計は、小数点第2位を四捨五入。よって、数値の合計が 100.0% ちょうどにならない場合がある。
- (3) 回答の比率(%) は、その質問の回答者数を基数として算出した。よって、複数回答の設問はすべての比率を合計すると 100.0% を超えることがある。
- (4) 本文や図表中の選択肢表記は、語句を短縮・簡略化している場合がある。
- (5) 設問によっては、過去に実施した「厚木市民意識調査」の結果と比較している。
- (6) 回答者数の少ないものについては、図表に示すに留め、この報告書の中では特に取りあげていない場合がある。

6 標本誤差

今回の調査は、調査対象となる母集団(厚木市全域に住む満 18 歳以上の男女)から一部を抽出した標本(サンプル)の比率等から母集団の比率等を推測する、いわゆる「標本調査」を行っている。よって、母集団に対する標本誤差が生じることがある。

標本誤差は次式で統計学的に得られ、①比率算出の基数(n)、②回答の比率(P)によって誤差幅が異なる。

$$\text{標本誤差} = \pm 1.96 \sqrt{\frac{N-n}{N-1} \times \frac{p(100-p)}{n}}$$

(注) $\frac{N-n}{N-1} \doteq 1$

N = 母集団数
 (厚木市の満 18 歳以上人口)
 n = 比率算出の基数(回答者数)
 p = 回答の比率(%)

ある設問の回答者数が 2,554 人で、その設問中のある選択肢の回答比率が 50% のとき、その標本誤差は、±1.94% と考えてよい。

今回の調査結果の標本誤差は次表のようになる。

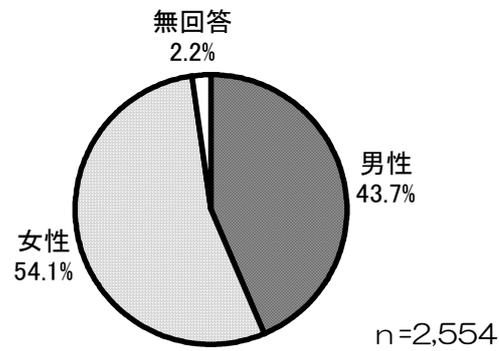
n (基数) \ p	回 答 比 率				
	90%または 10%	80%または 20%	70%または 30%	60%または 40%	50%
2,554 票	±1.16	±1.55	±1.78	±1.90	±1.94
2,000 票	±1.31	±1.75	±2.01	±2.15	±2.19
1,500 票	±1.51	±2.02	±2.31	±2.47	±2.52
1,000 票	±1.85	±2.47	±2.83	±3.03	±3.09
500 票	±2.63	±3.50	±4.01	±4.29	±4.38
300 票	±3.39	±4.52	±5.18	±5.54	±5.65
100 票	±5.88	±7.84	±8.98	±9.60	±9.80

(この表の計算式の信頼度は 95% である。)

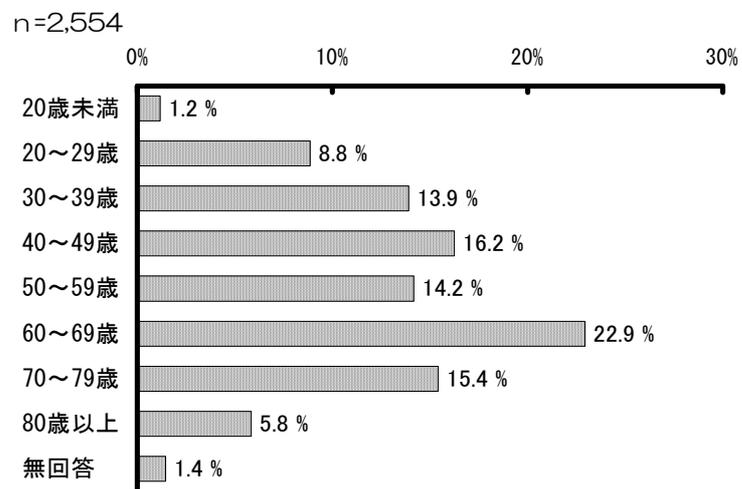
II. 回答者の属性

1 回答者の属性

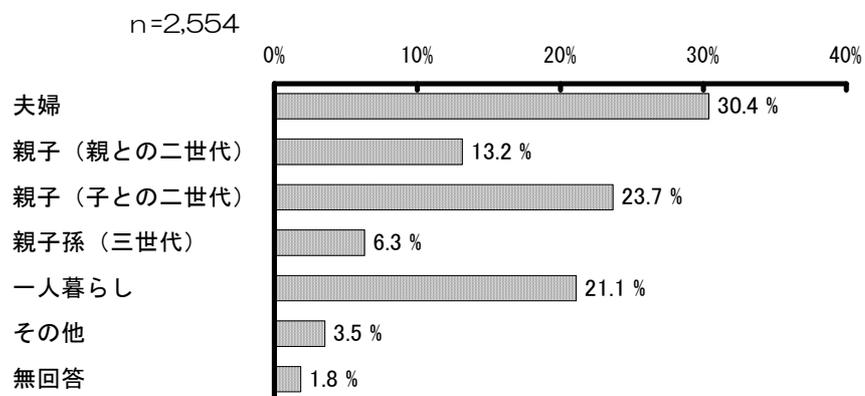
(1) 性別 (ア)



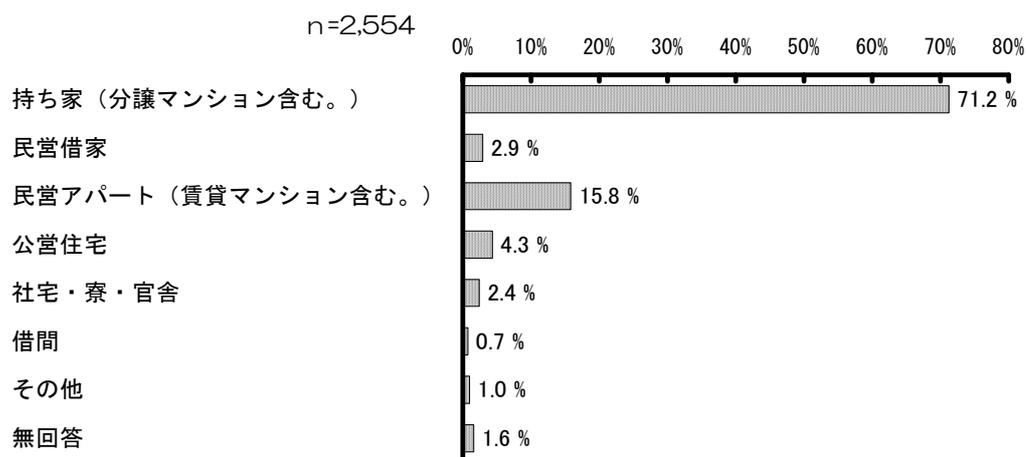
(2) 年齢 (イ)



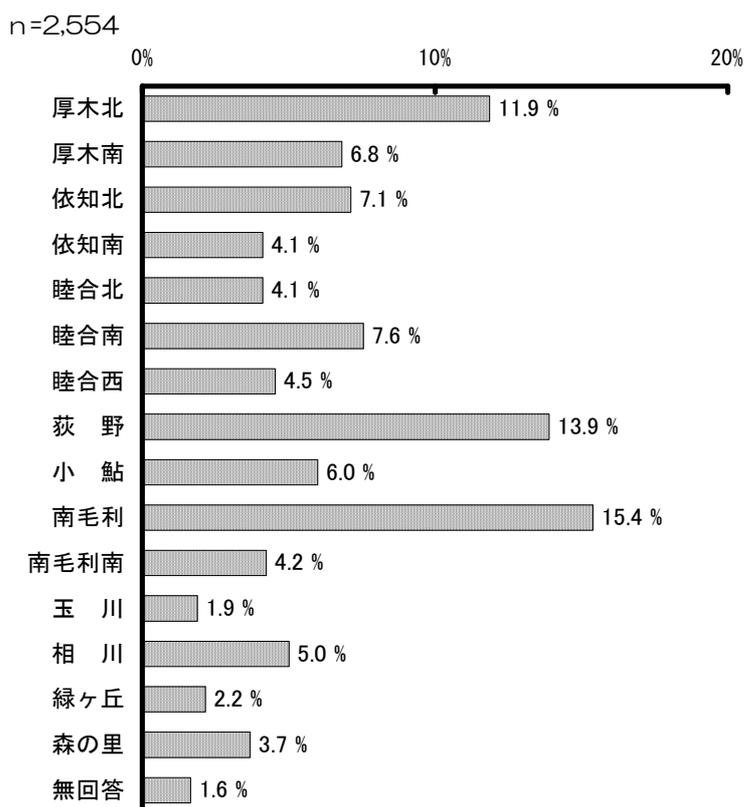
(3) 家族構成 (ウ)



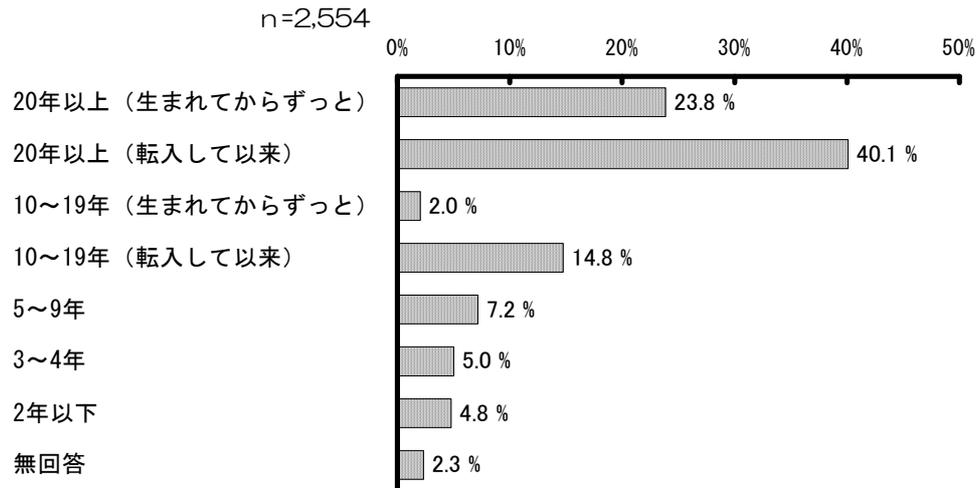
(4) 住居形態 (工)



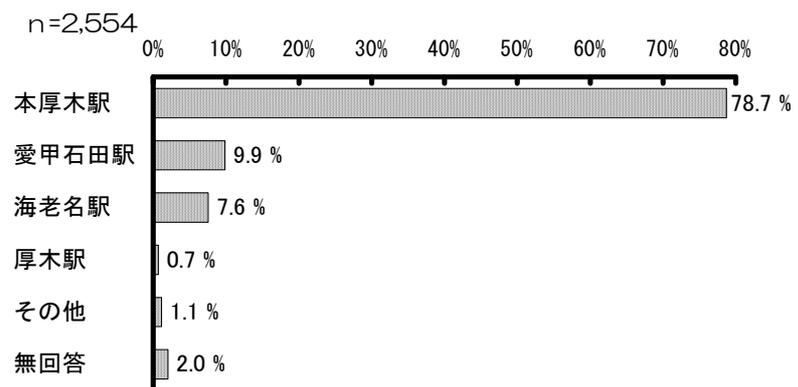
(5) 居住地区 (才)



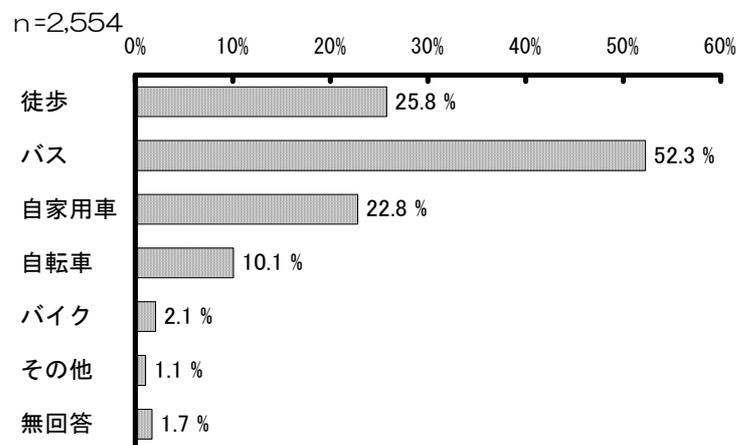
(6) 居住年数 (カ)



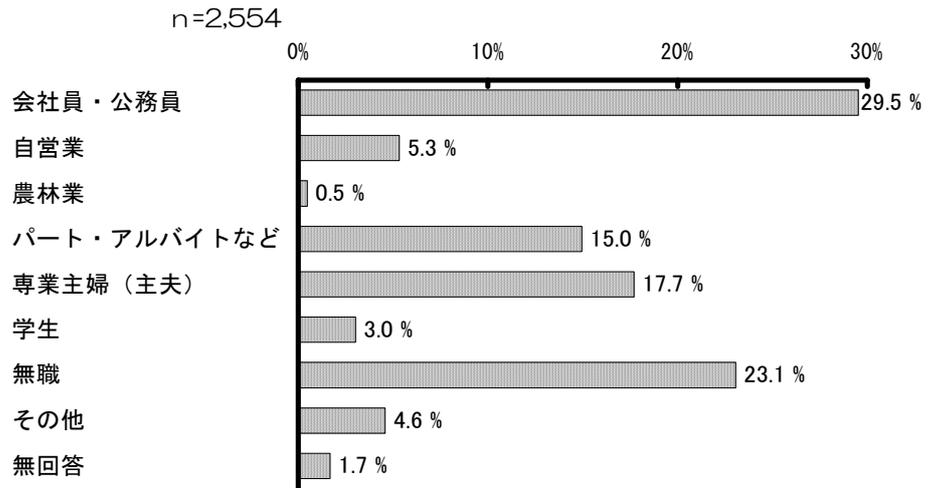
(7) 利用駅 (キ)



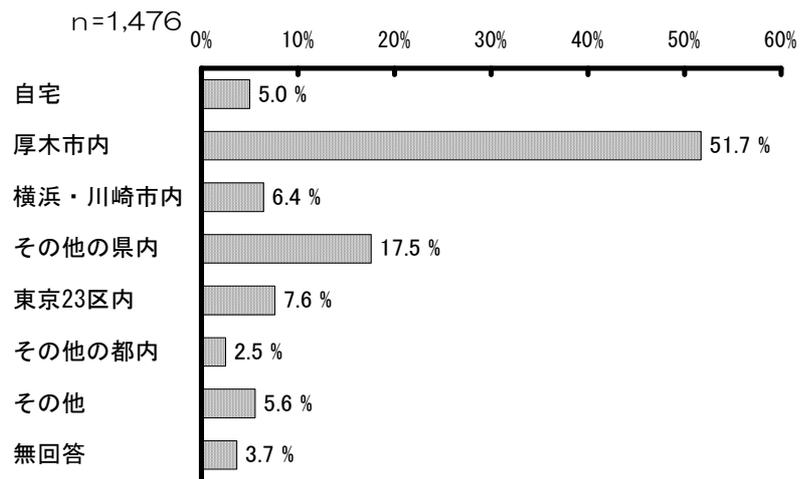
(8) 自宅から最寄駅までの交通手段 (ク)



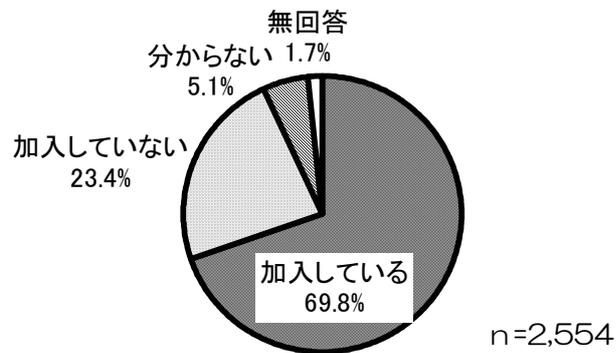
(9) 職業 (ケ)



(10) 通勤（通学）先 (コ)



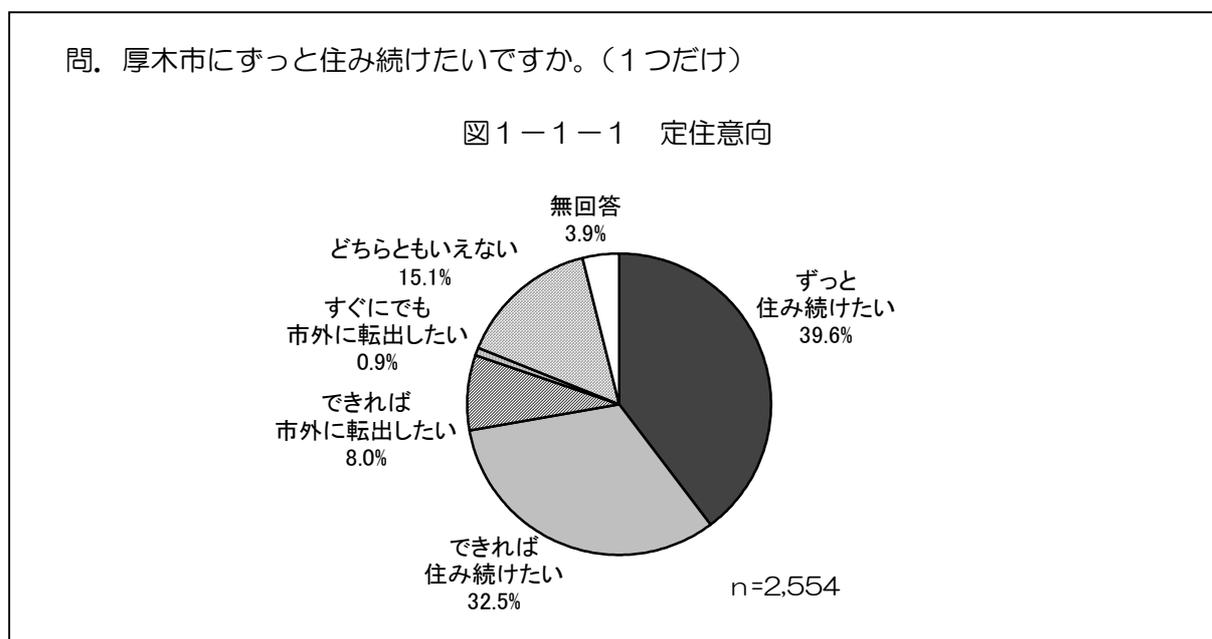
(11) 自治会への加入 (サ)



Ⅲ. 意識調査結果

1 暮らしの状況

(1) 定住意向 (A・B：問1)



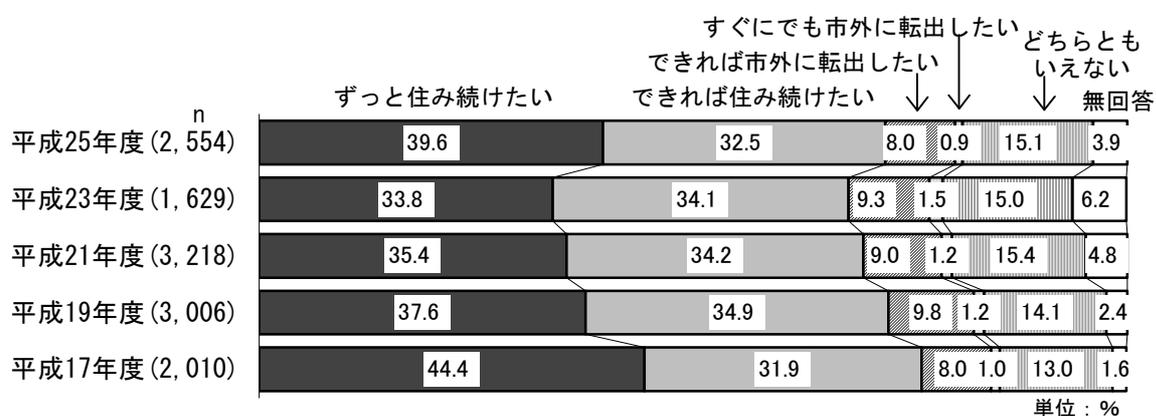
【全体】

厚木市への定住意向は、「ずっと住み続けたい」(39.6%)が4割に近く、これに「できれば住み続けたい」(32.5%)を合わせた『定住意向』(72.1%)は7割を超えている。一方、「できれば市外に転出したい」(8.0%)と「すぐにでも市外に転出したい」(0.9%)を合わせた『転出意向』(8.9%)は1割以下となっている。

【経年変化】

「ずっと住み続けたい」は3割台を維持したものの、平成17年度調査以降、平成23年度調査まで減少傾向が続いていたが、今回は39.6%と増加している。

図1-1-2 定住意向一経年変化

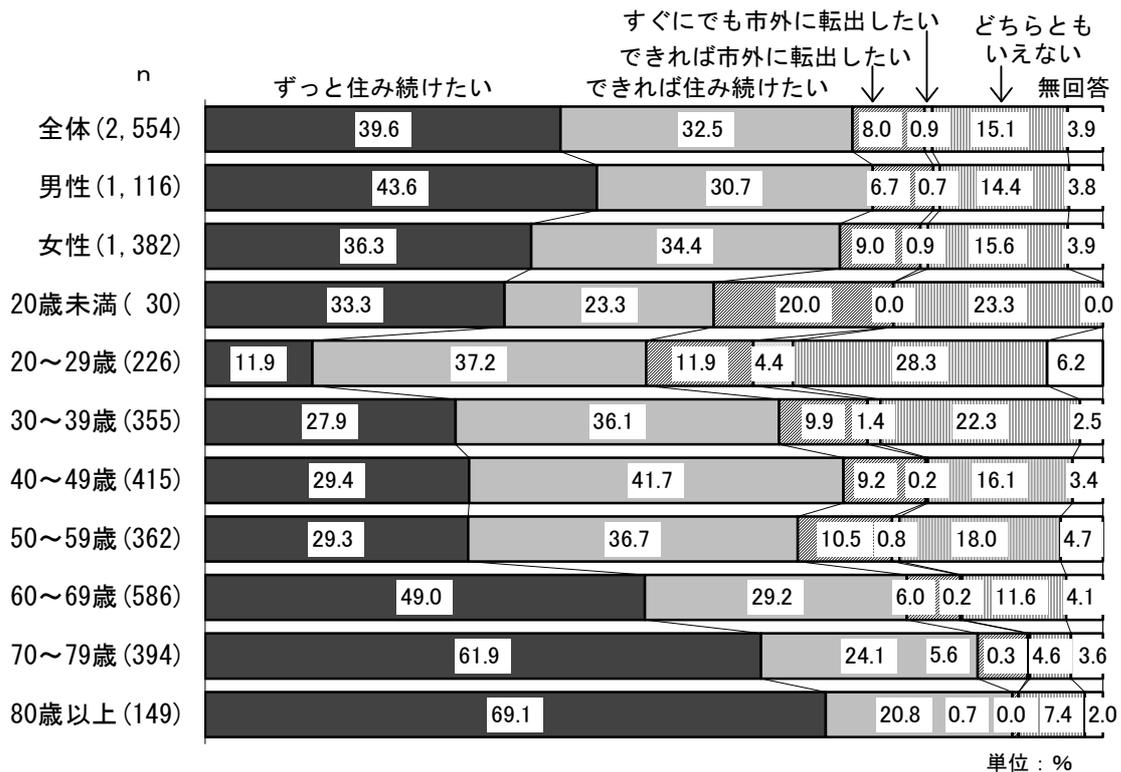


【属性別】

性別で見ると、男性で「ずっと住み続けたい」（43.6%）が女性より 7.3 ポイント高くなっている。

年齢別で見ると、おおむね年代が高くなるにつれて『定住意向』の占める割合が高くなる傾向にあり、40 歳代、60 歳以上では7割以上となっている。

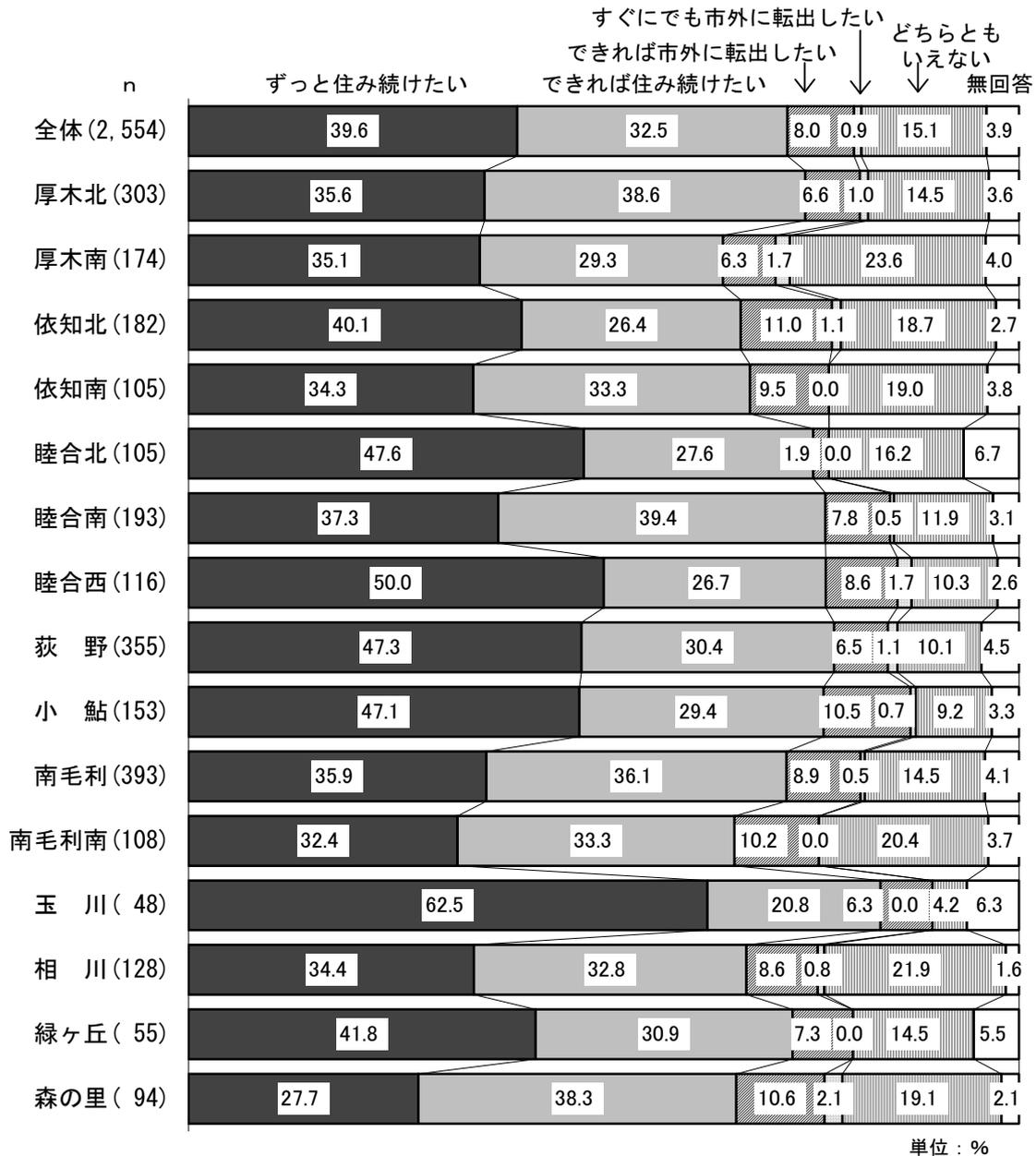
図 1-1-3 定住意向—性別、年齢別



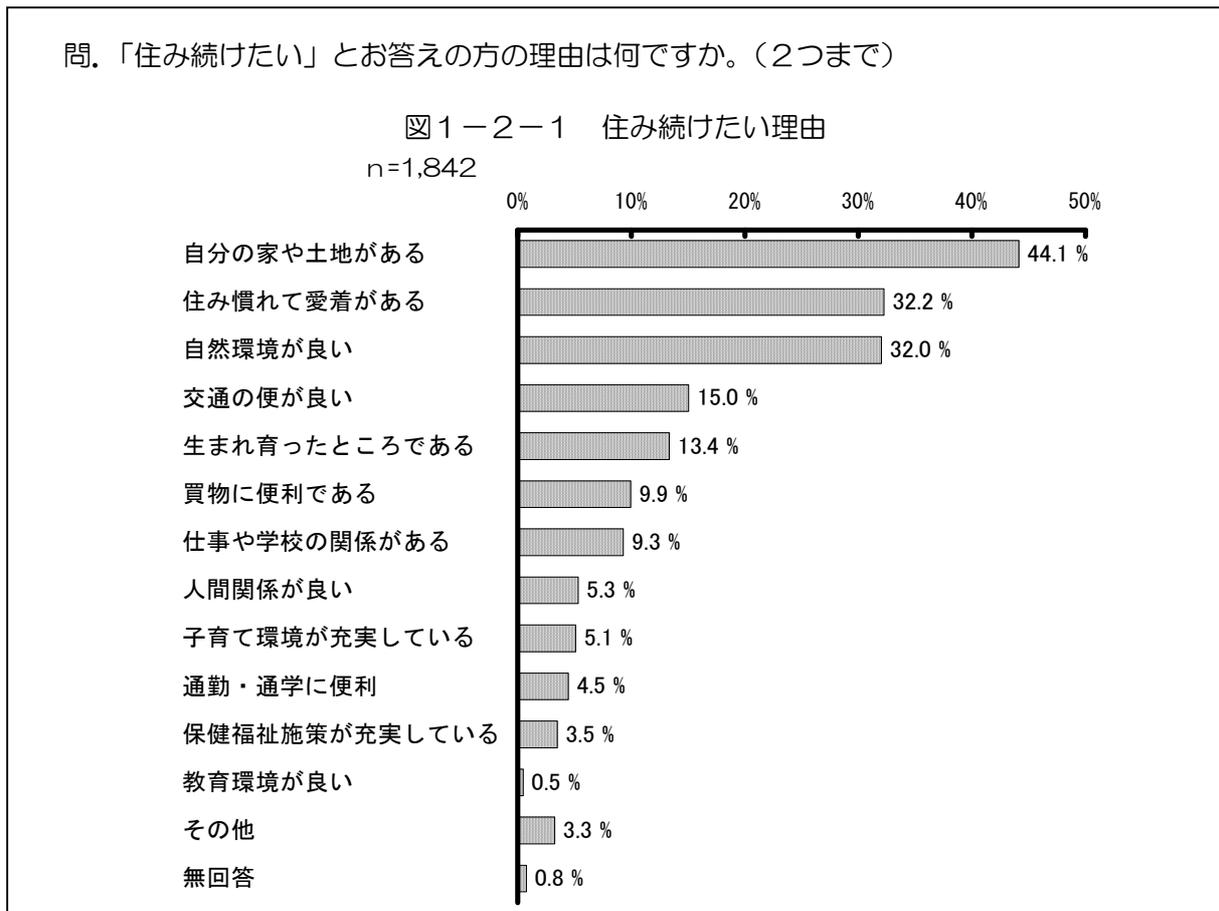
【居住地区別】

居住地区別で見ると、『定住意向』が高い地区は、玉川（83.3%）、荻野（77.7%）、睦合西（76.7%）、睦合南（76.7%）、小鮎（76.5%）の順となっている。一方、『定住意向』が低い地区は、厚木南（64.4%）、南毛利南（65.7%）、森の里（66.0%）、依知北（66.5%）、相川（67.2%）の順となっている。

図1-1-4 定住意向—居住地区別



(2) 住み続けたい理由 (A・B：問2)



【全体】

厚木市に「ずっと住み続けたい」又は「できれば住み続けたい」と答えた人(1,842人)にその理由を聞いたところ、「自分の家や土地がある」(44.1%)が4割を超え最も高くなっている。

次いで、「住み慣れて愛着がある」(32.2%)、「自然環境が良い」(32.0%)と、この3項目が3割を超えて非常に多くなっており、「住み続けたい」主な理由となっている。

【経年変化】

「自分の家や土地がある」（44.1％）が、今回の調査では5割を下回ったが、一方で「自然環境が良い」が、年々増加している。

表1-2-1 住み続けたい理由—経年変化

(単位：％)	平成 25年度 (n=1,842)	平成 23年度 (n=1,106)	平成 21年度 (n=2,237)	平成 19年度 (n=2,178)	平成 17年度 (n=1,534)
自分の家や土地がある	44.1	52.8	54.7	53.9	53.4
住み慣れて愛着がある	32.2	33.4	35.0	35.2	42.6
自然環境が良い	32.0	31.0	29.8	30.9	27.4
交通の便が良い	15.0	12.6	12.5	10.1	11.3
生まれ育ったところである	13.4	13.5	14.9	15.2	25.2
買物に便利である	9.9	6.6	7.3	9.1	8.7
仕事や学校の関係がある	9.3	9.0	9.4	8.3	6.4
人間関係が良い	5.3	6.1	5.7	7.0	5.3
子育て環境が充実している	5.1	5.2	-	-	-
通勤・通学に便利	4.5	4.4	3.6	2.9	2.4
保健福祉施策が充実している	3.5	2.9	2.8	3.4	2.4
教育環境が良い	0.5	0.4	1.2	0.6	0.7
その他	3.3	3.4	2.0	1.7	1.0
無回答	0.8	2.3	0.7	2.2	0.3

(注) 平成23年度調査からは、「子育て環境が充実している」が選択肢に追加されているため、21年度以前は参考に掲載する。

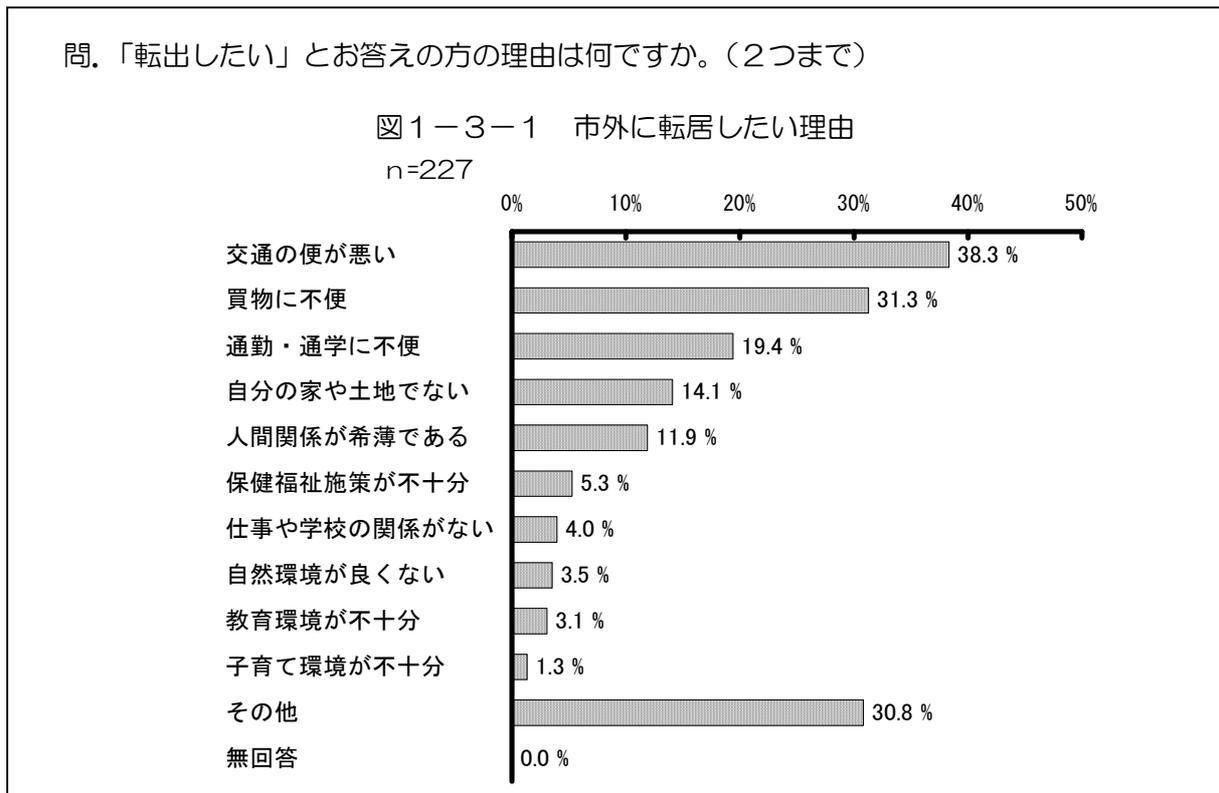
【属性別】

居住年数別で見ると、「20年以上（転入して以来）」で「自分の家や土地がある」（51.5%）や、「住み慣れて愛着がある」（40.2%）が他の居住年数より高くなっている。また、「交通の便がよい」では、3～4年（24.2%）、5～9年が（22.1%）、10～19年（転入して以来）（20.6%）が、「仕事や学校の関係がある」では2年以下（24.2%）、3～4年（22.6%）、5～9年（16.3%）が、他の居住年数と比べてそれぞれ上位となっている。

表1-2-2 住み続けたい理由—居住年数別

(単位：%)	自分の家や土地がある	住み慣れて愛着がある	自然環境が良い	交通の便が良い	生まれ育ったところである	買物に便利である	仕事や学校の関係がある	人間関係が良い	子育て環境が充実している	通勤・通学に便利	保健福祉施策が充実している	教育環境が良い	その他	無回答
合計 (n=1,842)	44.1	32.2	32.0	15.0	13.4	9.9	9.3	5.3	5.1	4.5	3.5	0.5	3.3	0.8
20年以上 (生まれてからずっと) (n=477)	43.8	32.1	21.6	10.5	40.7	6.5	7.1	4.0	7.8	2.1	2.5	0.4	1.3	0.4
20年以上 (転入して以来) (n=811)	51.5	40.2	37.4	14.7	2.8	10.6	6.2	6.5	2.1	2.6	2.3	0.1	2.6	0.9
10～19年 (生まれてからずっと) (n=34)	38.2	29.4	23.5	8.8	35.3	0.0	8.8	5.9	0.0	8.8	8.8	2.9	0.0	2.9
10～19年 (転入して以来) (n=252)	37.7	27.4	34.9	20.6	2.0	9.9	13.9	4.0	8.7	6.7	7.1	0.8	3.2	0.8
5～9年 (n=104)	30.8	14.4	35.6	22.1	0.0	15.4	16.3	5.8	1.9	11.5	9.6	0.0	6.7	1.0
3～4年 (n=62)	17.7	9.7	32.3	24.2	3.2	17.7	22.6	8.1	9.7	11.3	1.6	3.2	9.7	0.0
2年以下 (n=62)	16.1	4.8	32.3	14.5	4.8	17.7	24.2	3.2	14.5	16.1	1.6	1.6	19.4	1.6

(3) 市外に転居したい理由 (A・B：問3)



【全体】

「できれば市外に転居したい」又は「すぐにでも市外に転居したい」と答えた人(227人)にその理由を聞いたところ、「交通の便が悪い」(38.3%)が、4割に近く最も高くなっている。

次いで、「買物に不便」(31.3%)と、この2項目が3割を超えて高くなっている。

【経年変化】

前回調査と比較すると、上位5項目の順位に変動はなく、「交通の便が悪い」（38.3%）が、引き続き最も高くなっているが、今回は4割を下回る結果となっている。

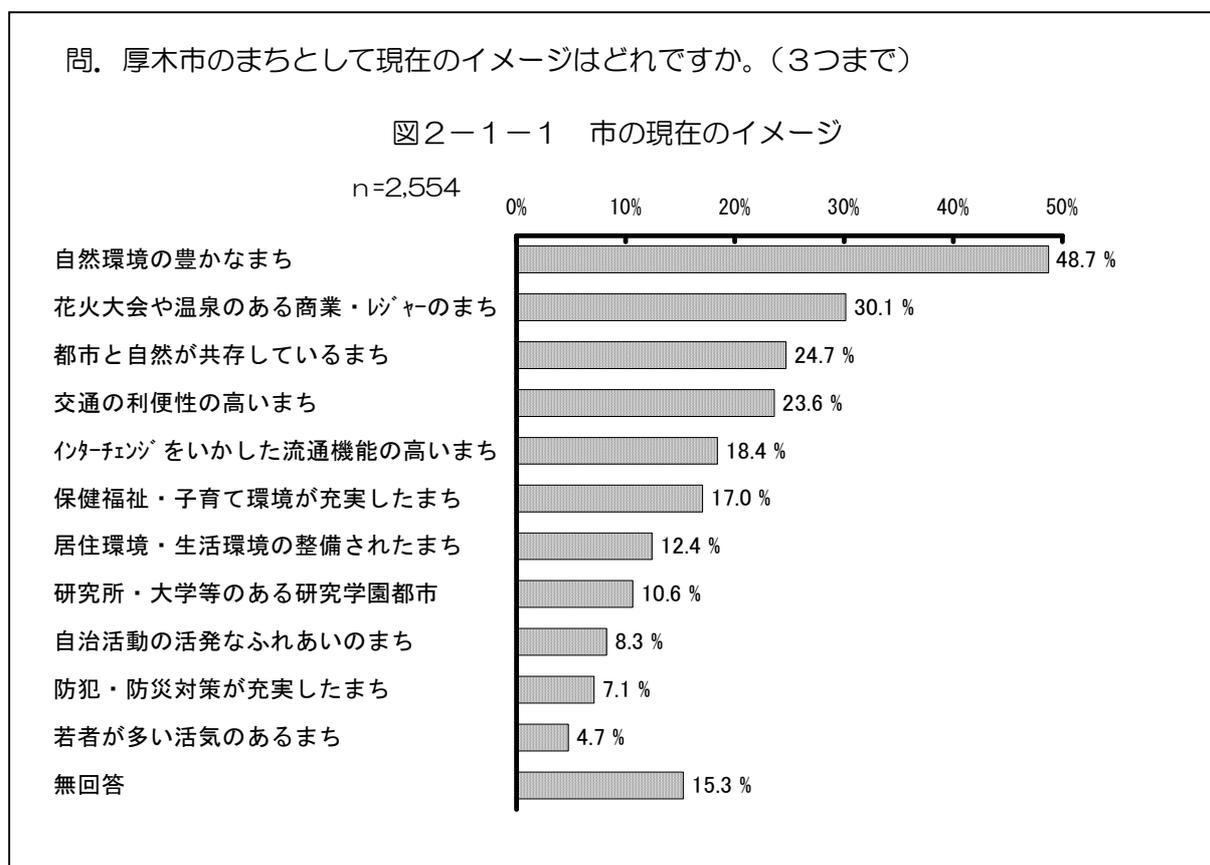
表1-3-1 市外に転居したい理由—経年変化

(単位：%)	平成25年度 (n=227)	平成23年度 (n=177)	平成21年度 (n=329)	平成19年度 (n=331)	平成17年度 (n=182)
交通の便が悪い	38.3	41.2	45.0	42.3	45.1
買物に不便	31.3	29.4	33.1	25.4	33.5
通勤・通学に不便	19.4	22.0	19.5	26.0	28.0
自分の家や土地でない	14.1	14.1	10.6	10.0	3.8
人間関係が希薄である	11.9	8.5	10.3	7.6	6.0
保健福祉施策が不十分	5.3	6.2	8.5	9.1	9.3
仕事や学校の関係がない	4.0	5.6	5.2	5.4	7.1
自然環境が良くない	3.5	8.5	12.2	12.4	12.6
教育環境が不十分	3.1	6.2	10.6	10.9	8.8
子育て環境が不十分	1.3	7.9	-	-	-
その他	30.8	22.6	18.5	23.6	23.6
無回答	0.0	2.8	0.3	0.3	0.0

(注) 平成23年度調査からは、「子育て環境が不十分」が選択肢に追加されているため、21年度以前は参考に掲載する。

2 市の現状と将来

(1) 市の現在のイメージ (A・B：問4①)



【全体】

現在の厚木市のまちとしてのイメージを聞いたところ、「自然環境の豊かなまち」(48.7%)が、5割に近く最も高くなっている。次いで、「花火大会や温泉のある商業・レジャーのまち」(30.1%)、「都市と自然が共存しているまち」(24.7%)、「交通の利便性の高いまち」(23.6%)となっている。

【経年変化】

過去の調査との比較は、選択肢が異なるため、参考に掲載する。

表2-1-1 市の現在のイメージ-経年変化

順位	平成 25 年度 (n=2, 554)		平成 23 年度 (n=1, 629)		平成 21 年度 (n=3, 218)		平成 19 年度 (n=3, 006)		平成 17 年度 (n=2, 010)	
1	自然環境の 豊かなまち	48.7	自然環境の 豊かなまち	42.4	花火大会、 鮎、温泉 (飯山、七沢) のまち	45.7	花火大会、 鮎、温泉 (飯山、七沢) のまち	46.5	花火大会、 鮎、温泉 (飯山、七沢) のまち	49.0
2	花火大会や 温泉のある 商業・レジャー のまち	30.1	花火大会や 温泉のある 商業・レジャー のまち	41.0	恵まれた 自然環境を 持つまち	41.1	恵まれた 自然環境を 持つまち	42.9	恵まれた 自然環境を 持つまち	43.4
3	都市と自然が 共存している まち	24.7	都市と自然が 共存している まち	24.7	都市と自然が 共存するまち	22.6	都市と自然が 共存するまち	23.3	都市と自然が 共存するまち	25.7
4	交通の利便性 の高いまち	23.6	交通の利便性 の高いまち	19.3	交通の利便性 の高いまち	16.4	交通の利便性 の高いまち	17.6	交通の利便性 の高いまち	20.6
5	インターチェンジを いかした 流通機能の 高いまち	18.4	インターチェンジを いかした 流通機能の 高いまち	17.0	ハイテク・ 研究開発型 企業の集まる まち	6.7	ハイテク・ 研究開発型 企業の集まる まち	6.2	自治活動の 活発な ふれあいの まち	5.8

(単位：%)

【属性別】

性別で見ると、男性は「インターチェンジをいかした流通機能の高いまち」（22.2%）が、女性より6.9ポイント高くなっている。女性は「保健福祉・子育て環境が充実したまち」（20.2%）が男性より6.6ポイント、「花火大会や温泉のある商業・レジャーのまち」（32.8%）が6.1ポイント高くなっている。

年齢別で見ると、49歳以下の年代で「花火大会や温泉のある商業・レジャーのまち」の意向が全体より高く、「保健福祉・子育て環境が充実したまち」については30～39歳（30.7%）と40～49歳（24.3%）が他の年齢層より高くなっている。

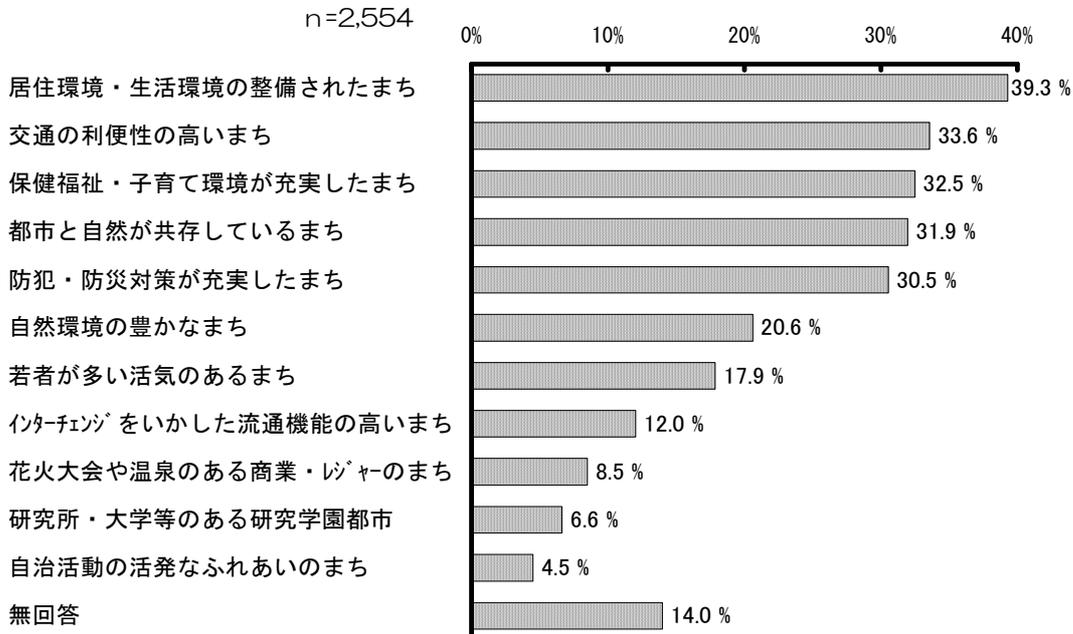
表2-1-2 市の現在のイメージ-性別、年齢別

(単位：%)	自然環境の豊かなまち	都市と自然が共存しているまち	交通の利便性の高いまち	花火大会や温泉のある商業・レジャーのまち	防犯・防災対策が充実したまち	保健福祉・子育て環境が充実したまち	研究所・大学等のある研究学園都市	若者が多い活気のあるまち	整備されたまち	居住環境・生活環境の	ふれあいのまち	自治活動の活発なまち	流通機能の高いまち	インターチェンジをいかした	無回答
合計 (n=2,554)	48.7	24.7	23.6	30.1	7.1	17.0	10.6	4.7	12.4	8.3	18.4	15.3			
男性 (n=1,116)	48.0	26.7	25.3	26.7	6.9	13.6	11.9	5.3	13.2	7.0	22.2	15.4			
女性 (n=1,382)	49.5	23.2	22.2	32.8	7.1	20.2	9.7	4.3	11.8	9.3	15.3	14.8			
20歳未満 (n=30)	46.7	30.0	30.0	46.7	6.7	20.0	3.3	20.0	13.3	6.7	13.3	10.0			
20～29歳 (n=226)	46.0	28.3	24.8	40.7	4.9	17.3	8.4	11.5	12.4	5.3	16.4	12.8			
30～39歳 (n=355)	47.0	26.5	23.7	39.4	5.6	30.7	10.7	5.4	10.7	3.7	21.4	6.5			
40～49歳 (n=415)	50.1	32.8	24.1	37.1	4.6	24.3	11.8	4.8	10.6	8.4	20.2	5.3			
50～59歳 (n=362)	53.6	22.1	21.8	33.1	5.2	11.9	10.2	4.1	10.5	9.1	22.4	14.4			
60～69歳 (n=586)	54.3	20.0	22.7	24.2	9.4	12.8	11.3	2.9	15.7	9.6	20.1	15.9			
70～79歳 (n=394)	41.4	22.3	25.9	19.5	9.9	10.9	11.7	3.6	13.5	10.4	11.4	26.6			
80歳以上 (n=149)	39.6	20.8	20.8	12.8	8.7	10.7	8.1	2.0	11.4	10.7	10.1	37.6			

(2) 市の将来のイメージ (A・B：問4②)

問. 将来どのようなまちになってほしいですか。(3つまで)

図2-2-1 市の将来のイメージ



【全体】

市の将来のイメージについて聞いたところ、「居住環境・生活環境の整備されたまち」(39.3%)が約4割で最も高くなっている。次いで、「交通の利便性の高いまち」(33.6%)、「保健福祉・子育て環境が充実したまち」(32.5%)、「都市と自然が共存しているまち」(31.9%)、「防犯・防災対策が充実したまち」(30.5%)などが3割台で続き、様々な将来のイメージが期待されていることが読み取れる。

【経年変化】

前回調査と比較すると、上位5項目の順位は異なっているものの、引き続き「居住環境・生活環境の整備されたまち」、「交通の利便性の高いまち」、「保健福祉・子育て環境が充実したまち」、「都市と自然が共存しているまち」、「防犯・防災対策が充実したまち」が多く選ばれている。

表2-2-1 市の将来のイメージ経年変化（上位5回答）

順位	平成 25 年度 (n=2, 554)		平成 23 年度 (n=1, 629)		平成 21 年度 (n=3, 218)		平成 19 年度 (n=3, 006)		平成 17 年度 (n=2, 010)	
	1	居住環境・生活環境の整備されたまち	39.3	都市と自然が共存しているまち	39.0	自然環境の豊かな都市	56.3	自然環境の豊かな都市	61.3	自然環境の豊かな都市
2	交通の利便性の高いまち	33.6	居住環境・生活環境の整備されたまち	35.4	居住環境・生活環境の整備されたまち	49.7	居住環境・生活環境の整備されたまち	52.3	保健福祉都市	35.5
3	保健福祉・子育て環境が充実したまち	32.5	交通の利便性の高いまち	34.5	防犯・防災対策が充実した都市	47.3	防犯・防災対策が充実した都市	47.3	心のふれあいのある交流都市	30.4
4	都市と自然が共存しているまち	31.9	防犯・防災対策が充実した都市	32.5	保健福祉都市	23.2	保健福祉都市	26.4	居住環境・生活環境の整備されたまち	29.9
5	防犯・防災対策が充実したまち	30.5	保健福祉・子育て環境が充実したまち	31.4	若者が多い活気のある都市	20.4	若者が多い活気のある都市	17.7	若者が多い活気のある都市	20.8

(単位：%)

【属性別】

性別で見ると、男性は「都市と自然が共存しているまち」（35.1%）と「自然環境の豊かなまち」（23.6%）がそれぞれ女性より5.8ポイント高くなっている。一方、女性では「保健福祉・子育て環境が充実したまち」（37.4%）が、男性より11.0ポイント高くなっている。

年齢別で見ると、20～39歳では「保健福祉・子育て環境が充実したまち」が、30～49歳では「防犯・防災対策が充実したまち」が、40～59歳では「居住環境・生活環境の整備されたまち」が、全体より高くなっている。

表2-2-2 市の将来のイメージ性別、年齢別

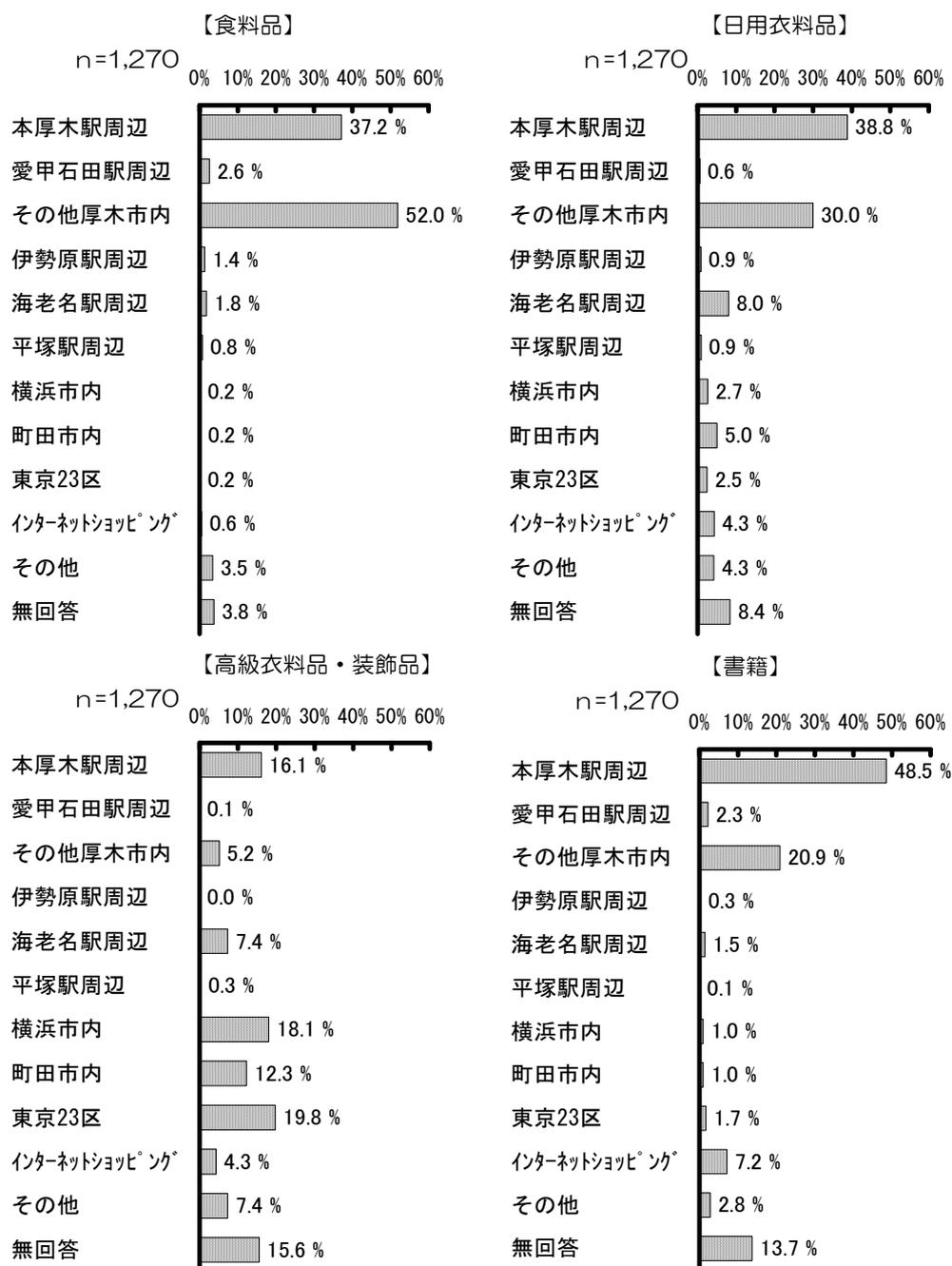
(単位：%)	自然環境の豊かなまち	都市と自然が共存しているまち	交通の利便性の高いまち	花火大会や温泉のある商業・レジャーのまち	防犯・防災対策が充実したまち	保健福祉・子育て環境が充実したまち	研究所・大学等のある研究学園都市	若者が多い活気のあるまち	居住環境・生活環境の整備されたまち	自治活動の活発なふれあいのまち	流通機能の高いまち	無回答
合計 (n=2,554)	20.6	31.9	33.6	8.5	30.5	32.5	6.6	17.9	39.3	4.5	12.0	14.0
男性 (n=1,116)	23.6	35.1	32.2	7.5	28.7	26.4	7.8	18.5	40.6	4.8	12.5	13.6
女性 (n=1,382)	17.8	29.3	35.3	9.3	32.3	37.4	5.6	17.2	38.6	4.3	11.6	14.0
20歳未満 (n=30)	13.3	30.0	56.7	20.0	26.7	16.7	10.0	23.3	36.7	0.0	16.7	3.3
20～29歳 (n=226)	18.1	29.6	43.8	15.0	34.1	40.3	7.1	18.6	35.0	4.0	11.9	9.3
30～39歳 (n=355)	20.3	34.1	38.0	13.5	36.9	41.4	4.5	15.2	43.7	3.7	13.0	5.6
40～49歳 (n=415)	20.0	35.9	37.8	12.3	35.2	35.9	7.2	16.1	45.8	3.9	14.7	4.6
50～59歳 (n=362)	21.5	36.7	33.4	8.6	29.8	33.1	6.4	15.7	46.4	4.7	13.3	10.5
60～69歳 (n=586)	21.2	32.1	31.7	4.6	30.2	29.9	6.8	24.6	39.9	5.8	11.1	13.7
70～79歳 (n=394)	21.6	25.4	26.1	3.6	22.8	25.6	7.1	15.0	29.4	4.3	10.4	28.4
80歳以上 (n=149)	18.1	22.8	22.1	2.7	20.8	18.1	6.7	12.8	23.5	6.0	6.7	40.3

3 産業・商業

(1) 買い物をする場所 (A：問5)

問. ふだんどこで買物をしますか。(それぞれ該当するものを1つだけ)

図3-1-1 買い物をする場所



【全体】

「普段の買物をどこですか」品目別に聞いたところ、『食料品』は「その他厚木市内」(52.0%)が半数以上を占めている。『日用衣料品』は、「本厚木駅周辺」(38.8%)と「その他厚木市内」(30.0%)で、合わせて7割近くとなっている。『高級衣料品・装飾品』は、「東京23区内」(19.8%)が最も高いが「横浜市内」(18.1%)、「本厚木駅周辺」(16.1%)、「町田市内」(12.3%)が続き、回答が分散している。『書籍』は、「本厚木駅周辺」(48.5%)と「その他厚木市内」(20.9%)で、合わせて8割近くとなっている。

【経年変化】

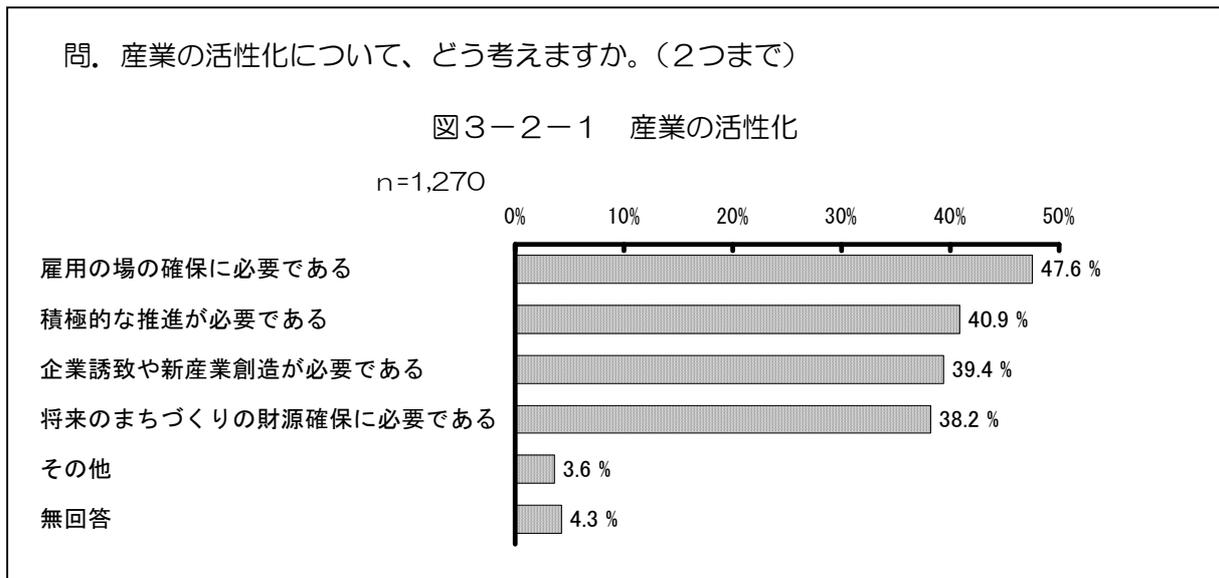
前回調査との比較を見ると、『高級衣料品・装飾品』では「東京23区」との回答が最も高くなっており、「本厚木駅周辺」が前回までの1位から3位と順位を落としている。

その他の品目では大きな差異は見られない。

表3-1-1 買い物をする場所—経年変化

(単位：%)		平成25年調査 (n=1,270)		平成23年調査 (n=815)		平成21年調査 (n=1,608)	
食料品	1	その他厚木市内	52.0	その他厚木市内	56.8	その他厚木市内	52.3
	2	本厚木駅周辺	37.2	本厚木駅周辺	30.3	本厚木駅周辺	33.1
	3	愛甲石田駅周辺	2.6	愛甲石田駅周辺	3.1	愛甲石田駅周辺	3.2
	4	海老名駅周辺	1.8	海老名駅周辺	1.0	海老名駅周辺	0.9
	5	伊勢原駅周辺	1.4	伊勢原駅周辺	0.7	伊勢原駅周辺	0.7
日用衣料品	1	本厚木駅周辺	38.8	本厚木駅周辺	38.2	本厚木駅周辺	40.2
	2	その他厚木市内	30.0	その他厚木市内	36.4	その他厚木市内	38.1
	3	海老名駅周辺	8.0	海老名駅周辺	5.2	海老名駅周辺	3.6
	4	町田市内	5.0	町田市内	3.3	町田市内	2.1
	5	インターネットショッピング	4.3	インターネットショッピング	2.1	インターネットショッピング	1.1
高級衣料品・装飾品	1	東京23区	19.8	本厚木駅周辺	20.0	本厚木駅周辺	23.6
	2	横浜市内	18.1	横浜市内	15.5	東京23区内	13.7
	3	本厚木駅周辺	16.1	東京23区内	13.5	横浜市内	13.4
	4	町田市内	12.3	町田市内	10.2	その他厚木市内	11.0
	5	海老名駅周辺	7.4	その他厚木市内	8.6	町田市内	9.6
書籍	1	本厚木駅周辺	48.5	本厚木駅周辺	46.3	本厚木駅周辺	48.6
	2	その他厚木市内	20.9	その他厚木市内	30.8	その他厚木市内	29.8
	3	インターネットショッピング	7.2	インターネットショッピング	4.7	愛甲石田駅周辺	2.6
	4	愛甲石田駅周辺	2.3	愛甲石田駅周辺	3.2	インターネットショッピング	2.5
	5	東京23区	1.7	横浜市内／ 東京23区内(同率)	1.1	東京23区内	1.4

(2) 産業の活性化 (A : 問 6)



【全体】

産業の活性化についての考え方を聞いたところ、「雇用の場の確保に必要である」(47.6%)が最も高い。次いで、「積極的な推進が必要である」(40.9%)、「企業誘致や新産業創造が必要である」(39.4%)、「将来のまちづくりの財源確保に必要である」(38.2%)となっている。

【経年変化】

選択肢が異なっているため、経年変化は掲載していない。

【属性別】

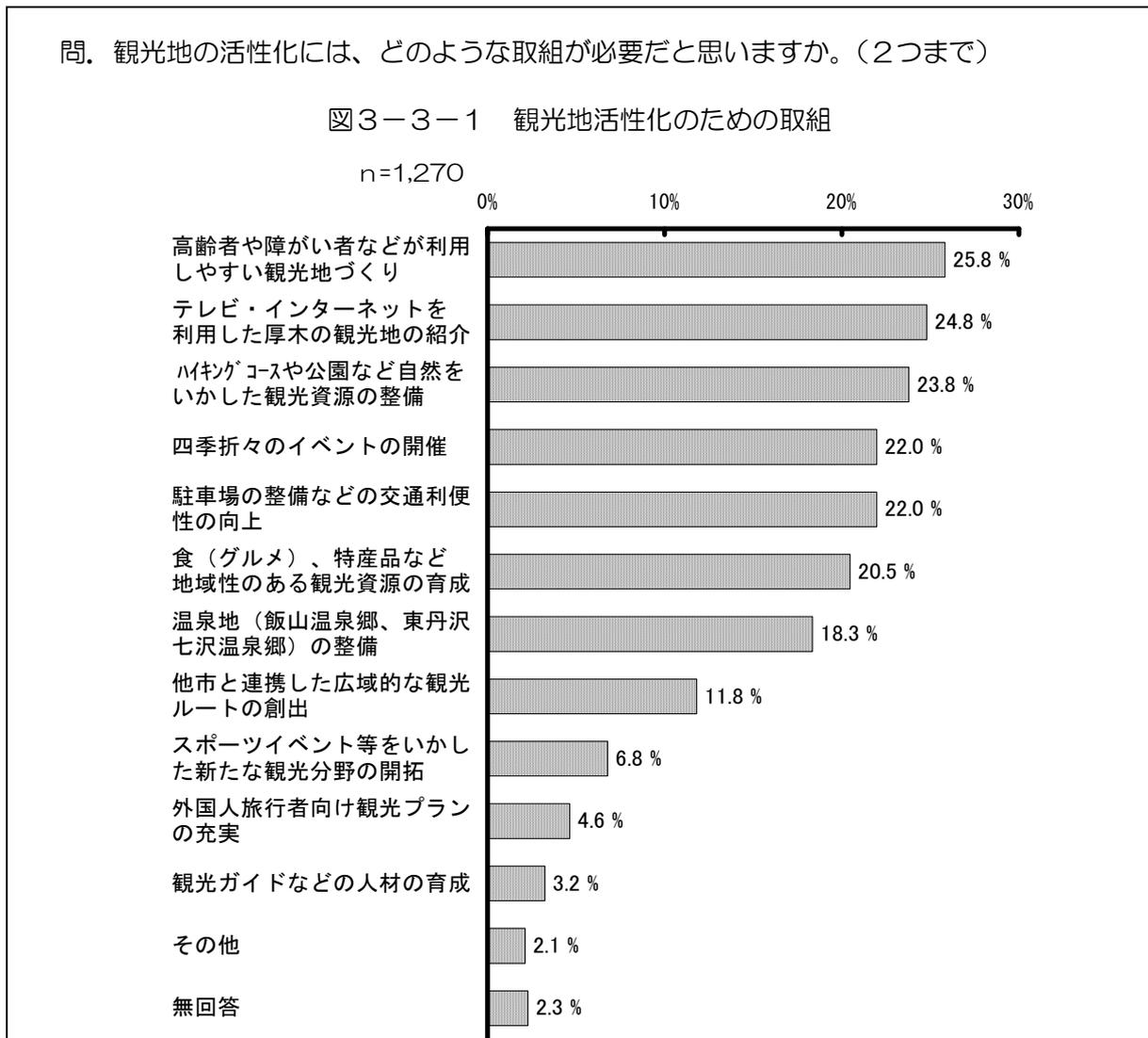
性別で見ると、男性では「企業誘致や新産業創造が必要である」(46.4%)が12.8ポイント女性よりも高くなっている。

年齢別で見ると、50歳代で「雇用の場の確保に必要である」が、6割を超えて他の年齢層より高くなっている。

表3-2-1 産業の活性化—性別、年齢別

(単位：%)	積極的な推進が必要である	将来のまちづくりの財源確保に必要である	雇用の場の確保に必要である	企業誘致や新産業創造が必要である	その他	無回答
全体 (n=1,270)	40.9	38.2	47.6	39.4	3.6	4.3
男性 (n=556)	39.6	37.8	46.4	46.4	3.8	3.2
女性 (n=685)	41.5	39.0	48.6	33.6	3.6	5.0
20歳未満 (n=15)	40.0	26.7	40.0	40.0	13.3	0.0
20～29歳 (n=100)	36.0	42.0	40.0	32.0	8.0	1.0
30～39歳 (n=185)	43.2	41.6	48.1	31.9	3.8	0.5
40～49歳 (n=191)	36.1	48.7	48.2	39.8	2.1	1.6
50～59歳 (n=186)	35.5	32.8	63.4	39.8	2.2	1.1
60～69歳 (n=310)	45.2	35.2	46.1	45.2	3.5	4.8
70～79歳 (n=190)	44.2	37.4	40.0	42.1	4.2	8.9
80歳以上 (n=76)	39.5	30.3	42.1	32.9	2.6	18.4

(3) 観光地活性化のための取組 (A: 問7)



【全体】

観光地の活性化のための取組について聞いたところ、「高齢者や障がい者などが利用しやすい観光地づくり」(25.8%)が最も高い。次いで、「テレビ・インターネットを利用した厚木の観光地の紹介」(24.8%)、「ハイキングコースや公園など自然をいかした観光資源の整備」(23.8%)、「四季折々のイベントの開催」・「駐車場の整備などの交通利便性の向上」(ともに22.0%)、「食(グルメ)、特産品など地域性のある観光資源の育成」(20.5%)など、わずかな差の中で様々な取組が必要とされている。

【経年変化】

選択肢が異なっているため、経年変化は掲載していない。

【属性別】

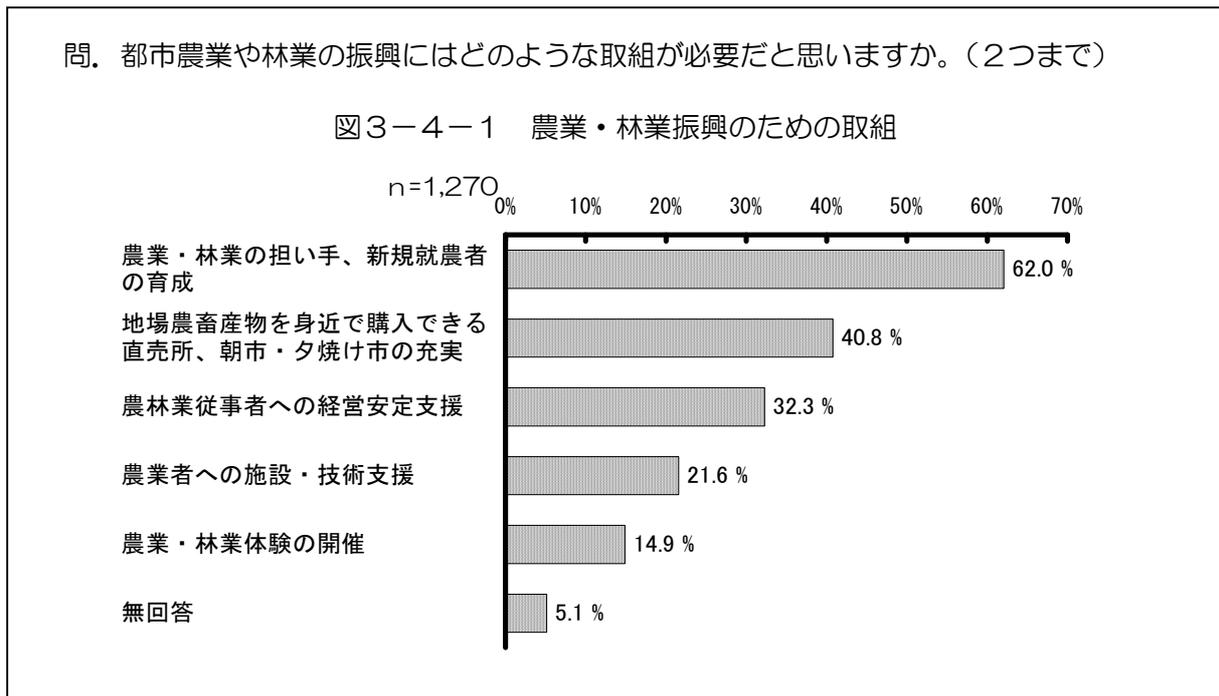
性別で見ると、男性では「ハイキングコースや公園など自然をいかした観光資源の整備」(26.8%)が5.3ポイント、「温泉地(飯山温泉郷、東丹沢七沢温泉郷)の整備」(21.2%)が5.1ポイント、女性よりも高くなっている。

年齢別で見ると、60歳以上で「高齢者や障がい者などが利用しやすい観光地づくり」が3割を超えて他の年齢層より高くなっている。29歳以下では「食(グルメ)、特産品など地域性のある観光資源の育成」が3割を超えて他の年齢層より高くなっている。

表3-3-1 観光地活性化のための取組—性別、年齢別

(単位：%)	テレビ・インターネットを利用した厚木の観光地の紹介	四季折々のイベントの開催	自然をいかした観光資源の整備	ハイキングコースや公園など	東丹沢七沢温泉郷)の整備	温泉地(飯山温泉郷、	地域性のある観光資源の育成	食(グルメ)、特産品など	交通便利性の向上	駐車場の整備などの	観光ガイドなどの人材の育成	観光ルートの創出	他市と連携した広域的な観光地づくり	高齢者や障がい者などが利用しやすい観光地づくり	外国人旅行者向け観光プランの充実	新たな観光分野の開拓	スポーツイベント等をいかした	その他	無回答
全体 (n=1,270)	24.8	22.0	23.8	18.3	20.5	22.0	3.2	11.8	25.8	4.6	6.8	2.1	2.3						
男性 (n=556)	25.5	19.6	26.8	21.2	18.5	21.9	3.6	11.7	22.7	4.5	8.3	2.7	1.8						
女性 (n=685)	23.9	24.2	21.5	16.1	22.2	22.0	2.9	12.3	27.6	4.7	5.7	1.8	2.5						
20歳未満 (n=15)	40.0	13.3	20.0	20.0	33.3	13.3	6.7	6.7	20.0	0.0	6.7	0.0	0.0						
20~29歳 (n=100)	21.0	24.0	18.0	23.0	31.0	22.0	4.0	8.0	18.0	8.0	9.0	4.0	1.0						
30~39歳 (n=185)	24.9	24.3	18.4	27.0	22.7	18.9	1.6	11.9	14.6	8.6	9.2	3.8	1.1						
40~49歳 (n=191)	30.9	27.2	17.8	22.5	26.2	26.7	1.0	7.9	14.7	6.3	6.3	2.1	1.0						
50~59歳 (n=186)	23.1	21.0	29.6	16.7	18.8	25.3	3.8	12.4	21.5	3.2	9.1	2.2	0.5						
60~69歳 (n=310)	21.6	25.8	25.2	14.8	17.7	21.6	3.5	16.8	31.0	3.9	6.1	1.0	2.3						
70~79歳 (n=190)	23.7	12.6	32.1	9.5	16.3	22.1	4.7	11.6	40.0	1.1	4.2	1.6	5.3						
80歳以上 (n=76)	27.6	13.2	18.4	22.4	9.2	17.1	3.9	7.9	44.7	1.3	2.6	2.6	6.6						

(4) 農業・林業振興のための取組 (A:問8)

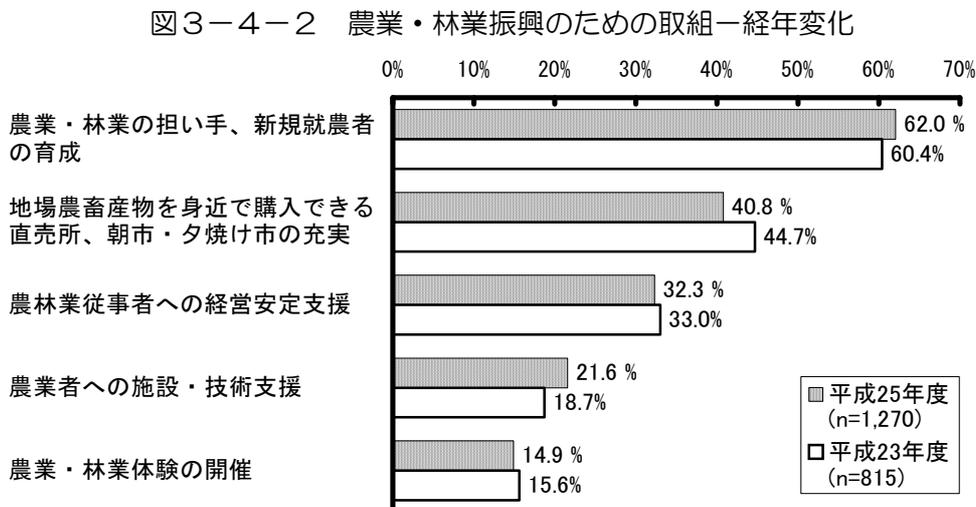


【全体】

都市農業や林業の振興のための取組について聞いたところ、「農業・林業の担い手、新規就農者の育成」(62.0%)が6割を超えて最も高くなっている。次いで、「地場農畜産物を身近で購入できる直売所、朝市・夕焼け市の充実」(40.8%)、「農林業従事者への経営安定支援」(32.3%)となっている。

【経年変化】

経年による大きな変化は見られない。



【属性別】

性別で見ると、女性では「地場農畜産物を身近で購入できる直売所、朝市・夕焼け市の充実」(44.5%)が男性より8.5ポイント高くなっている。一方、男性は「農業・林業の担い手、新規就農者の育成」(67.1%)が8.9ポイント、「農業者への施設・技術支援」(25.2%)が6.5ポイント女性よりも高くなっている。

年齢別で見ると、おおむね若い年代ほど「農業・林業体験の開催」についての意向が高くなっている。

表3-4-1 農業・林業振興のための取組—性別、年齢別

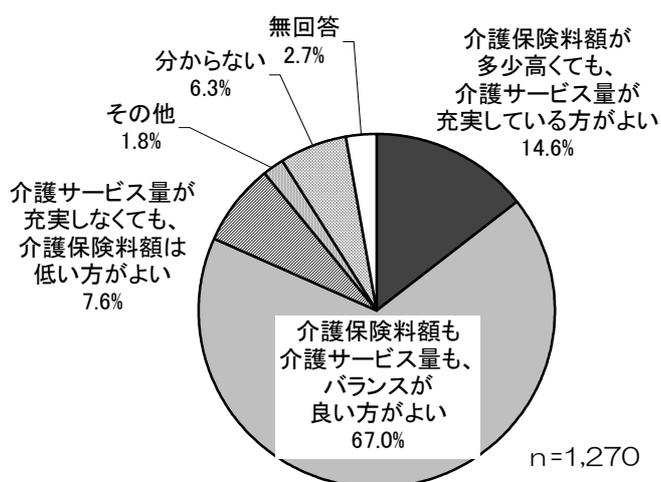
(単位：%)	農業・林業の担い手、 新規就農者の育成	農業・林業体験の開催	農業者への 施設・技術支援	地場農畜産物を身近で 購入できる直売所、 朝市・夕焼け市の充実	農林業従事者への 経営安定支援	無回答
全体 (n=1,270)	62.0	14.9	21.6	40.8	32.3	5.1
男性 (n=556)	67.1	13.8	25.2	36.0	33.3	3.1
女性 (n=685)	58.2	16.1	18.7	44.5	30.9	6.7
20歳未満 (n=15)	60.0	26.7	26.7	33.3	20.0	0.0
20～29歳 (n=100)	63.0	22.0	22.0	40.0	37.0	2.0
30～39歳 (n=185)	62.2	17.3	21.1	37.8	31.4	3.2
40～49歳 (n=191)	64.9	16.2	21.5	41.4	37.2	0.5
50～59歳 (n=186)	61.8	16.7	18.3	43.5	34.9	3.8
60～69歳 (n=310)	62.6	13.9	23.9	41.6	29.7	4.5
70～79歳 (n=190)	60.5	10.0	21.6	40.0	27.4	11.6
80歳以上 (n=76)	55.3	7.9	19.7	40.8	30.3	15.8

4 福祉・人権

(1) 介護保険料の金額設定 (A：問9)

問. 介護保険制度の介護保険料の額は、見込まれる介護サービスの総量によって決まる仕組みとなっています。介護保険料額と介護サービス量のバランスについて、どう考えますか。
(対象年齢でない方は、対象者になることを想定して回答してください。)(1つだけ)

図4-1-1 介護保険料の金額設定



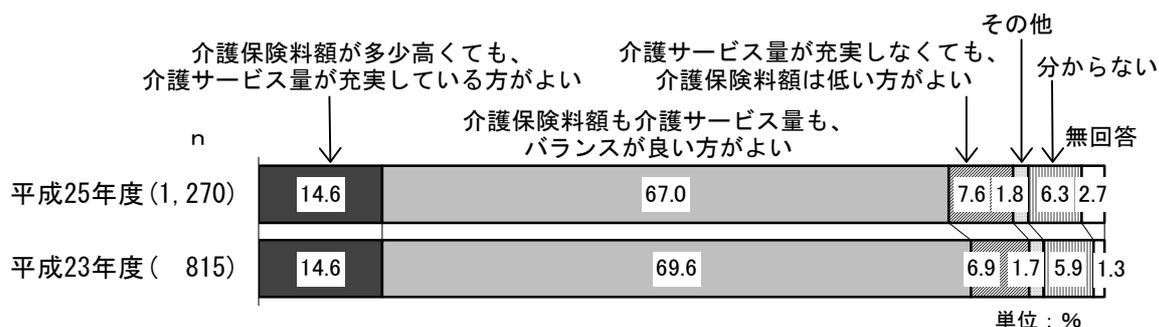
【全体】

介護保険料の金額設定について聞いたところ、「介護保険料額も介護サービス量も、バランスが良い方がよい」(67.0%)が全体の約3分の2を占め最も高くなっている。次いで、「介護保険料額が多少高くても、介護サービス量が充実している方がよい」(14.6%)、「介護サービス量が充実しなくても、介護保険料額は低い方がよい」(7.6%)となっている。

【経年変化】

前回調査との比較では、大きな変化は見られない。

図4-1-2 介護保険料の金額設定—経年変化

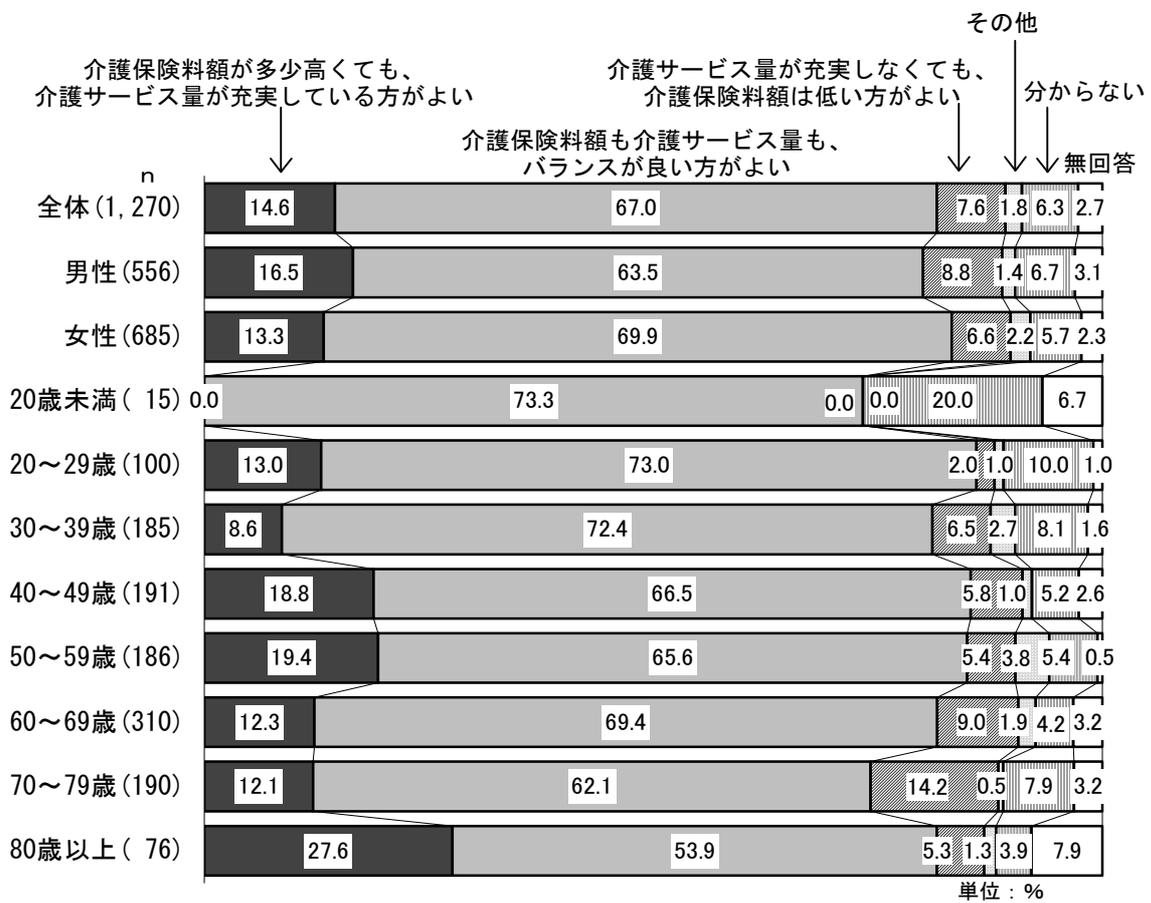


【属性別】

性別で見ると、女性では「介護保険料額も介護サービス量も、バランスが良い方がよい」(69.9%)が男性よりも6.4ポイント高くなっている。

年齢別で見ると、39歳以下では「介護保険料額も介護サービス量も、バランスが良い方がよい」との回答が7割を超えて高くなっている一方、70～79歳では「介護サービス量が充実しなくても、介護保険料額は低い方がよい」(14.2%)との回答が高く、80歳以上(27.6%)では「介護保険料額が多少高くても、介護サービス量が充実している方がよい」との回答が高くなっている。

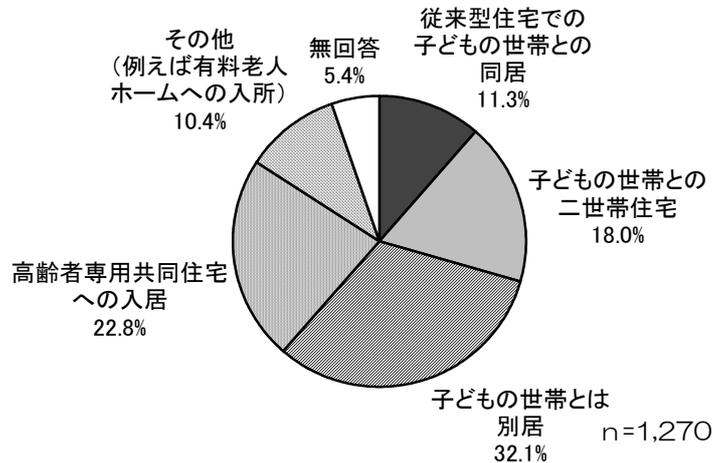
図4-1-3 介護保険料の金額設定—性別、年齢別



(2) 高齢時の居住形態 (A: 問 10)

問. あなた自身が高齢になった場合、どのような居住形態を望んでいますか。(現在 65 歳以上の方は、どのような居住形態を望んでいますか。)(1つだけ)

図4-2-1 高齢時の居住形態



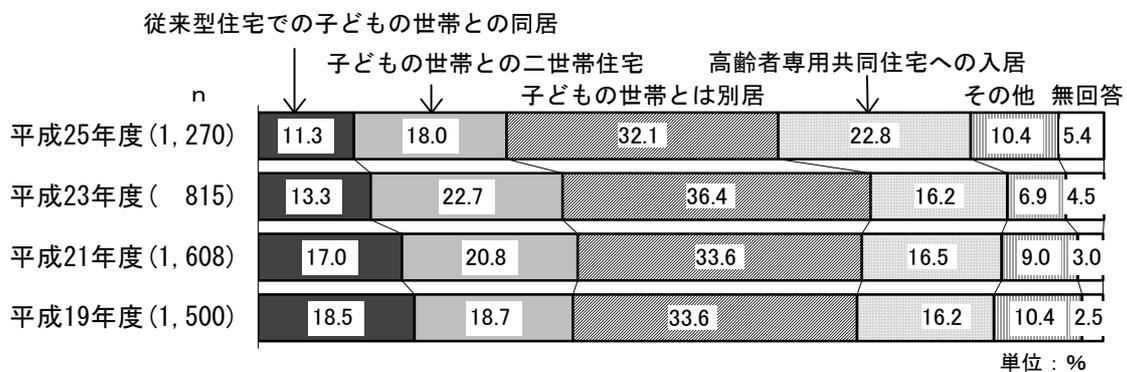
【全体】

高齢者の居住形態について聞いたところ、「子どもの世帯とは別居」(32.1%)が3割を超えて最も高くなっている。次いで、「高齢者専用共同住宅への入居」(22.8%)、「子どもの世帯との二世帯住宅」(18.0%)となっている。

【経年変化】

経年による変化を見ると「従来型住宅での子どもの世帯との同居」が減少傾向にある。一方で、前回との比較では「高齢者専用共同住宅への入居」(22.8%)が、6.6ポイント増加している。

図4-2-2 高齢時の居住形態—経年変化

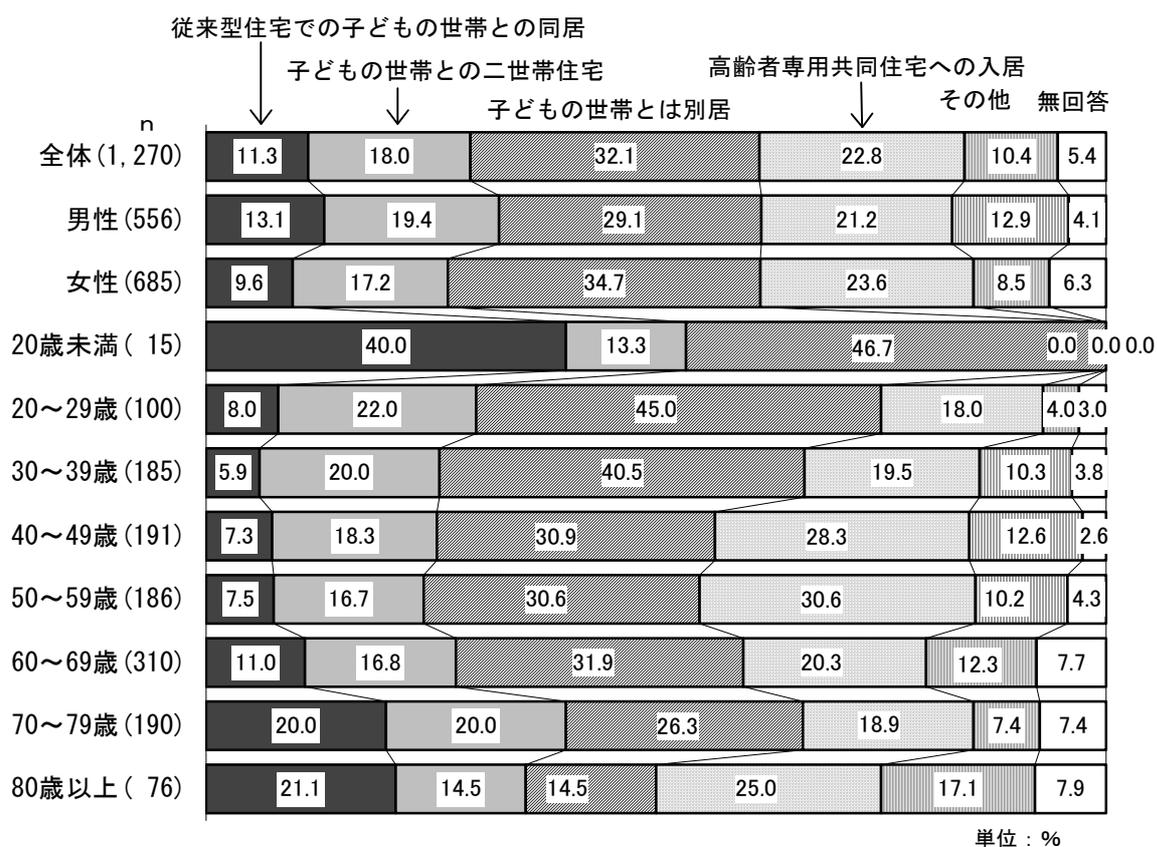


【属性別】

性別で見ると、女性では「子どもの世帯とは別居」（34.7%）が男性よりも5.6ポイント高くなっている。

年齢別で見ると、70歳以上では「従来型住宅での子どもの世帯との同居」が2割を超えて全体より高くなっている。また、39歳以下では「子どもの世帯とは別居」との回答が4割を超えている。40～59歳では「高齢者専用共同住宅への入居」の回答が3割前後と全体より高くなっている。

図4-2-3 高齢時の居住形態—性別、年齢別



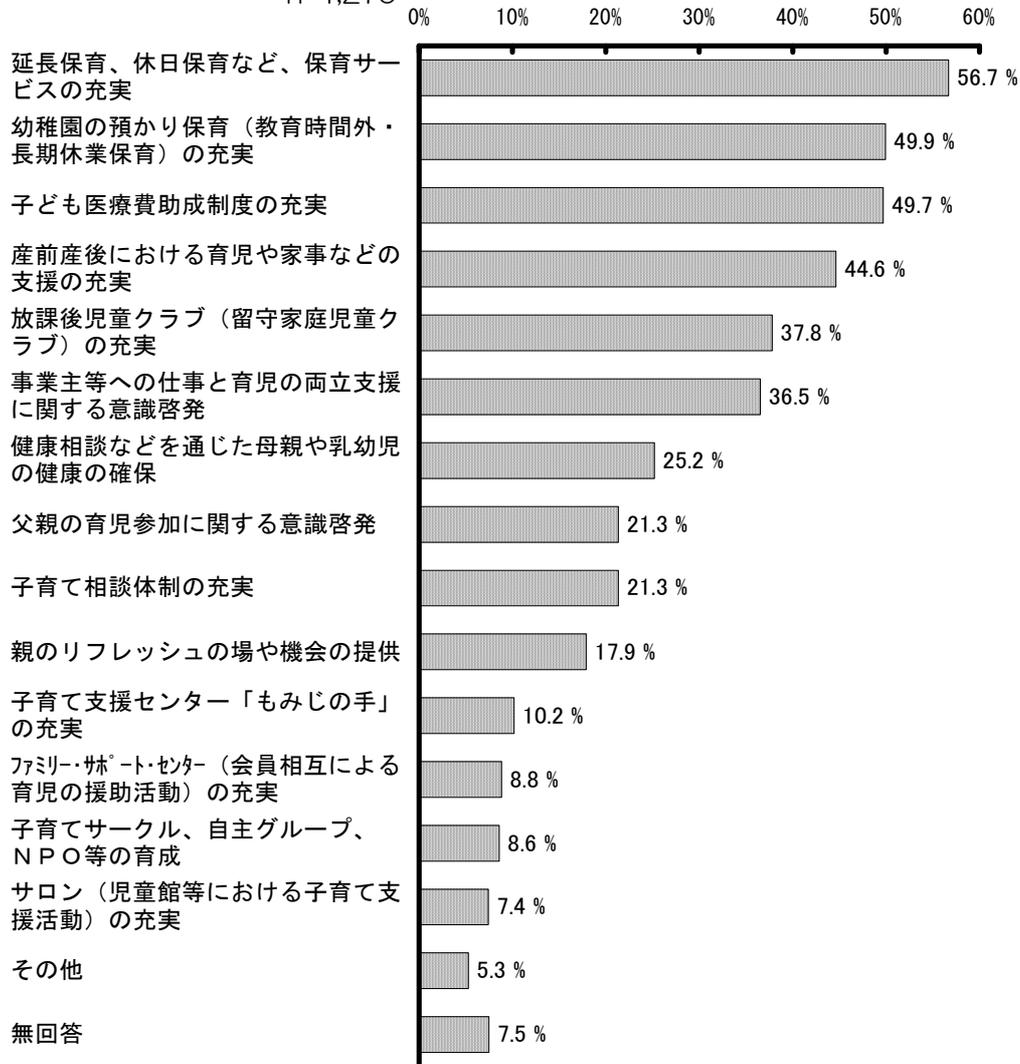
単位：%

(3) 子どもを産み育てられる環境（A：問12）

問. 安心して子どもを産み育てられる環境を整える施策について、必要だと思うことは何ですか。（5つまで）

図4-3-1 子どもを産み育てられる環境

n=1,270



【全体】

子どもを産み育てられる環境について聞いたところ、「延長保育、休日保育など、保育サービスの充実」（56.7%）が半数以上で最も高くなっている。次いで、「幼稚園の預かり保育（教育時間外・長期休業保育）の充実」（49.9%）、「子ども医療費助成制度の充実」（49.7%）となっている。

【経年変化】

経年変化は参考に記載するものとする。

表4-3-1 子どもを産み育てられる環境—経年変化

順位	平成 25 年度 (n=1, 270)		平成 23 年度 (n=815)		平成 21 年調査 (n=1, 608)		平成 19 年調査 (n=1, 500)	
	項目	割合	項目	割合	項目	割合	項目	割合
1	延長保育、 休日保育など、 保育サービスの充実	56.7	延長保育、 休日保育など、 保育サービスの充実	67.4	延長保育、 休日保育など、 保育サービスの充実	64.6	小児医療の充実	38.7
2	幼稚園の預かり保育 (教育時間外・長期 休業保育)の充実	49.9	小児医療 (子ども医療費の 助成等)の充実	49.0	小児医療体制 (小児救急医療 などの整備)の充実	59.6	子どもが安心して 外出できる 環境の整備	37.7
3	子ども医療費の 助成等の充実	49.7	幼稚園の預かり保育 (教育時間外・長期 休業保育)の充実	42.2	事業主等への仕事と 育児の両立支援に 関する意識啓発	41.0	保育サービスの充実	35.1
4	産前産後における 育児や家事などの 支援の充実	44.6	事業主等への仕事と 育児の両立支援に 関する意識啓発	40.0	放課後児童クラブ (留守家庭児童 クラブ)の充実	35.6	安心・安全の まちづくりの推進	33.3
5	放課後児童クラブ (留守家庭児童 クラブ)の充実	37.8	放課後児童クラブ (留守家庭児童 クラブ)の充実	32.9	健康相談などを 通じた母親や 乳幼児の健康の確保	29.7	職業生活と 家庭生活の 両立の支援	27.4

(単位：%)

(注) 今回の調査では、「産前産後における育児や家事などの支援の充実」を選択肢として追加している。

また、平成 21 年度調査以降は選択可能数が5つまで、平成 19 年度調査では選択可能数が3つまでとしていた。

【属性別】

性別で見ると、女性では「放課後児童クラブ（留守家庭児童クラブ）の充実」（45.7%）で18.0ポイント、「延長保育、休日保育など、保育サービスの充実」（59.1%）で5.1ポイントそれぞれ男性よりも高い。男性では、「幼稚園の預かり保育（教育時間外・長期休業保育）の充実」（52.9%）が女性よりも5.2ポイント高くなっている。

年齢別で見ると、49歳以下では「子ども医療費助成制度の充実」が、5割を超えて高くなっている。

表4-3-2 子どもを産み育てられる環境—性別、年齢別

(単位：%)	育児や家事などの支援の充実	産前産後における保育サービスの充実	延長保育、休日保育など、親のリフレッシュの場や機会の提供	母親や乳幼児の健康の確保	健康相談などを通じた子ども医療費助成制度の充実	父親の育児参加に関する意識啓発	両立支援に関する意識啓発	事業主等への仕事と育児の両立支援に関する意識啓発	子育て相談体制の充実	NPO等の育成	子育てサークル、自主グループ、	サロン（児童館等における子育て支援活動）の充実	ファミリー・サポート・センター（会員相互による育児の援助活動）の充実	放課後児童クラブ（留守家庭児童クラブ）の充実	「もみじの手」の充実	子育て支援センター（教育時間外・長期休業保育）の充実	幼稚園の預かり保育	その他	無回答
全体 (n=1,270)	44.6	56.7	17.9	25.2	49.7	21.3	36.5	21.3	8.6	7.4	8.8	37.8	10.2	49.9	5.3	7.5			
男性 (n=556)	47.1	54.0	18.0	27.7	48.4	20.1	38.8	22.1	10.3	7.6	7.4	27.7	12.2	52.9	5.4	7.0			
女性 (n=685)	42.5	59.1	17.2	22.8	50.9	21.9	34.7	20.3	7.3	7.2	9.6	45.7	8.0	47.7	5.3	8.0			
20歳未満 (n=15)	46.7	80.0	26.7	20.0	53.3	26.7	0.0	26.7	0.0	0.0	6.7	40.0	6.7	60.0	0.0	13.3			
20～29歳 (n=100)	58.0	69.0	23.0	22.0	57.0	28.0	36.0	16.0	11.0	5.0	9.0	32.0	6.0	63.0	2.0	0.0			
30～39歳 (n=185)	47.0	62.7	30.8	21.6	54.1	20.5	35.7	18.9	7.6	5.9	8.1	40.5	6.5	48.6	8.6	1.6			
40～49歳 (n=191)	44.0	59.7	15.2	20.9	59.7	20.9	30.4	15.2	4.7	7.9	11.0	45.5	6.8	58.6	8.4	3.1			
50～59歳 (n=186)	41.4	64.5	16.7	23.7	44.6	19.9	41.4	24.2	8.6	8.1	9.1	39.2	11.8	47.8	7.0	4.3			
60～69歳 (n=310)	43.5	56.5	15.5	28.1	48.7	18.4	43.5	25.5	11.0	10.0	7.7	39.0	11.9	52.3	2.6	7.4			
70～79歳 (n=190)	39.5	42.6	12.1	29.5	41.1	23.2	33.7	18.4	9.5	5.3	11.1	33.2	13.2	36.8	3.7	18.9			
80歳以上 (n=76)	48.7	27.6	9.2	30.3	42.1	22.4	30.3	28.9	6.6	5.3	5.3	17.1	11.8	40.8	5.3	22.4			

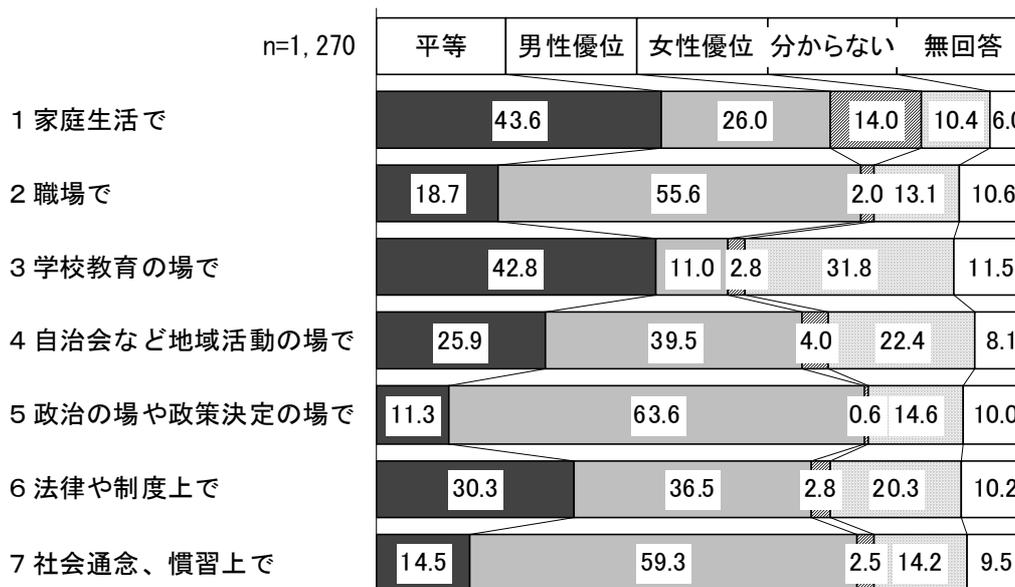
5 男女共同参画社会の推進

(1) 男女の地位 (A: 問 11)

問. 次にあげる分野で、男女の地位は平等になっていると思いますか。(それぞれ①～④の中から該当するものを選び○印を記入してください)

図5-1-1 男女の地位

単位: %



【全体】

男女の地位について聞いたところ、「平等」との回答が『家庭生活』(43.6%)、『学校教育の場』(42.8%)の2分野では、最も高くなっている。残りの5分野では「男性優位」との回答が最も高くなっている。中でも『政治の場や政策決定の場』(63.6%)が、最もその傾向が強く、次いで『社会通念、慣習上』(59.3%)、『職場』(55.6%)の3分野は、回答が5割を超えている。

『女性優位』の回答が最も多かったのは『家庭生活』(14.0%)の分野である。

【経年変化】

新規設問のため、経年変化は掲載していない。

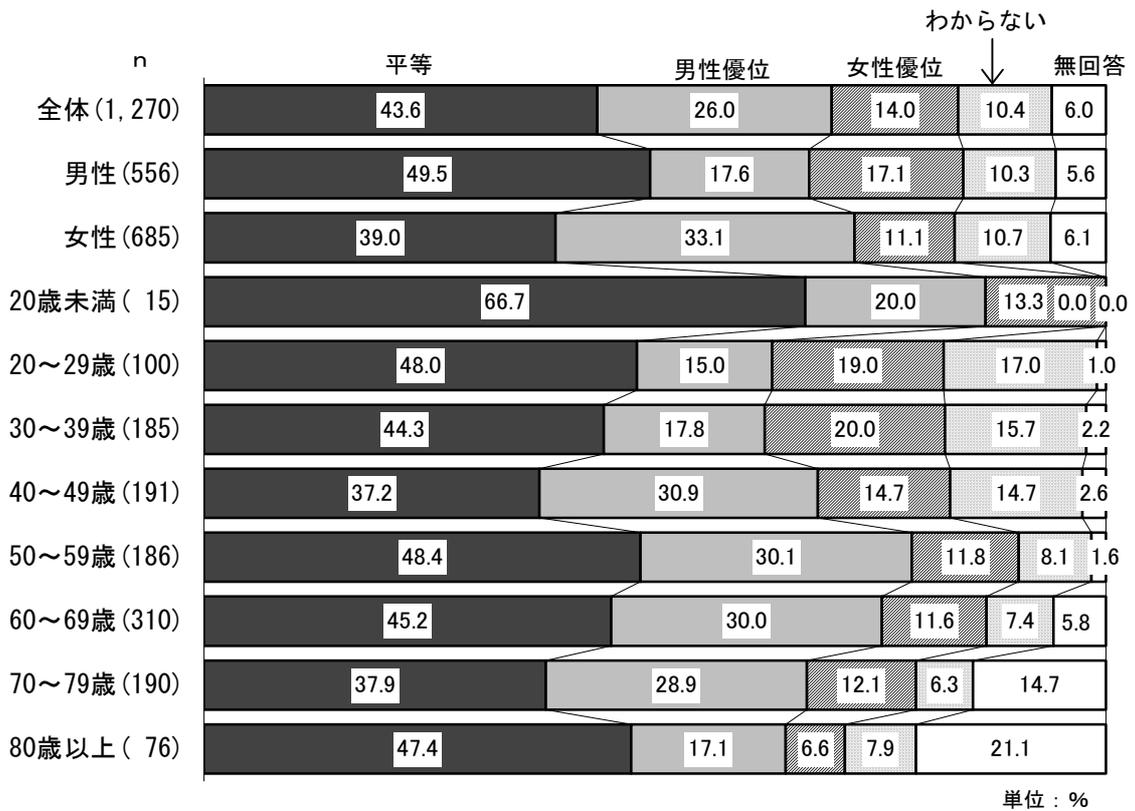
【属性別】

①家庭生活

性別で見ると、女性では「男性優位」(33.1%)が15.5ポイント男性より高いが、男性では「平等」(49.5%)が10.5ポイント、「女性優位」(17.1%)も6.0ポイント、それぞれ女性より高くなっている。

年齢別で見ると、40歳以上では「女性優位」よりも「男性優位」の方が高くなっているのに対し、20～39歳では大きな差がない結果となっている。

図5-1-2 男女の地位『家庭生活』—性別、年齢別



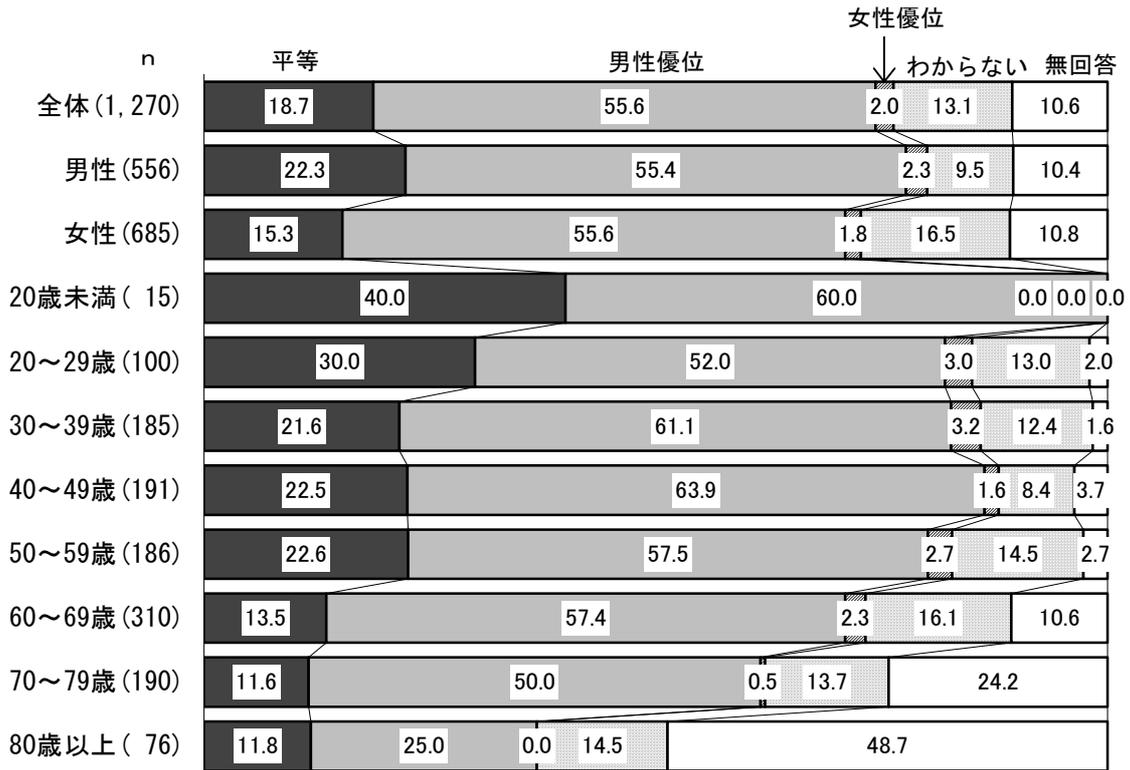
【属性別】

②職場

性別で見ると、男性では「平等」(22.3%)が7.0ポイント女性より高く、女性では「わからない」(16.5%)が7.0ポイント男性より高い。

年齢別で見ると、59歳以下では「平等」との回答が2割以上となっており、60歳以上よりも高くなっている。

図5-1-3 男女の地位『職場』—性別、年齢別



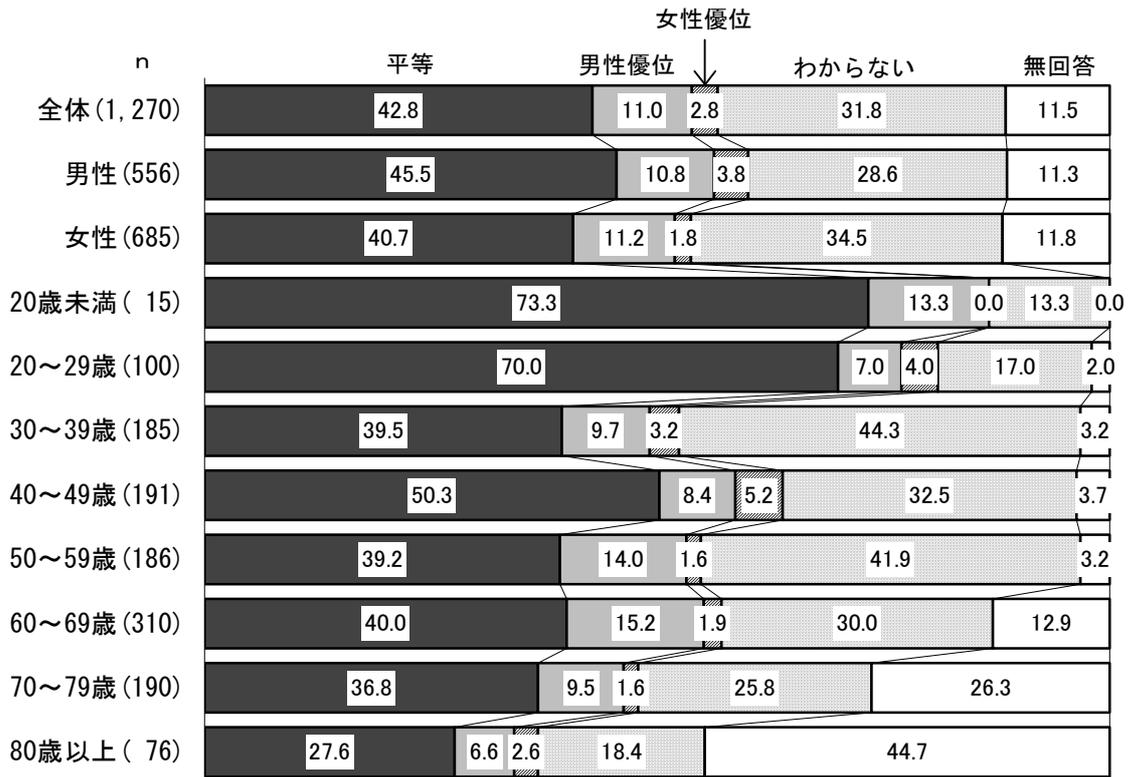
単位：%

【属性別】

③学校教育の場

性別で見ると、女性では「わからない」(34.5%)が5.9ポイント男性より高い。
 年齢別で見ると、29歳以下で「平等」との回答が7割を超えて高くなっている。

図5-1-4 男女の地位『学校教育の場』—性別、年齢別



単位：%

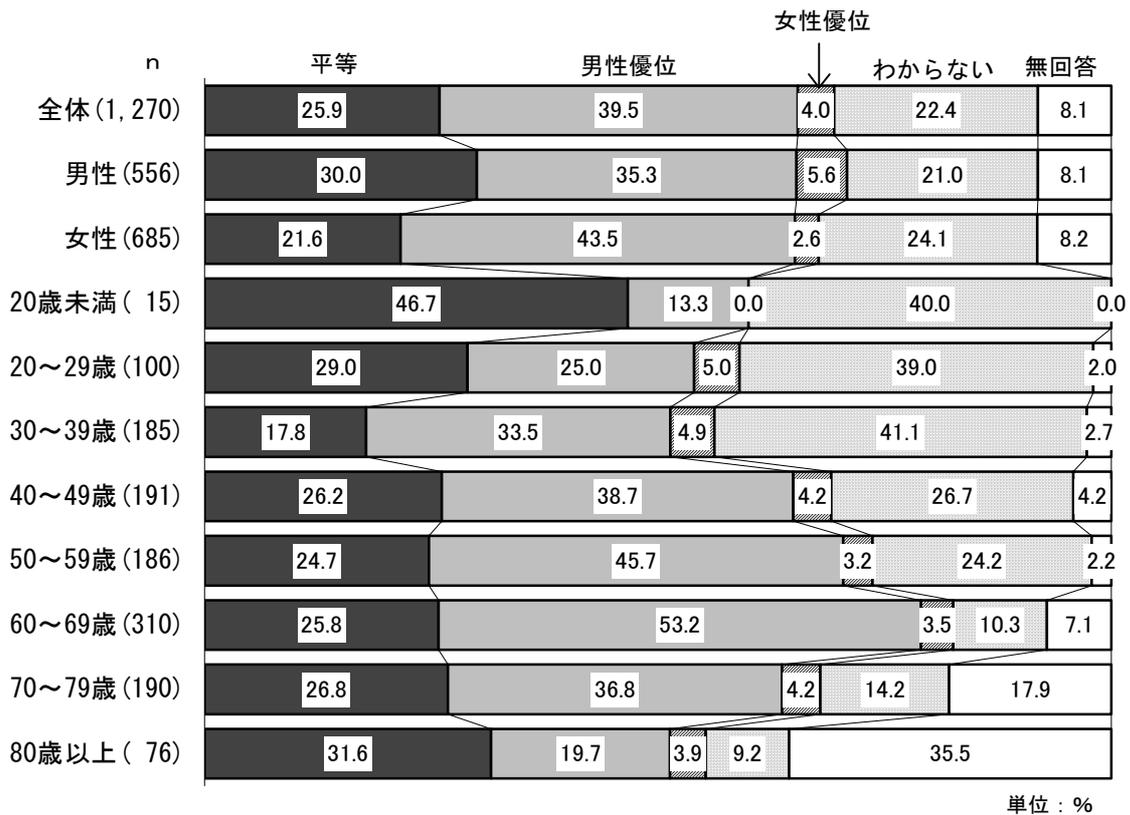
【属性別】

④自治会など地域活動の場

性別で見ると、女性では「男性優位」（43.5%）が 8.2 ポイント高いが、男性では「平等」（30.0%）が 8.4 ポイント高くなっている。

年齢別で見ると、40～69 歳では「男性優位」との回答が最も高い一方、20～39 歳では「わからない」との回答が最も高い。

図5-1-5 男女の地位『自治会など地域活動の場』—性別、年齢別



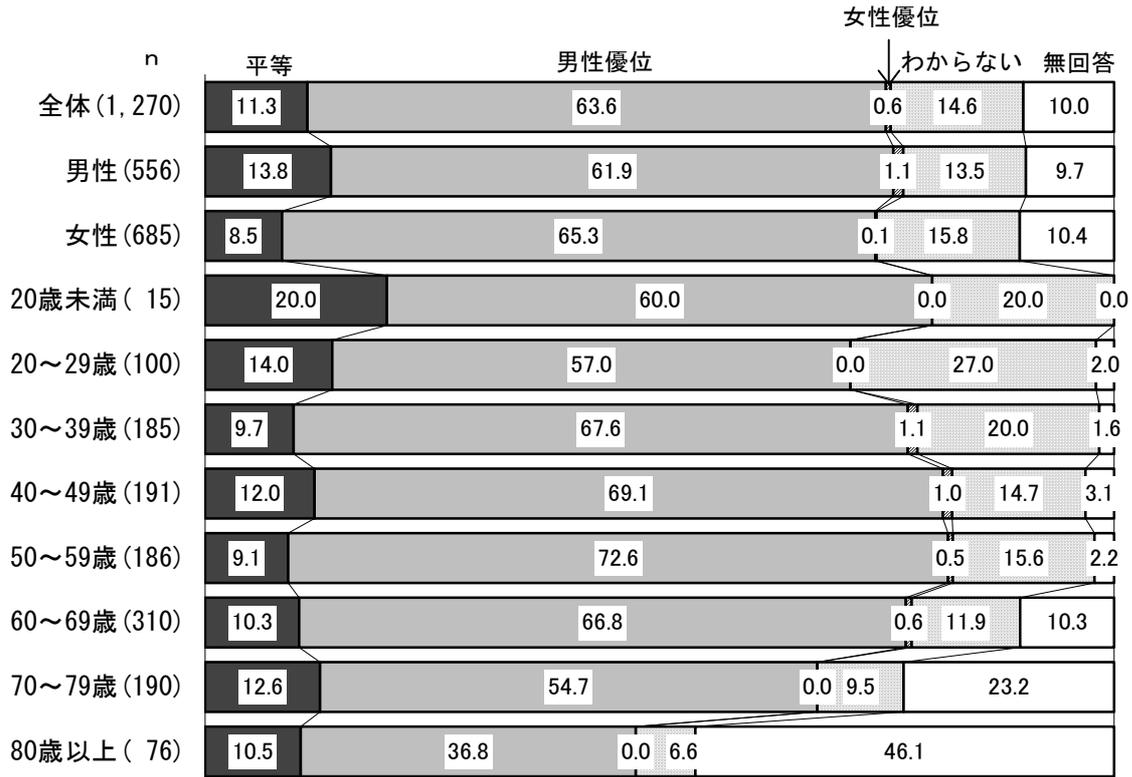
【属性別】

⑤政治の場や政策決定の場

性別で見ると、男性では「平等」(13.5%)が5.3ポイント女性より高くなっている。

年齢別で見ると、70歳以上では無回答が多くなっているが、おおよその傾向には大きな差がない。

図5-1-6 男女の地位『政治の場や政策決定の場』—性別、年齢別



単位：%

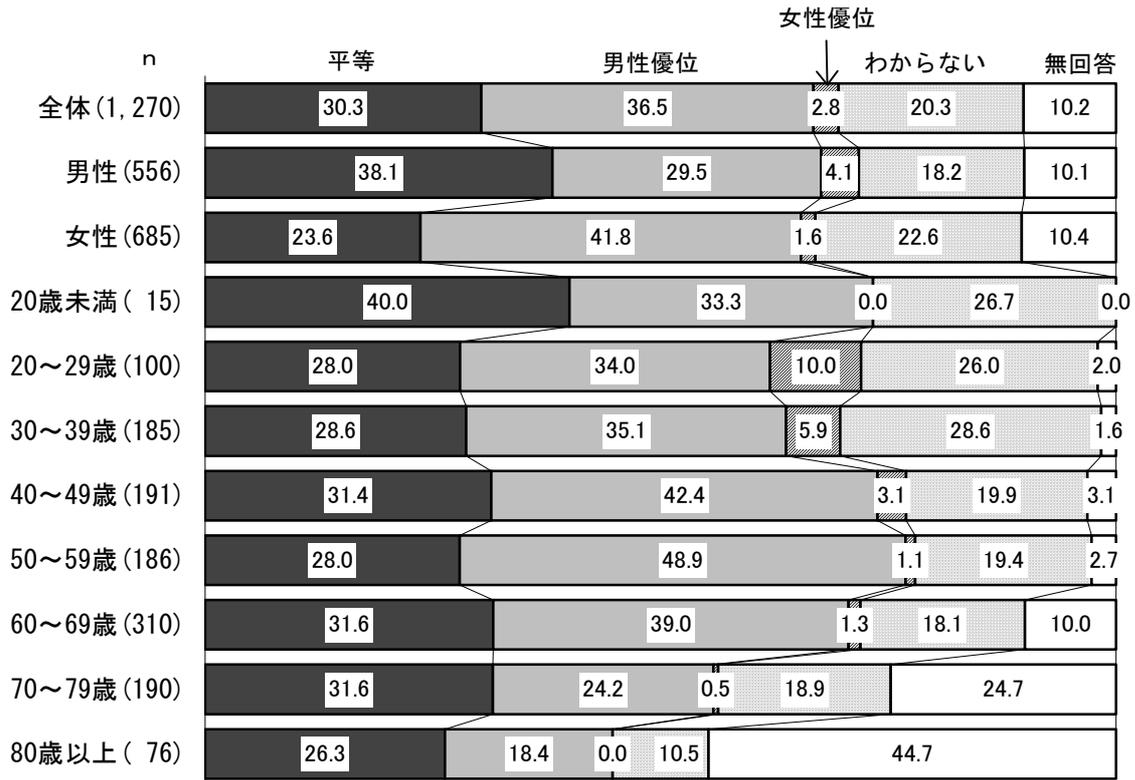
【属性別】

⑥法律や制度上

性別で見ると、男性では「平等」(38.1%)が14.5ポイント女性より高く、女性では「男性優位」(41.8%)が12.3ポイント男性より高くなっている。

年齢別で見ると、40～59歳では「男性優位」との回答が4割を超えて高くなっている。

図5-1-7 男女の地位『法律や制度上』—性別、年齢別



単位：%

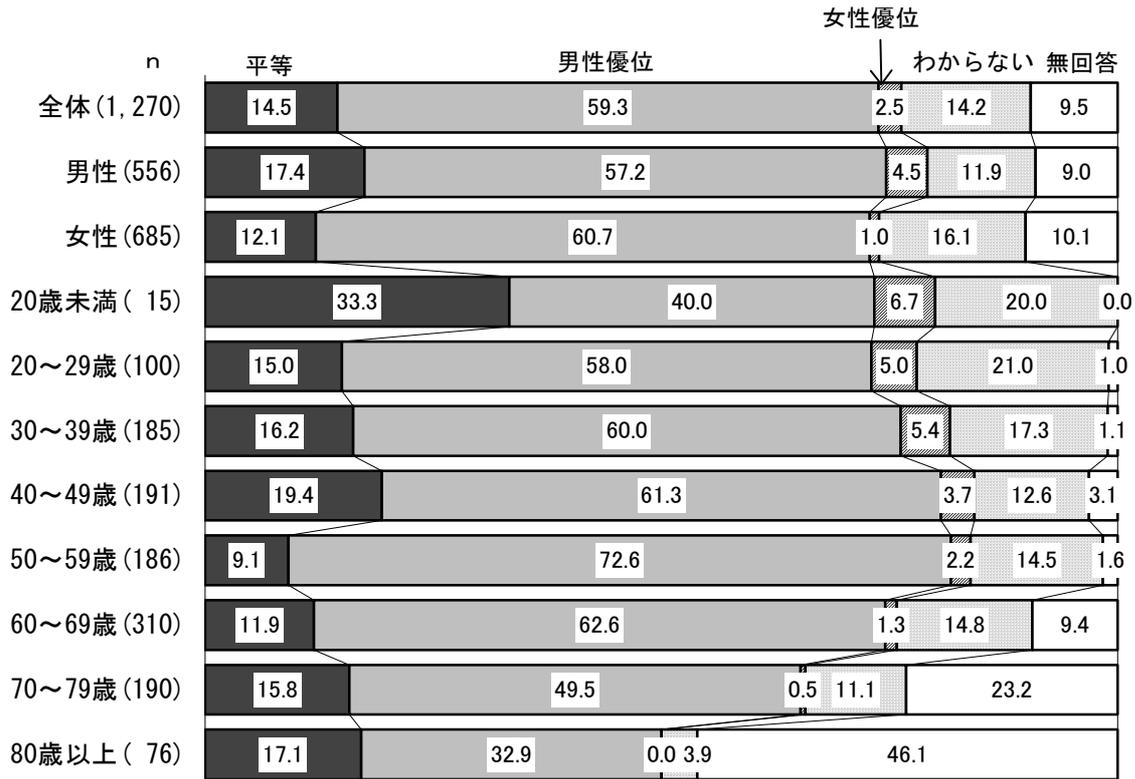
【属性別】

⑦社会通念、慣習上

性別で見ると、男性では「平等」(17.4%)が5.3ポイント女性より高い。

年齢別で見ると、70歳以上では無回答が多くなっているが、おおよその傾向には大きな差がない。

図5-1-8 男女の地位『社会通念、慣習上』—性別、年齢別



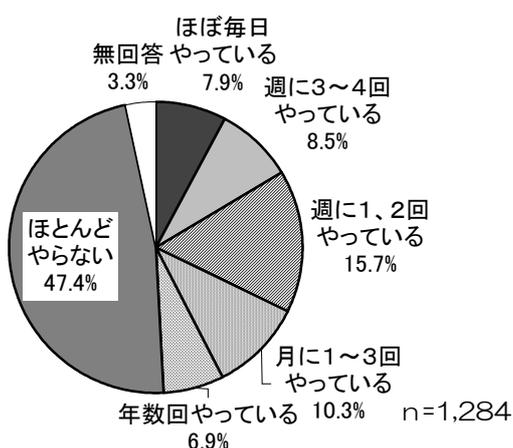
単位：%

6 スポーツ

(1) スポーツをする頻度 (B:問5)

問. あなたは、スポーツ（運動）をどの程度やっていますか。（1つだけ）

図6-1-1 スポーツをする頻度



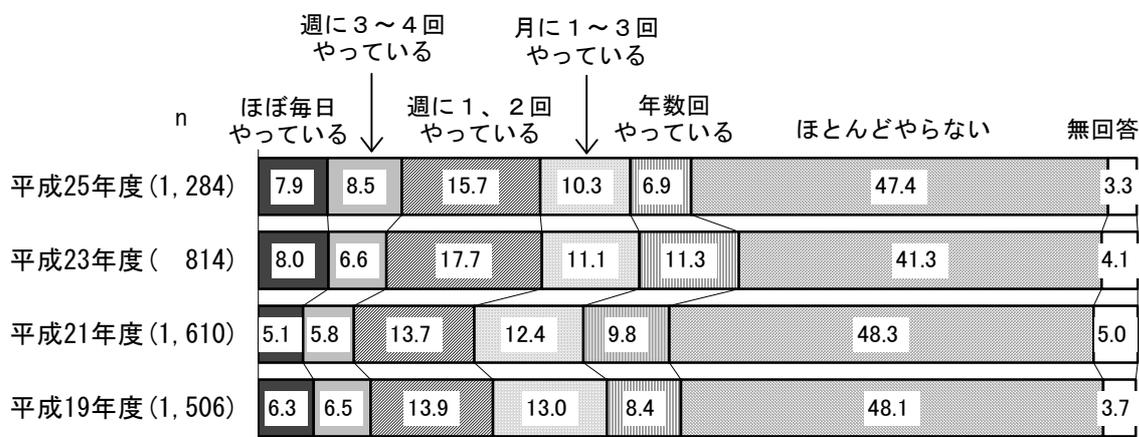
【全体】

スポーツをする頻度を聴いたところ、「ほとんどやらない」（47.4%）が5割に近く最も高くなっている。『やっています』と回答があった中では、「週に1、2回やっています」（15.7%）が最も高く、『週に1度以上やっています』人の割合は全体の32.1%と、約3割となっている。

【経年変化】

経年による変化は、多少の増減はあるものの、大きな変化はみられない。

図6-1-2 スポーツをする頻度—経年変化



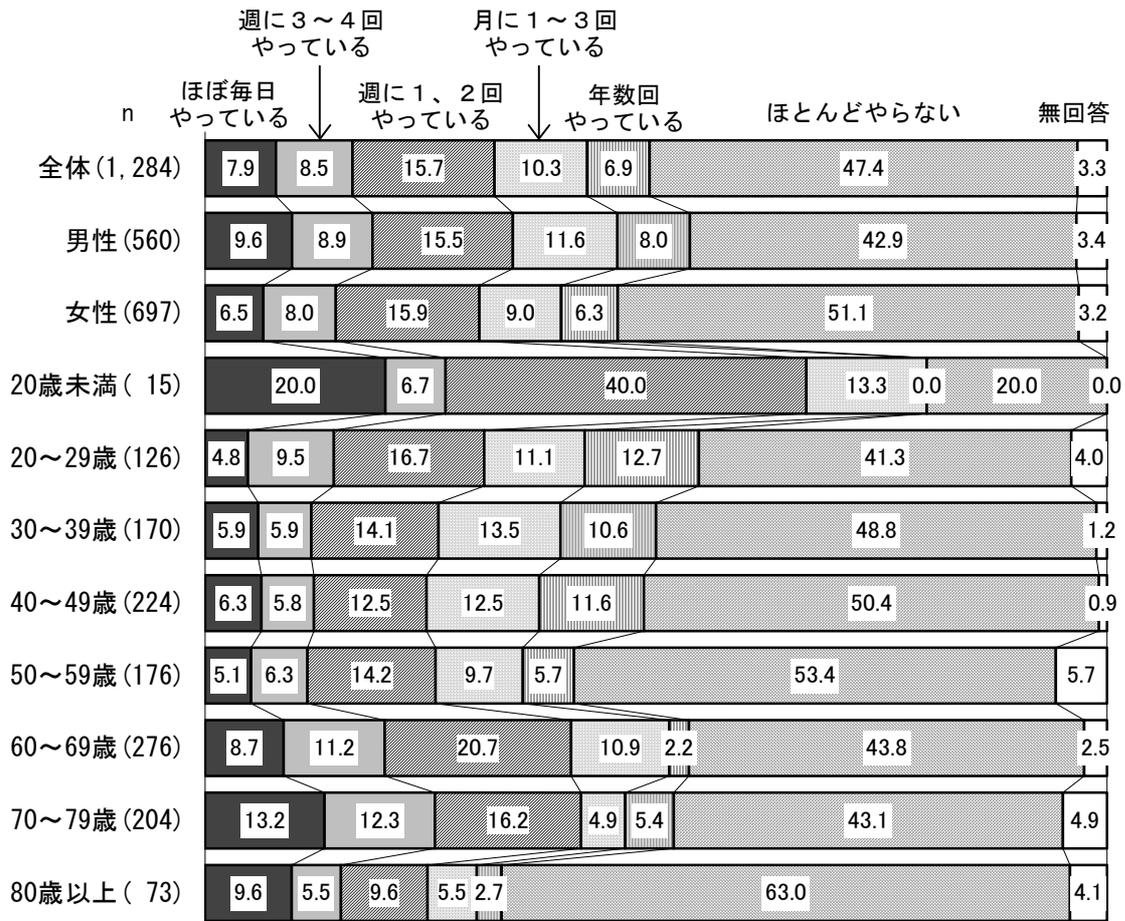
単位：%

【属性別】

性別で見ると、女性では「ほとんどやらない」（51.1%）が半数を超えており、男性よりも8.2ポイント高くなっている。

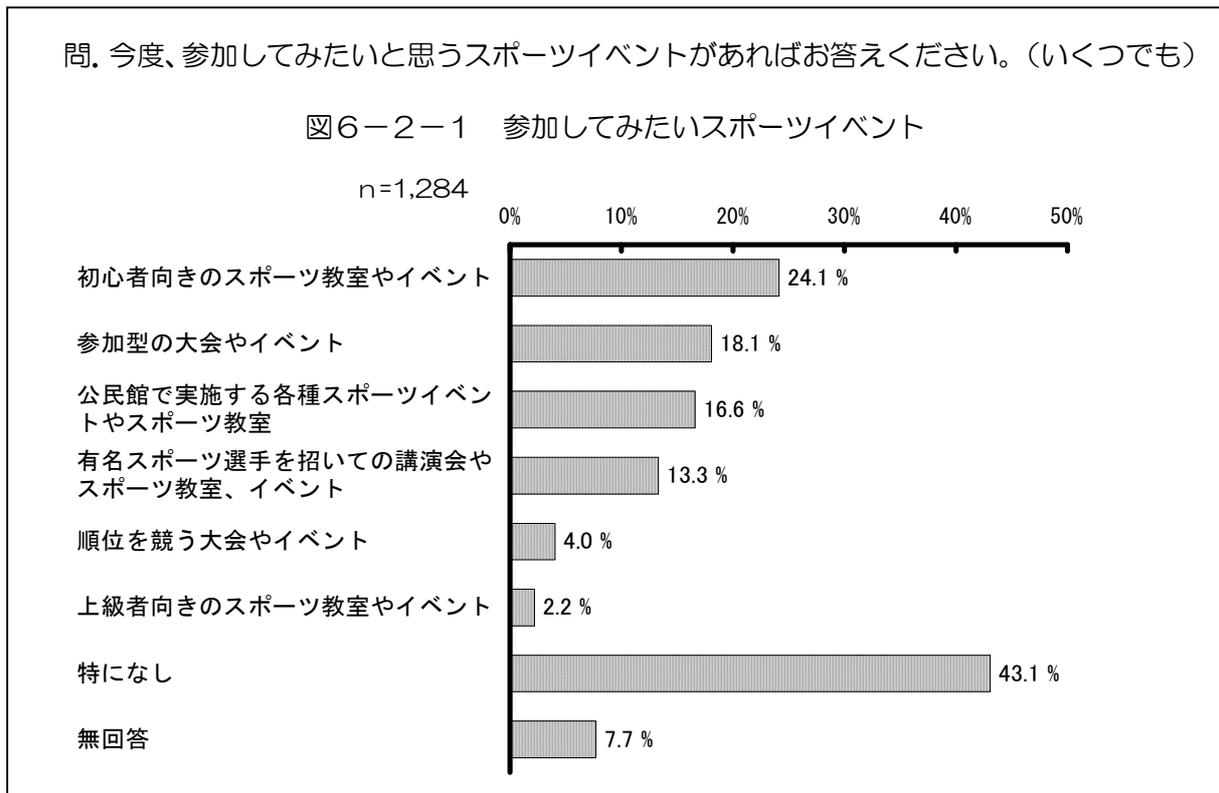
年齢別で見ると、60～79歳で『週に1回以上』やっている人の割合が4割を超えて高くなっている。

図6-1-3 スポーツをする頻度—性別、年齢別



単位：%

(2) 参加してみたいスポーツイベント (B:問6)



【全体】

参加してみたいスポーツイベントについて聞いたところ、「特になし」(43.1%)が4割を超えて最も高くなっている。『参加してみたいものがある』との回答の中では、「初心者向きのスポーツ教室やイベント」(24.1%)が最も高く、「参加型の大会やイベント」(18.1%)となっている。

【経年変化】

経年による変化を見ると、「初心者向き（対象とした）のスポーツ教室（大会）やイベント」との回答が直近4回の調査ではいずれも1位、又は2位となっている。

表6-2-1 参加してみたいスポーツイベントー経年変化

順位	平成 25 年度 (n=1, 284)		平成 23 年度 (n=814)		平成 21 年調査 (n=1, 610)		平成 19 年調査 (n=1, 506)	
1	初心者向きの スポーツ教室や イベント	24.1	参加型の 大会やイベント	24.4	初心者向きの スポーツ教室や イベント	22.5	初心者を 対象とした スポーツ大会や イベント	20.2
2	参加型の 大会やイベント	18.1	初心者向きの スポーツ教室や イベント	22.5	参加型の 大会やイベント	18.8	有名スポーツ選手 を招いて行う スポーツに関する 講演やスポーツ 教室、イベント	16.1
3	公民館で実施する 各種スポーツ イベントや スポーツ教室	16.6	有名スポーツ選手 を招いての 講演会や スポーツ教室、 イベント	18.8	有名スポーツ選手 を招いての 講演会や スポーツ教室、 イベント	18.3	公民館で実施する 各種スポーツ イベントや スポーツ教室	12.4
4	有名スポーツ選手 を招いての 講演会や スポーツ教室、 イベント	13.3	公民館で実施する 各種スポーツ イベントや スポーツ教室	15.0	公民館で実施する 各種スポーツ イベントや スポーツ教室	14.2	勝敗を競うことを 主な目的としない 大会やイベント	10.5
5	順位を競う 大会やイベント	4.0	順位を競う 大会やイベント	4.3	順位を競う 大会やイベント	4.5	勝敗を競うことを 主な目的とした 大会やイベント	6.8

(単位：%)

【属性別】

性別で見ると、女性では「初心者向きのスポーツ教室やイベント」（30.4%）が男性より 13.4 ポイント、「公民館で実施する各種スポーツイベントやスポーツ教室」（19.9%）が男性より 7.2 ポイント高くなっている。一方、男性では「特になし」（46.6%）が女性より 6.1 ポイント高くなっている。

年齢別で見ると、49 歳以下では「有名スポーツ選手を招いての講演会やスポーツ教室、イベント」が 2 割前後と 50 歳以上より高い結果となっている。また、70 歳以上では「参加型の大会やイベント」や、「初心者向きのスポーツ教室やイベント」、「有名スポーツ選手を招いての講演会やスポーツ教室、イベント」の回答が全体より少なくなっており、80 歳以上では「特になし」が 56.2%となっている。

表6-2-2 参加してみたいスポーツイベントー性別、年齢別

(単位：%)	順位を競う 大会やイベント	参加型の 大会やイベント	公民館で実施する 各種スポーツイベントや スポーツ教室	上級者向きの スポーツ教室やイベント	初心者向きの スポーツ教室やイベント	有名スポーツ選手を 招いての講演会や スポーツ教室、イベント	特になし	無回答
全体 (n=1,284)	4.0	18.1	16.6	2.2	24.1	13.3	43.1	7.7
男性 (n=560)	6.6	19.1	12.7	3.8	17.0	15.0	46.6	7.3
女性 (n=697)	2.0	17.1	19.9	0.9	30.4	12.2	40.5	7.5
20歳未満 (n=15)	20.0	20.0	6.7	13.3	20.0	40.0	40.0	0.0
20～29歳 (n=126)	7.9	23.8	15.1	2.4	27.8	19.8	39.7	4.0
30～39歳 (n=170)	8.8	22.9	13.5	2.4	30.0	21.8	39.4	1.2
40～49歳 (n=224)	5.8	18.8	14.7	3.1	27.2	20.1	44.2	2.7
50～59歳 (n=176)	1.1	17.6	17.6	3.4	25.0	9.1	44.3	8.0
60～69歳 (n=276)	1.1	19.2	20.7	1.1	29.0	8.0	40.6	7.2
70～79歳 (n=204)	2.0	12.3	16.7	1.0	15.2	7.4	44.6	17.6
80歳以上 (n=73)	1.4	6.8	19.2	0.0	5.5	4.1	56.2	16.4

(3) 取り組んでいるスポーツの種目 (B: 問7)

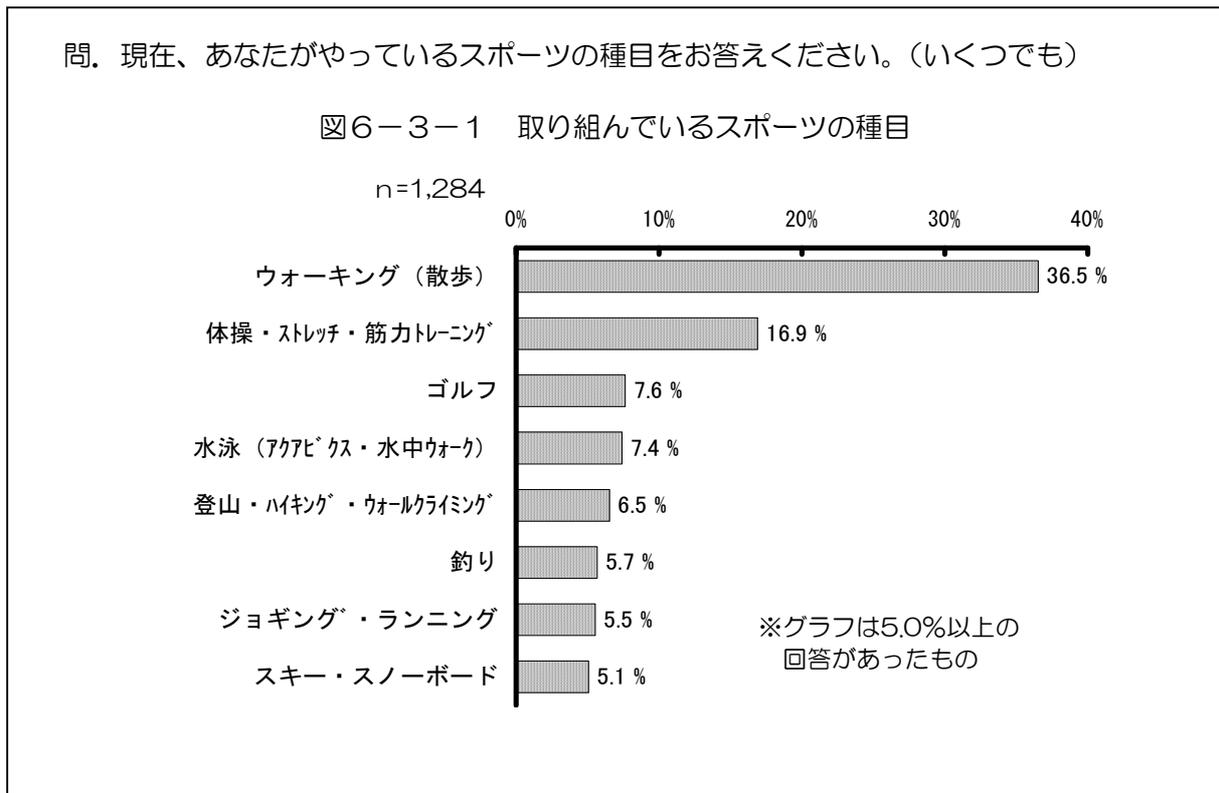


表6-3-1 取り組んでいるスポーツの種目 (回答一覧)

種目名	%	種目名	%
ウォーキング (散歩)	36.5	ソフトボール	1.0
体操・ストレッチ・筋力トレーニング	16.9	ターゲットバードゴルフ	0.9
ゴルフ	7.6	バスケットボール	0.9
水泳 (アクアビクス・水中ウォーク)	7.4	グラウンドゴルフ	0.9
登山・ハイキング・ウォークライミング	6.5	柔道・剣道・空手・少林寺拳法・ホクシング	0.8
釣り	5.7	サーフィン・ウィンドサーフィン	0.6
ジョギング・ランニング	5.5	乗馬	0.5
スキー・スノーボード	5.1	ダイビング	0.5
テニス・ソフトテニス	3.7	バウンドテニス	0.4
ボウリング	3.4	スケートボード・インラインスケート	0.4
サイクリング	3.4	陸上競技	0.3
ヨガ・気功・太極拳	3.1	ゲートボール	0.3
社交ダンス・エアロビクス・ジャズダンス	2.6	ラグビー・アメフト	0.2
野球	2.4	アイススケート・アイスホッケー	0.2
バドミントン	2.1	弓道・アーチェリー	0.2
卓球	1.9	クレール射撃	0.1
サッカー・フットサル	1.9	なぎなた	0.1
バレーボール・ソフトバレーボール	1.2	特になし	29.9
		無回答	4.9
		全体	100.0

【全体】

取り組んでいるスポーツの種目について聞いたところ、「ウォーキング（散歩）」（36.5%）が3割を超え最も高くなっている。次いで、「体操・ストレッチ・筋力トレーニング」（16.9%）、「ゴルフ」（7.6%）、「水泳（アクアビクス・水中ウォーク）」（7.4%）、「登山・ハイキング・ウォールクライミング」（6.5%）となっている。

【経年変化】

前回調査との比較では、上位5回答の順位は変わらない結果となった。

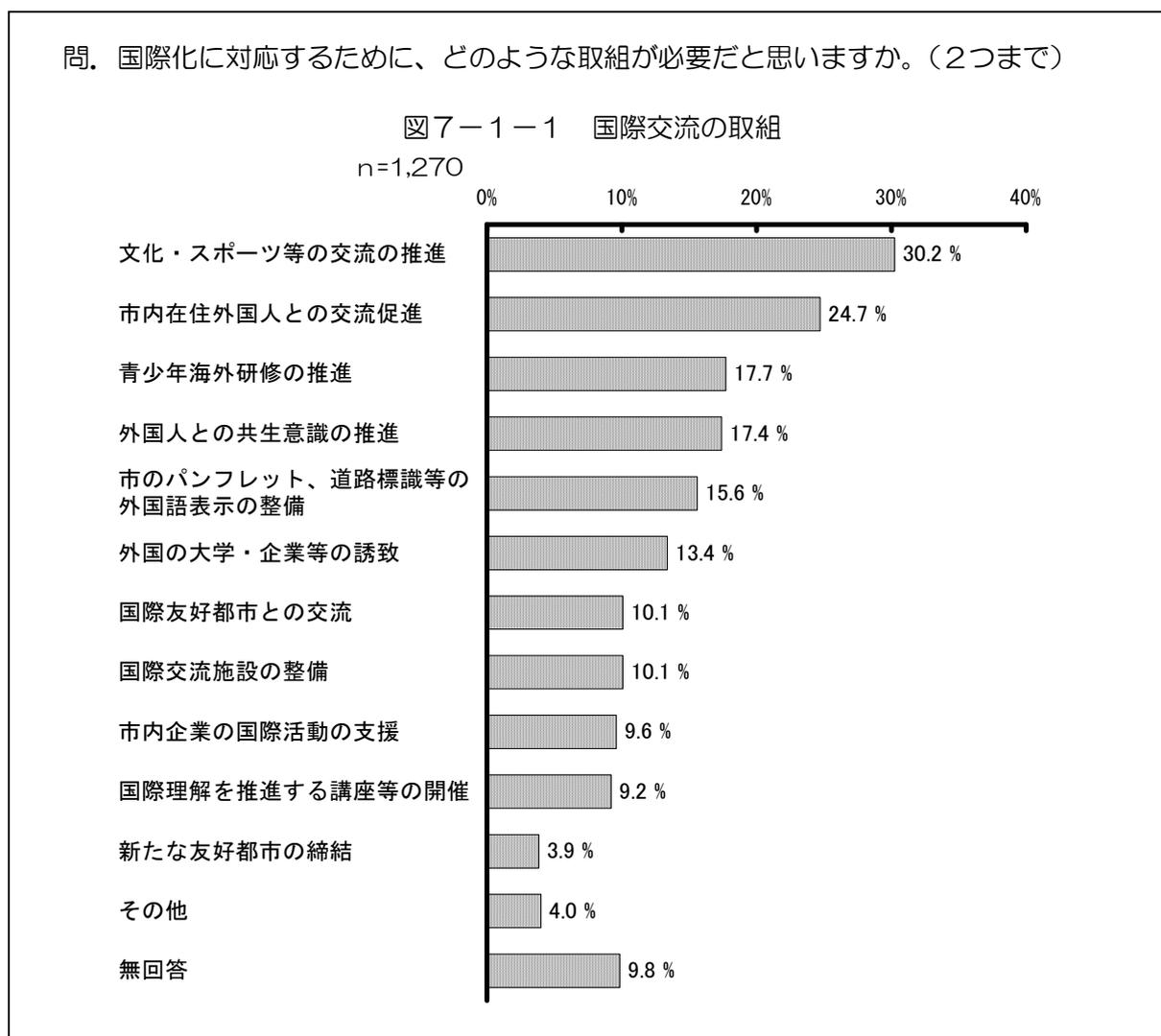
表6-3-2 取り組んでいるスポーツの種目—経年変化

順位	平成 25 年度 (n=1, 284)		平成 23 年度 (n=814)		平成 21 年度 (n=1, 610)	
	種目	割合 (%)	種目	割合 (%)	種目	割合 (%)
1	ウォーキング（散歩）	36.5	ウォーキング（散歩）	42.6	ウォーキング・散歩	42.6
2	体操・ストレッチ・筋力トレーニング	16.9	体操・ストレッチ・筋力トレーニング	19.5	体操・ストレッチ	13.3
3	ゴルフ	7.6	ゴルフ	7.1	ゴルフ	8.2
4	水泳（アクアビクス・水中ウォーク）	7.4	水泳（アクアビクス・水中ウォーク）	6.8	ジョギング・ランニング	7.1
5	登山・ハイキング・ウォールクライミング	6.5	登山・ハイキング・ウォールクライミング	6.6	水泳	6.8

（単位：％）

7 国際交流

(1) 国際交流の取組（A：問 13）



【全体】

国際交流の取組について聞いたところ、「文化・スポーツ等の交流の推進」（30.2%）が約3割と最も高くなっている。次いで、「市内在住外国人との交流促進」（24.7%）、「青少年海外研修の推進」（17.7%）、「外国人との共生意識の推進」（17.4%）となっている。

【経年変化】

経年変化は参考に記載するものとする。

表7-1-1 国際交流の取組—経年変化

(単位：%)	平成 25 年度 (n=1, 270)	平成 23 年度 (n= 815)	平成 21 年度 (n=1, 608)	平成 19 年度 (n=1, 500)	平成 17 年度 (n=1, 002)
文化・スポーツ等の交流の推進	30.2	38.5	44.1	40.1	44.3
市内在住外国人との交流促進	24.7	25.8	22.6	21.6	25.4
青少年海外研修の推進	17.7	16.3	15.3	14.7	17.4
外国人との共生意識の推進	17.4	11.9	13.2	14.7	-
市のパンフレット、道路標識等の 外国語表示の整備	15.6	11.4	12.3	13.7	14.9
外国の大学・企業等の誘致	13.4	11.4	9.1	7.5	11.9
国際友好都市との交流	10.1	12.6	15.0	11.0	13.5
国際交流施設の整備	10.1	9.9	10.6	9.0	11.8
国際理解を推進する講座等の開催	9.6	9.1	11.4	9.7	16.1
市内企業の国際活動の支援	9.2	7.4	7.2	4.5	6.3
新たな友好都市の締結	3.9	4.7	-	-	-
地域からの国際協力	-	6.6	6.0	5.5	8.0

(注) 平成 19 年度調査からは「外国人との共生意識の推進」が、さらに平成 23 年度調査からは「新たな友好都市の締結」を選択肢として追加しており、また、今回の調査では「地域からの国際協力」を選択肢から外している。

【属性別】

性別で見ると、男女ともほぼ同じ傾向になっている。

年齢別で見ると、「外国の大学・企業等の誘致」との回答では若い年代ほど高くなる傾向が見られ、29歳以下では2割以上の回答となっている。

表7-1-2 国際交流の取組—性別、年齢別

(単位：%)	文化・スポーツ等の交流の推進	青少年海外研修の推進	市内在住外国人との交流促進	新たな友好都市の締結	国際友好都市との交流	外国語表示の整備	市のパンフレット、道路標識等の講座等の開催	国際理解を推進する	外国の大学・企業等の誘致	国際交流施設の整備	外国人との共生意識の推進	市内企業の国際活動の支援	その他	無回答
全体 (n=1,270)	30.2	17.7	24.7	3.9	10.1	15.6	9.2	13.4	10.1	17.4	9.6	4.0	9.8	
男性 (n=556)	31.1	18.3	23.7	4.7	10.6	14.2	9.2	15.8	11.5	17.6	10.8	4.3	6.8	
女性 (n=685)	29.8	16.9	25.0	3.2	9.6	16.9	9.2	11.4	8.9	17.1	8.8	3.8	12.4	
20歳未満 (n=15)	40.0	26.7	33.3	6.7	0.0	26.7	0.0	26.7	6.7	6.7	6.7	0.0	6.7	
20～29歳 (n=100)	23.0	16.0	25.0	6.0	18.0	16.0	9.0	20.0	7.0	16.0	14.0	6.0	4.0	
30～39歳 (n=185)	28.1	15.7	20.0	4.3	8.6	18.9	7.0	18.4	10.8	17.3	10.8	7.0	4.9	
40～49歳 (n=191)	35.1	12.0	27.2	4.2	9.4	13.6	8.4	17.3	8.9	20.4	12.0	3.7	2.6	
50～59歳 (n=186)	30.6	14.5	31.2	3.8	9.1	20.4	8.1	11.3	9.7	17.7	8.1	5.9	7.5	
60～69歳 (n=310)	31.3	20.3	25.5	3.2	9.7	13.2	11.9	11.3	11.9	18.1	8.7	1.6	12.9	
70～79歳 (n=190)	30.5	22.1	17.4	2.6	10.0	15.3	10.0	8.9	10.0	17.4	7.4	2.6	16.8	
80歳以上 (n=76)	25.0	19.7	22.4	5.3	10.5	10.5	7.9	5.3	10.5	7.9	9.2	5.3	26.3	

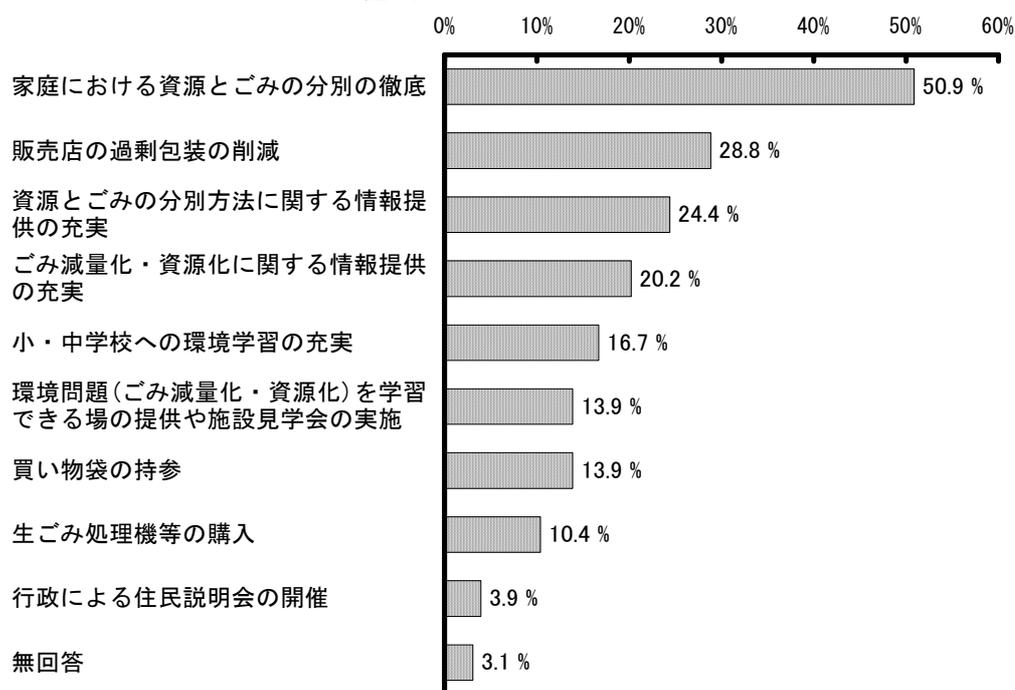
8 環境

(1) ごみの減量化・資源化の推進 (A: 問 14)

問. ごみの減量化・資源化を推進する上で、特に重要だと思うことは何ですか。(2つまで)

図8-1-1 ごみの減量化・資源化の推進

n=1,270



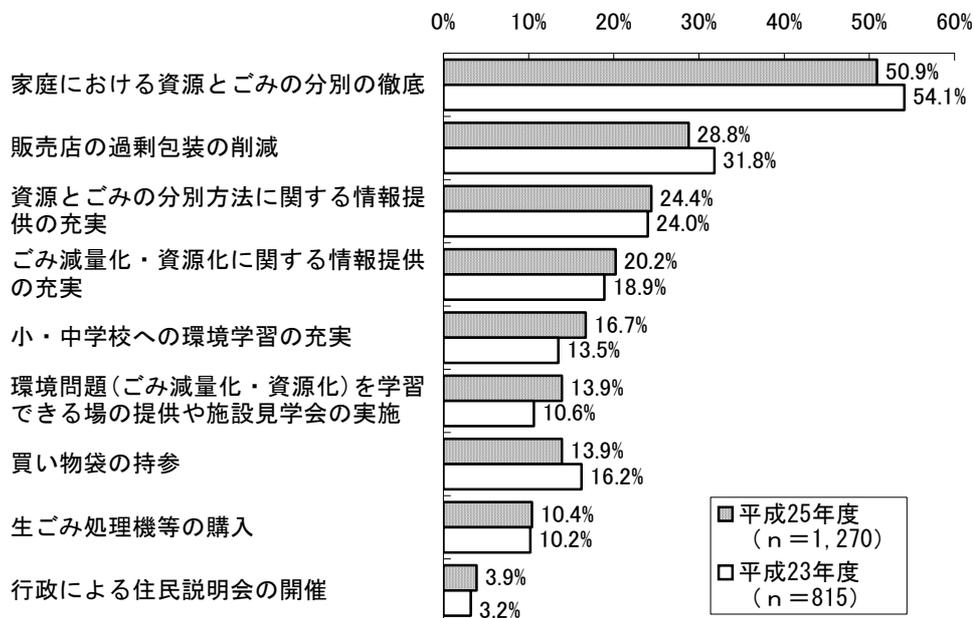
【全体】

ごみの減量化・資源化システムを推進する上で重要と思うことについて聞いたところ、「家庭における資源とごみの分別の徹底」(50.9%)が約5割で最も高くなっている。次いで、「販売店の過剰包装の削減」(28.8%)、「資源とごみの分別方法に関する情報提供の充実」(24.4%)、「ごみ減量化・資源化に関する情報提供の充実」(20.2%)となっている。

【経年変化】

前回調査との比較では「買い物袋の持参」が順位を下げたが、数值的に大きな変化は見られない。

図8-1-2 ごみの減量化・資源化の推進—経年変化



【属性別】

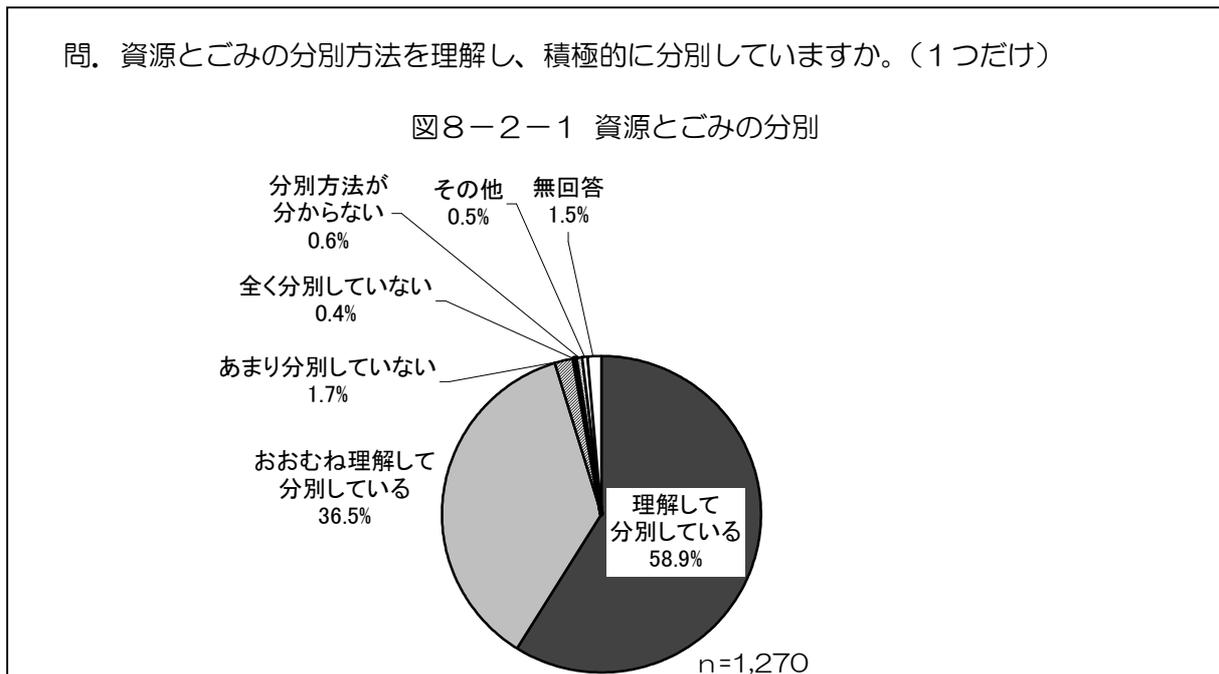
性別にみると、女性では「買い物袋の持参」（17.4％）で、男性より 8.2 ポイント高く、「販売店の過剰包装の削減」（31.5％）で男性より 6.1 ポイント高くなっている。

年齢別にみると、70 歳以上で「家庭における資源とごみの分別の徹底」が他の年齢層よりも高くなっている。「販売店の過剰包装の削減」については、20～59 歳にかけて3割台と高くなっている。29 歳以下では「資源とごみの分別方法に関する情報提供の充実」が3割、「買い物袋の持参」が2 割を超えて、他の年齢層より高くなっている。

表8-1-1 ごみの減量化・資源化の推進—性別、年齢別

(単位：％)	家庭における資源とごみの分別の徹底	資源とごみの分別方法に関する情報提供の充実	ごみ減量化・資源化に関する情報提供の充実	小・中学校への環境学習の充実	環境問題（ごみ減量化・資源化）を学習できる場の提供や施設見学会の実施	行政による住民説明会の開催	買い物袋の持参	販売店の過剰包装の削減	生ごみ処理機等の購入	無回答
全体 (n=1,270)	50.9	24.4	20.2	16.7	13.9	3.9	13.9	28.8	10.4	3.1
男性 (n=556)	53.6	26.8	21.0	16.9	14.4	5.0	9.2	25.4	10.6	3.1
女性 (n=685)	48.8	23.1	19.7	16.5	13.1	2.9	17.4	31.5	10.1	3.1
20歳未満 (n=15)	53.3	33.3	13.3	20.0	0.0	0.0	20.0	20.0	13.3	6.7
20～29歳 (n=100)	46.0	30.0	9.0	17.0	9.0	1.0	25.0	37.0	6.0	1.0
30～39歳 (n=185)	40.5	24.3	20.5	18.9	11.4	1.1	13.5	35.7	13.5	2.7
40～49歳 (n=191)	50.8	26.2	18.8	17.3	11.0	4.7	14.1	31.4	9.9	2.1
50～59歳 (n=186)	47.3	26.9	19.9	16.7	12.4	3.8	13.4	36.6	8.1	1.6
60～69歳 (n=310)	52.3	19.4	23.5	19.0	17.1	5.2	10.3	26.5	11.6	4.2
70～79歳 (n=190)	59.5	24.2	23.2	12.6	18.9	5.8	13.2	16.8	10.0	3.2
80歳以上 (n=76)	67.1	28.9	21.1	7.9	10.5	3.9	14.5	15.8	9.2	7.9

(2) 資源とごみの分別 (A: 問 15)



【全体】

資源とごみの分別について聞いたところ、「理解して分別している」(58.9%)が約6割、「おおむね理解して分別している」(36.5%)が3割半ばとなっており、これらを合わせた『分別している』(95.4%)は9割半ばと高くなっている。

【経年変化】

過去2回の調査との比較では「理解して分別している」、「おおむね理解して分別している」を合わせた『分別している』が9割半ばとなっており、常に高く推移している。

表8-2-1 資源とごみの分別—経年変化

(単位: %)	平成 25 年度 (n=1, 270)	平成 23 年度 (n=815)	平成 21 年度 (n=1, 608)
理解して分別している	58.9	60.2	49.6
おおむね理解して分別している	36.5	36.2	42.8
あまり分別していない	1.7	1.3	0.2
全く分別していない	0.4	0.5	4.0
分別方法が分からない	0.6	0.1	1.2
その他	0.5	0.0	0.5
無回答	1.5	1.6	1.6

【属性別】

性別で見ると、男女ともほぼ同じ傾向になっている。

年齢別で見ると、「理解して分別している」との回答は、30歳以上で年齢層が高くなるにつれて割合が高くなる傾向になっている。

表8-2-2 資源とごみの分別—性別、年齢別

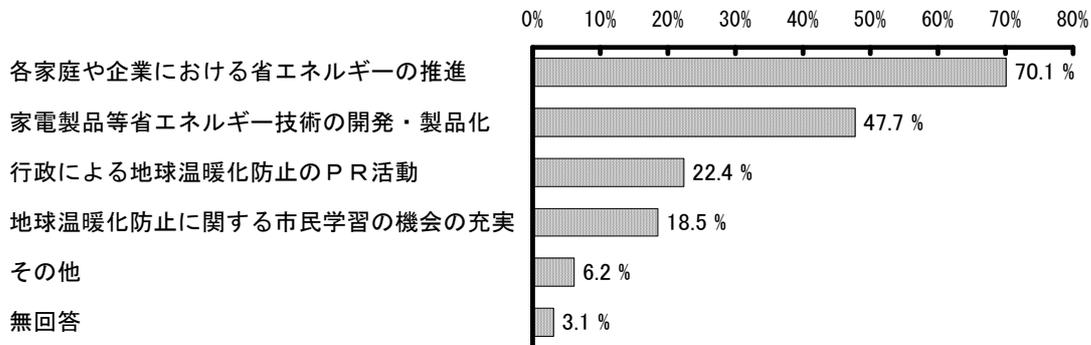
(単位：%)	理解して分別している	おおむね理解して分別している	あまり分別していない	全く分別していない	分別方法が分からない	その他	無回答
全体 (n=1,270)	58.9	36.5	1.7	0.4	0.6	0.5	1.5
男性 (n=556)	59.4	35.4	2.2	0.2	0.9	0.7	1.3
女性 (n=685)	58.0	37.7	1.5	0.6	0.3	0.3	1.8
20歳未満 (n=15)	53.3	26.7	6.7	0.0	6.7	0.0	6.7
20～29歳 (n=100)	37.0	52.0	5.0	2.0	1.0	3.0	0.0
30～39歳 (n=185)	35.7	57.8	4.3	0.0	0.5	1.1	0.5
40～49歳 (n=191)	52.4	40.3	2.1	1.0	2.1	0.5	1.6
50～59歳 (n=186)	60.2	37.6	1.6	0.0	0.0	0.0	0.5
60～69歳 (n=310)	67.4	29.4	0.3	0.3	0.0	0.0	2.6
70～79歳 (n=190)	76.8	21.6	0.0	0.0	0.0	0.0	1.6
80歳以上 (n=76)	76.3	21.1	0.0	0.0	0.0	0.0	2.6

(3) 地球温暖化防止のための取組 (B:問8)

問. 地球温暖化防止への取組について、特に必要だと思うものは何ですか。(2つまで)

図8-3-1 地球温暖化防止のための取組

n=1,284



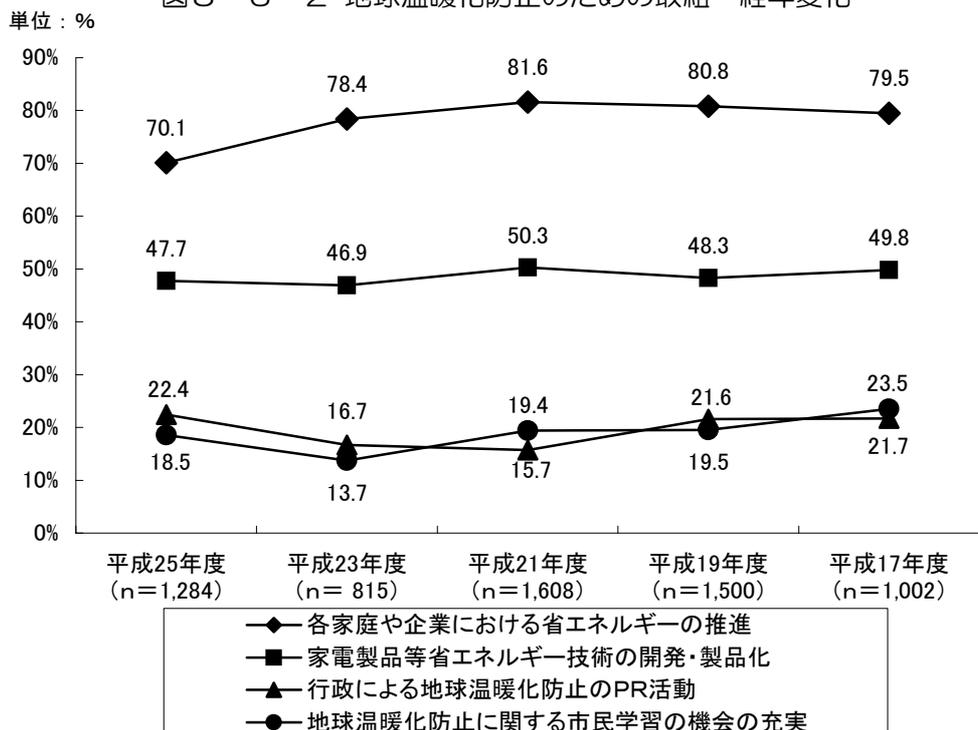
【全体】

地球温暖化防止のための取組について聞いたところ、「各家庭や企業における省エネルギーの推進」(70.1%)が約7割で最も高くなっている。次いで、「家電製品等省エネルギー技術の開発・製品化」(47.7%)、「行政による地球温暖化防止のPR活動」(22.4%)、「地球温暖化防止に関する市民学習の機会の充実」(18.5%)となっている。

【経年変化】

経年による変化を見ると「各家庭や企業における省エネルギーの推進」は引き続き最も高いものの、平成21年度調査以降は減少傾向にある。その他の選択肢については、大きな変化は見られない。

図8-3-2 地球温暖化防止のための取組—経年変化



【属性別】

性別で見ると、男女ともほぼ同じ傾向になっている。

年齢別で見ると、70 歳以上では「地球温暖化防止に関する市民学習の機会の充実」、「行政による地球温暖化防止のPR活動」が若い年齢層よりも高くなっているのに対し、「家電製品等省エネルギー技術の開発・製品化」との項目は、若い年齢層と比べて低くなっている。

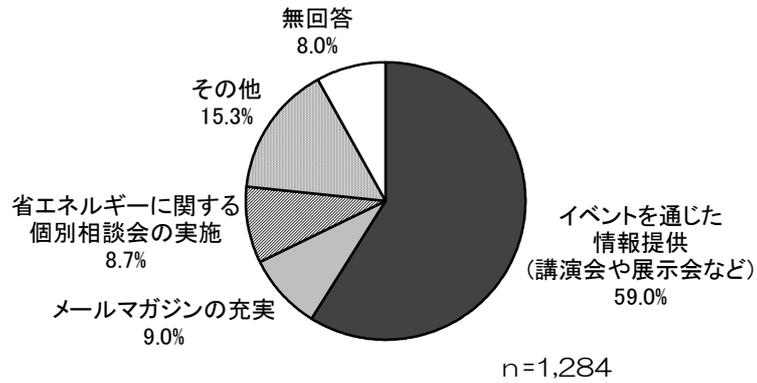
表8-3-1 地球温暖化防止のための取組—性別、年齢別

(単位：%)	各家庭や企業における省エネルギーの推進	家電製品等省エネルギー技術の開発・製品化	行政による地球温暖化防止のPR活動	地球温暖化防止に関する市民学習の機会の充実	その他	無回答
全体 (n=1,284)	70.1	47.7	22.4	18.5	6.2	3.1
男性 (n=560)	67.7	47.9	22.9	16.6	8.2	2.3
女性 (n=697)	72.2	47.8	21.8	20.5	4.6	3.4
20歳未満 (n=15)	73.3	53.3	20.0	6.7	6.7	0.0
20～29歳 (n=126)	68.3	52.4	15.1	15.9	8.7	1.6
30～39歳 (n=170)	79.4	51.2	14.7	14.7	7.1	0.0
40～49歳 (n=224)	69.6	56.7	14.3	19.6	6.3	0.9
50～59歳 (n=176)	70.5	51.7	21.6	17.6	9.7	1.1
60～69歳 (n=276)	71.0	44.6	27.2	20.3	6.2	2.5
70～79歳 (n=204)	65.7	36.3	34.8	22.1	2.5	6.9
80歳以上 (n=73)	58.9	31.5	30.1	20.5	2.7	16.4

(4) 地球温暖化防止に関する情報の提供方法（B：問9）

問. 厚木市では、市民の方に地球温暖化防止に関する情報を広報紙やホームページなどで提供していますが、他にはどのような提供方法が必要だと思いますか。（1つだけ）

図8-4-1 地球温暖化防止に関する情報の提供



【全体】

地球温暖化防止に関する情報提供について聞いたところ、「イベントを通じた情報提供（講演会や展示会など）」（59.0%）が6割に近く、最も高くなっている。次いで、「メールマガジンの充実」（9.0%）、「省エネルギーに関する個別相談会の実施」（8.7%）となっている。

【経年変化】

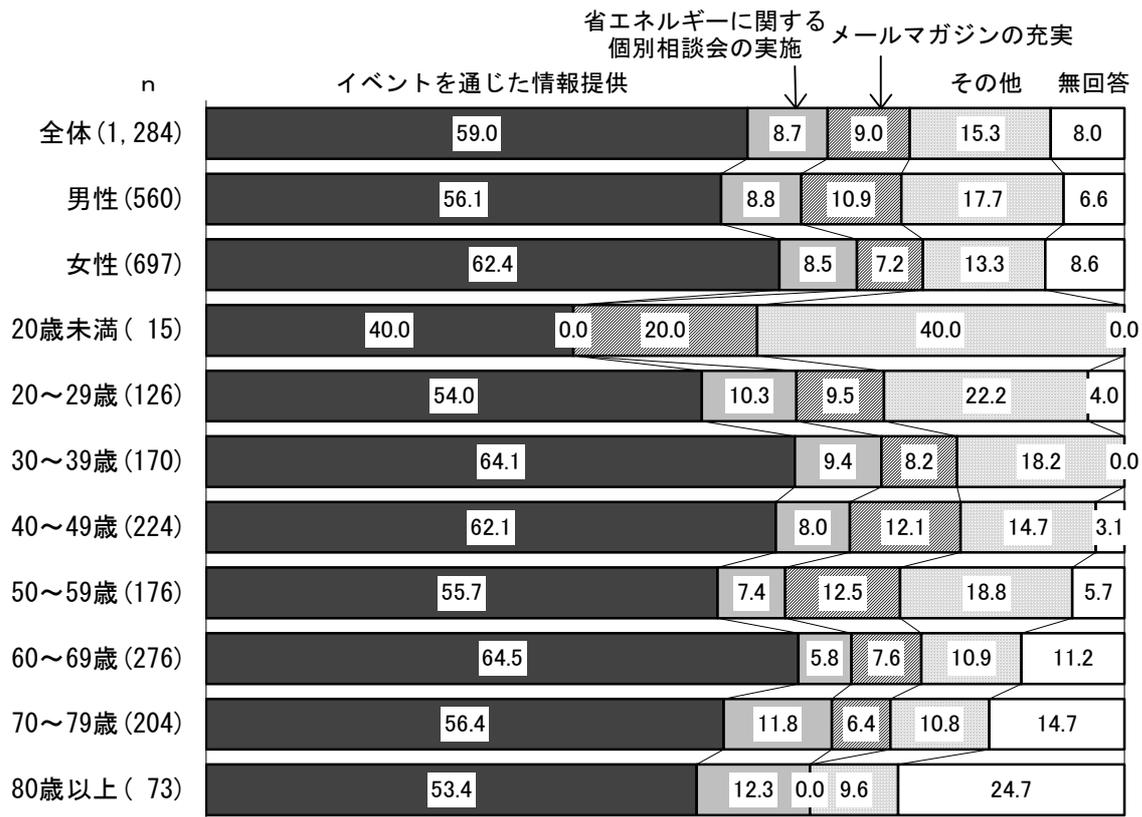
新規設問のため、経年変化は掲載していない。

【属性別】

性別で見ると、女性では「イベント通じた情報提供」（62.4%）が男性よりも 6.3 ポイント高くなっている。

年齢別で見ると、60 歳代（64.5%）、30 歳代（64.1%）、で「イベント通じた情報提供」が全体より高くなっている。

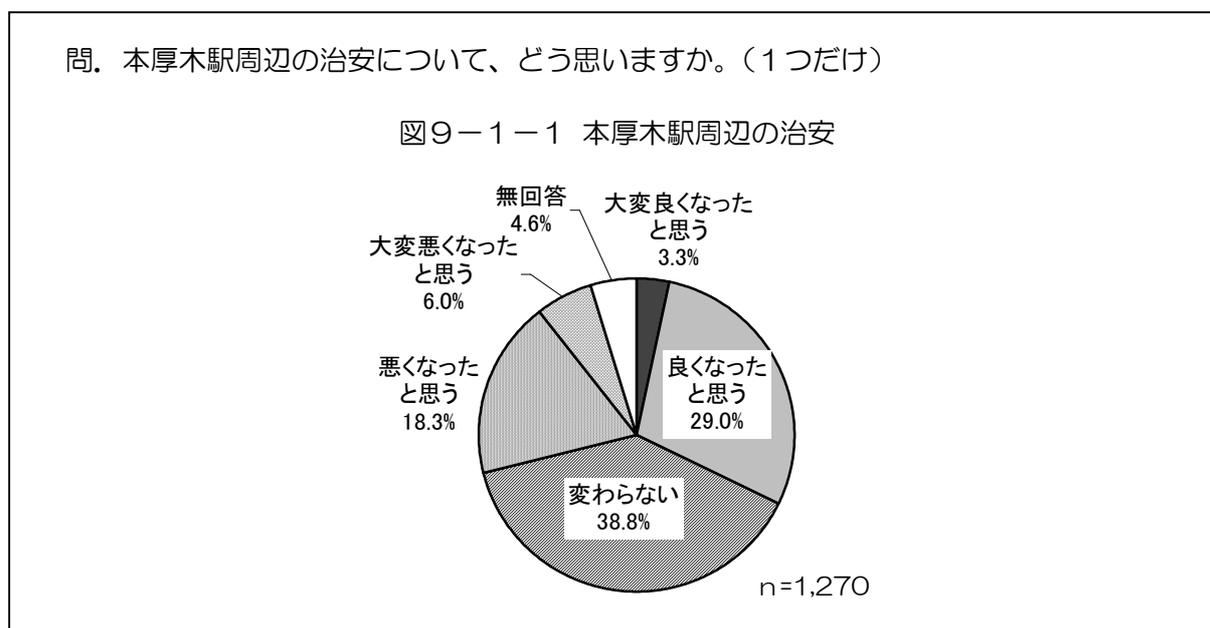
図8-4-2 環境問題啓発事業への参加—性別、年齢別



単位：%

9 交通・安全・防災

(1) 本厚木駅周辺の治安 (A: 問 16)



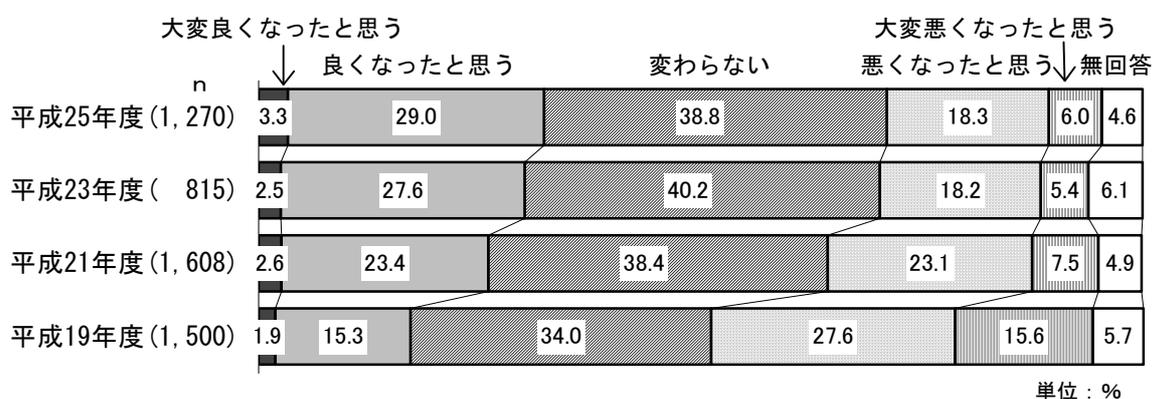
【全体】

本厚木駅周辺の治安について聞いたところ、「大変良くなったと思う」(3.3%)と「良くなったと思う」(29.0%)を合わせた『改善派』(32.3%)が全体の3割程度となっている。一方、「悪くなったと思う」(18.3%)と「大変悪くなったと思う」(6.0%)を合わせた『悪化派』(24.3%)は、2割程度となっている。

【経年変化】

経年による変化を見ると、引き続き『良くなったと思う』との回答が増加するなど『改善派』が増加傾向にあり、平成19年度調査に比べ、今回の調査結果では、15ポイント以上増加している。

図9-1-2 本厚木駅周辺の治安—経年変化

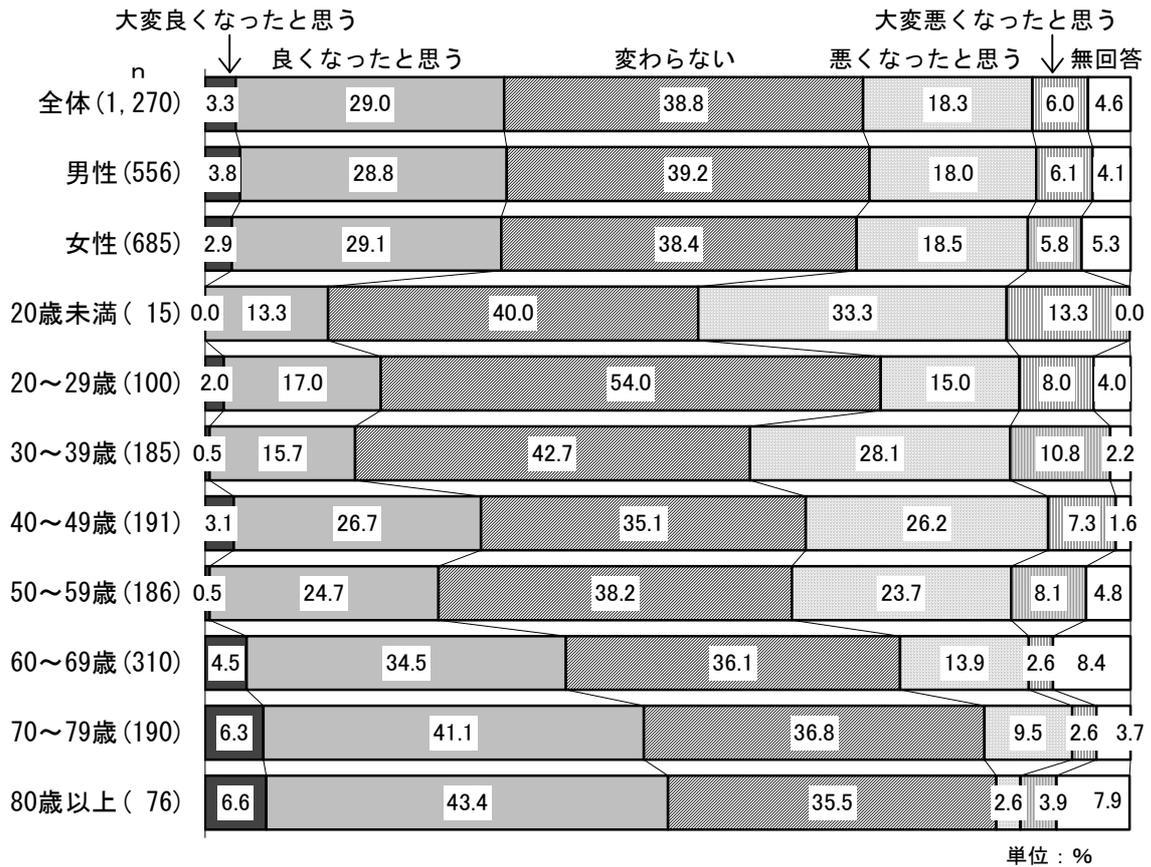


【属性別】

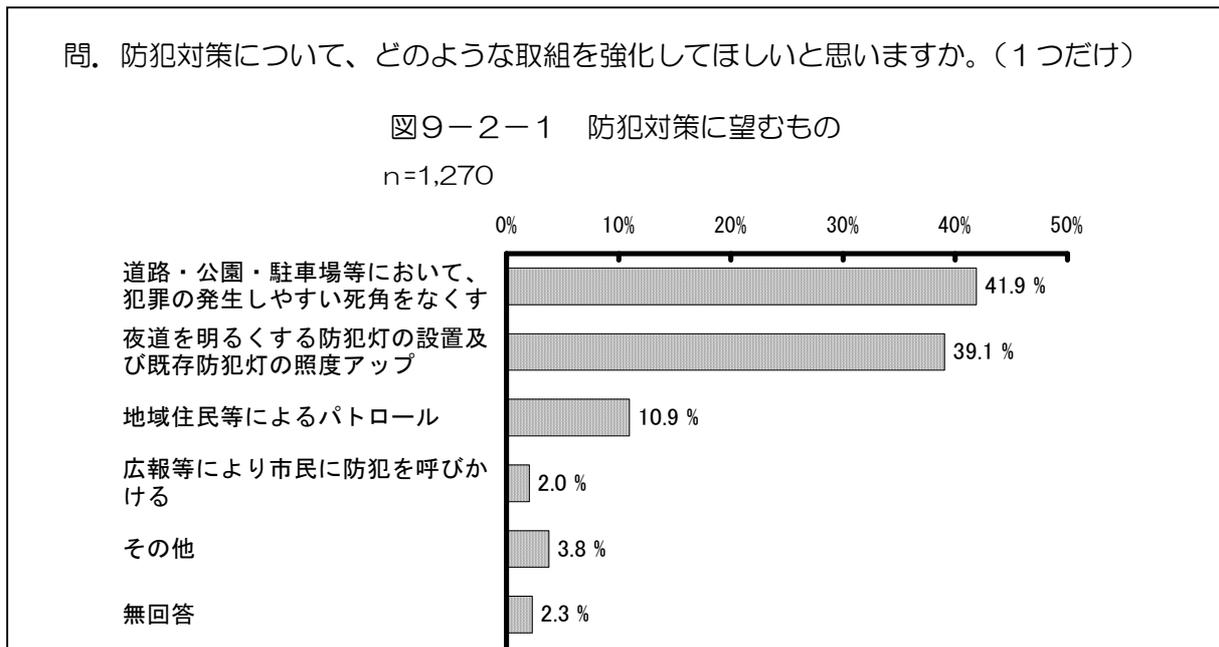
性別で見ると、男女ともほぼ同じ傾向になっている。

年齢別で見ると、60歳以上では『改善派』が3割を超え、全体と比べて高い結果となり、59歳以下では、『悪化派』が2割を超え、全体と比べて高い結果となっている。

図9-1-3 本厚木駅周辺の治安—性別、年齢別



(2) 防犯対策に望むもの (A: 問 17)



【全体】

防犯対策に望むものについて聞いたところ、「道路・公園・駐車場等において、犯罪の発生しやすい死角をなくす」(41.9%)が4割を超えて最も高くなっている。次いで、「夜道を明るくする防犯灯の設置及び既存防犯灯の照度アップ」(39.1%)、「地域住民等によるパトロール」(10.9%)となっている。

【経年変化】

経年変化は参考に記載するものとする。

表9-2-1 防犯対策に望むもの

	平成 25 年度 (n=1, 270)	平成 23 年度 (n= 815)	平成 21 年度 (n=1, 608)	平成 19 年度 (n=1, 500)
道路・公園・駐車場等において、犯罪の発生しやすい死角をなくす	41.9	70.7	72.7	67.1
夜道を明るくする防犯灯の設置及び既存防犯灯の照度アップ	39.1	60.0	76.2	77.3
地域住民によるパトロール隊の組織化	10.9	38.7	39.6	40.3
広報等により市民に防犯を呼びかける	2.0	15.7	21.0	22.3
その他	3.8	6.1	5.8	9.1
無回答	2.3	2.2	2.2	2.5

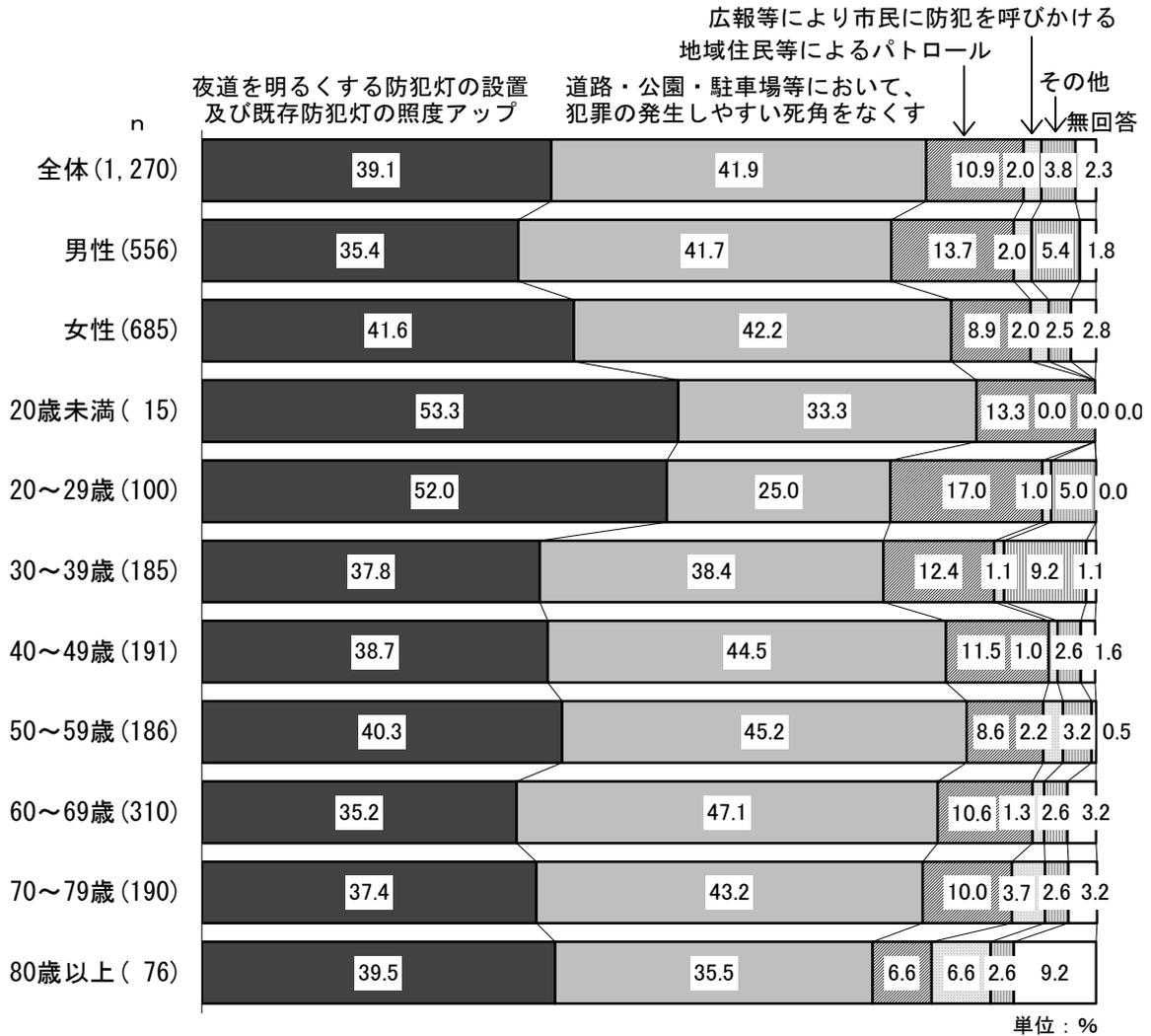
(注) 過去の調査では複数回答で聞いたが、今回調査は単数回答となっている。

【属性別】

性別で見ると、女性では「夜道を明るくする防犯灯の設置及び既存防犯灯の照度アップ」(41.6%)で男性よりも6.2ポイント高くなっている。

年齢別で見ると、特に29歳以下では「夜道を明るくする防犯灯の設置及び既存防犯灯の照度アップ」が半数を超えて高くなっている。

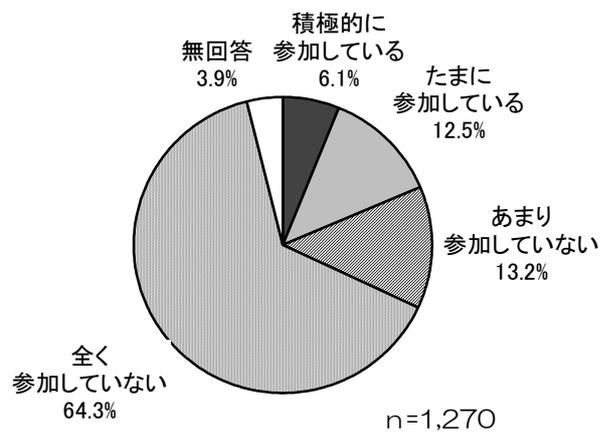
図9-2-2 防犯対策に望むもの一性別、年齢別



(3) 地域の防犯活動（A：問 19）

問. 安心・安全なまちづくりの一環として、地域で実施している「防犯パトロール」や「児童・生徒の登下校時の見守り活動（愛の目運動）」などの活動に参加していますか。（1つだけ）

図9-3-1 地域の防犯活動



【全体】

地域の防犯活動への参加について聞いたところ、「積極的に参加している」（6.1%）、「たまに参加している」（12.5%）、「あまり参加していない」（13.2%）を合わせた『参加』（31.8%）は、全体の約3割となっている。

一方、「全く参加していない」（64.3%）という『不参加』は、全体の6割を超えている。

【経年変化】

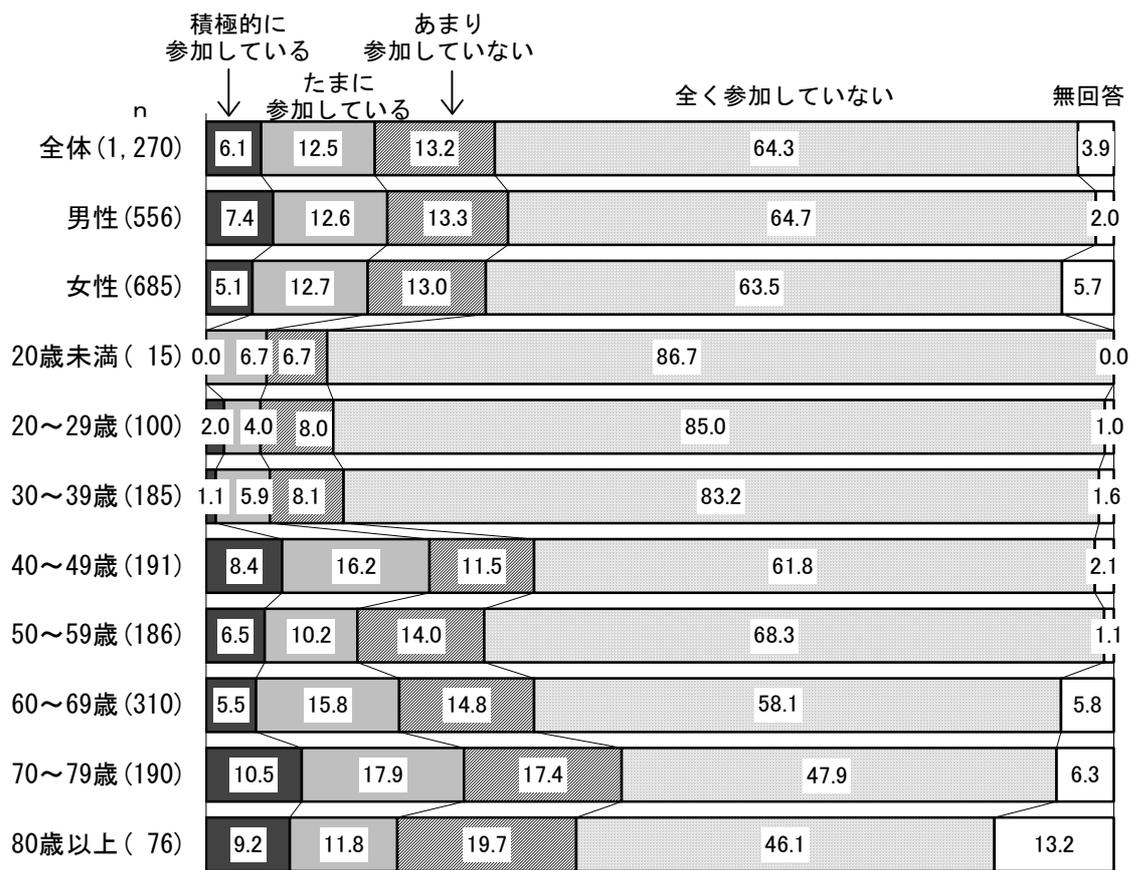
新規設問のため、経年変化は掲載していない。

【属性別】

性別で見ると、男女ともほぼ同じ傾向になっている。

年齢別で見ると、「積極的に参加している」、「たまに参加している」「あまり参加していない」を合わせた『参加』との回答が、39歳以下では、いずれも2割以下と低くなっているのに対し、40歳以上では、3割以上と高くなっている。

図9-3-2 地域の防犯活動—性別、年齢別

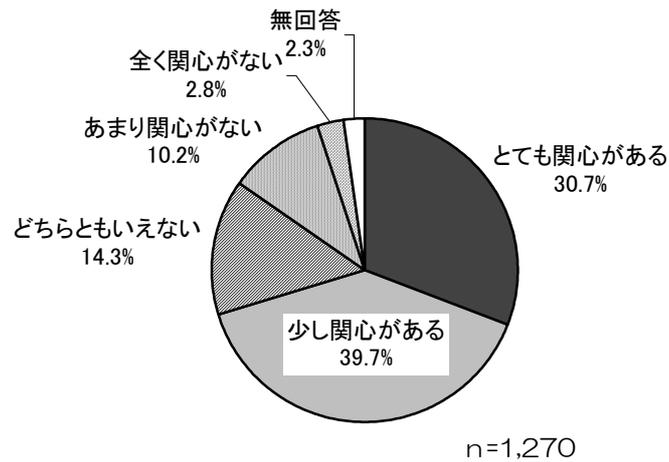


単位：%

(4) セーフコミュニティの考え方 (A：問 18)

問. 厚木市は、平成 22 年 11 月 19 日にWHO（世界保健機関）が推進しているセーフコミュニティの認証を取得しました。今後も、市民と行政が協働して交通安全や防犯、けがの予防など、安心・安全なまちづくりを推進するという考え方に関心がありますか。（1つだけ）

図9-4-1 セーフコミュニティの考え方



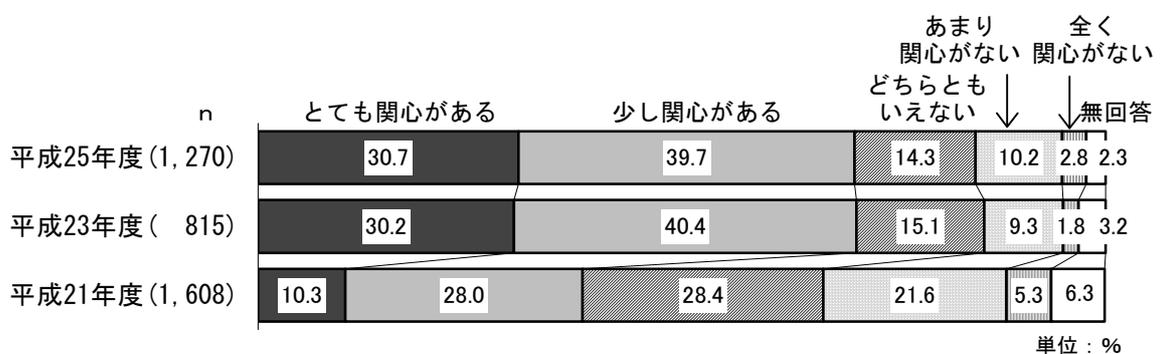
【全体】

セーフコミュニティの考え方について聞いたところ、「とても関心がある」(30.7%)と「少し関心がある」(39.7%)を合わせた『関心がある』(70.4%)が約7割となっている。一方、「あまり関心がない」(10.2%)と「全く関心がない」(2.8%)を合わせた『関心がない』(13.0%)は1割程度となっている。

【経年変化】

前回調査との比較では、大きな変化は見られない。

図9-4-2 セーフコミュニティの考え方—経年変化

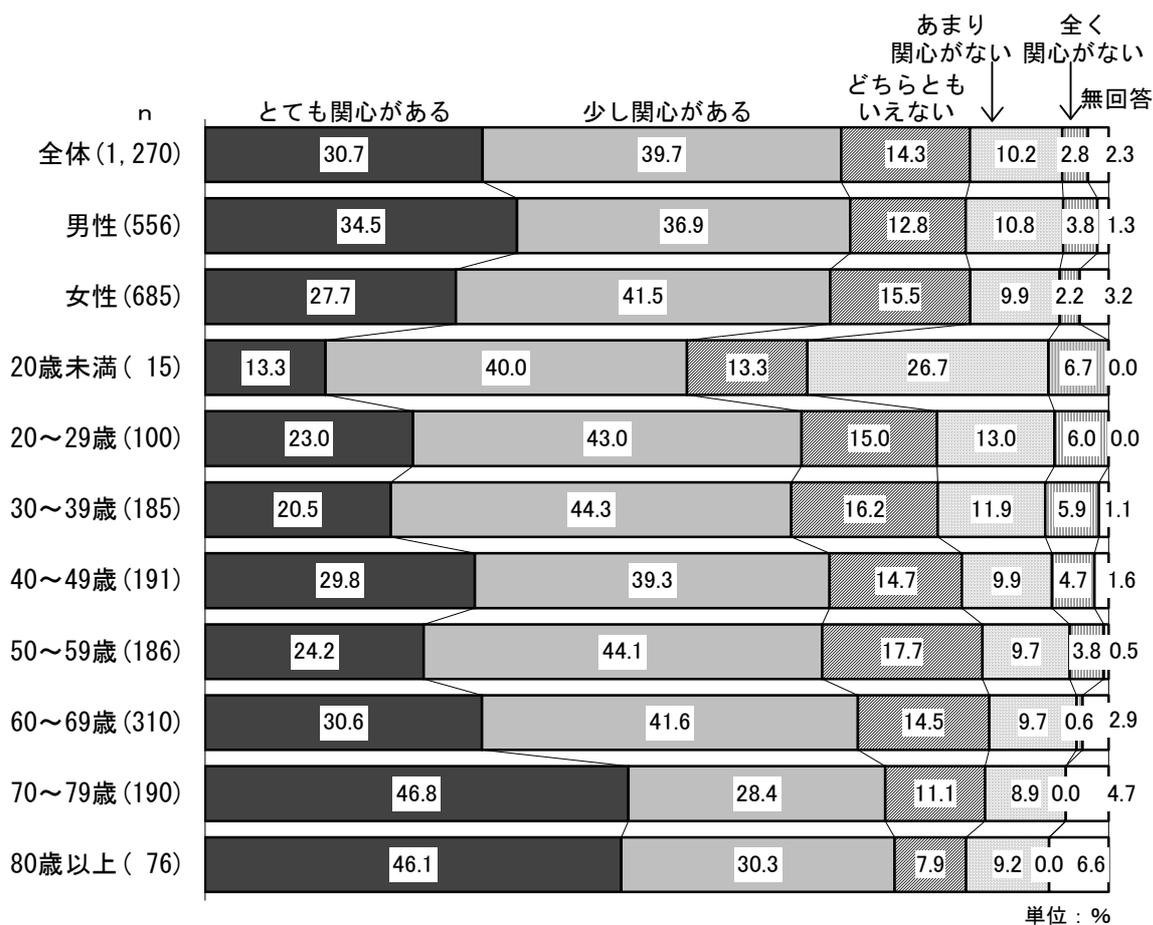


【属性別】

性別で見ると、「とても関心がある」については、男性が34.5%で女性より6.8ポイント高いが、『関心がある』を合わせて見ると、大きな差は見られない。

年齢別で見ると、70歳代以上で「とても関心がある」との回答が、4割を超えて高くなっている。

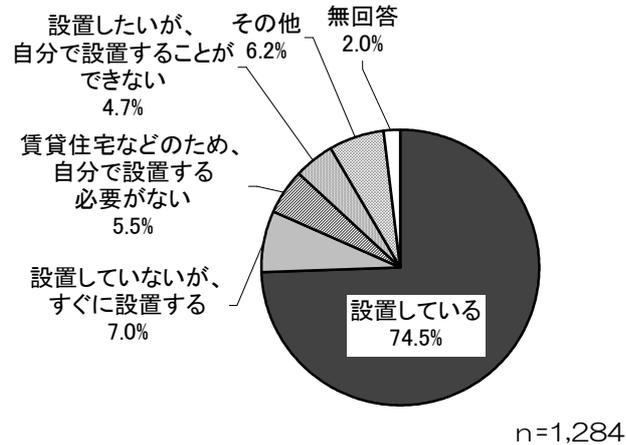
図9-4-3 セーフコミュニティの考え方—性別、年齢別



(5) 住宅用火災警報器の設置 (B: 問 10)

問. 全ての住宅へ住宅用火災警報器の設置が義務付けられています。あなたの家には、住宅用火災警報器が寝室、階段に設置されていますか。(1つだけ)

図9-5-1 住宅用火災警報器の設置



【全体】

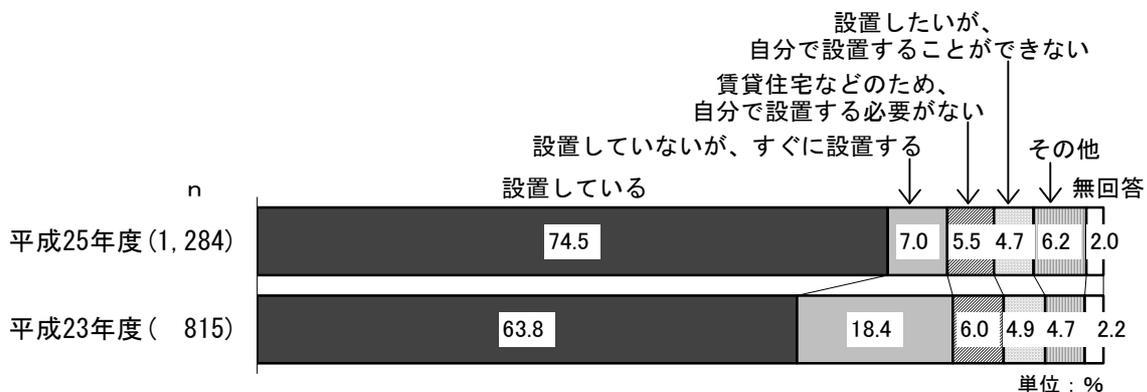
住宅用火災警報器の設置について聞いたところ、「設置している」(74.5%)が7割を超え最も高くなっている。

「設置していないが、すぐに設置する」(7.0%)、「賃貸住宅などのため、自分で設置する必要がない」(5.5%)、「設置したいが、自分で設置することができない」(4.7%)はそれぞれ1割未満となっている。

【経年変化】

前回調査との比較では「設置している」との回答が、10.7ポイント増加している。

図9-5-2 住宅用火災警報器の設置—経年変化

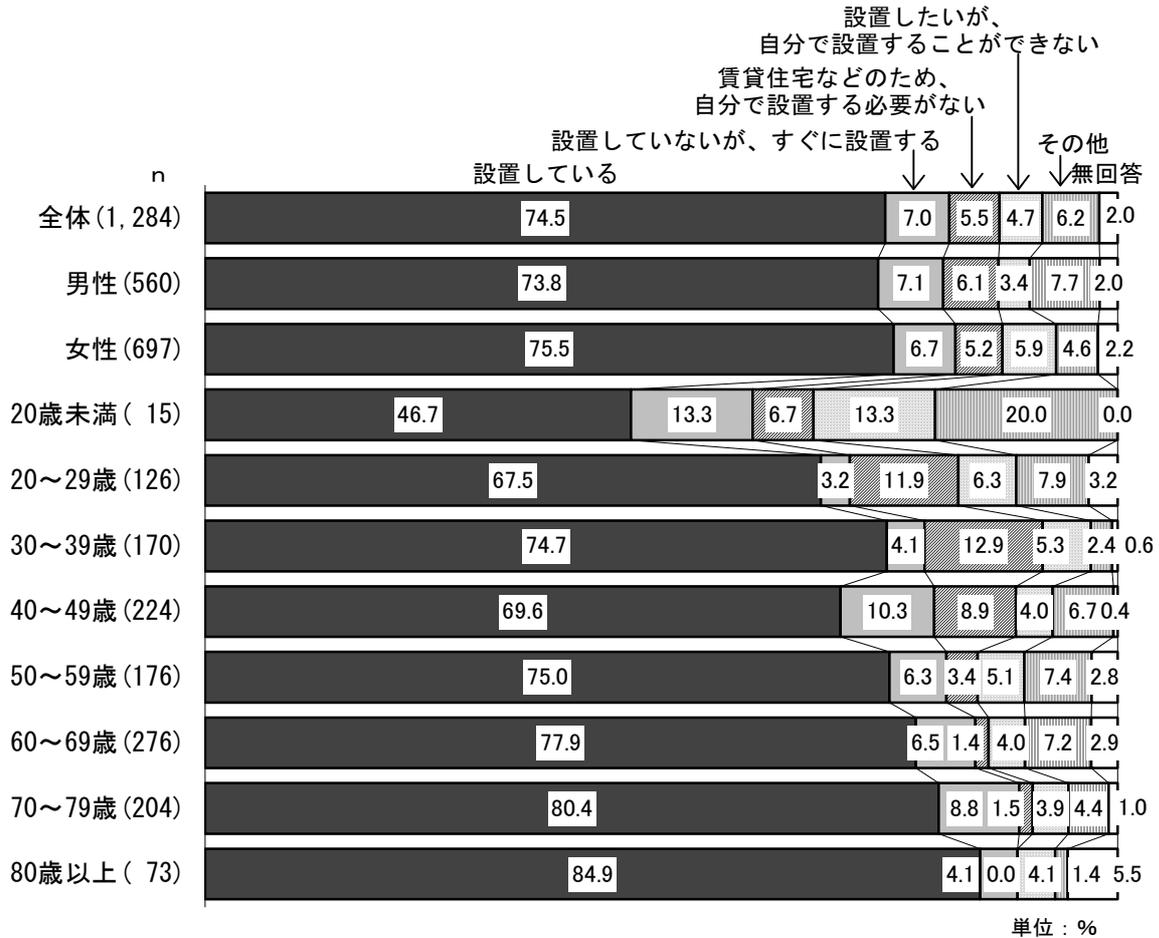


【属性別】

性別で見ると、男女ともほぼ同じ傾向になっている。

年齢別で見ると、おおむね、年齢が上がるにつれて「設置している」との回答が増える傾向にある。また、20～39歳では「賃貸住宅などのため、自宅で設置する必要がない」との回答が1割台と高くなっている。

図9-5-3 住宅用火災警報器の設置—性別、年齢別

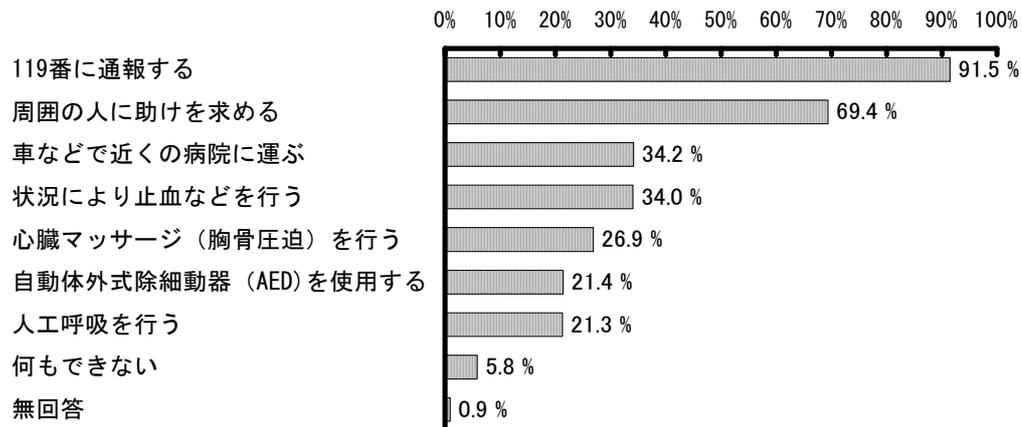


(6) 実行可能な応急手当 (B: 問 11)

問. 救急車が到着するまでの間の応急手当では、傷病者の生存率を高めるためにとっても重要であり、そのための知識も必要とされています。あなたは、次の応急手当のうち、いざという時に実行できるものはどれですか。(該当するものを全て)

図9-6-1 実行可能な応急手当

n=1,284



【全体】

実行できる応急手当について聞いたところ、「119番に通報する」(91.5%)が最も高く、次いで「周囲の人に助けを求める」(69.4%)の2項目が全体の半数を超えている。その他では「車などで近くの病院に運ぶ」(34.2%)、「状況により止血などを行う」(34.0%)などが続いている。

【経年変化】

新規設問のため、経年変化は掲載していない。

【属性別】

性別で見ると、女性では「周囲の人に助けを求める」（73.9％）は、男性よりも 10.5 ポイント高くなっている。男性では「車などで近くの病院に運ぶ」（39.1％）で 8.5 ポイント、「人工呼吸を行う」（25.5％）で 8.0 ポイント、「心臓マッサージ（胸骨圧迫）を行う」（30.7％）で 7.2 ポイントそれぞれ女性より高くなっている。

年齢別で見ると、「周囲の人に助けを求める」との回答は、おおよそ年齢が低くなるにつれて高くなる傾向にあり、また、20～49 歳では「心臓マッサージ（胸骨圧迫）を行う」、「状況により止血などを行う」、「自動体外式除細動器（AED）を使用する」の 3 項目で高い傾向にある。30～59 歳では「車などで近くの病院に運ぶ」との回答が、4 割を超えて高くなっている。

表9-6-1 実行可能な応急手当—性別、年齢別

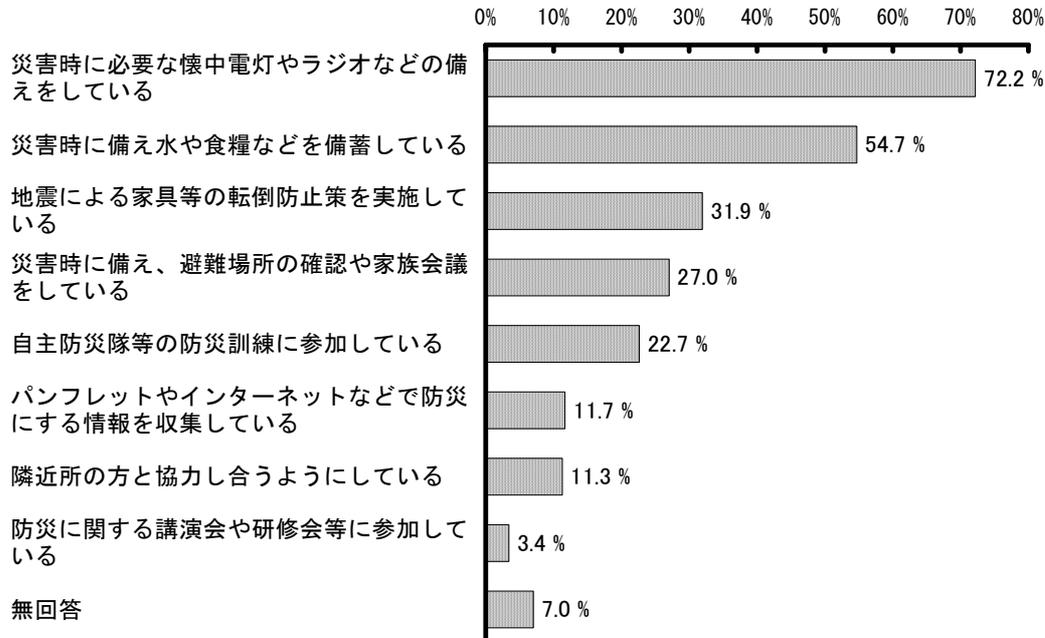
(単位：％)	何もできない	119番に通報する	周囲の人に助けを求める	状況により止血などを行う	人工呼吸を行う	心臓マッサージ（胸骨圧迫）を行う	自動体外式除細動器（AED）を使用する	車などで近くの病院に運ぶ	無回答
全体 (n=1,284)	5.8	91.5	69.4	34.0	21.3	26.9	21.4	34.2	0.9
男性 (n=560)	5.7	91.1	63.4	35.7	25.5	30.7	22.3	39.1	1.3
女性 (n=697)	5.9	92.3	73.9	33.0	17.5	23.5	20.7	30.6	0.7
20歳未満 (n=15)	13.3	93.3	93.3	20.0	20.0	20.0	40.0	0.0	0.0
20～29歳 (n=126)	1.6	96.0	83.3	40.5	27.8	36.5	38.1	31.7	1.6
30～39歳 (n=170)	2.9	96.5	83.5	38.2	27.1	35.3	30.0	42.4	0.0
40～49歳 (n=224)	3.1	94.2	79.5	43.3	28.1	32.6	29.5	46.4	0.4
50～59歳 (n=176)	6.3	89.8	62.5	32.4	22.7	27.8	23.3	44.9	0.6
60～69歳 (n=276)	5.8	88.8	67.0	35.1	17.0	23.9	12.7	28.3	1.1
70～79歳 (n=204)	10.3	90.7	52.5	24.5	11.8	15.7	9.8	23.5	1.0
80歳以上 (n=73)	15.1	80.8	43.8	12.3	11.0	11.0	1.4	13.7	2.7

(7) 家庭で行っている災害対策 (B: 問 12)

問. 大規模地震災害等に備え、家庭で行っている対策はどのようなものですか。(該当するものを全て)

図9-7-1 家庭で行っている災害対策

n=1,284



【全体】

家庭で行っている災害対策について聞いたところ、「災害時に必要な懐中電灯やラジオなどの備えをしている」(72.2%)との回答が最も高く、次いで「災害時に備え水や食料などを備蓄している」(54.7%)と、災害用品の備えについての回答が上位を占めた。

次いで、「地震による家具等の転倒防止策を実施している」(31.9%)、「災害時に備え、避難場所の確認や家族会議をしている」(27.0%)となっている。

【経年変化】

新規設問のため、経年変化は掲載していない。

【属性別】

性別で見ると、女性では「災害時に備え、避難場所の確認や家族会議をしている」(31.6%)で男性よりも9.8ポイント高く、次いで「地震による家具等の転倒防止策を実施している」(34.7%)、「災害時に必要な懐中電灯やラジオなどの備えをしている」(74.6%)、「災害時に備え水や食糧などを備蓄している」(57.1%)で、それぞれ男性よりも高くなっている。

男性は「自主防災隊等の防災訓練に参加している」(27.0%)が、女性より7.5ポイント高くなっている。

年齢別で見ると、「自主防災隊等の防災訓練に参加している」との回答は、70歳代で4割と最も高くなっている。

20歳代は、「災害時に備え水や食糧などを備蓄している」(44.4%)、「災害時に必要な懐中電灯やラジオなどの備えをしている」(51.6%)といった回答が、ほかの年齢層に比べて低い結果となっている。

表9-7-1 家庭で行っている災害対策—性別、年齢別

(単位：%)	自主防災隊等の 防災訓練に参加している	災害時に備え 水や食糧などを備蓄している	災害時に必要な 懐中電灯やラジオなどの 備えをしている	防災に関する講演会や 研修会等に参加している	地震による家具等の 転倒防止策を実施している	避難場所の確認や 家族会議をしている	災害時に備え、 避難場所の確認や 家族会議をしている	隣近所の方と 協力し合うようにしている	防災に関する情報を収集している インターネットなどで	パンフレットや	無回答
全体 (n=1,284)	22.7	54.7	72.2	3.4	31.9	27.0	11.3	11.7	7.0		
男性 (n=560)	27.0	52.1	68.9	4.8	28.9	21.8	11.4	13.4	7.9		
女性 (n=697)	19.5	57.1	74.6	2.4	34.7	31.6	11.2	10.6	6.5		
20歳未満 (n=15)	13.3	53.3	73.3	0.0	33.3	26.7	6.7	0.0	13.3		
20～29歳 (n=126)	11.1	44.4	51.6	4.0	31.7	31.0	7.1	11.9	17.5		
30～39歳 (n=170)	8.2	51.2	68.2	0.6	34.1	25.9	5.3	11.8	9.4		
40～49歳 (n=224)	15.6	62.9	73.2	3.1	29.9	30.8	6.7	14.3	5.4		
50～59歳 (n=176)	15.9	54.5	75.6	3.4	30.1	27.8	10.8	12.5	4.5		
60～69歳 (n=276)	34.1	59.4	78.3	4.0	34.4	26.4	12.7	10.1	4.0		
70～79歳 (n=204)	40.2	53.4	77.0	5.9	30.9	24.0	17.2	13.7	4.4		
80歳以上 (n=73)	27.4	45.2	68.5	2.7	34.2	20.5	26.0	5.5	11.0		

居住地区別の結果

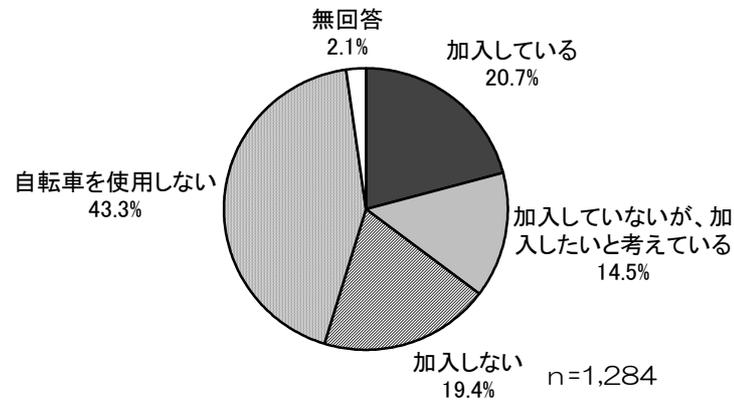
表9-7-2 家庭で行っている災害対策—居住地区別

(単位：%)	自主防災隊等の 防災訓練に参加している	災害時に備え 水や食糧などを備蓄している	災害時に必要な 懐中電灯やラジオなどの 備えをしている	防災に関する講演会や 研修会等に参加している	地震による家具等の 転倒防止策を実施している	災害時に備え、 避難場所の確認や 家族会議をしている	隣近所の方と 協力し合うようにしている	パンフレットや インターネットなどで 防災に関する情報を収集している	無回答
全体 (n=1,284)	22.7	54.7	72.2	3.4	31.9	27.0	11.3	11.7	7.0
厚木北 (n=156)	13.5	59.0	72.4	3.8	37.2	28.8	9.0	10.3	7.1
厚木南 (n= 80)	13.8	50.0	73.8	5.0	36.3	22.5	15.0	10.0	8.8
依知北 (n= 93)	24.7	47.3	63.4	1.1	21.5	31.2	14.0	11.8	8.6
依知南 (n= 54)	35.2	61.1	85.2	1.9	25.9	35.2	24.1	13.0	1.9
睦合北 (n= 47)	12.8	51.1	72.3	2.1	25.5	21.3	10.6	10.6	8.5
睦合南 (n= 98)	22.4	54.1	69.4	4.1	31.6	24.5	11.2	10.2	7.1
睦合西 (n= 57)	24.6	59.6	73.7	7.0	33.3	28.1	7.0	15.8	7.0
荻野 (n=178)	29.2	54.5	73.0	2.2	33.1	24.7	12.9	13.5	7.9
小鮎 (n= 75)	29.3	60.0	80.0	5.3	33.3	26.7	13.3	10.7	6.7
南毛利 (n=198)	18.7	54.0	70.7	4.5	34.8	29.3	8.1	12.1	6.1
南毛利南(n=58)	19.0	62.1	74.1	1.7	25.9	22.4	6.9	20.7	6.9
玉川 (n= 23)	60.9	56.5	78.3	13.0	39.1	30.4	13.0	13.0	0.0
相川 (n= 66)	19.7	47.0	65.2	0.0	30.3	30.3	9.1	6.1	13.6
緑ヶ丘 (n= 33)	27.3	54.5	60.6	0.0	30.3	33.3	12.1	3.0	9.1
森の里 (n= 46)	26.1	54.3	73.9	4.3	34.8	15.2	8.7	13.0	2.2

(8) 自転車保険への加入 (B: 問 13)

問. 自転車事故を対象にした保険等に加入していますか。(1つだけ)

図9-8-1 自転車保険への加入



【全体】

自転車保険への加入について聞いたところ、「自転車を使用しない」(43.3%)との回答が最も高くなっている。次いで、「加入している」(20.7%)、「加入しない」(19.4%)、「加入していないが、加入したいと考えている」(14.5%)となっている。

【経年変化】

新規設問のため、経年変化は掲載していない。

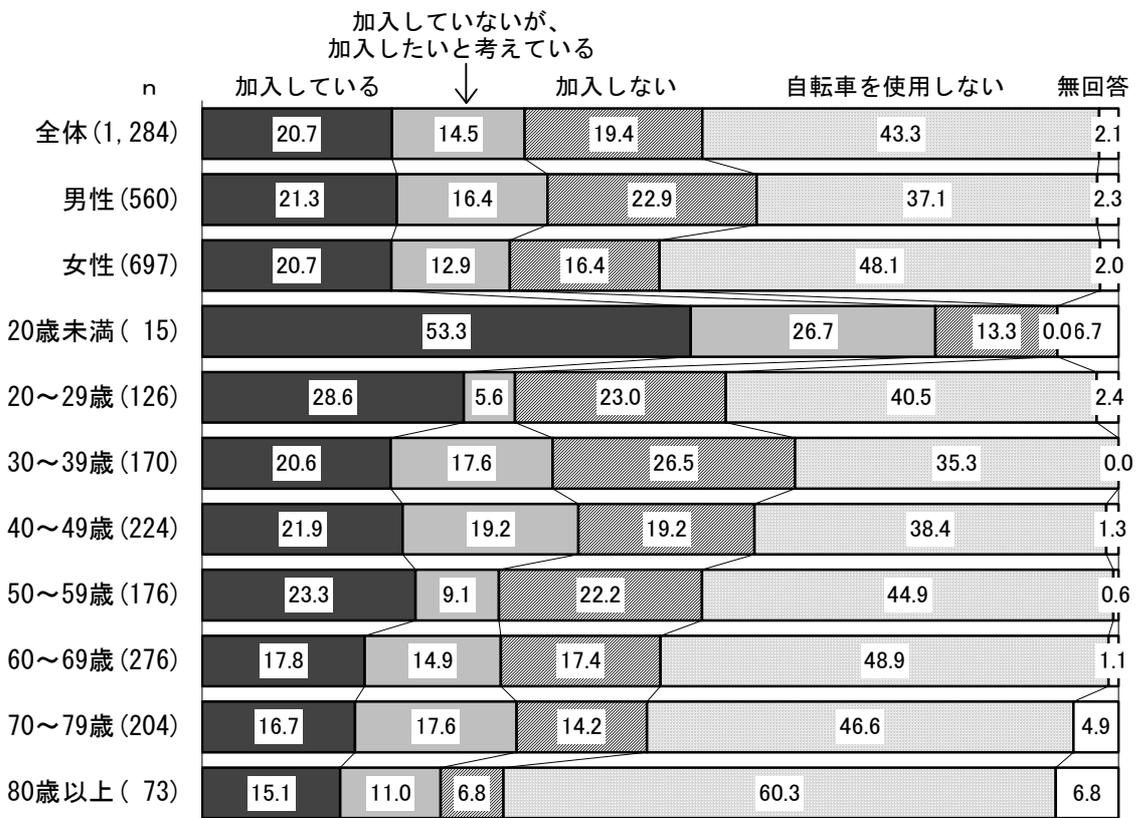
【属性別】

性別で見ると、女性では「自転車を使用しない」（48.1%）が、男性よりも 11.0 ポイント高いのに対し、男性では「加入しない」（22.9%）が、6.5 ポイント女性よりも高くなっている。

年齢別で見ると、「自転車を使用しない」との回答は、おおむね年代が上がるごとに高くなる傾向にあり、80 歳以上（60.3%）では、6 割を超えている。

「加入している」または「加入していないが、加入したいと考えている」を合わせた『加入に前向きである』は、20～79 歳の広い年齢層で3割以上となっており、40 歳代（41.1%）で最も高くなっている。

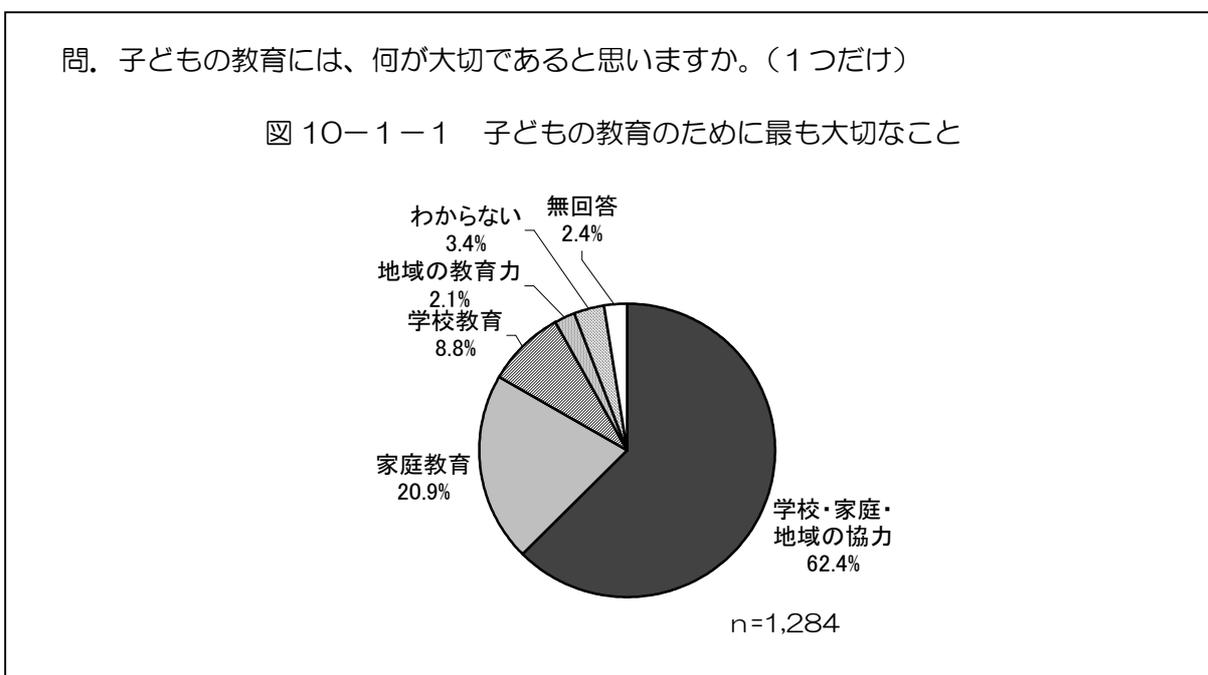
図9-8-2 自転車保険への加入—性別、年齢別



単位：%

10 教育・生涯学習・文化

(1) 子どもの教育のために最も大切なこと (B：問 17)



【全体】

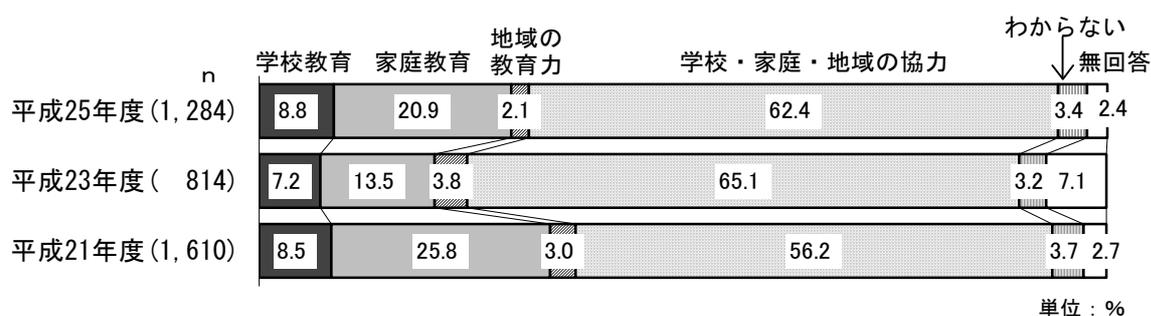
子どもの教育のために最も大切なことについて聞いたところ、「学校・家庭・地域の協力」(62.4%)が6割を超えて最も高くなっている。

次いで、「家庭教育」(20.9%)、「学校教育」(8.8%)、「地域の教育力」(2.1%)となっている。

【経年変化】

経年による変化を見ると、「学校・家庭・地域の協力」は、前回に続き6割を超え、最も高くなっている。

図 10-1-2 子どもの教育のために最も大切なこと—経年変化

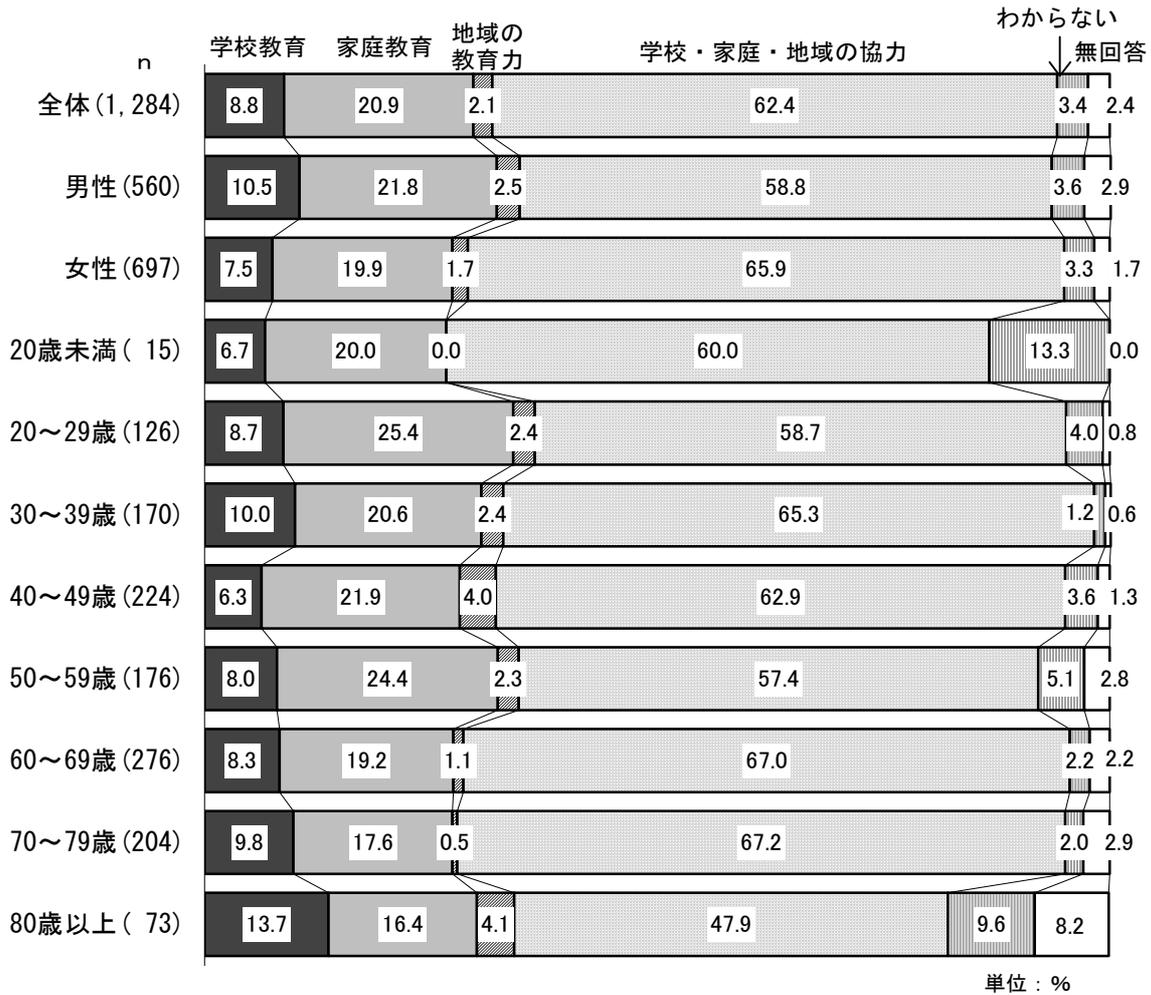


【属性別】

性別で見ると、女性では「学校・家庭・地域の協力」（65.9%）が、男性よりも7.1ポイント高くなっている。

年齢別で見ると、「家庭教育」については、59歳以下で2割を超えているのに対し、60歳以上では約1割となっている。

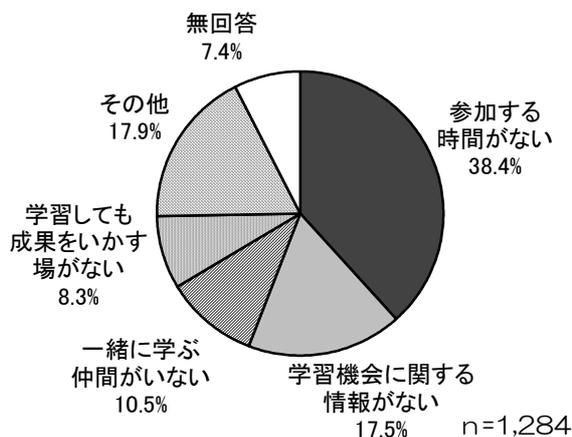
図 10-1-3 子どもの教育のために最も大切なこと—性別、年齢別



(2) 生涯学習活動に参加する上で支障になること (B: 問 18)

問. 講座、教室などの学習活動に参加する際、最も支障になるとと思われる理由は何ですか。(1つだけ)

図 10-2-1 生涯学習活動に参加する上で支障になること



【全体】

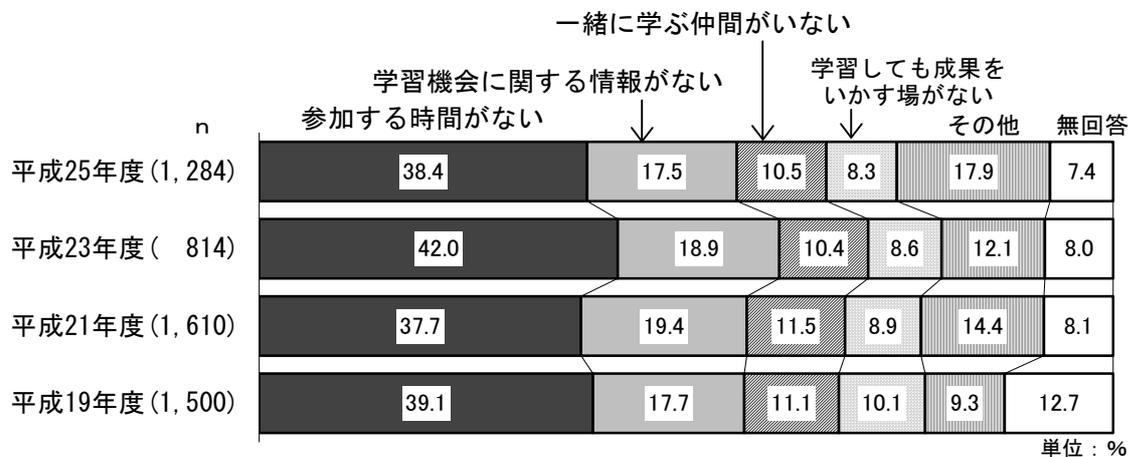
生涯学習活動に参加する上で支障になることについて聞いたところ、「参加する時間がない」(38.4%)が最も高くなっている。

次いで、「学習機会に関する情報がない」(17.5%)、「一緒に学ぶ仲間がない」(10.5%)、「学習しても成果をいかす場がない」(8.3%)となっている。

【経年変化】

経年による大きな変化は見られない。

図 10-2-2 生涯学習活動に参加する上で支障になること—経年変化

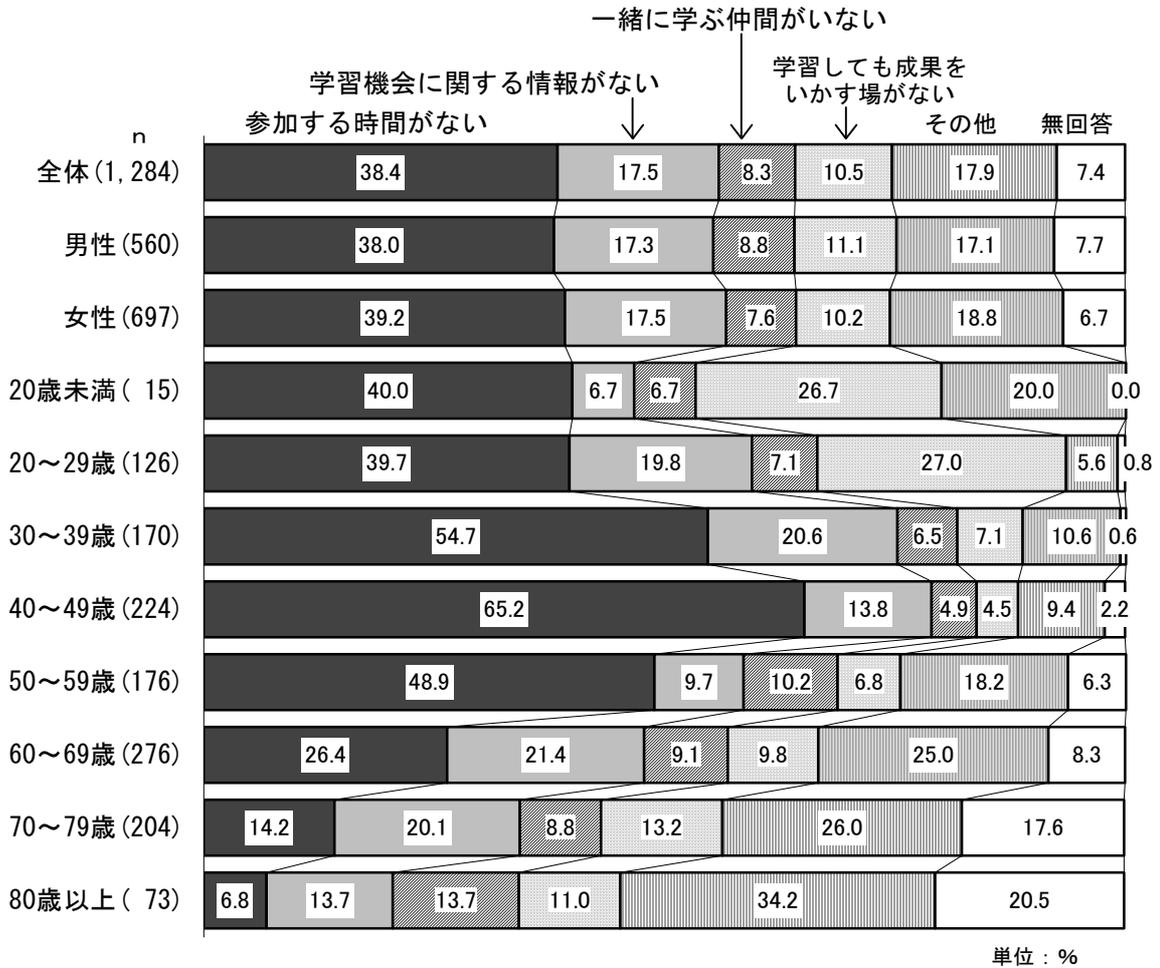


【属性別】

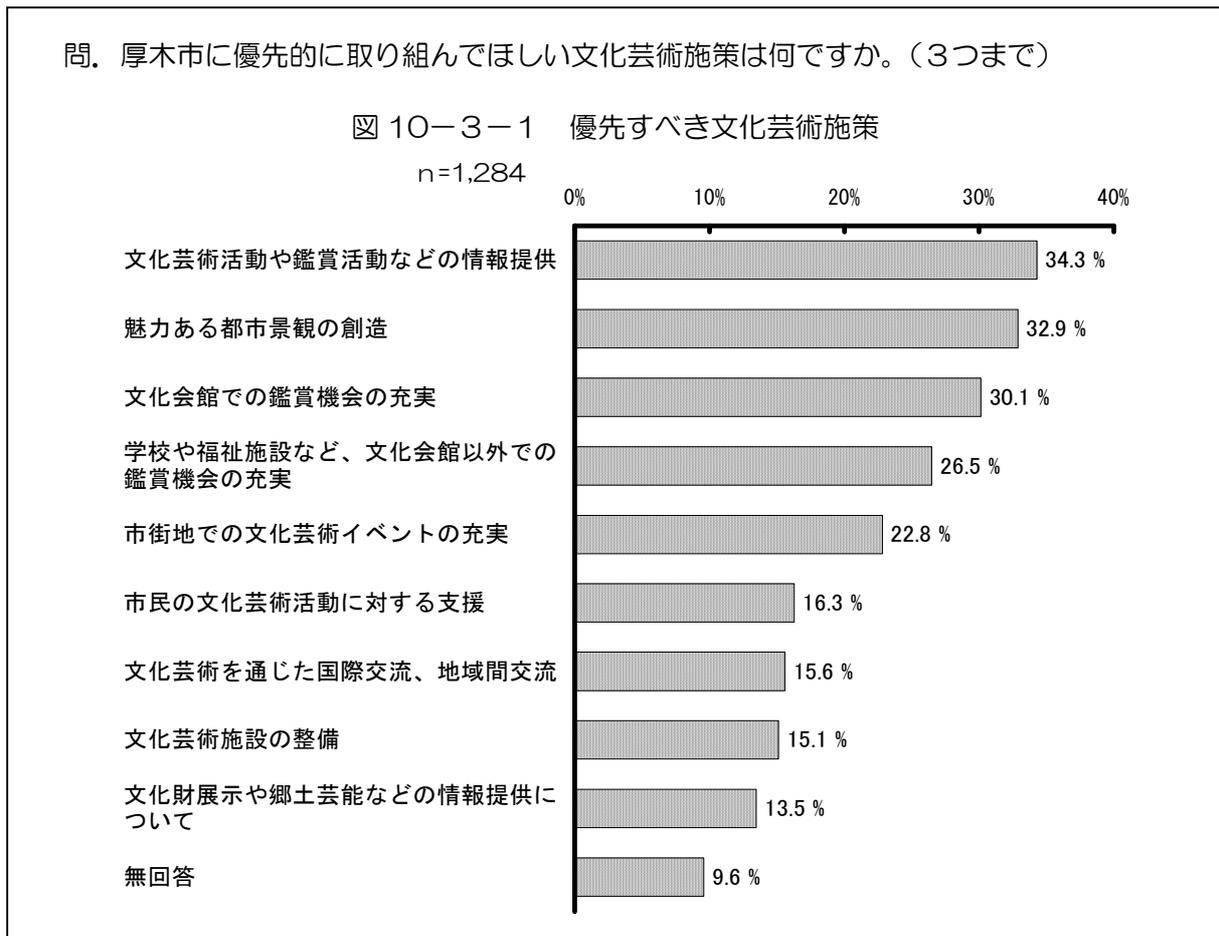
性別で見ると、男女ともほぼ同じ傾向になっている。

年齢別で見ると、40歳代は「参加する時間がない」(65.2%)と最も高くなっている。

図 10-2-3 生涯学習活動に参加する上で支障になること—性別、年齢別



(3) 優先すべき文化芸術施策（B：問 19）



【全体】

優先すべき文化芸術施策について聞いたところ、「文化芸術活動や鑑賞活動などの情報提供」（34.3%）が最も高くなっている。

次いで、「魅力ある都市景観の創造」（32.9%）、「文化会館での鑑賞機会の充実」（30.1%）、「学校や福祉施設など、文化会館以外での鑑賞機会の充実」（26.5%）、「市街地での文化芸術イベントの充実」（22.8%）となっている。

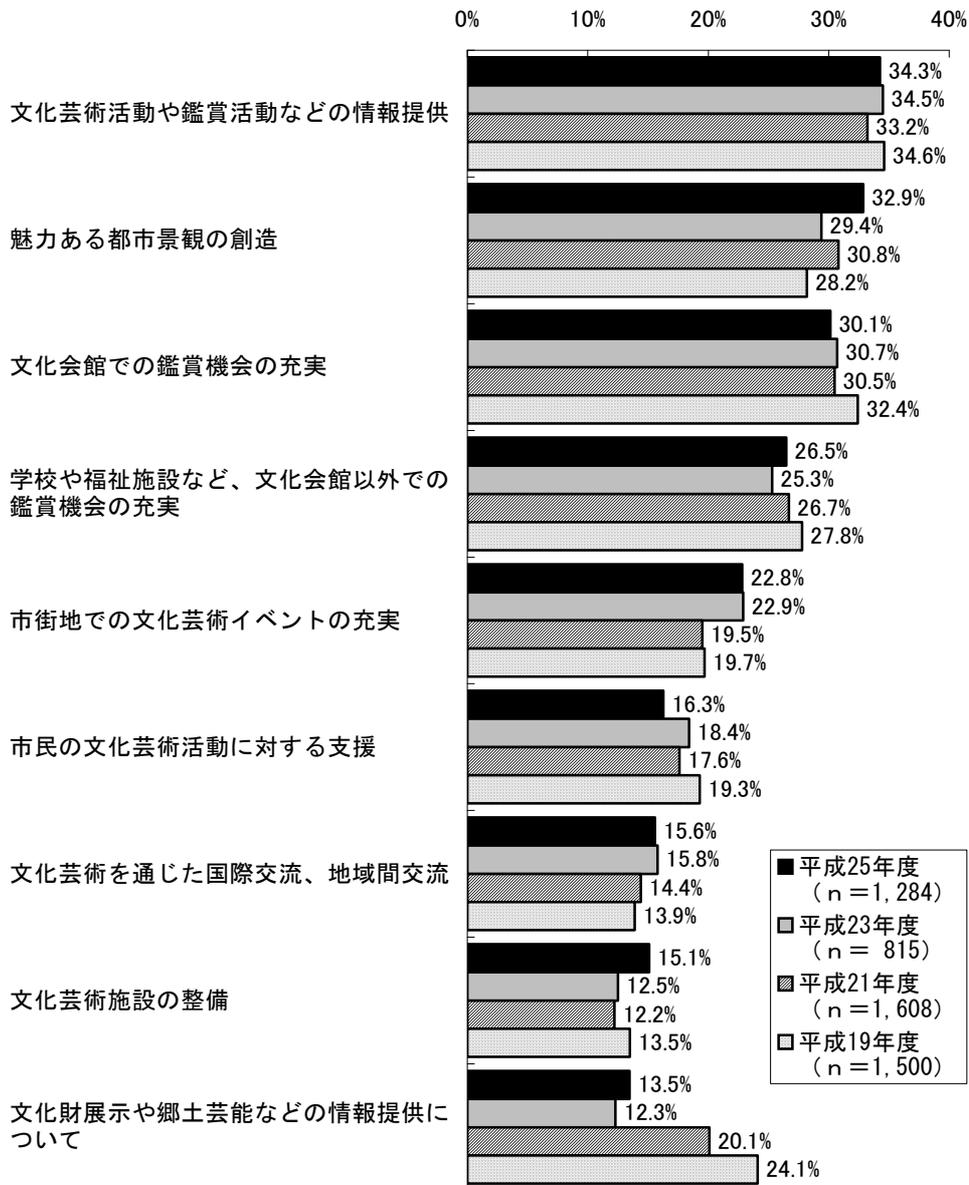
【経年変化】

経年による変化を見ると、「文化芸術活動や鑑賞活動などの情報提供」は、直近4回の調査でいずれも最も高く、3割台の回答となっている。

次いで、「魅力ある都市景観の創造」と「文化会館での鑑賞機会の充実」は3割前後で推移し、「学校や福祉施設など、文化会館以外での鑑賞機会の充実」が2割台で続いている傾向にある。

一方、「文化財展示や郷土芸能などの情報提供について」は、平成19年度調査から減少傾向となっている。

図 10-3-2 優先すべき芸術文化施策—経年変化



【属性別】

性別で見ると、女性では「文化会館での鑑賞機会の充実」(34.0%)が男性よりも8.3ポイント高くなっている。一方、男性では「魅力ある都市景観の創造」(36.4%)が女性よりも6.3ポイント高くなっている。

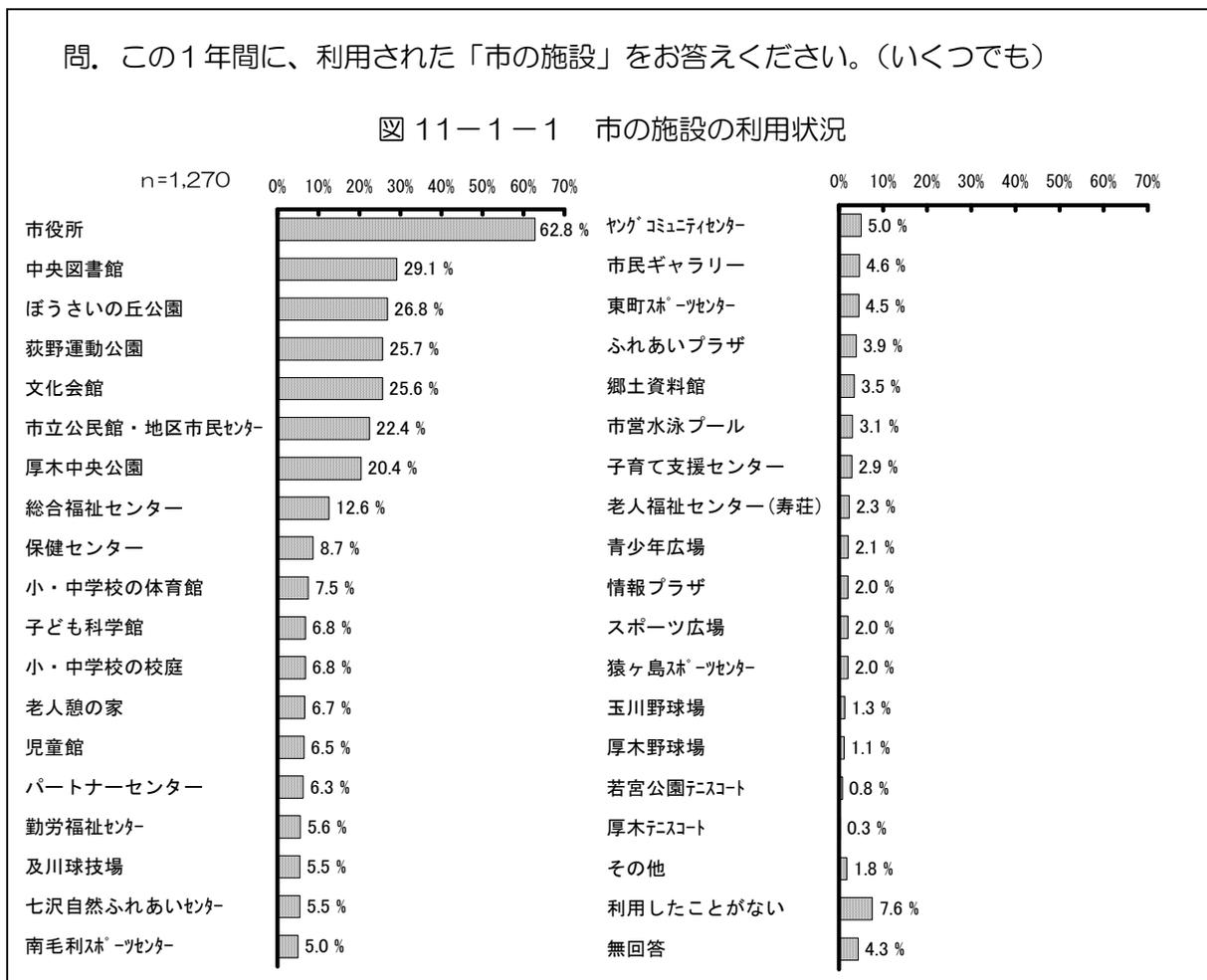
年齢別で見ると、「市街地での文化芸術イベントの充実」との回答が、39歳以下で3割以上と高くなっている。

表 10-3-1 優先すべき芸術文化施策—性別、年齢別

(単位：%)	文化芸術活動や鑑賞活動などの情報提供	市民の文化芸術活動に対する支援	市街地での文化芸術イベントの充実	文化会館での鑑賞機会の充実	学校や福祉施設など、文化会館以外での鑑賞機会の充実	国際交流、地域間交流	文化芸術を通じた文化芸術施設の整備	文化財展示や郷土芸能などの情報提供について	魅力ある都市景観の創造	無回答
全体 (n=1,284)	34.3	16.3	22.8	30.1	26.5	15.6	15.1	13.5	32.9	9.6
男性 (n=560)	33.4	17.3	23.2	25.7	24.1	15.4	15.4	15.4	36.4	9.8
女性 (n=697)	35.2	15.8	22.5	34.0	29.0	15.9	15.2	11.9	30.1	8.6
20歳未満 (n=15)	20.0	0.0	53.3	26.7	20.0	0.0	13.3	0.0	40.0	13.3
20～29歳 (n=126)	31.0	19.0	33.3	23.0	30.2	21.4	19.8	9.5	42.9	0.0
30～39歳 (n=170)	34.1	12.9	30.0	28.8	25.3	16.5	16.5	10.0	39.4	3.5
40～49歳 (n=224)	33.0	18.8	29.9	28.6	29.5	17.4	17.9	11.2	29.9	4.9
50～59歳 (n=176)	36.9	11.4	21.0	26.1	21.0	18.8	13.1	13.1	38.1	9.7
60～69歳 (n=276)	38.4	17.8	15.6	36.6	30.1	14.1	14.1	16.7	28.3	9.8
70～79歳 (n=204)	32.8	18.1	14.2	34.3	24.0	12.7	12.7	17.6	27.9	19.1
80歳以上 (n=73)	32.9	19.2	17.8	26.0	24.7	6.8	15.1	16.4	24.7	20.5

11 市民生活

(1) 市の施設の利用状況 (A: 問 21)



【全体】

最近1年間での市の施設の利用状況を聞いたところ、「市役所」(62.8%)が最も高くなっている。

次いで、「中央図書館」(29.1%)、「ぼうさいの丘公園」(26.8%)、「荻野運動公園」(25.7%)、「文化会館」(25.6%)、「市立公民館・地区市民センター」(22.4%)、「厚木中央公園」(20.4%)が2割を超え高くなっている。

【経年変化】

経年変化は参考に記載するものとする。

平成 19 年度以降は「中央図書館」、「ぼうさいの丘公園」、「荻野運動公園」、「文化会館」の 4 項目は、どの調査においても上位となっている。

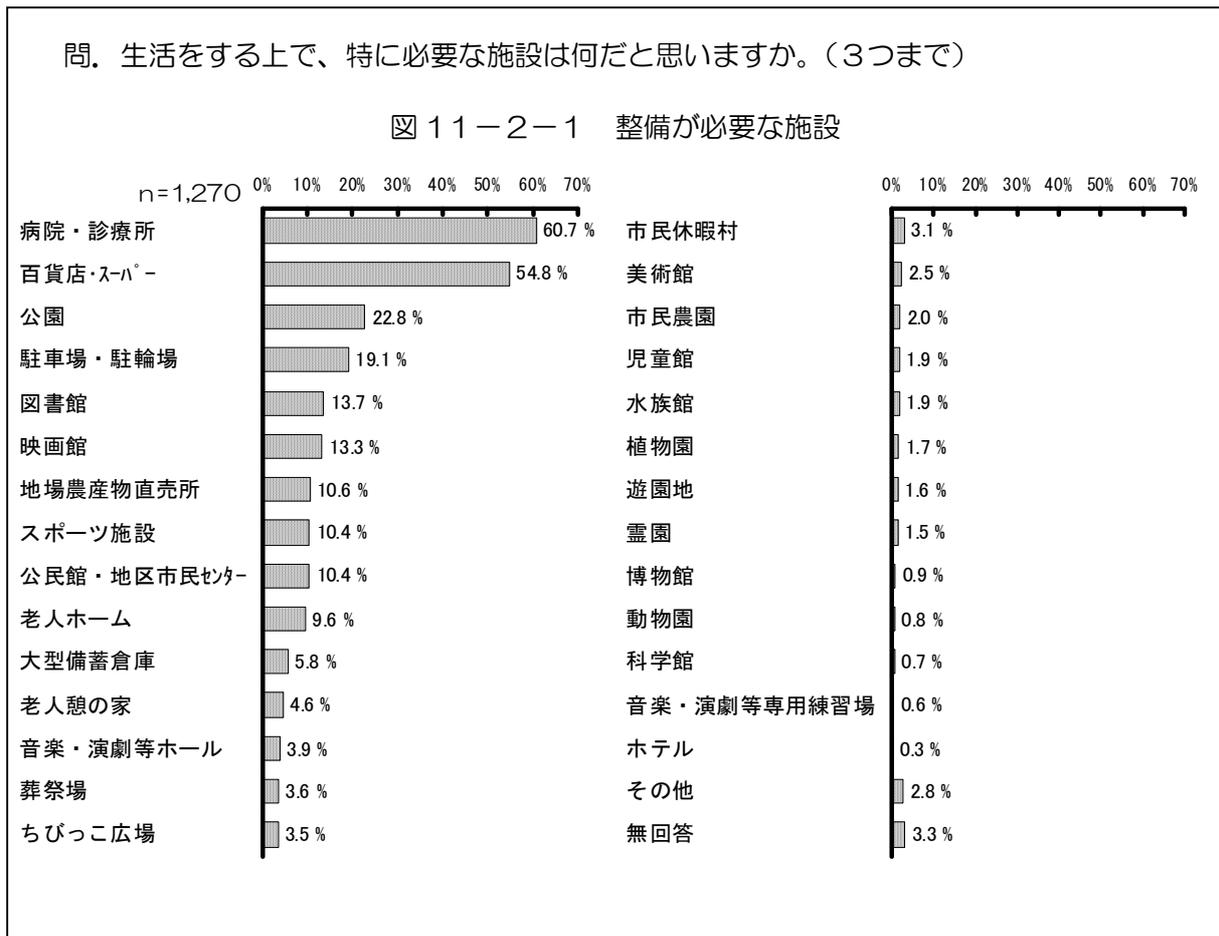
表 11-1-1 市の現在のイメージ経年変化（上位 5 回答と、「利用したことがない」の割合）

順位	平成 25 年度 (n=1,270)		平成 23 年度 (n=814)		平成 21 年度 (n=1,610)		平成 19 年度 (n=1,506)		平成 17 年度 (n=1,008)	
	1	市役所	62.8	ぼうさいの丘公園	33.5	中央図書館	31.4	荻野運動公園	36.9	中央図書館
2	中央図書館	29.1	中央図書館	29.2	文化会館	31.1	中央図書館	34.2	荻野運動公園	28.1
3	ぼうさいの丘公園	26.8	文化会館	26.8	ぼうさいの丘公園	30.7	文化会館	33.3	文化会館	27.8
4	荻野運動公園	25.7	荻野運動公園	26.3	荻野運動公園	25.7	ぼうさいの丘公園	28.1	総合福祉センター	17.1
5	文化会館	25.6	厚木中央公園	24.0	市立公民館・地区市民センター	22.4	厚木中央公園	24.1	市立公民館・地区市民センター	17.0
	利用したことがない	7.6	利用したことがない	15.6	利用したことがない	16.6	利用したことがない	12.7	利用したことがない	21.3

(単位：%)

(注) 今回調査では「市役所」を選択肢に追加した。また、平成 17 年度調査では、選択肢が異なっている。

(2) 整備が必要な施設 (A: 問 20)



【全体】

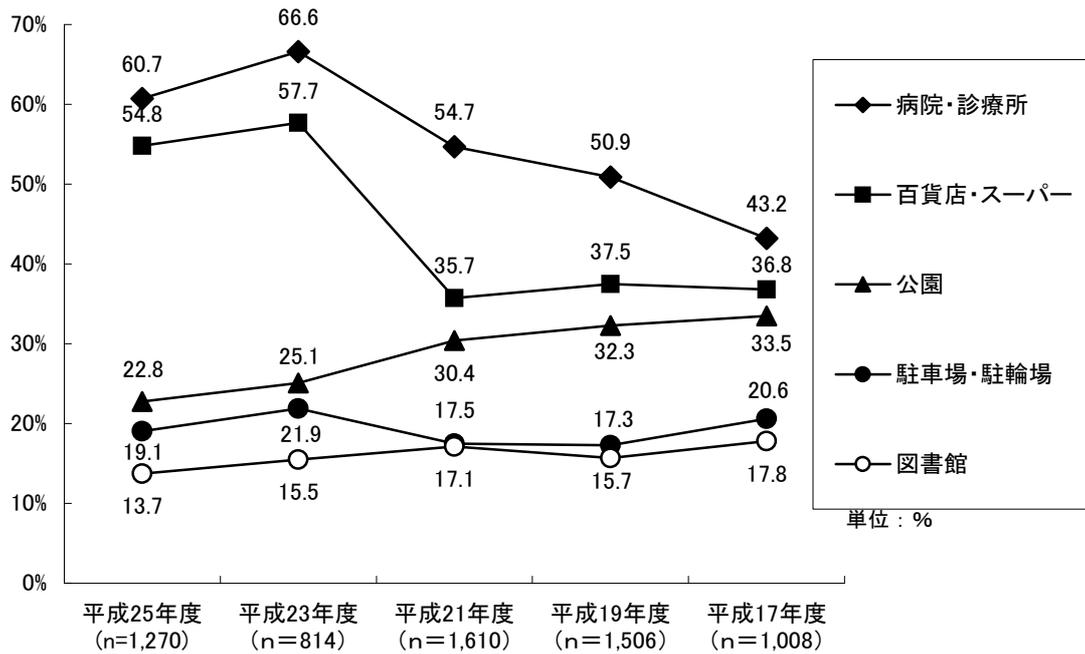
生活をする上で必要な施設は何か聞いたところ、「病院・診療所」(60.7%)が約6割で最も高くなっている。次いで、「百貨店・スーパー」(54.8%)、「公園」(22.8%)、「駐車場・駐輪場」(19.1%)となっている。

【経年変化】(次ページにグラフあり)

上位5項目の経年変化を見ると、平成17年度調査から「病院・診療所」、「百貨店・スーパー」、「公園」、「駐車場・駐輪場」、「図書館」となっている。これらのうち、「病院・診療所」と「百貨店・スーパー」、「駐車場・駐輪場」については、平成23年度調査で増加したが、平成25年度調査では減少している。

一方、「公園」との回答は、減少傾向となっている。

図 11-2-2 整備が必要な施設—経年変化（上位5回答）



【属性別】

性別、年齢別ともに、「病院・診療所」または「百貨店・スーパー」が上位となっている。

表 11-2-1 整備が必要な施設—性別、年齢別（上位3回答）

<性別>

(単位：%)	男性 (n=556)		女性 (n=685)	
1位	病院・診療所	57.9	病院・診療所	63.1
2位	百貨店・スーパー	51.4	百貨店・スーパー	58.2
3位	公園	26.4	公園	19.7

<年齢別>

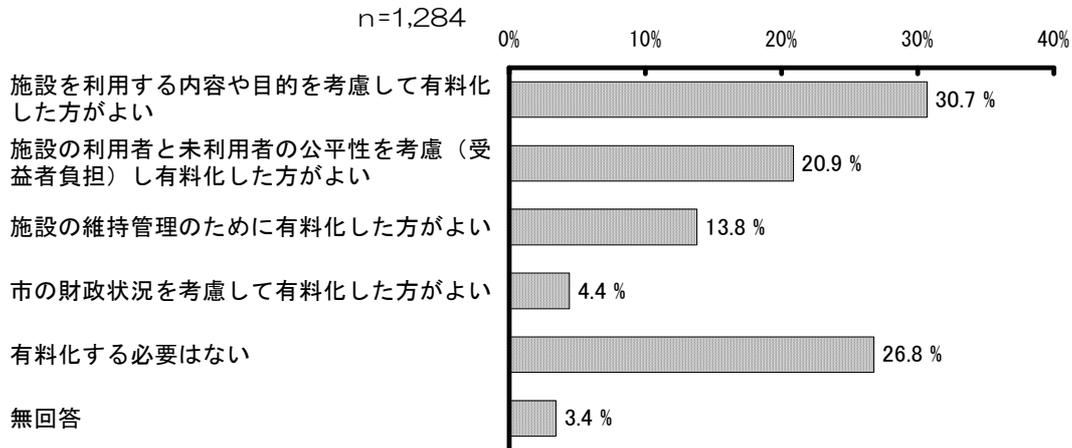
(単位：%)	20歳未満 (n=15)		20~29歳 (n=100)		30~39歳 (n=185)		40~49歳 (n=191)	
1位	病院・診療所	73.3	百貨店・スーパー	73.0	百貨店・スーパー	70.3	百貨店・スーパー	67.5
2位	百貨店・スーパー	60.0	病院・診療所	63.0	病院・診療所	58.9	病院・診療所	62.3
3位	駐車場・駐輪場	33.3	公園	27.0	公園	33.0	駐車場・駐輪場	26.7

(単位：%)	50~59歳 (n=186)		60~69歳 (n=310)		70~79歳 (n=190)		80歳以上 (n=76)	
1位	病院・診療所	65.1	病院・診療所	59.0	病院・診療所	58.4	病院・診療所	59.2
2位	百貨店・スーパー	53.8	百貨店・スーパー	51.3	百貨店・スーパー	32.6	百貨店・スーパー	38.2
3位	図書館	17.7	公園	19.4	公園	21.1	老人ホーム	21.1

(3) 市の施設の利用の有料化について (B: 問 14)

問. 市の公民館など、現在使用料が無料の施設を有料化することについてどう思いますか。
(1つだけ)

図 11-3-1 市の施設の利用の有料化について



【全体】

現在使用料が無料である市の施設を有料化することへの考えを聞いたところ、「施設を利用する内容や目的を考慮して有料化した方がよい」(30.7%)が3割で最も高くなっている。次いで、「有料化する必要はない」(26.8%)、「施設の利用者と未利用者の公平性を考慮（受益者負担）し有料化した方がよい」(20.9%)となっている。

【経年変化】

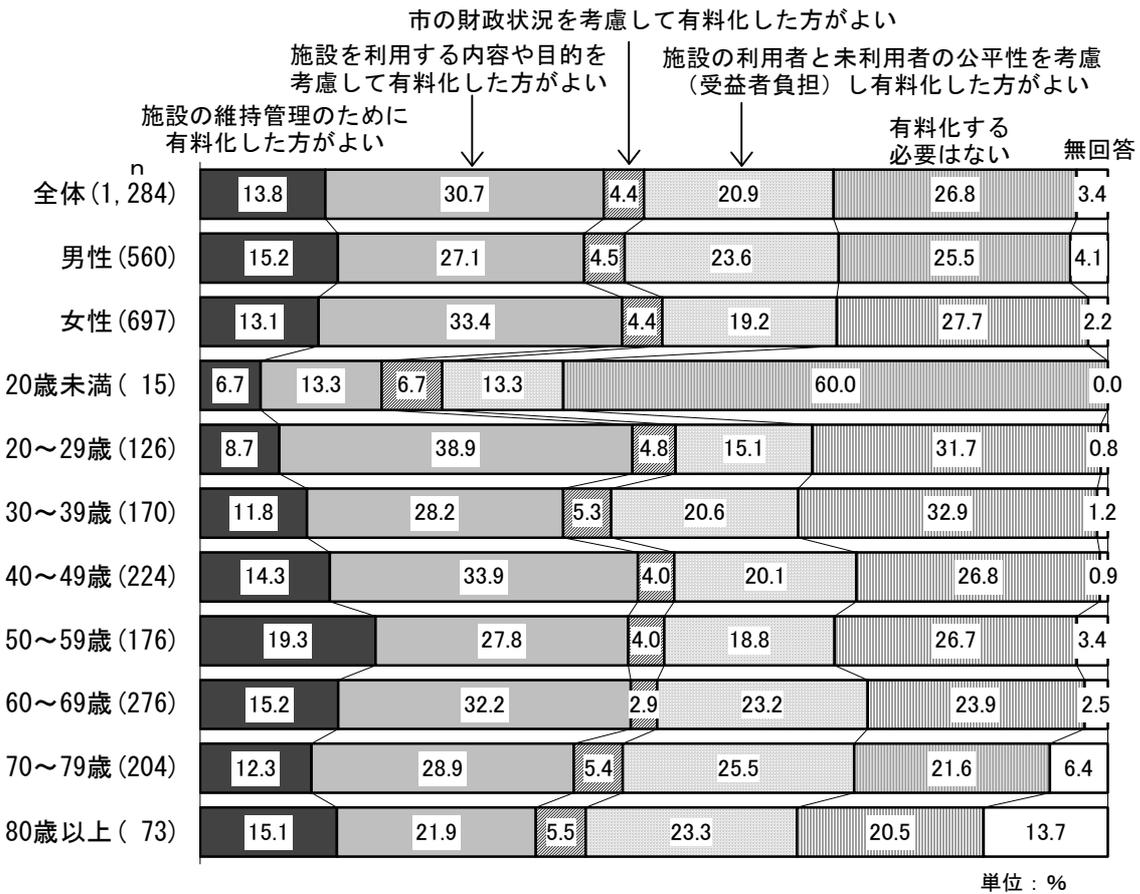
前回とは選択肢が異なっているため、経年変化は掲載していない。

【属性別】

性別で見ると、女性では「施設を利用する内容や目的を考慮して有料化した方がよい」(33.4%)との回答で、男性よりも6.3ポイント高くなっている。

年齢別で見ると、20歳代で「施設を利用する内容や目的を考慮して有料化した方がよい」(38.9%)が最も高くなっている。

図 11-3-2 市の施設の利用の有料化について一性別、年齢別

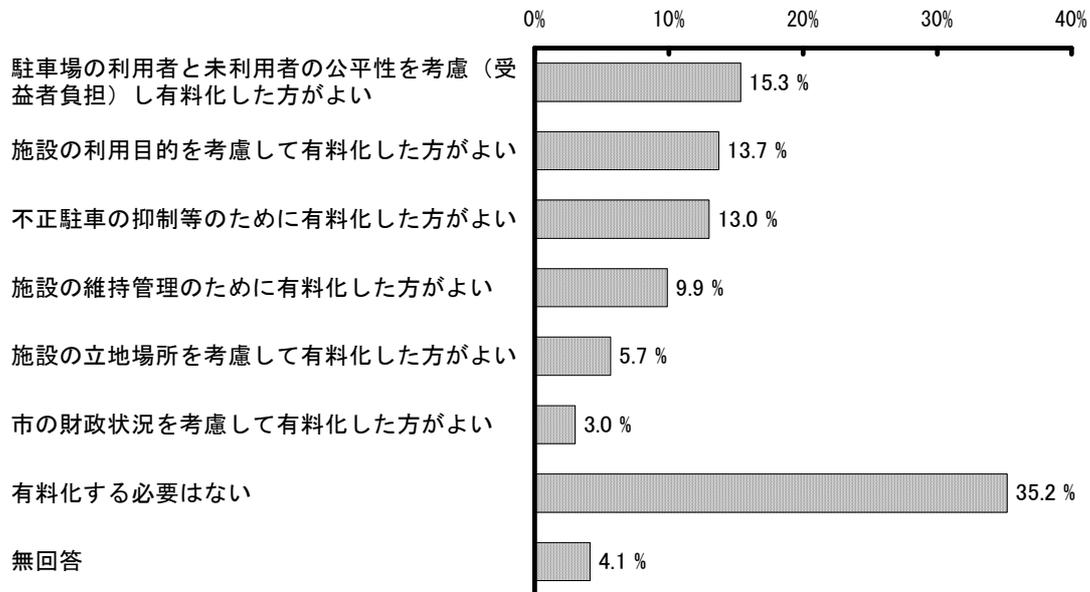


(4) 公共施設の駐車場の有料化について (B: 問 15)

問. 現在無料である公共施設の駐車場を有料化することについて、どう思いますか。
(1つだけ)

図 11-4-1 公共施設の駐車場の有料化について

n=1,284



【全体】

公共施設の駐車場を有料化することへの考えを聞いたところ、「有料化する必要はない」(35.2%)が最も高くなっている。

『有料化した方がよい』との回答の中では、「駐車場の利用者と未利用者の公平性を考慮（受益者負担）し有料化した方がよい」(15.3%)が最も高く、「施設の利用目的を考慮して有料化した方がよい」(13.7%)、「不正駐車抑制等のために有料化した方がよい」(13.0%)と差がなく続いている。

【経年変化】

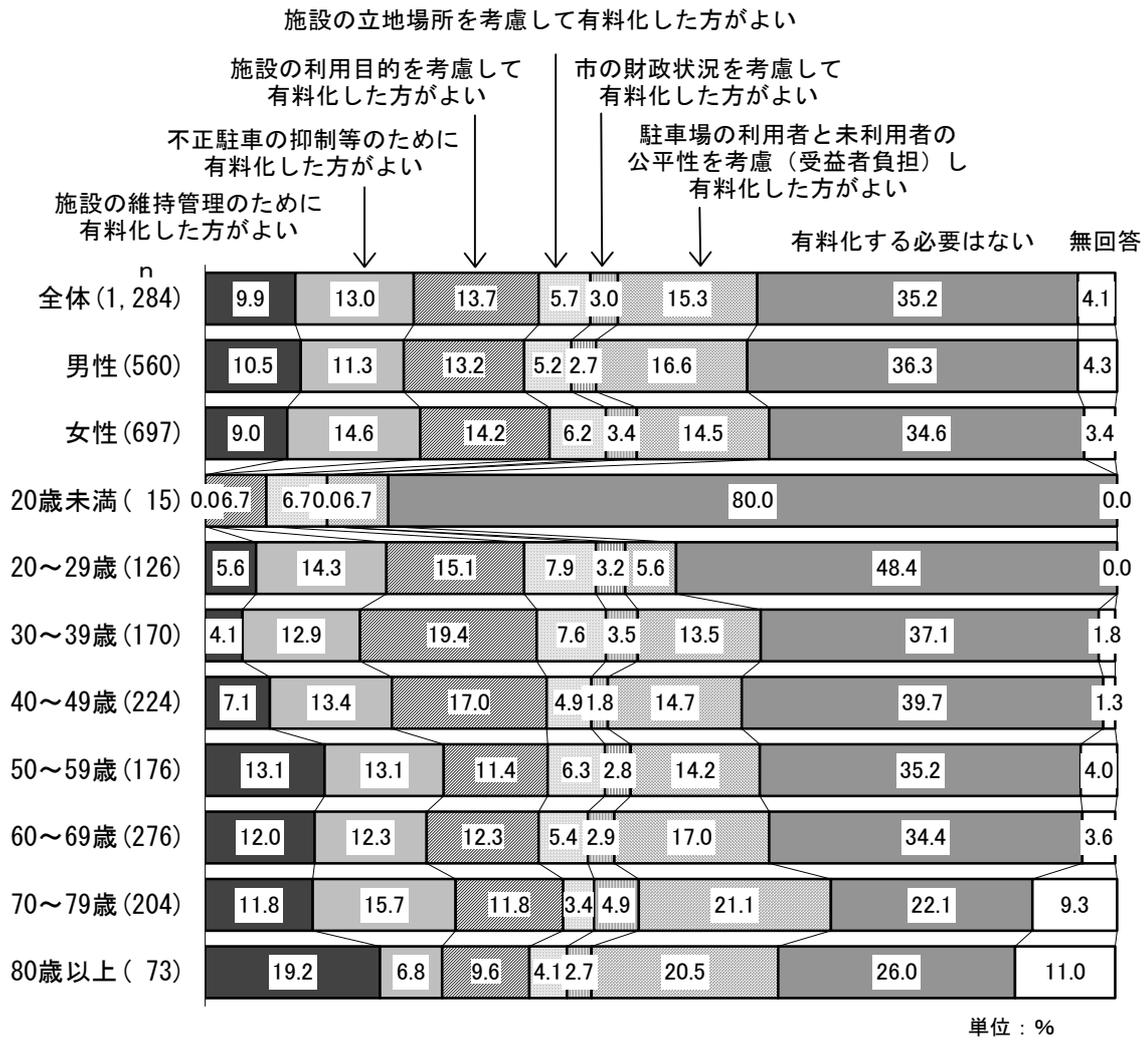
新規設問のため、経年変化は掲載していない。

【属性別】

性別で見ると、男女ともほぼ同じ傾向になっている。

年齢別で見ると、70歳以上では「駐車場の利用者」と未利用者の公平性を考慮（受益者負担）し有料化した方がよい」との回答が2割を超えて全体より高く、一方で「有料化する必要はない」との回答が、2割台と低くなっている。

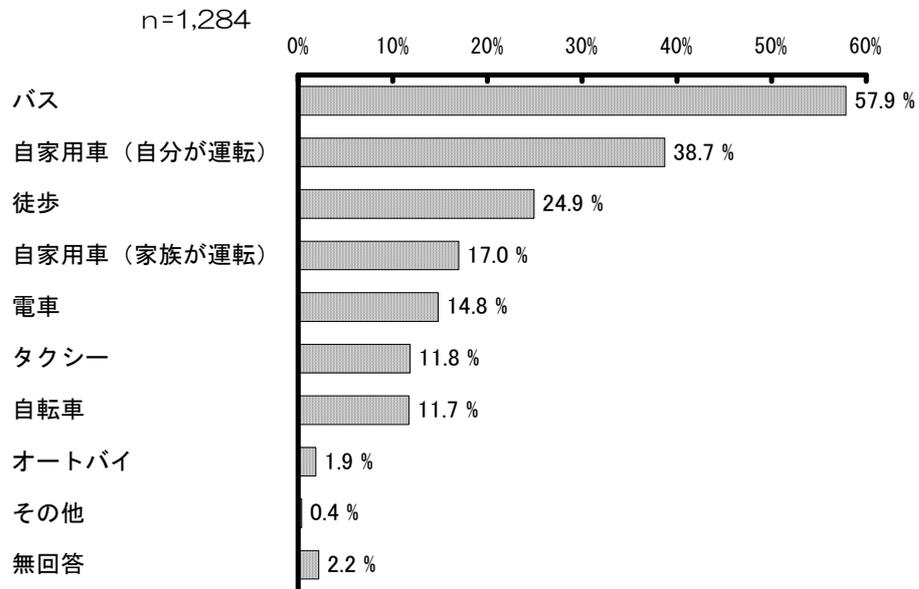
図 11-4-2 公共施設の駐車場の有料化について—性別、年齢別



(5) 高齢時の交通手段 (B: 問 16)

問. 将来 (65 歳以降) は、主にどのような交通手段を利用すると思いますか。(現在 65 歳以上の方は、どのような交通手段を利用していますか。)(2 つまで)

図 11-5-1 高齢時の交通手段



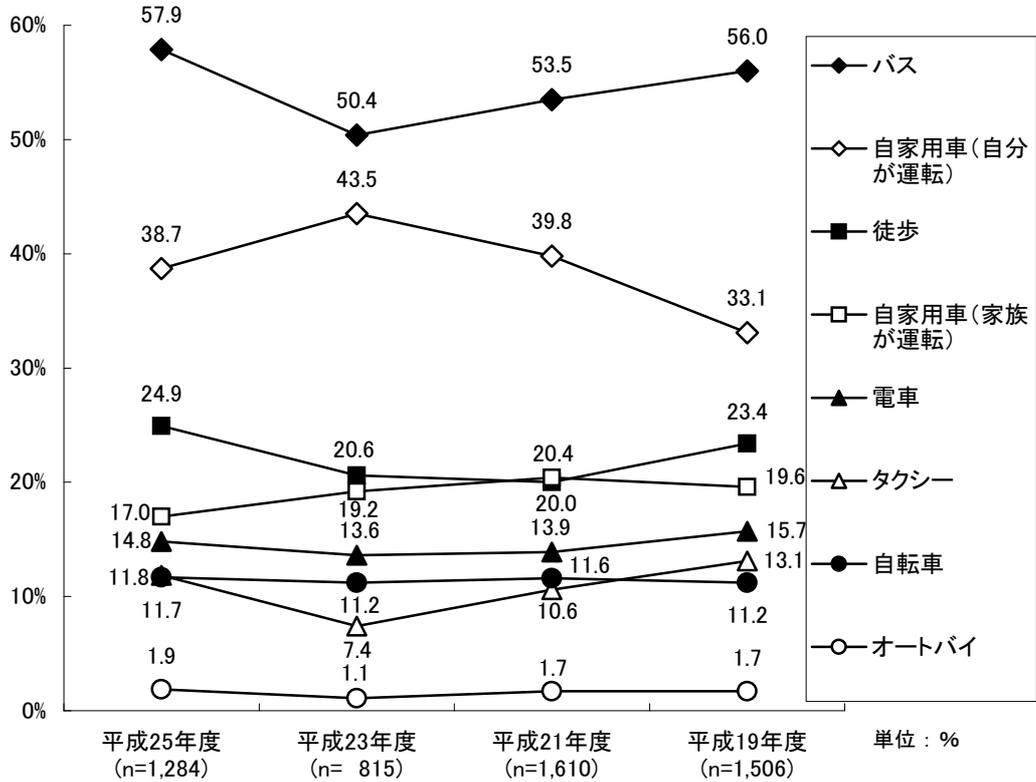
【全体】

高齢時の交通手段について聞いたところ、「バス」(57.9%) が半数以上で最も高くなっている。次いで、「自家用車 (自分が運転)」(38.7%)、「徒歩」(24.9%)、「自家用車 (家族が運転)」(17.0%)、「電車」(14.8%) となっている。

【経年変化】

経年による変化を見ると、「バス」が減少傾向、「自家用車（自分が運転）」が増加傾向となっていたが、今回の調査では、「バス」が増加し、「自家用車（自分が運転）」は、減少している。

図 11-5-2 高齢時の交通手段—経年変化



【属性別】

性別で見ると、女性では「自家用車（家族が運転）」（22.8%）が12.4ポイント高く、次いで「バス」（63.4%）、「徒歩」（27.0%）で、それぞれ男性より高くなっている。一方、男性では「自家用車（自分が運転）」（51.4%）が、女性より22.7ポイント高くなっている。

年齢別で見ると、80歳以上では「自家用車（家族が運転）」（31.5%）、「タクシー」（28.8%）が他年齢より高く、「バス」（47.9%）、「電車」（2.7%）が低いといった傾向が見られる。

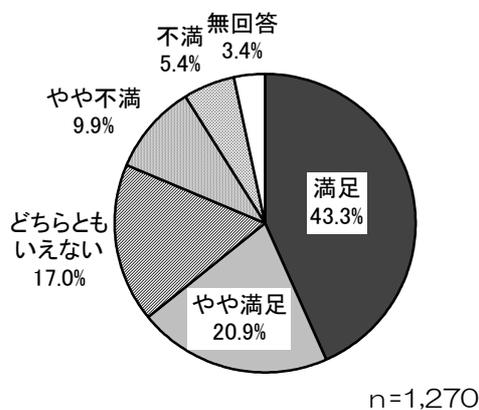
表 11-5-1 高齢時の交通手段—性別、年齢別

(単位：%)	徒歩	自転車	オートバイ	自家用車 (自分が運転)	自家用車 (家族が運転)	電車	バス	タクシー	その他	無回答
全体 (n=1,284)	24.9	11.7	1.9	38.7	17.0	14.8	57.9	11.8	0.4	2.2
男性 (n=560)	21.4	13.8	3.4	51.4	10.4	13.6	51.6	9.5	0.5	2.7
女性 (n=697)	27.0	10.0	0.7	28.7	22.8	16.2	63.4	13.9	0.3	1.1
20歳未満 (n=15)	13.3	20.0	0.0	33.3	20.0	13.3	60.0	13.3	0.0	0.0
20～29歳 (n=126)	29.4	11.1	1.6	31.0	18.3	22.2	60.3	13.5	1.6	0.8
30～39歳 (n=170)	24.7	11.8	2.9	39.4	17.1	14.7	62.4	7.1	0.0	1.8
40～49歳 (n=224)	33.5	8.5	0.9	36.6	17.9	15.6	54.5	11.2	0.4	0.9
50～59歳 (n=176)	29.0	13.1	3.4	40.9	15.3	13.6	54.0	11.4	0.6	2.3
60～69歳 (n=276)	18.5	11.2	2.5	48.9	13.8	14.1	58.7	12.0	0.0	1.8
70～79歳 (n=204)	20.6	14.7	0.5	36.8	16.2	16.2	63.7	10.3	0.0	2.0
80歳以上 (n=73)	16.4	12.3	1.4	17.8	31.5	2.7	47.9	28.8	1.4	8.2

(6) 窓口開庁日時について (A : 問 22)

問. 現在、住民票の申請等の窓口は、平日の8:30~17:15、毎週土曜日の午前中に開庁していますが、どう思いますか。(1つだけ)

図 11-6-1 窓口開庁日時について



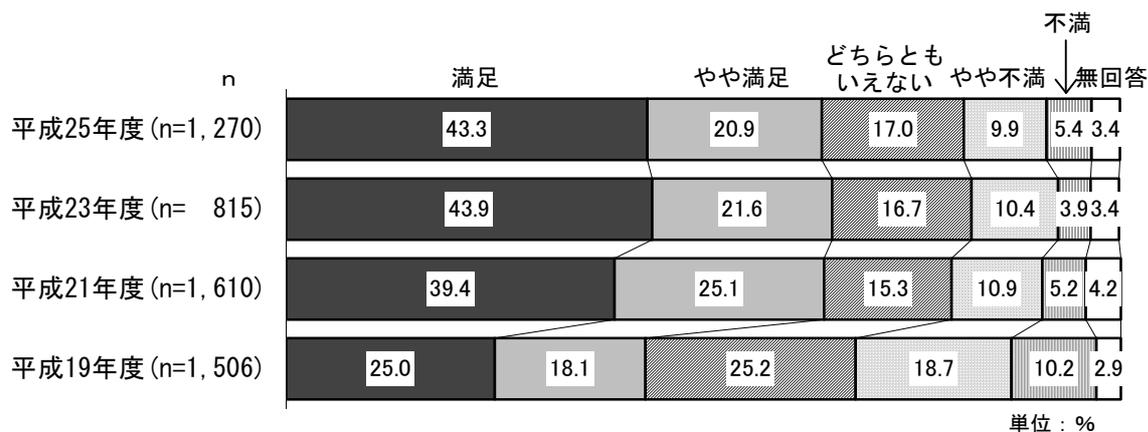
【全体】

窓口開庁日時についての満足度を聞いたところ、「満足」(43.3%)と「やや満足」(20.9%)を合わせた『満足』(64.2%)が6割半ばとなっている。一方、「やや不満」(9.9%)と「不満」(5.4%)を合わせた『不満』(15.3%)が1割半ばとなっている。

【経年変化】

経年による変化を見ると、前回調査とは大きな変化は見られないが、直近3回の調査では「満足」と「やや満足」を合わせた『満足』は6割台となっている。

図 11-6-2 窓口開庁日時について—経年変化

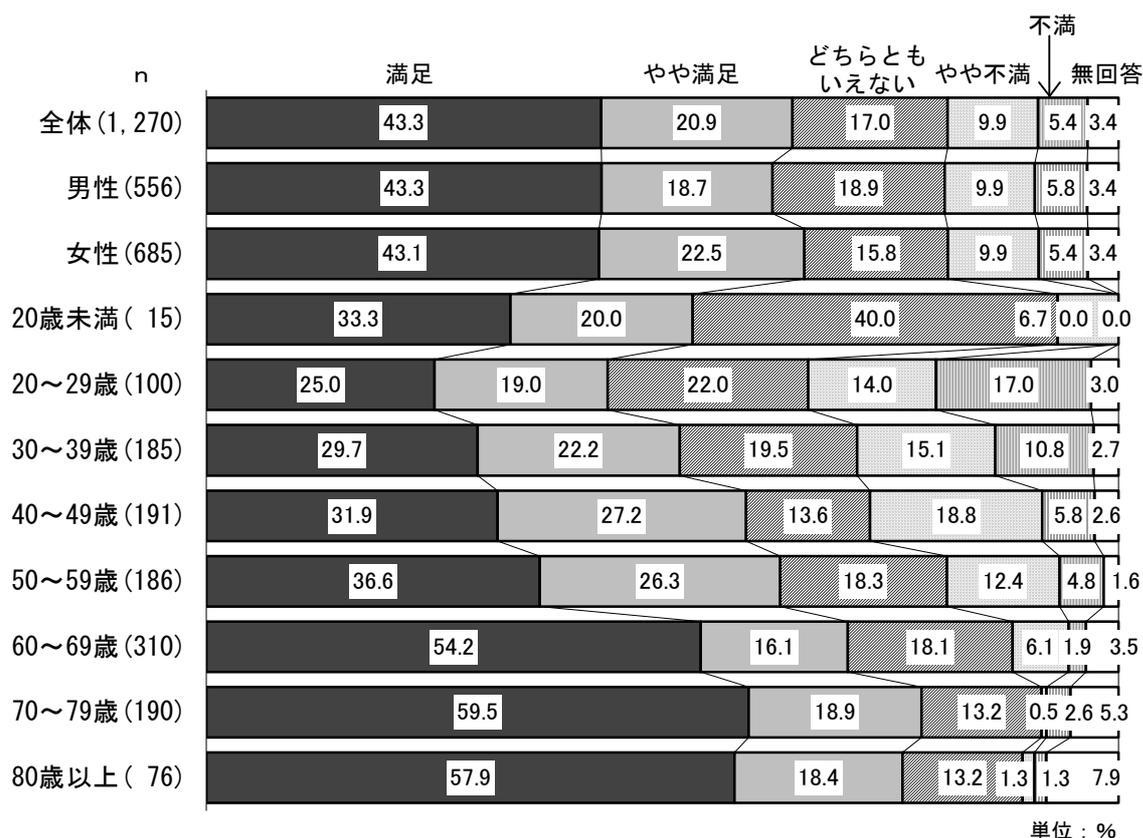


【属性別】

性別で見ると、男女ともほぼ同じ傾向になっている。

年齢別で見ると、「満足」と「やや満足」を合わせた『満足』は、年齢層が上がるにつれて高くなる傾向にあり、20歳代（44.0%）と比べると70歳代（78.4%）は30ポイント以上も高くなっている。

図 11-6-3 窓口開庁日時について—性別、年齢別

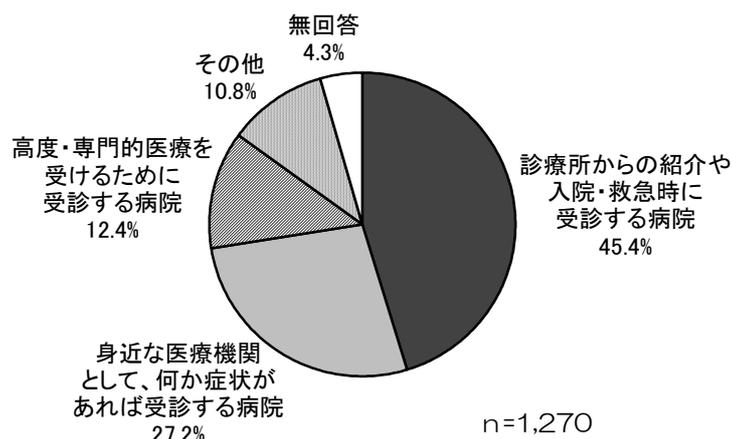


12 保健・健康

(1) 市立病院のイメージ (A：問 23)

問. 市立病院に対するあなたがお持ちのイメージについて、近いものを選んでください。
(1つだけ)

図 12-1-1 市立病院のイメージ



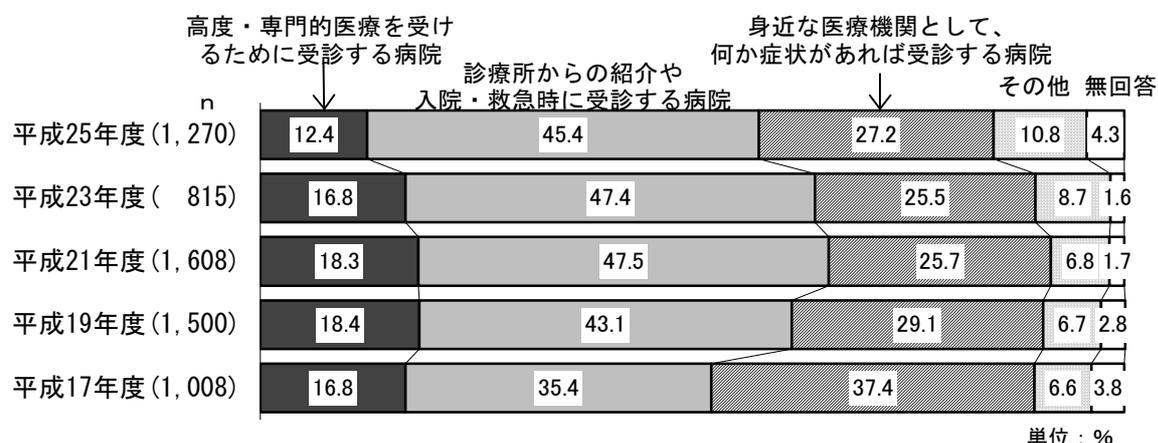
【全体】

市立病院に対して持っているイメージを聞いたところ、「診療所からの紹介や入院・救急時に受診する病院」(45.4%)が最も高く、次いで「身近な医療機関として、何か症状があれば受診する病院」(27.2%)、「高度・専門的医療を受けるために受診する病院」(12.4%)となっている。

【経年変化】

経年による変化を見ると、「高度・専門的医療を受けるために受診する病院」「診療所からの紹介や入院・救急時に受診する病院」が減少傾向となった。

図 12-1-2 市立病院のイメージ経年変化



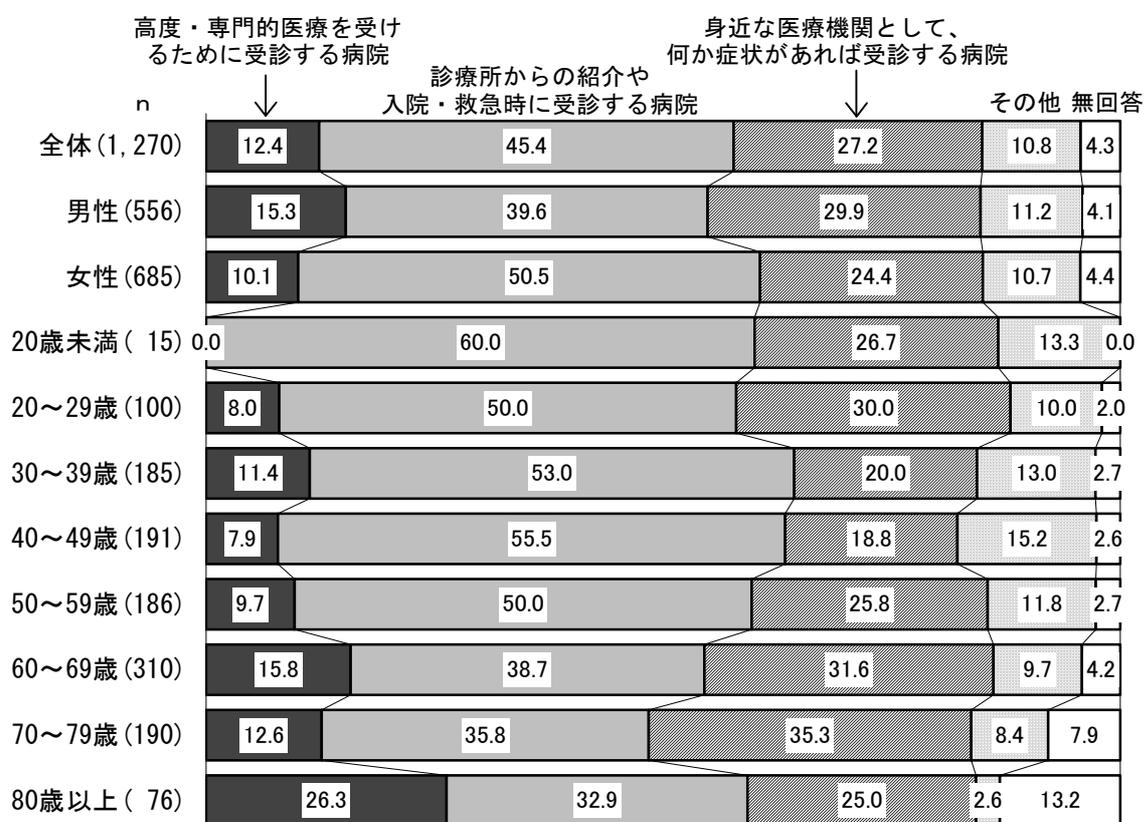
【属性別】

性別で見ると、女性では「診療所からの紹介や入院・救急時に受診する病院」（50.5%）が男性よりも 10.9 ポイント高くなっており、男性では「身近な医療機関として、何か症状があれば受診する病院」（29.9%）は 5.5 ポイント、「高度・専門的医療を受けるために受診する病院」（15.3%）は 5.2 ポイント、それぞれ女性より高くなっている。

年齢別で見ると、59 歳以下では「診療所からの紹介や入院・救急時に受診する病院」との回答が5割を超えている。

30～49 歳は「身近な医療機関として、何か症状があれば受診する病院」は2割程度となり、他の年齢層よりも低い回答となっている。

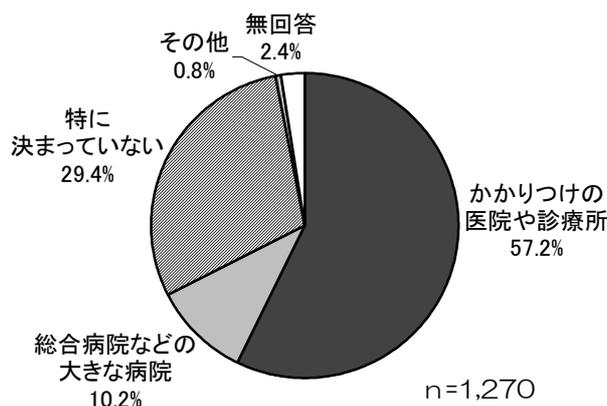
図 12-1-3 市立病院のイメージ—性別、年齢別



(2) かかりつけ医 (A : 問 24)

問. かかりつけ医 (主に医院や診療所など) は、日ごろから医療や健康相談を受け持ち、病院は入院の必要な患者を受け持つという役割分担がありますが、あなたはかぜなどにかかった時、通院する医療機関は決まっていますか。(1つだけ)

図 12-2-1 かかりつけ医



【全体】

かぜなどにかかった時、通院する病院は決まっているか聞いたところ、「かかりつけの医院や診療所」(57.2%) が、5割を超え、最も高くなっている。

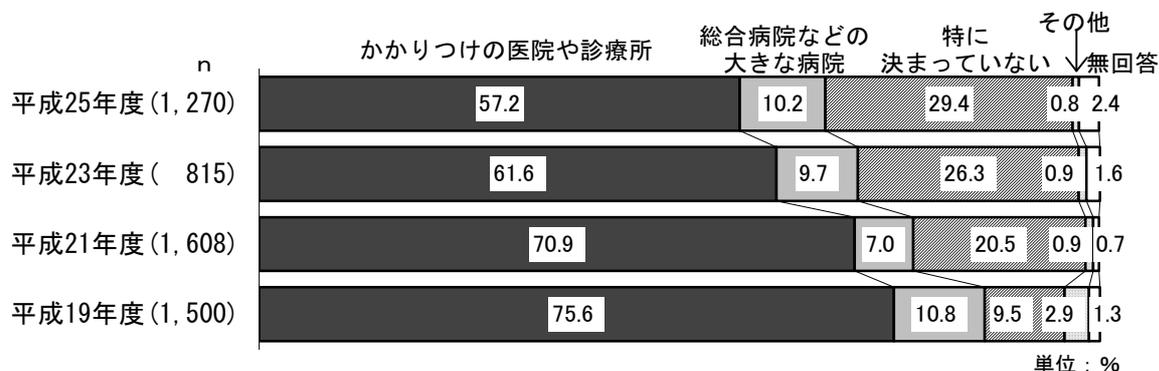
次いで、「特に決まっていない」(29.4) %、「総合病院などの大きな病院」(10.2%) となっている。

【経年変化】

経年による変化では、「かかりつけの医院や診療所」が減少傾向にあり、平成 19 年度調査と比べて見ると、今回の結果は 18.4 ポイントの減少となっている。

一方、「特に決まっていない」は引き続き増加傾向にあり、平成 19 年度調査と比べて見ると、20.1 ポイントの増加となっている。

図 12-2-2 かかりつけ医—経年変化

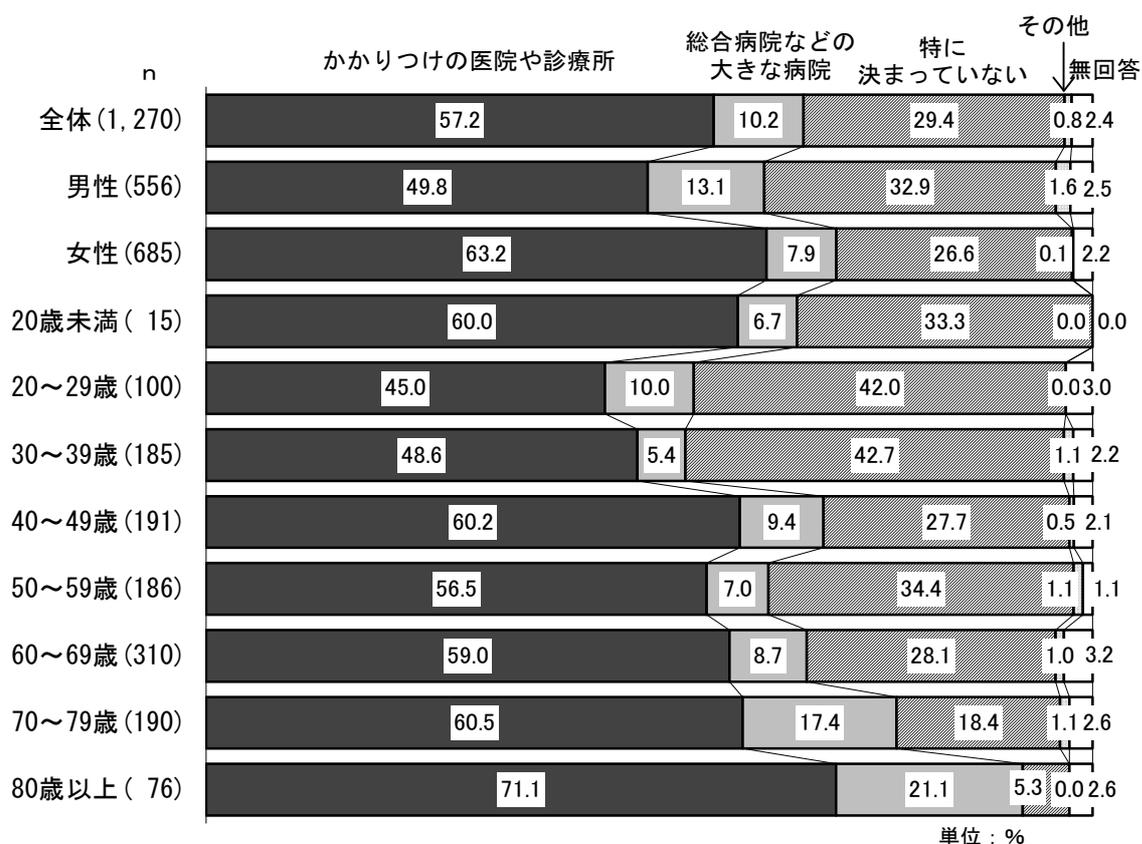


【属性別】

性別で見ると、女性では「かかりつけの医院や診療所」（63.2%）が男性より 13.4 ポイント高くなっている。一方、男性では「総合病院などの大きな病院」（13.1%）が、女性より 5.2 ポイント高くなっている。

年齢別で見ると、年齢層が上がるにつれて「かかりつけの医院や診療所」が高くなる傾向にあり、80歳以上（71.1%）では7割を超えている。一方、20～39歳では「特に決まっていない」が4割を超えて高くなっている。

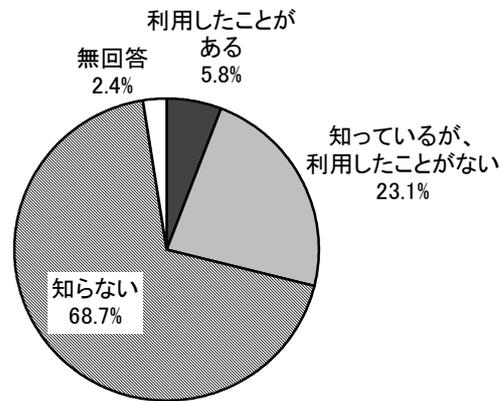
図 12-2-3 かかりつけ医—性別、年齢別



(3) 「あつぎ健康相談ダイヤル 24」(A：問 25)

問. あなたは、24 時間フリーダイヤルで医師やカウンセラーが健康相談や医療機関情報についてお答えする「あつぎ健康相談ダイヤル 24」を知っていますか。(1 つだけ)

図 12-3-1 「あつぎ健康相談ダイヤル 24」



n=1,270

【全体】

「あつぎ健康相談ダイヤル 24」の利用について聞いたところ、「知らない」(68.7%)が最も高く、「利用したことがある」が 5.8%、「知っているが、利用したことがない」が 23.1%で、『知っている』のは全体の 28.9%となっている。

【経年変化】

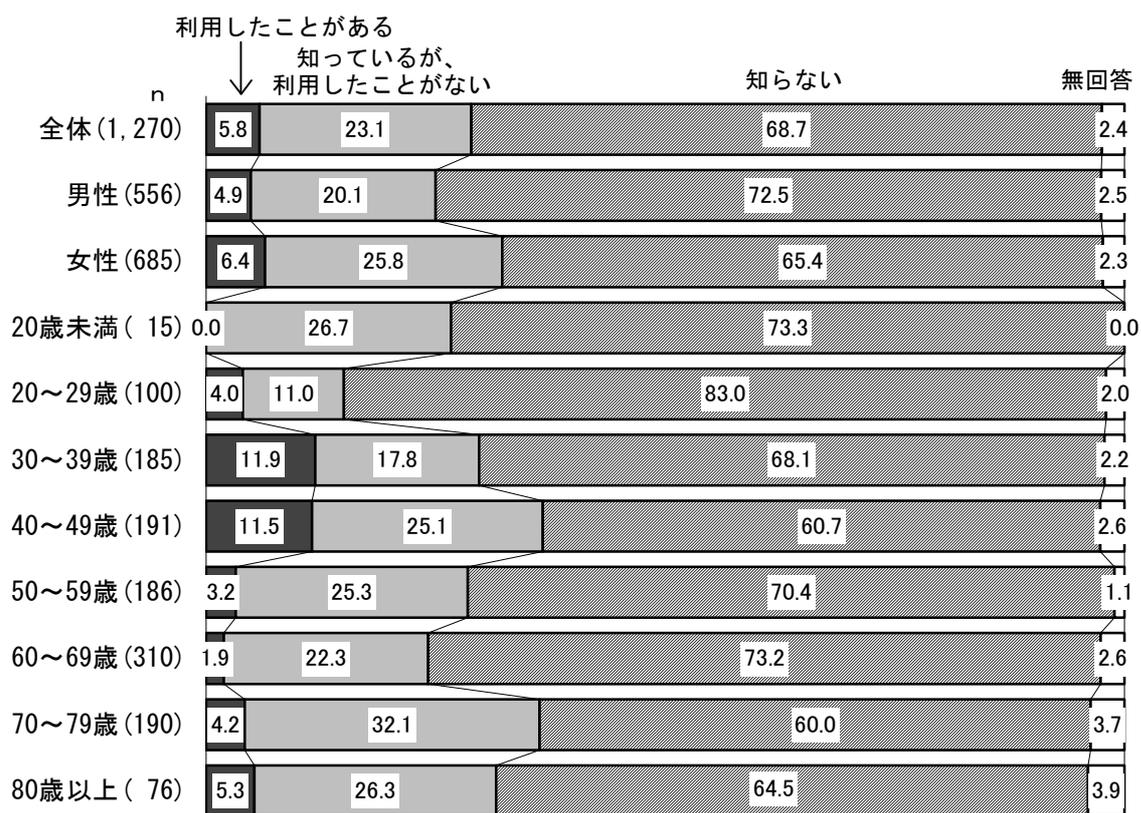
新規設問であるため、経年変化は記載していない。

【属性別】

性別で見ると、女性では「知っているが、利用したことがない」(25.8%)が、男性よりも5.7ポイント高くなっている。一方、男性は「知らない」(72.5%)が、女性より7.1ポイント高くなっている。

年齢別で見ると、30～49歳で「利用した事がある」との回答が、1割を超えている。

図 12-3-2 「あつぎ健康相談ダイヤル 24」—性別、年齢別

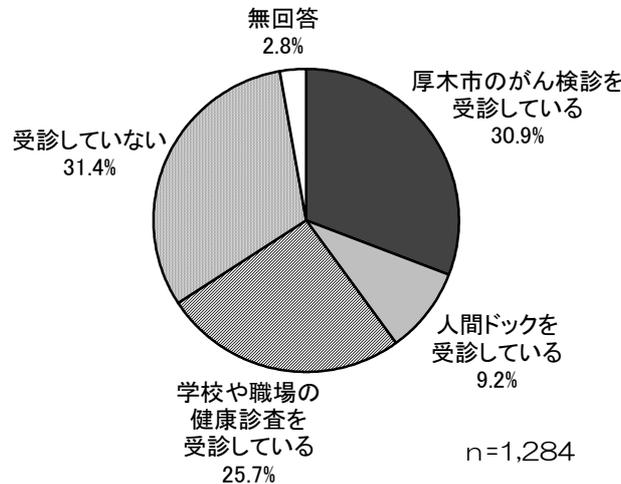


単位：%

(4) がん検診の受診状況 (B: 問 20)

問. あなたは、なんらかのがん検診を受診していますか。(主なものを1つだけ)

図 12-4-1 がん検診の受診状況



【全体】

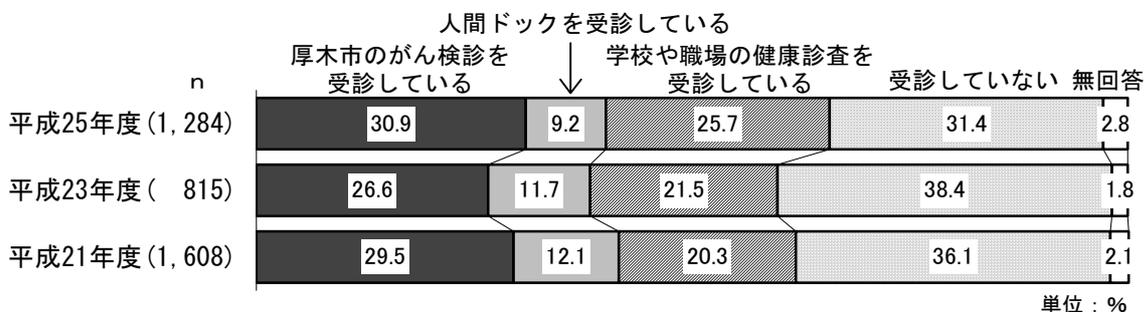
がん検診の受診状況について聞いたところ、「厚木市のがん検診を受診している」(30.9%)が約3割と最も高く、次いで「学校や職場の健康診査を受診している」(25.7%)、「人間ドックを受診している」(9.2%)となり、それらを合わせた『受診している』(65.8%)は、6割を超えている。

一方、「受診していない」(31.4%)は、約3割となっている。

【経年変化】

経年による変化を見ると、今回、「受診していない」(31.4%)との回答が、直近3回の調査で最も少なくなっている。

図 12-4-2 がん検診の受診状況—経年変化



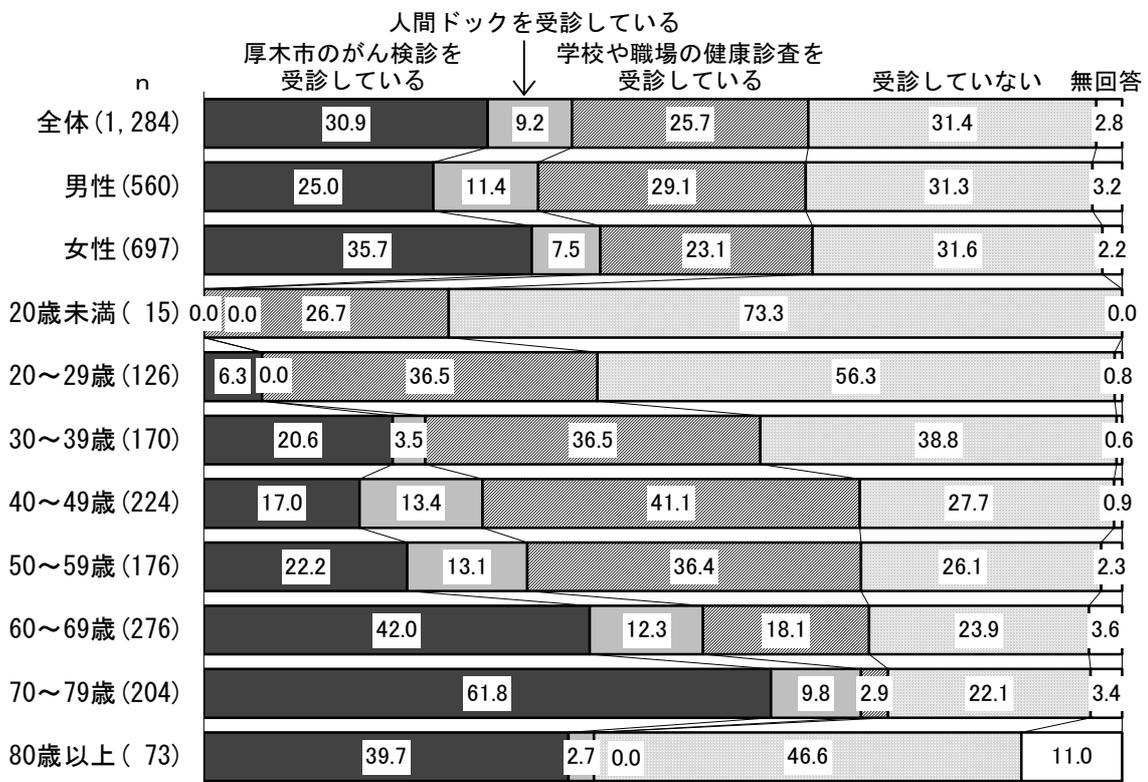
【属性別】

性別で見ると、女性では「厚木市のがん検診を受診している」(35.7%)が、男性よりも10.7ポイント高くなっている。一方、男性では、「学校や職場の健康診査を受診している」(29.1%)が女性よりも6.0ポイント高くなっている。

年齢別で見ると、70歳代では「厚木市のがん検診を受診している」(61.8%)が6割を超えて高くなっている。一方、20～59歳では、「学校や職場の健康診査を受診している」との回答が、3割以上となっている。

29歳以下では「受診していない」との回答が半数以上となっている。

図 12-4-3 がん検診の受診状況—性別、年齢別

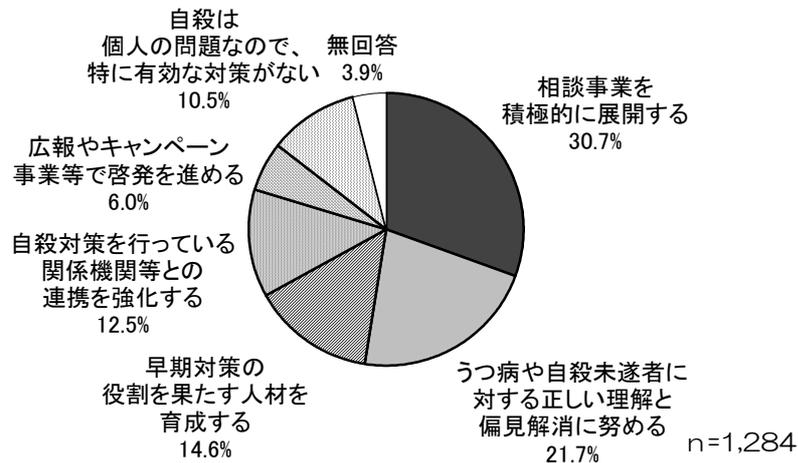


単位：%

(5) 自殺への対策（B：問 21）

問. 自殺で亡くなる方は全国で年間2万5千人を超え、厚木市でも少なくありません。このことに対して、どのような対策が重要だと思いますか。（1つだけ）

図 12-5-1 自殺への対策



【全体】

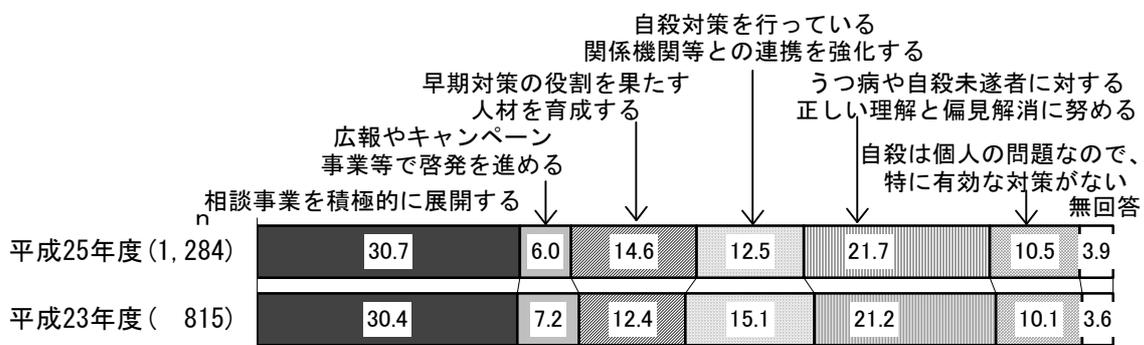
自殺への対策について聴いたところ、「相談事業を積極的に展開する」（30.7%）が約3割と最も高くなっている。次いで、「うつ病や自殺未遂者に対する正しい理解と偏見解消に努める」（21.7%）、「早期対策の役割を果たす人材を育成する」（14.6%）となっている。

一方、「自殺は個人の問題なので、特に有効な対策がない」（10.5%）となっている。

【経年変化】

経年による大きな変化は見られない。

図 12-5-2 自殺への対策—経年変化



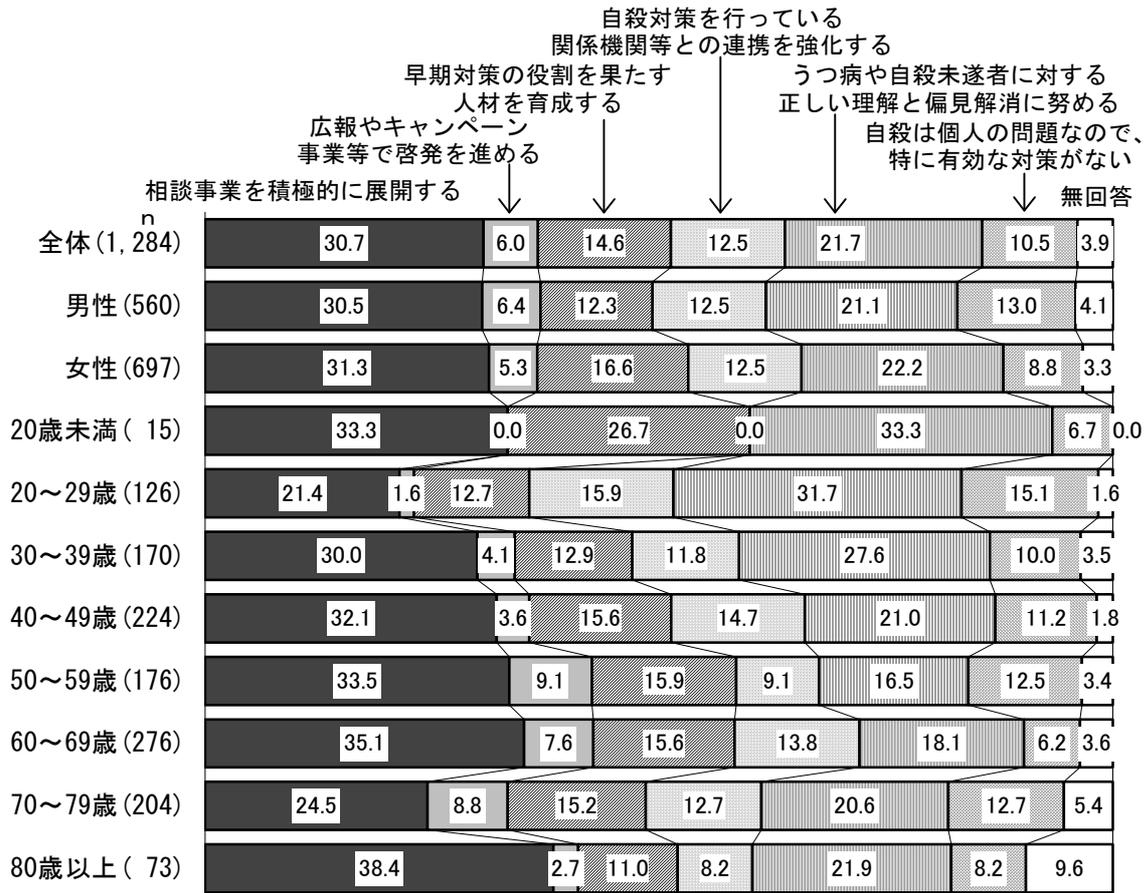
単位：%

【属性別】

性別で見ると、男女ともほぼ同じ傾向になっている。

年齢別に見ると、20歳代では「うつ病や自殺未遂者に対する正しい理解と偏見解消に努める」(31.7%)が高くなっており、「相談事業を積極的に展開する」(21.4%)は低くなっている。

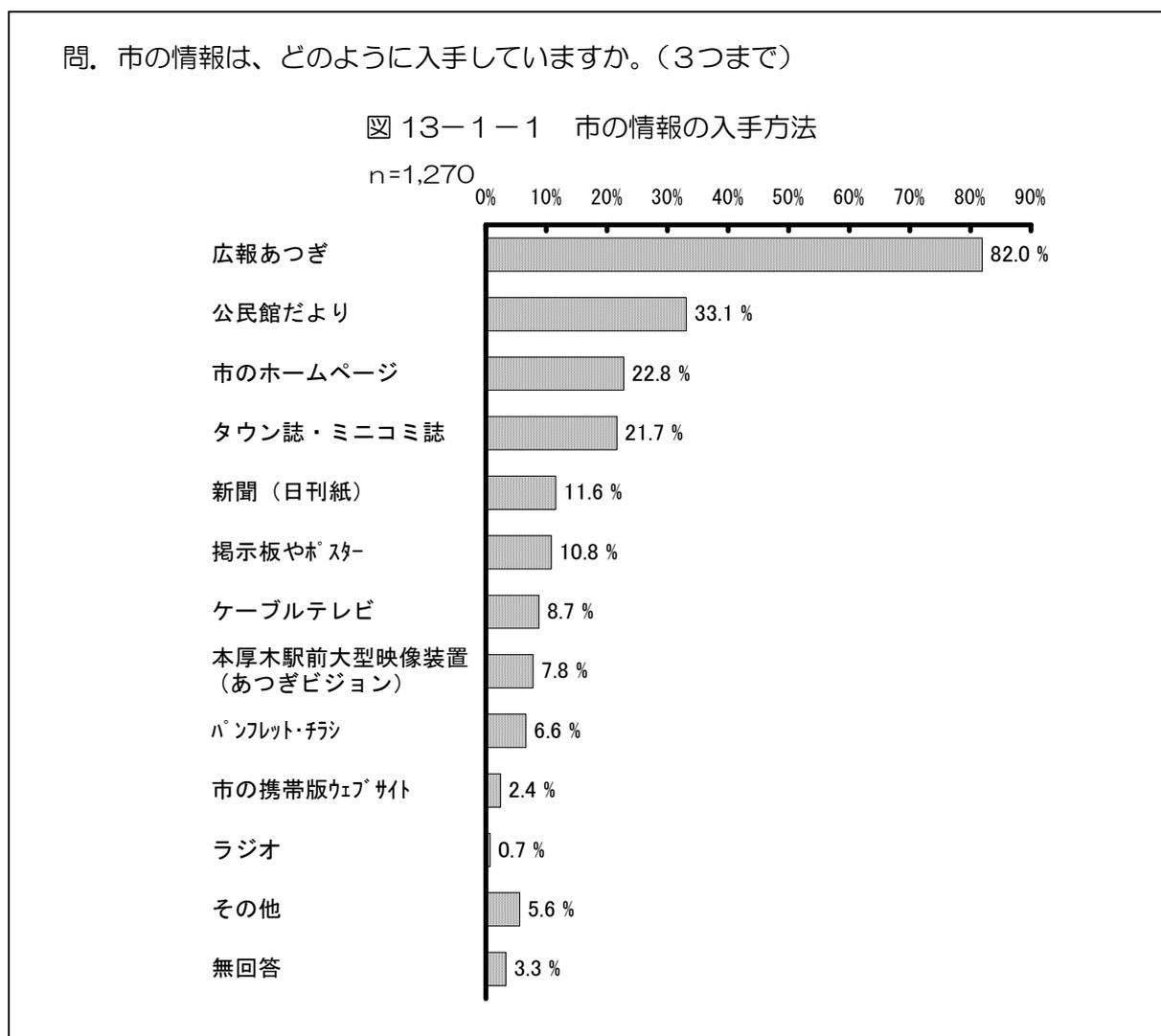
図 12-5-3 自殺への対策—性別、年齢別



単位：%

1.3 広報・広聴

(1) 市の情報の入手方法（A：問26）



【全体】

市の情報の入手方法について聞いたところ、「広報あつぎ」（82.0%）が8割を超え、特に高くなっている。

次いで、「公民館だより」（33.1%）、「市のホームページ」（22.8%）、「タウン誌・ミニコミ誌」（21.7%）、「新聞（日刊紙）」（11.6%）となっている。

【経年変化】

経年変化は参考に記載するものとする。

表 13-1-1 市の情報入手—経年変化

(単位：%)	平成 25 年度 (n=1, 270)	平成 23 年度 (n= 814)	平成 21 年度 (n=1, 610)	平成 19 年度 (n=1, 506)	平成 17 年度 (n=1, 008)
広報あつぎ	82.0	77.8	83.7	83.2	84.9
市のホームページ	22.8	22.5	13.1	11.0	12.3
公民館だより	33.1	21.6	27.1	25.6	28.8
タウン誌・ミニコミ誌	21.7	12.0	15.8	13.1	8.3
新聞（日刊紙）	11.6	8.2	8.6	11.5	2.6
本厚木駅前大型映像装置 （あつぎビジョン）	7.8	4.7	—	—	—
掲示板やポスター	10.8	4.5	4.0	3.1	9.6
ケーブルテレビ	8.7	3.8	6.0	8.6	2.2
パンフレット・チラシ	6.6	2.5	2.4	2.3	0.2
市の携帯版ウェブサイト	2.4	1.6	1.0	0.7	0.7
ラジオ	0.7	0.1	0.6	0.4	5.8
その他	5.6	3.6	1.5	0.7	0.7
特に情報は得ていない	—	—	7.3	4.8	1.1
無回答	3.3	4.1	1.7	2.1	15.3

（注）平成 23 年度調査までは2つまでを選ぶ設問であったが、今回の調査では3つまで選ぶ設問としている。また、平成 23 年度調査から「本厚木駅前大型映像装置（あつぎビジョン）」を選択肢として追加し、「特に情報は得ていない」は、削除している。

【属性別】

性別で見ると、男女ともほぼ同じ傾向になっている。

年齢別で見ると、「広報あつぎ」は、60歳以上で9割以上と高い結果となっている。

「市のホームページ」は、30歳代が44.9%と最も高くなっている。

また、「公民館だより」は、60歳以上で4割を超え高い回答となっている。一方、49歳以下では、3割以下となっている。

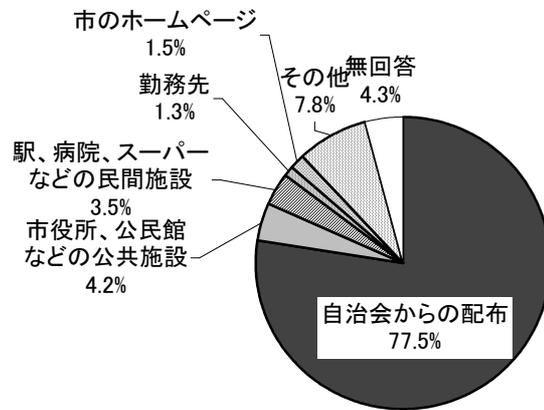
表 13-1-2 市の情報入手—性別、年齢別

(単位：%)	広報あつぎ	市のホームページ	市の携帯版 ウェブサイト	本厚木駅前大型映像装置 (あつぎビジョン)	公民館だより	ラジオ	パンフレット・チラシ	掲示板やポスター	新聞(日刊紙)	ケーブルテレビ	タウン誌・ミニコミ誌	その他	無回答
全体 (n=1,270)	82.0	22.8	2.4	7.8	33.1	0.7	6.6	10.8	11.6	8.7	21.7	5.6	3.3
男性 (n=556)	81.3	23.9	2.3	6.5	33.6	0.5	7.6	11.5	13.5	9.2	19.8	5.9	4.1
女性 (n=685)	82.3	22.0	2.6	8.8	33.0	0.9	5.7	9.8	10.1	8.0	23.5	5.3	2.6
20歳未満 (n=15)	66.7	26.7	6.7	40.0	20.0	0.0	6.7	20.0	0.0	0.0	13.3	6.7	6.7
20~29歳 (n=100)	51.0	35.0	2.0	19.0	8.0	1.0	5.0	18.0	13.0	5.0	19.0	13.0	3.0
30~39歳 (n=185)	67.0	44.9	4.9	14.6	11.9	2.2	7.0	13.0	4.3	10.3	16.2	3.8	2.7
40~49歳 (n=191)	79.6	30.4	4.7	6.8	23.0	0.5	7.9	9.9	7.3	4.7	24.1	6.3	2.6
50~59歳 (n=186)	82.8	30.1	2.2	5.9	30.6	0.5	7.5	8.1	9.1	9.7	18.8	5.9	3.2
60~69歳 (n=310)	92.3	8.4	1.6	3.9	45.8	0.3	6.5	10.3	14.8	10.0	26.5	4.2	4.2
70~79歳 (n=190)	93.7	8.9	0.0	4.2	52.6	0.5	4.2	10.0	15.3	9.5	24.2	4.7	3.7
80歳以上 (n=76)	92.1	10.5	1.3	2.6	51.3	0.0	9.2	3.9	25.0	9.2	17.1	5.3	2.6

(2)「広報あつぎ」の入手方法 (A：問 27)

問.「広報あつぎ」をどのように入手していますか。(1つだけ)

図 13-2-1 「広報あつぎ」の配布



n=1,270

【全体】

「広報あつぎ」の入手方法について聞いたところ、「自治会からの配布」(77.5%)が8割に近く、特に高くなっている。

【経年変化】

新規設問であるため、経年変化は記載していない。

【属性別】

性別で見ると、男女ともほぼ同じ傾向になっている。

年齢別で見ると、20～39歳では「自治会からの配布」は5割台となり、他の年代では7割以上と高い結果となっている。

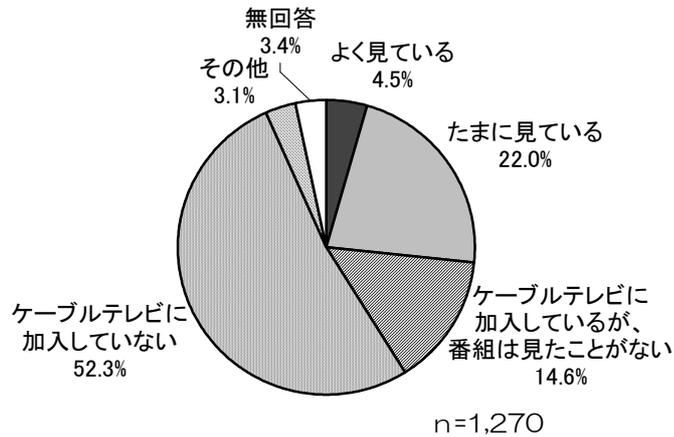
表 13-2-1 「広報あつぎ」の配布—性別、年齢別

(単位：%)	自治会からの配布	市役所、公民館 などの公共施設	駅、病院、スーパー などの民間施設	勤務先	市のホームページ	その他	無回答
全体 (n=1,270)	77.5	4.2	3.5	1.3	1.5	7.8	4.3
男性 (n=556)	77.3	4.7	3.8	0.9	1.6	8.1	3.6
女性 (n=685)	77.8	3.8	3.4	1.5	1.5	7.6	4.5
20歳未満 (n=15)	86.7	6.7	0.0	0.0	0.0	6.7	0.0
20～29歳 (n=100)	55.0	1.0	5.0	5.0	3.0	24.0	7.0
30～39歳 (n=185)	56.8	7.0	8.6	4.9	3.8	15.1	3.8
40～49歳 (n=191)	77.5	3.7	4.7	0.5	2.1	9.4	2.1
50～59歳 (n=186)	80.6	5.4	2.2	0.0	1.6	4.8	5.4
60～69歳 (n=310)	86.8	2.9	2.3	0.0	0.6	3.9	3.5
70～79歳 (n=190)	88.4	5.3	1.1	0.0	0.0	1.6	3.7
80歳以上 (n=76)	85.5	2.6	1.3	0.0	0.0	3.9	6.6

(3) ケーブルテレビ「あつぎ元気 Wave」の視聴頻度（A：問 28）

問. ケーブルテレビの「あゆチャンネル」で放映している市提供番組「あつぎ元気 Wave」を見たことがありますか。（1つだけ）

図 13-3-1 ケーブルテレビ「あつぎ元気 Wave」の視聴頻度



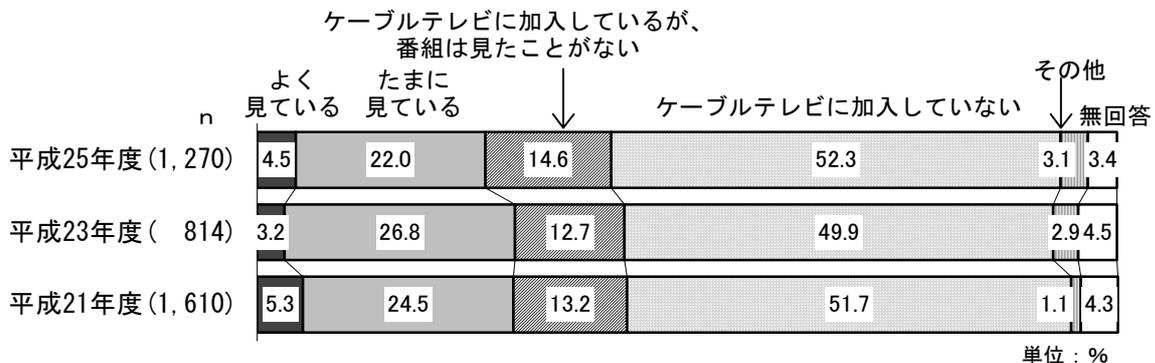
【全体】

ケーブルテレビ「あつぎ元気Wave」の視聴頻度について聞いたところ、「よく見ている」（4.5%）、「たまに見ている」（22.0%）を合わせた『見ている』（26.5%）となっている。一方、「ケーブルテレビに加入していない」（52.3%）が半数を超え、「ケーブルテレビに加入しているが、番組は見たことがない」（14.6%）が1割程度となっている。

【経年変化】

経年による大きな変化は見られない。

図 13-3-2 ケーブルテレビ「あつぎ元気 Wave」の視聴頻度—経年変化

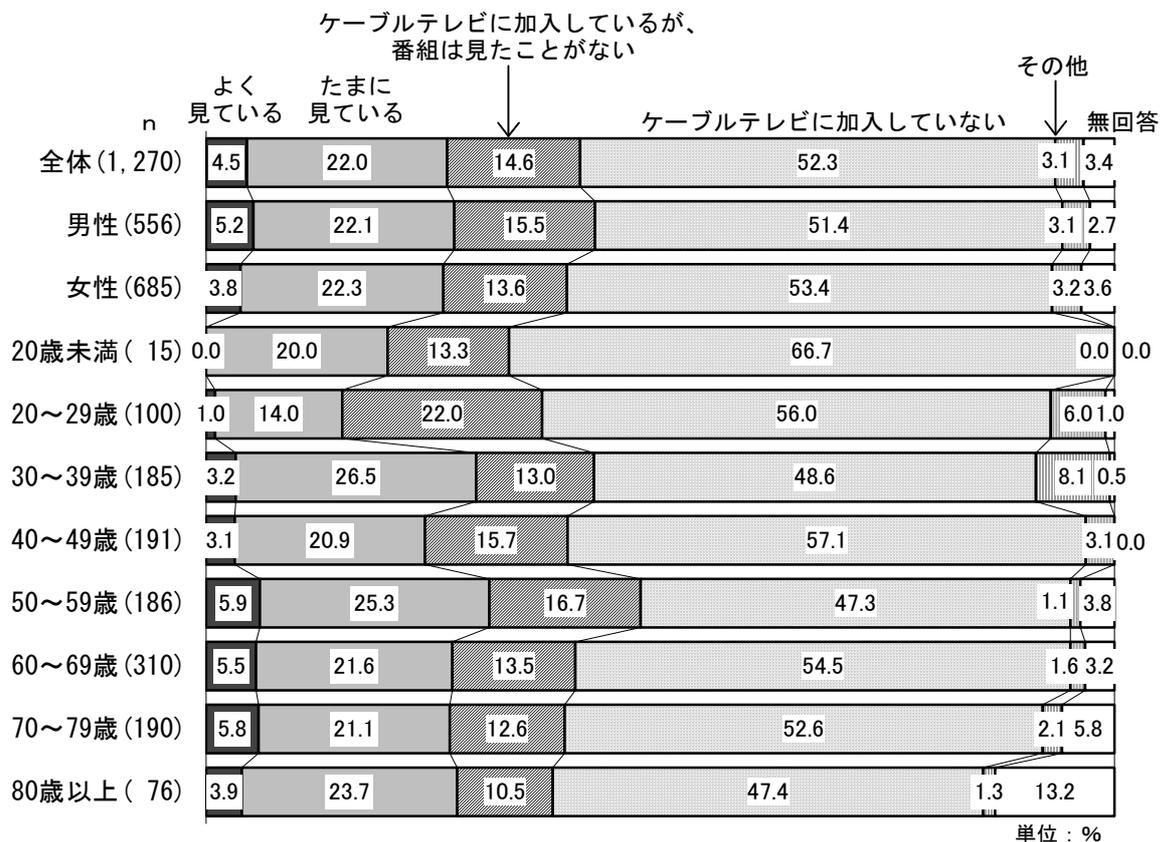


【属性別】

性別で見ると、男女ともほぼ同じ傾向になっている。

年齢別で見ると、50歳代で「よく見ている」（5.9%）、「たまに見ている」（25.3%）を合わせた『見ている』（31.2%）が、最も高くなっている。

図 13-3-3 ケーブルテレビ「あつぎ元気 Wave」の視聴頻度—性別、年齢別

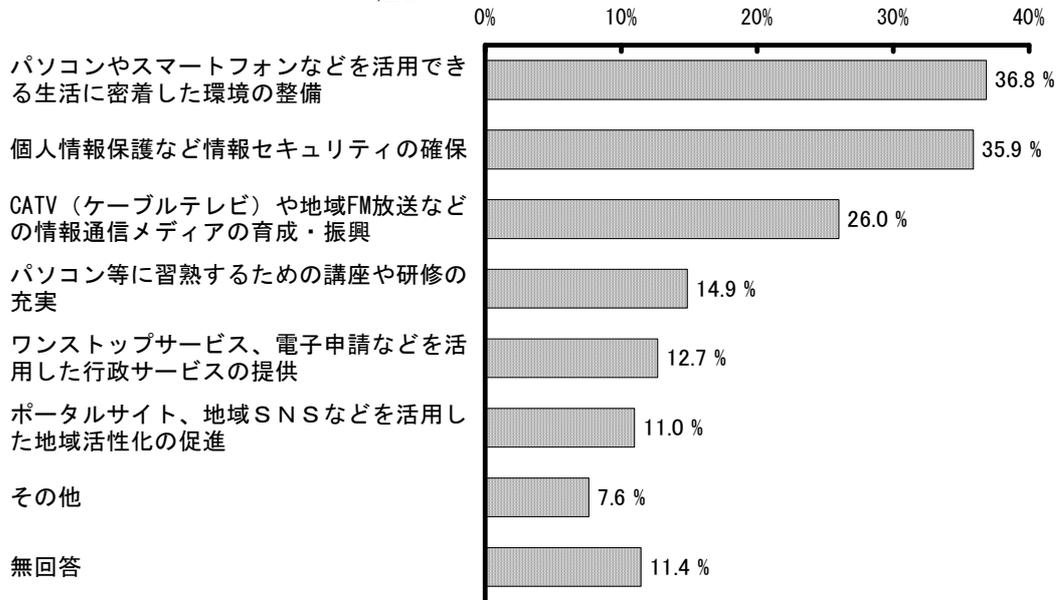


(4) 行政サービスの情報化・ICT化 (B: 問22)

問. 行政サービスの情報化を推進するために何を優先するべきだと考えますか。(2つまで)

図 13-4-1 行政サービスの情報化・ICT化

n=1,284



【全体】

行政サービスの情報化を推進するために何を優先すべきか聞いたところ、「パソコンやスマートフォンなどを活用できる生活に密着した環境の整備」(36.8%) が最も高くなっている。

次いで、「個人情報保護など情報セキュリティの確保」(35.9%)、「CATV (ケーブルテレビ) や地域FM放送などの情報通信メディアの育成・振興」(26.0%) となっている。

【経年変化】

前回調査との比較では、「パソコンやスマートフォンなどを活用できる生活に密着した環境の整備」（36.8%）が、前回に比べて14.8ポイント増加している。

表 13-4-1 行政サービスの情報化・ICT化—経年変化

(単位：%)	平成 25 年度 (n=1,284)	平成 23 年度 (n= 814)	平成 21 年度 (n=1,610)	平成 19 年度 (n=1,506)
CATV（ケーブルテレビ）や 地域 FM 放送などの 情報通信メディアの育成・振興	26.0	27.9	19.1	20.3
パソコンや スマートフォンなどを活用できる 生活に密着した環境の整備	36.8	22.0	8.0	7.1
パソコン等に習熟するための 講座や研修の充実	14.9	17.7	13.4	14.3
ワンストップサービス、 電子申請などを活用した 行政サービスの提供	12.7	17.0	23.1	16.4
個人情報保護など 情報セキュリティの確保	35.9	34.3	29.4	26.6
ポータルサイト、 地域 SNS などを活用した 地域活性化の促進	11.0	9.1	-	-
ユビキタス（いつでも、どこでも、 だれでも利用できるシステム）の促進	-	-	31.0	27.2
IT 関連企業、研究機関などの誘致	-	-	9.8	8.0

(注) 選択肢が異なるため、平成 21 年度調査以前は参考までに掲載している。

【属性別】

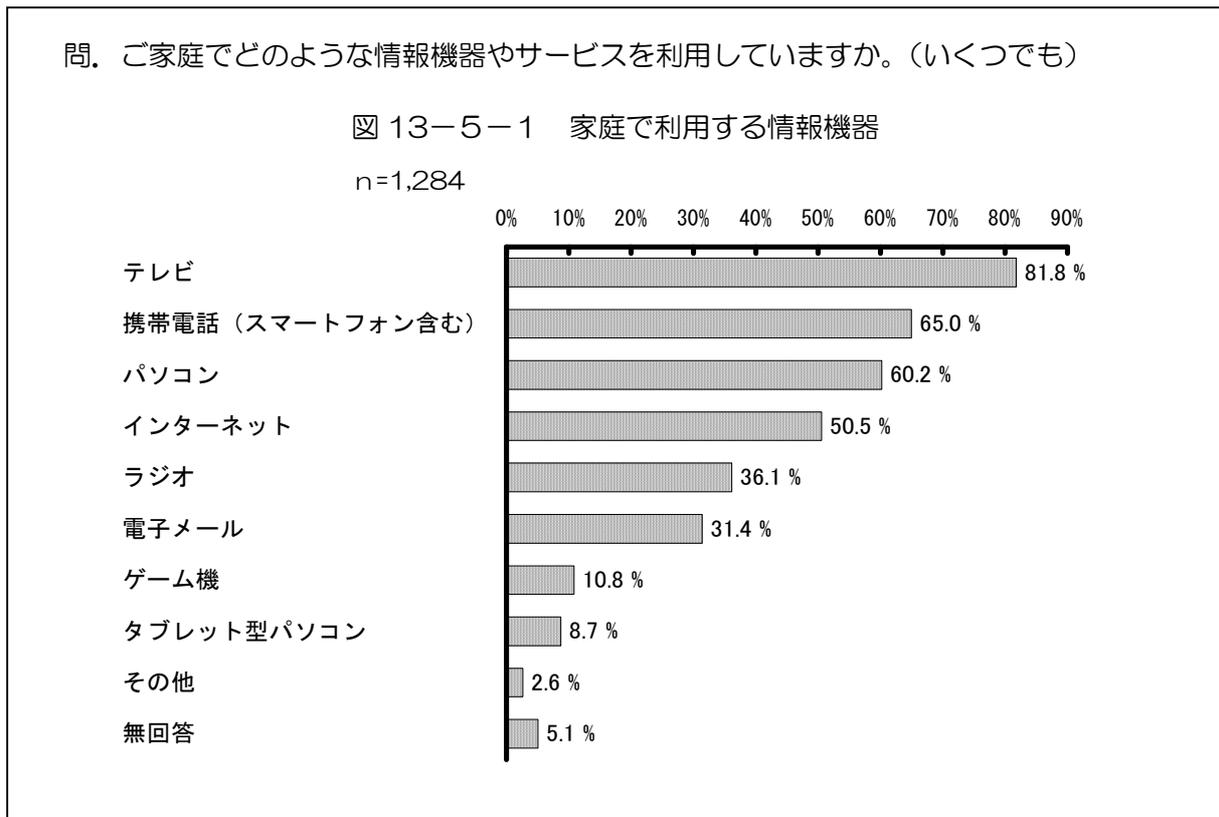
性別で見ると、女性では「個人情報保護など情報セキュリティの確保」（41.8%）で、男性よりも13.6ポイント高くなっている。

年齢別で見ると、49歳以下では「パソコンやスマートフォンなどを活用できる生活に密着した環境の整備」との回答が4割以上と高くなっている。50歳代では、「CATV（ケーブルテレビ）や地域FM放送などの情報通信メディアの育成・振興」（31.3%）が最も高く、60歳代では、「パソコン等に習熟するための講座や研修の充実」が最も高くなっている。

表 13-4-2 行政サービスの情報化・ICT化—性別、年齢別

(単位：%)	情報通信メディアの育成・振興 CATV（ケーブルテレビ）や 地域FM放送などの	パソコンや スマートフォンなどを活用できる 生活に密着した環境の整備	パソコン等に習熟するための 講座や研修の充実	電子申請などを活用した 行政サービスの提供	ワンストップサービス、 行政サービスの提供	個人情報保護など 情報セキュリティの確保	ポータルサイト、 地域SNSなどを活用した 地域活性化の促進	その他	無回答
全体 (n=1,284)	26.0	36.8	14.9	12.7	35.9	11.0	7.6	11.4	
男性 (n=560)	28.2	38.0	14.6	14.5	28.2	11.6	10.4	10.9	
女性 (n=697)	24.7	36.3	15.2	11.2	41.8	10.6	5.5	11.8	
20歳未満 (n=15)	20.0	73.3	6.7	20.0	46.7	6.7	13.3	0.0	
20～29歳 (n=126)	19.8	47.6	15.1	17.5	28.6	25.4	5.6	4.8	
30～39歳 (n=170)	15.3	52.9	11.8	17.6	41.2	13.5	5.3	4.1	
40～49歳 (n=224)	29.5	54.0	10.3	18.3	36.6	9.8	3.1	5.8	
50～59歳 (n=176)	31.3	38.6	9.7	12.5	35.2	9.1	10.2	9.1	
60～69歳 (n=276)	29.0	26.1	24.3	10.1	36.6	8.3	8.0	12.3	
70～79歳 (n=204)	27.0	17.6	16.2	5.4	34.3	8.8	10.3	23.0	
80歳以上 (n=73)	28.8	11.0	15.1	5.5	34.2	6.8	13.7	27.4	

(5) 家庭で利用する情報機器 (B: 問 23)



【全体】

家庭でどのような情報機器やサービスを利用しているか聞いたところ、「テレビ」(81.8%)が8割を超えて最も高くなっている。次いで、「携帯電話(スマートフォン含む)」(65.0%)、「パソコン」(60.2%)、「インターネット」(50.5%)などが5割を超えて高くなっている。

【経年変化】

選択肢が異なるため、経年変化は掲載していない。

【属性別】

性別で見ると、女性では「テレビ」（85.9%）が、男性よりも8.9ポイント高くなっている。

年齢別で見ると、59歳以下では「パソコン」、「携帯電話（スマートフォン含む）」、「テレビ」、「インターネット」の4項目が全て5割を超えて高い結果となっている。

表 13-5-1 家庭で保有する情報機器—性別、年齢

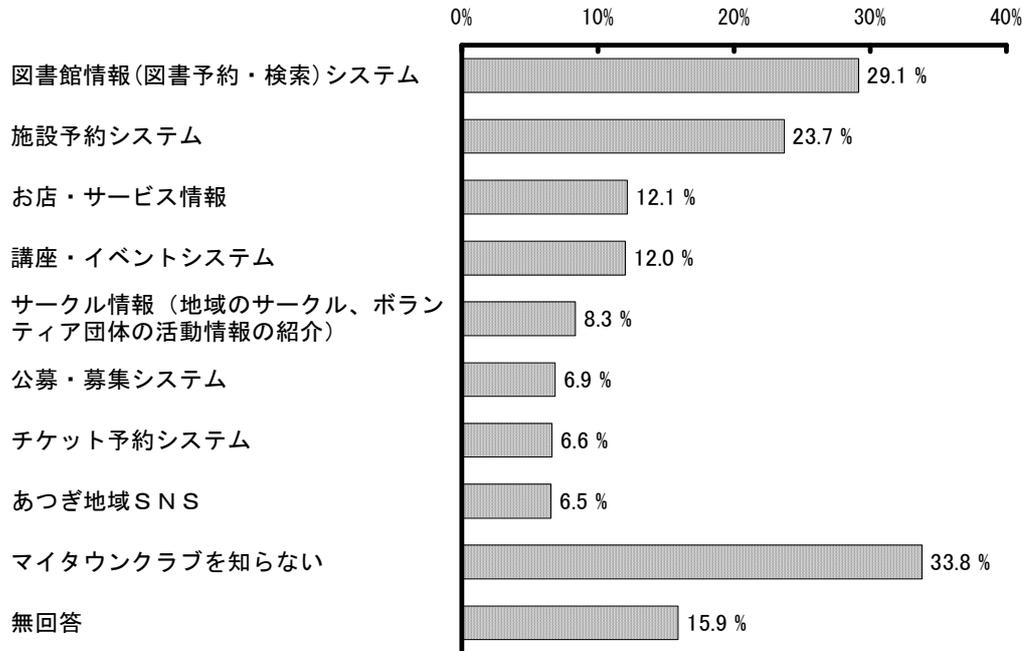
(単位：%)	パソコン	タブレット型パソコン	携帯電話 (スマートフォン含む)	テレビ	ラジオ	ゲーム機	インターネット	電子メール	その他	無回答
全体 (n=1,284)	60.2	8.7	65.0	81.8	36.1	10.8	50.5	31.4	2.6	5.1
男性 (n=560)	62.7	9.3	62.5	77.0	35.4	9.8	51.1	32.7	3.4	5.7
女性 (n=697)	59.1	8.5	67.3	85.9	37.0	11.9	50.6	30.7	1.9	4.0
20歳未満 (n=15)	73.3	13.3	86.7	80.0	20.0	20.0	73.3	33.3	6.7	0.0
20～29歳 (n=126)	81.7	11.1	92.9	78.6	22.2	28.6	67.5	44.4	1.6	1.6
30～39歳 (n=170)	77.1	13.5	85.9	80.0	28.8	21.2	68.8	46.5	0.6	1.8
40～49歳 (n=224)	79.5	17.4	83.9	81.3	31.3	18.3	70.5	51.3	2.2	3.6
50～59歳 (n=176)	60.2	9.1	67.0	84.1	38.6	6.3	52.3	28.4	2.8	4.5
60～69歳 (n=276)	50.7	5.1	51.1	84.8	44.9	2.2	37.3	22.5	3.6	4.7
70～79歳 (n=204)	39.2	1.5	39.2	79.9	43.6	1.5	29.4	10.8	2.0	8.3
80歳以上 (n=73)	19.2	1.4	26.0	86.3	38.4	1.4	15.1	12.3	6.8	12.3

(6)「マイタウンクラブ」の認知度（B：問24）

問. 市インターネットサービス「マイタウンクラブ」が提供しているサービスで、利用したことのある、または知っているサービスは何ですか。（いくつでも）

図 13-6-1 「マイタウンクラブ」の認知度

n=1,284



【全体】

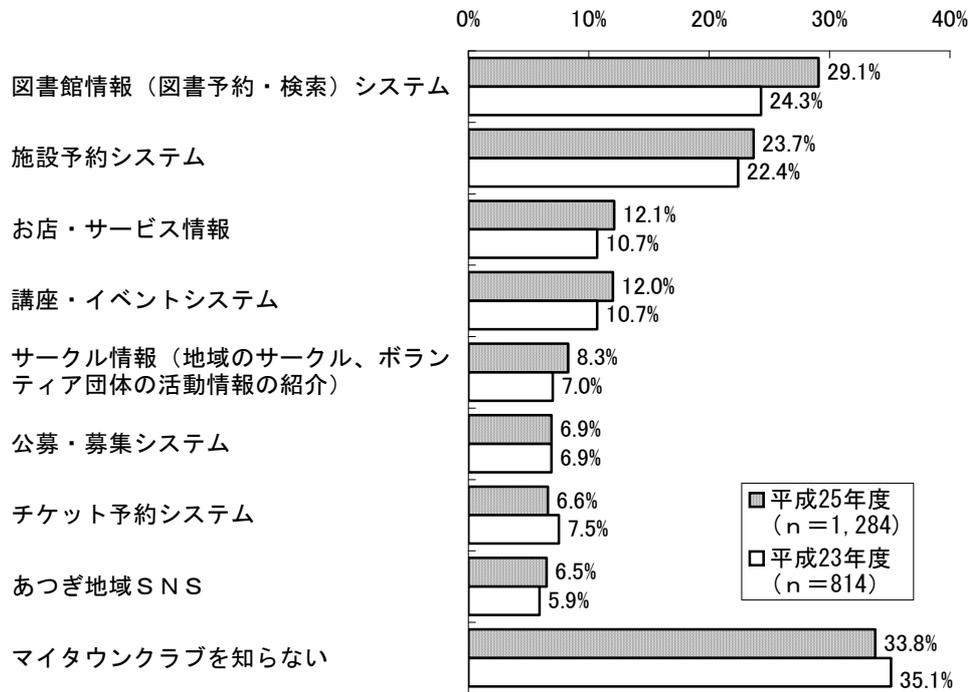
市インターネットサービス「マイタウンクラブ」が提供しているサービスで、利用したことのある、または知っているサービスについて聞いたところ、『利用したことのある、または知っているサービス』としては、「図書館情報（図書予約・検索）システム」（29.1%）が最も高く、次いで「施設予約システム」（23.7%）、「お店・サービス情報」（12.1%）、「講座・イベントシステム」（12.0%）と続いている。

一方、「マイタウンクラブを知らない」が33.8%となっている。

【経年変化】

経年による大きな変化は見られない。

図 13-6-2 「マイタウンクラブ」の認知度—経年変化



【属性別】

性別で見ると、女性では「図書館情報（図書予約・検索）システム」（33.4%）が、男性よりも9.1ポイント高くなっている。

年齢別で見ると、49歳以下では「図書館情報（図書予約・検索）システム」の回答が、3割を超えて高くなっている。

表 13-6-1 「マイタウンクラブ」の認知度—性別、年齢別

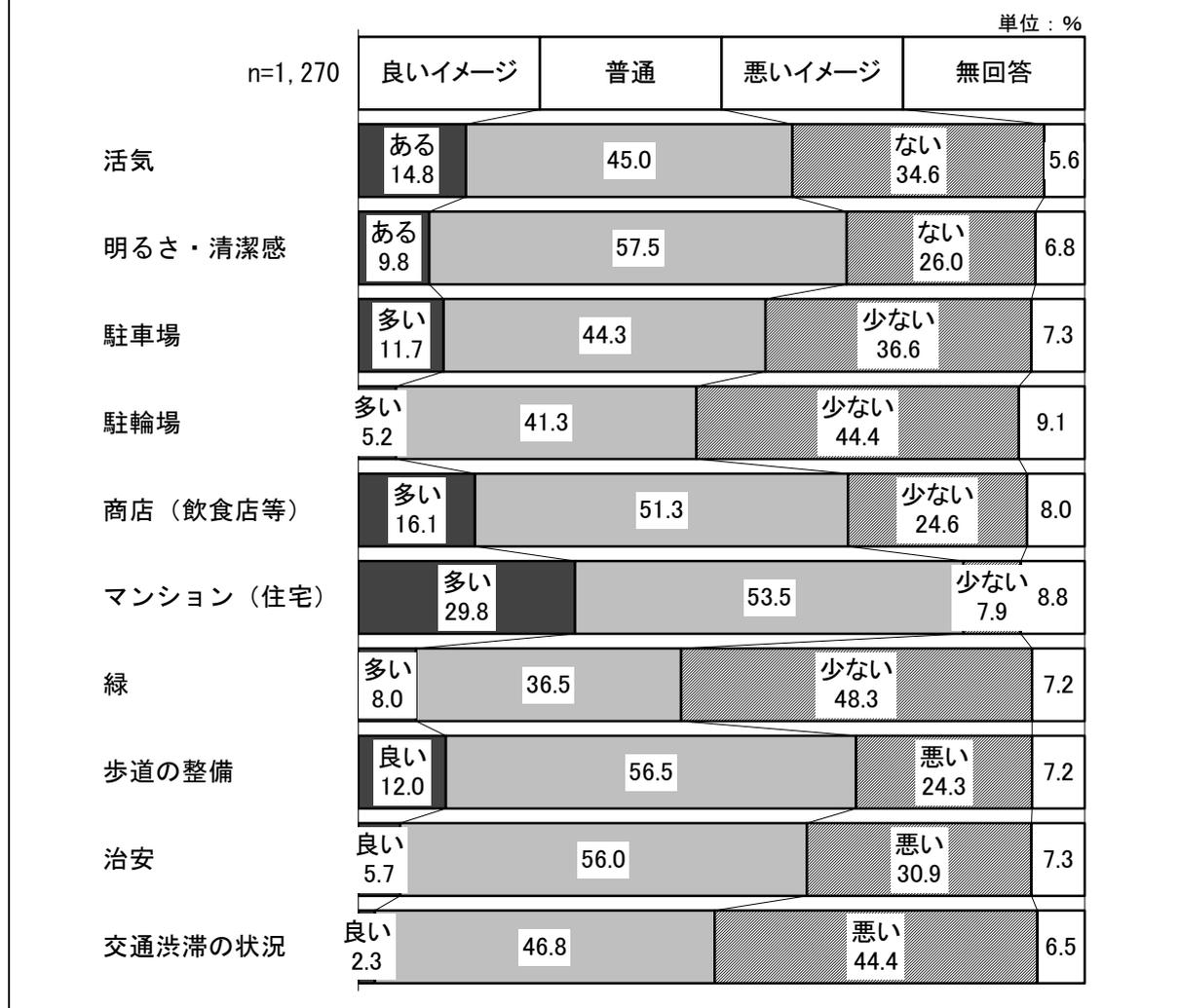
(単位：%)	図書館情報 (図書予約・検索)システム	施設予約システム	講座・イベントシステム	公募・募集システム	サークル情報（地域のサークル、ボランティア団体の活動情報の紹介）	チケット予約システム	お店・サービス情報	あつぎ地域SNS	マイタウンクラブを知らない	無回答
全体 (n=1,284)	29.1	23.7	12.0	6.9	8.3	6.6	12.1	6.5	33.8	15.9
男性 (n=560)	24.3	22.0	9.8	6.6	6.3	5.4	11.6	6.6	36.4	17.0
女性 (n=697)	33.4	25.3	14.1	7.2	10.2	7.5	12.8	6.7	31.7	14.2
20歳未満 (n=15)	66.7	33.3	13.3	0.0	0.0	0.0	13.3	6.7	6.7	13.3
20～29歳 (n=126)	49.2	29.4	4.0	6.3	4.8	3.2	7.1	5.6	31.7	4.8
30～39歳 (n=170)	33.5	23.5	11.8	4.1	5.9	4.1	12.9	7.6	37.1	7.6
40～49歳 (n=224)	39.3	34.4	17.0	10.3	8.9	5.4	10.7	9.4	29.9	9.4
50～59歳 (n=176)	23.9	15.9	13.1	4.5	6.8	6.3	12.5	4.5	41.5	14.2
60～69歳 (n=276)	21.0	23.2	11.6	9.4	11.2	9.1	15.2	7.2	34.4	18.5
70～79歳 (n=204)	19.1	17.6	10.3	4.4	10.3	9.3	11.3	5.9	30.9	27.5
80歳以上 (n=73)	20.5	20.5	17.8	9.6	8.2	8.2	13.7	2.7	32.9	30.1

14 まちづくり

(1) 本厚木駅周辺のイメージ (A: 問 29)

問. 現在の本厚木駅周辺 (中心市街地) のイメージについて、どう思いますか。(それぞれ①～③の中から該当するものを選び○で囲んでください。)

図 14-1-1 本厚木駅周辺のイメージ



【全体】

現在の本厚木駅周辺 (中心市街地) のイメージについて、10 の項目ごとに聴いたところ、良いイメージが高いのは「マンション (住宅)」(29.8%) となっている。

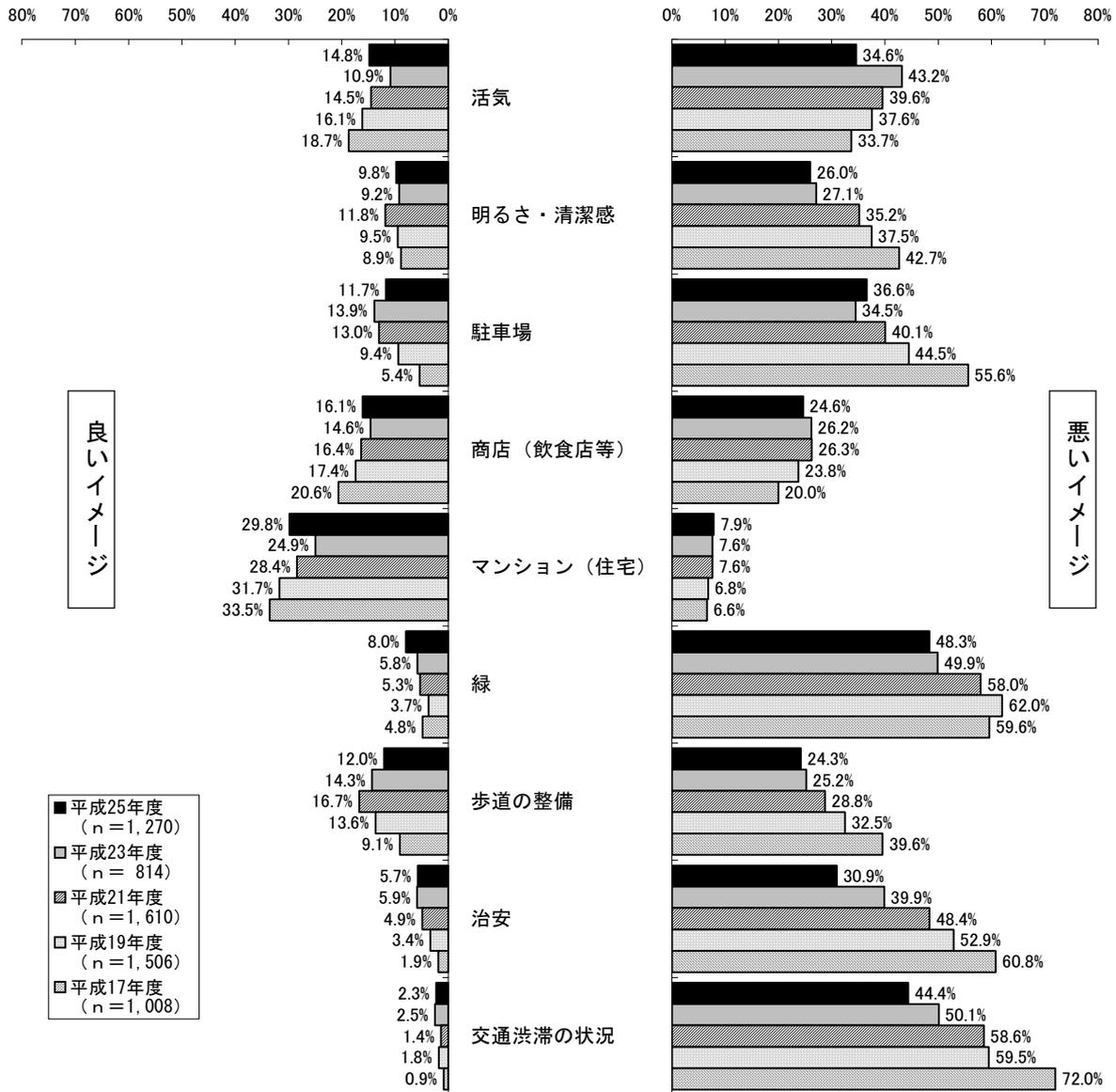
悪いイメージが最も高いのは「緑」(48.3%)、次いで、「駐輪場」・「交通渋滞の状況」(ともに44.4%) となっている。

【経年変化】

経年による変化を見ると、『良いイメージ』では、「活気」、「明るさ・清潔感」、「マンション（住宅）」「緑」が、増加傾向となっている。

一方、「活気」、「明るさ・清潔感」、「歩道の整備」、「治安」、「交通渋滞の状況」は、『悪いイメージ』が減少傾向にある。

図 14-1-2 本厚木駅周辺のイメージ経年変化

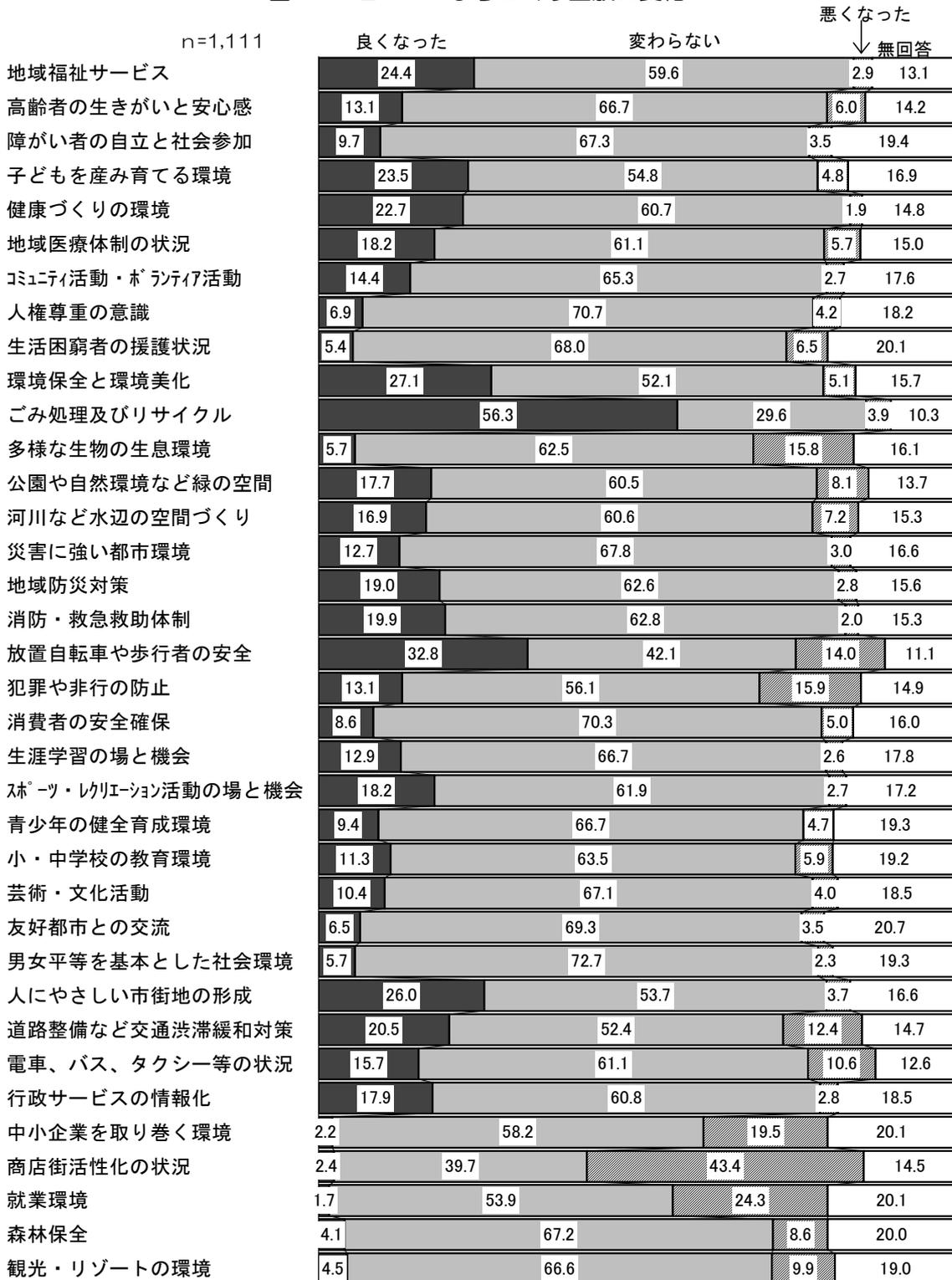


(注) 「駐輪場」については、今回の調査から追加した項目のため、掲載していない。

(2) まちづくり全般の変化 (A : 問 30)

問. まちづくり全般の変化について、どう思いますか。(それぞれ①~③の中から該当するものを選び○印を記入してください。)(厚木市に転入されて5年未満の方は、問31へお進みください。)

図 14-2-1 まちづくり全般の変化



単位 : %

【全体】

5年前と比べて、まちづくりがどのように変化したと思うか聞いたところ、「良くなった」との回答が全体で最も高かった項目は、『ごみ処理及びリサイクル』（56.3%）で半数を超えている。他に「良くなった」との回答が高い項目は『放置自転車や歩行者の安全』（32.8%）、『環境保全と環境美化』（27.1%）、『人にやさしい市街地の形成』（26.0%）と続いている。

「悪くなった」との回答が全体で最も高かった項目は、『商店街活性化の状況』（43.4%）で4割を超えている。他に「悪くなった」との回答が高い項目は『就業環境』（24.3%）、『中小企業を取り巻く環境』（19.5%）、『犯罪や非行の防止』（15.9%）、『多様な生物の生息環境』（15.8%）と続いている。

「変わらない」との回答は、『ごみ処理及びリサイクル』（29.6%）、『商店街活性化の状況』（39.7%）を除いた34項目で高くなっており、中でも、『男女平等を基本とした社会環境』（72.7%）、『人権尊重の意識』（70.7%）『消費者の安全確保』（70.3%）の3項目で7割以上と、特に高くなっている。

表 14-2-1 まちづくり全般の変化－上位5項目

順位	良くなった		変わらない		悪くなった	
	項目	割合	項目	割合	項目	割合
1	ごみ処理及びリサイクル	56.3	男女平等を基本とした社会環境	72.7	商店街活性化の状況	43.4
2	放置自転車や歩行者の安全	32.8	人権尊重の意識	70.7	就業環境	24.3
3	環境保全と環境美化	27.1	消費者の安全確保	70.3	中小企業を取り巻く環境	19.5
4	人にやさしい市街地の形成	26.0	友好都市との交流	69.3	犯罪や非行の防止	15.9
5	地域福祉サービス	24.4	生活困窮者の援護状況	68.0	多様な生物の生息環境	15.8

(単位：%)

【経年変化】（次ページに表あり）

経年による変化を見ると、良くなったものでは、「ごみ処理及びリサイクル」が全5回の調査でいずれも1位となっている。その他、全5回の調査で上位5位以内の項目としては「人にやさしい市街地の形成」があり、直近4回の調査では「環境保全と環境美化」が5位以内に入っている。

悪くなったものとしては「商店街活性化の状況」が直近4回で全て1位となっており、4割台で推移している。その他、全5回の調査で上位5位以内の項目としては「犯罪や非行の防止」が入っているが、平成17年度調査と比較すると、今回の結果（15.8%）は38.4ポイントと大幅に減少している。また、直近3回の調査では、2位に「就業環境」、3位に「中小企業を取り巻く環境」、4位に「犯罪や非行の防止」、5位に「多様な生物の生息環境」と続いている。

表 14-2-2 まちづくり全般の変化—経年変化／よくなったもの

順位	平成 25 年度 (n=1, 111)		平成 23 年度 (n=699)		平成 21 年度 (n=1, 610)		平成 19 年度 (n=1, 506)		平成 17 年度 (n=1, 008)	
1	ごみ処理及びリサイクル	56.3	ごみ処理及びリサイクル	67.5	ごみ処理及びリサイクル	51.5	ごみ処理及びリサイクル	46.7	ごみ処理及びリサイクル	53.1
2	放置自転車や歩行者の安全	32.8	環境保全と環境美化	34.8	人にやさしい市街地の形成(ﾊﾞﾘｱﾌﾘｰ等)	33.3	人にやさしい市街地の形成(ﾊﾞﾘｱﾌﾘｰ等)	31.3	地域福祉サービス	27.6
3	環境保全と環境美化	27.1	放置自転車や歩行者の安全	32.6	環境保全と環境美化	31.2	放置自転車や歩行者の安全	28.8	消防・救急救助体制	27.0
4	人にやさしい市街地の形成	26.0	人にやさしい市街地の形成(ﾊﾞﾘｱﾌﾘｰ等)	30.6	放置自転車や歩行者の安全	29.6	環境保全と環境美化	25.6	人にやさしい市街地の形成(ﾊﾞﾘｱﾌﾘｰ等)	26.5
5	地域福祉サービス	24.4	子どもを産み育てる環境	28.0	公園や自然環境など緑の空間	27.5	公園や自然環境など緑の空間	24.8	地域防災対策	24.0

(単位：%)

表 14-2-3 まちづくり全般の変化—経年変化／悪くなったもの

順位	平成 25 年度 (n=1, 111)		平成 23 年度 (n=699)		平成 21 年度 (n=1, 610)		平成 19 年度 (n=1, 506)		平成 17 年度 (n=1, 008)	
1	商店街活性化の状況	43.4	商店街活性化の状況	48.8	商店街活性化の状況	43.3	商店街活性化の状況	44.2	犯罪や非行の防止	54.2
2	就業環境	24.3	就業環境	37.9	就業環境	36.8	犯罪や非行の防止	36.4	商店街活性化の状況	48.0
3	中小企業を取り巻く環境	19.5	中小企業を取り巻く環境	28.3	中小企業を取り巻く環境	27.5	地域医療体制の状況／多様な生物の生息環境(同率)	26.2	放置自転車や歩行者の安全	33.3
4	犯罪や非行の防止	15.9	犯罪や非行の防止	21.2	犯罪や非行の防止	27.2	子どもを産み育てる環境	25.5	道路整備など交通渋滞緩和対策	32.9
5	多様な生物の生息環境	15.8	多様な生物の生息環境	17.0	多様な生物の生息環境	22.8	就業環境	29.7		

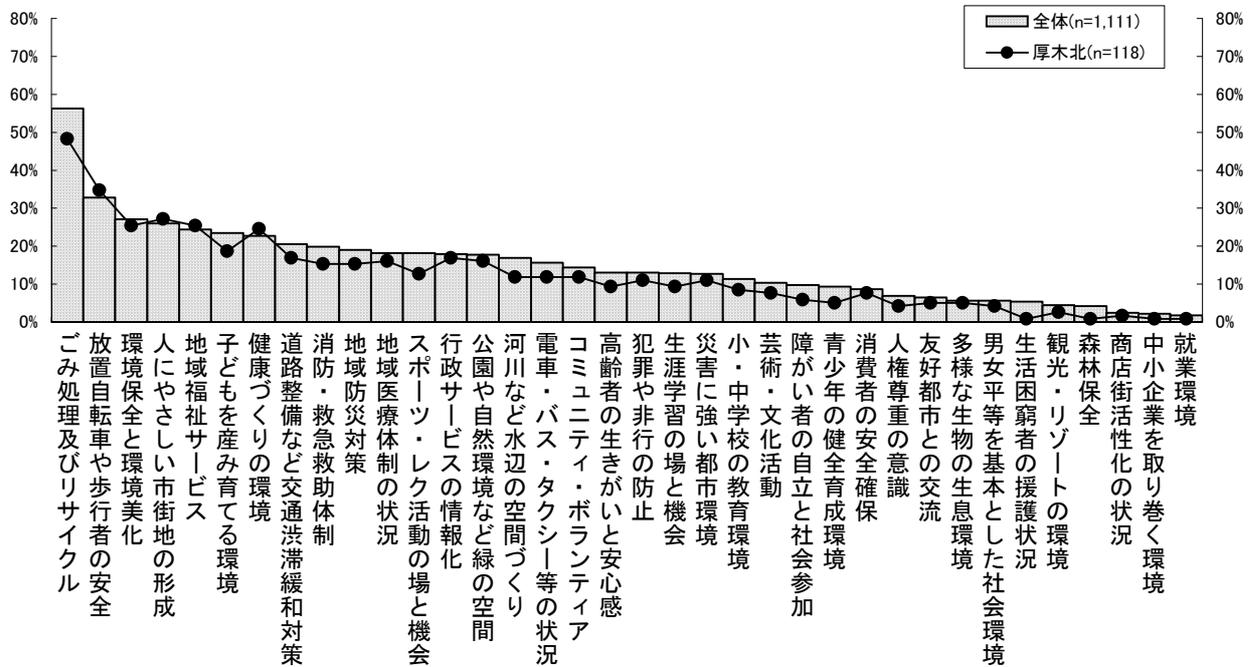
(単位：%)

【地区ごとの傾向】

〔厚木北地区〕

「良くなったもの」では、全体と比べて、「放置自転車や歩行者の安全」、「健康づくりの環境」が高くなっている。一方、「ごみ処理及びリサイクル」が特に低くなっている。

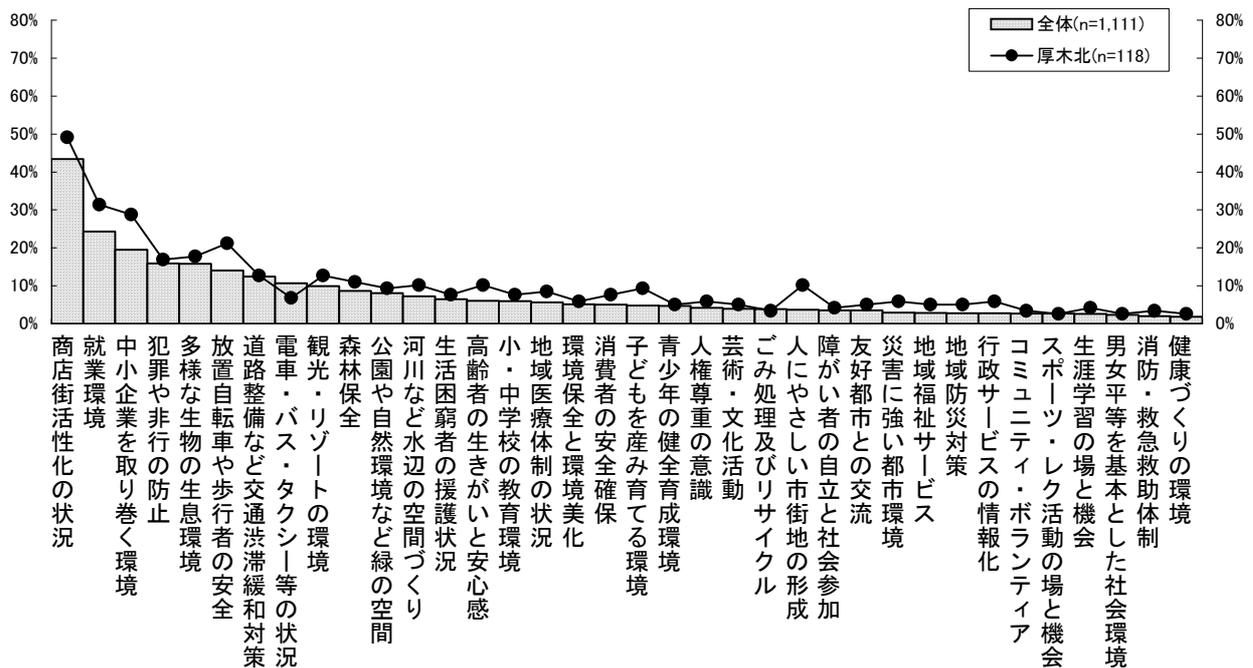
図14-2-2 まちづくり全般の変化-厚木北地区（良くなったもの）



悪くなったものでは、全体と比べて「放置自転車や歩行者の安全」、「就業環境」、「人にやさしい市街地の形成」、「商店街活性化の状況」が高くなっている。

一方、「電車、バス、タクシー等の状況」、「ごみ処理及びリサイクル」、「スポーツ・レク活動の場と機会」が低くなっている。

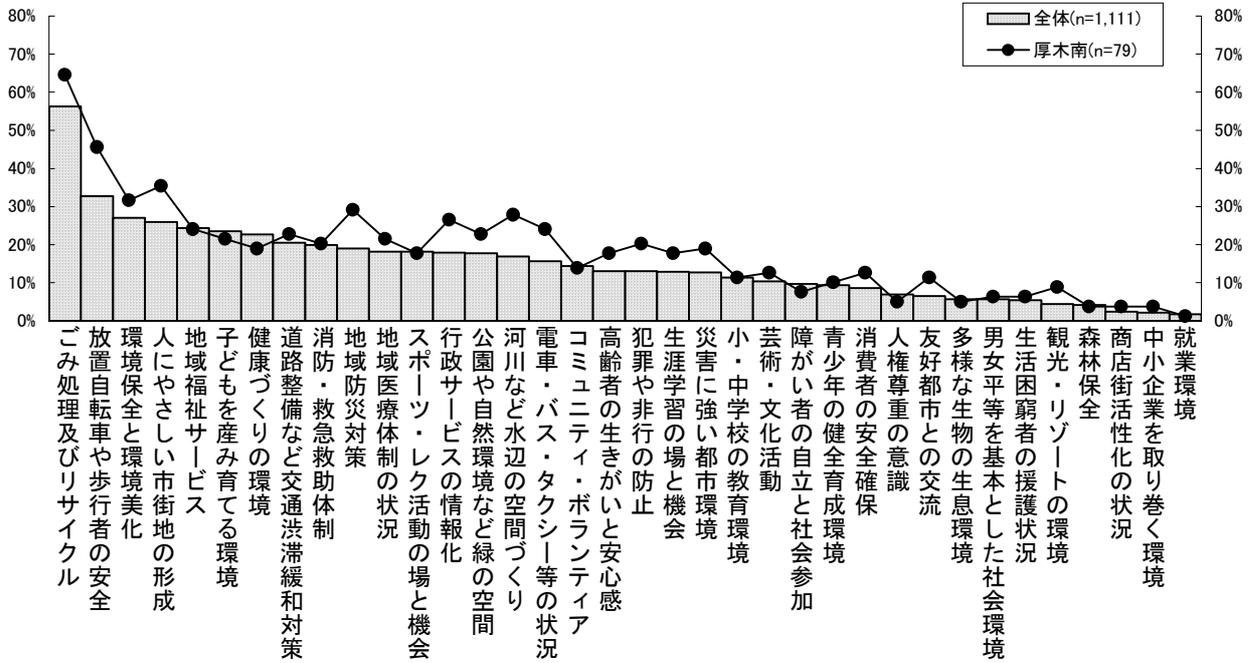
図14-2-3 まちづくり全般の変化-厚木北地区（悪くなったもの）



〔厚木南地区〕

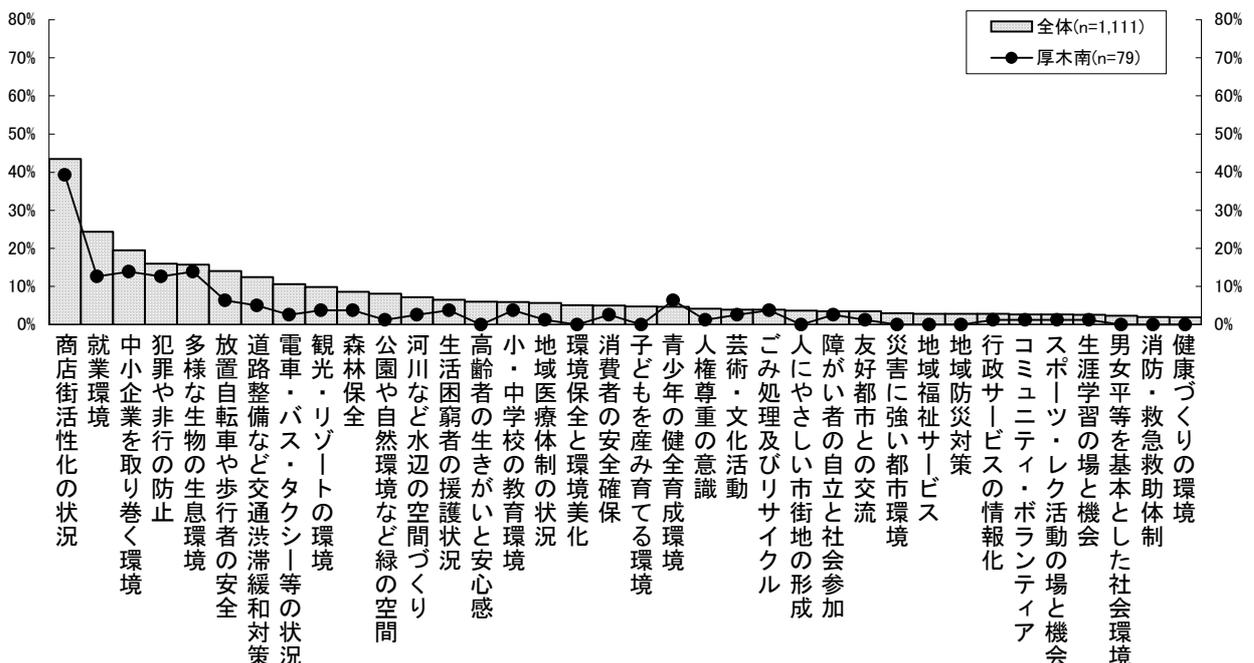
「良くなったもの」では、全体と比べて、特に「放置自転車や歩行者の安全」、「河川など水辺の空間づくり」、「地域防災対策」が高く、他にも「人にやさしい市街地の形成」、「行政サービスの情報化」、「電車、バス、タクシー等の状況」、「ごみ処理及びリサイクル」、「犯罪や非行の防止」、「災害に強い都市環境」、「公園や自然環境など緑の空間」も高くなっている。

図 14-2-4 まちづくり全般の変化—厚木南地区（良くなったもの）



悪くなったものでは、全体と比べて、特に「就業環境」が低く、次いで「電車、バス、タクシー等の状況」、「放置自転車や歩行者の安全」、「道路整備など交通渋滞緩和対策」、「公園や自然環境など緑の空間」、「観光・リゾートの環境」、「高齢者の生きがいと安心感」、「中小企業を取り巻く環境」、「環境保全と環境美化」なども低くなっている。

図 14-2-5 まちづくり全般の変化—厚木南地区（悪くなったもの）

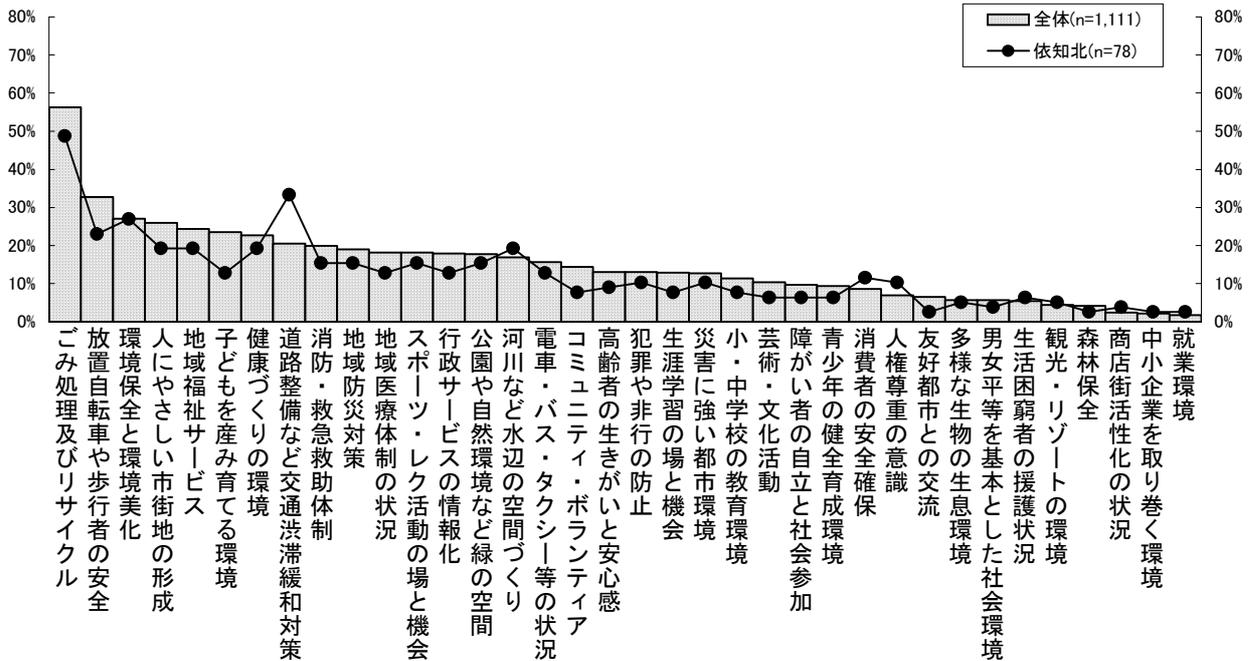


〔依知北地区〕

良くなったものでは、全体と比べて「道路整備など交通渋滞緩和対策」が特に高くなっている。次いで、「河川など水辺の空間づくり」「消費者の安全確保」「人権尊重の意識」が高くなっている。

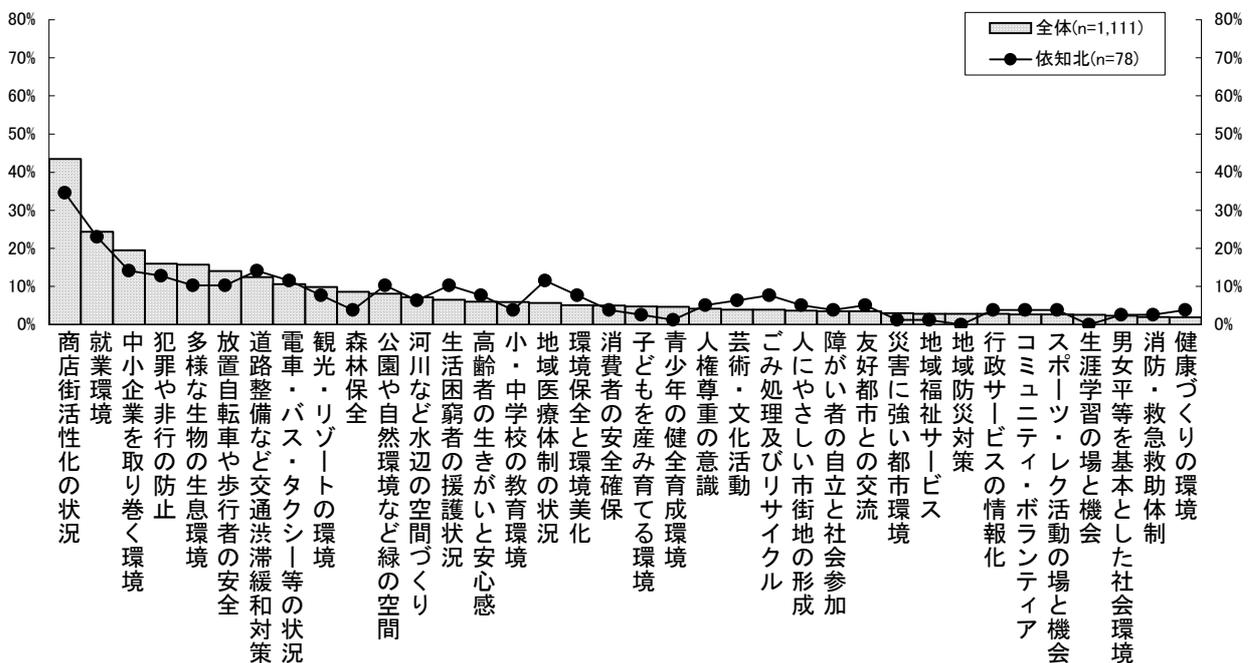
一方、「放置自転車や歩行者の安全」、「ゴミ処理及びリサイクル」、「人にやさしい市街地の形成」、「コミュニティ・ボランティア」、「地域医療体制の状況」、「生涯学習の場と機会」などが低く、特に「子どもを産み育てる環境」が低くなっている。

図 14-2-6 まちづくり全般の変化—依知北地区（良くなったもの）



悪くなったものでは、全体と比べて「地域医療体制の状況」、「生活困窮者の援護状況」が高くなっている。一方、「商店街活性化の状況」、「多様な生物の生息環境」、「中小企業を取り巻く環境」が低くなっている。

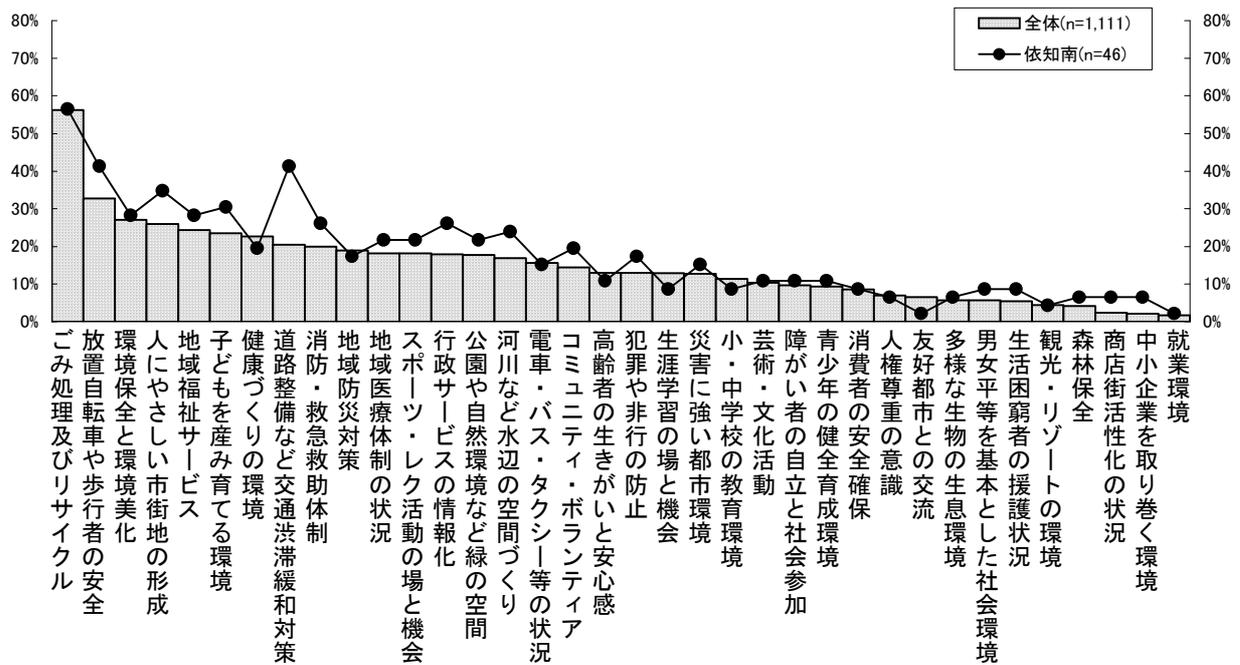
図 14-2-7 まちづくり全般の変化—依知北地区（悪くなったもの）



〔依知南地区〕

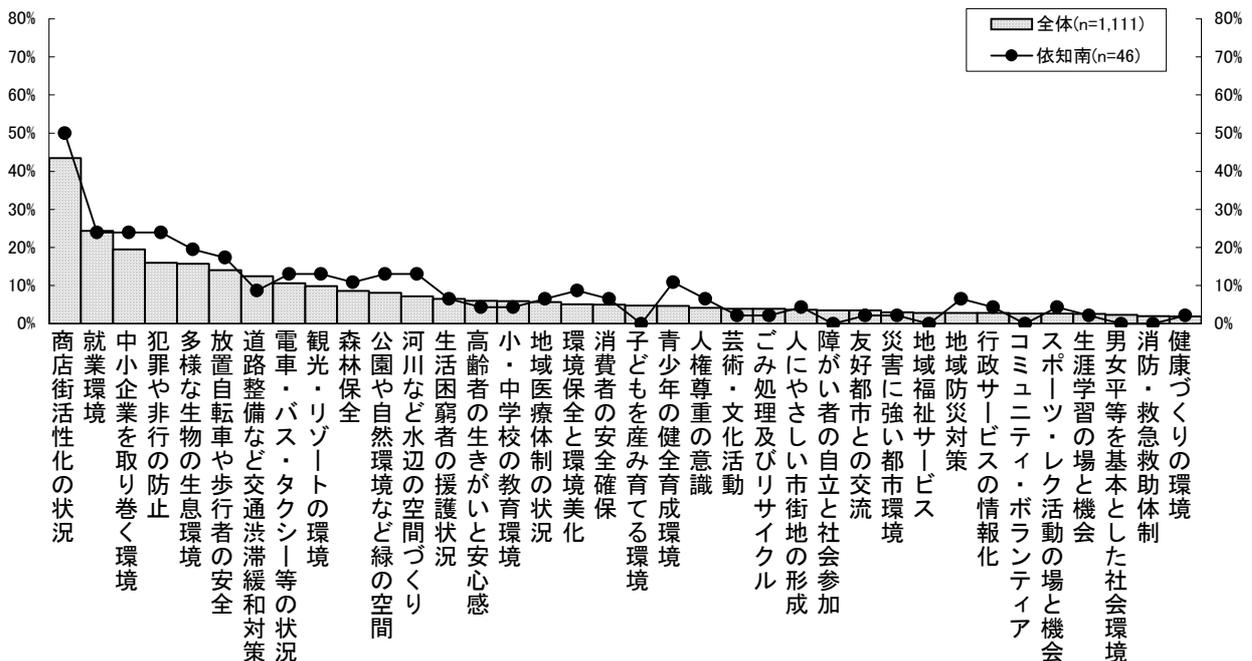
良くなったものでは、全体と比べて、特に「道路整備など交通渋滞緩和対策」が高く、次いで「人にやさしい市街地の形成」、「放置自転車や歩行者の安全」、「行政サービスの情報化」、「河川など水辺の空間づくり」、「子どもを産み育てる環境」、「消防・救急救助体制」、「コミュニティ・ボランティア」が高くなっている。

図 14-2-8 まちづくり全般の変化－依知南地区（良くなったもの）



悪くなったものでは、全体と比べて、「犯罪や非行の防止」、「商店街活性化の状況」、「青少年の健全育成環境」、「河川など水辺の空間づくり」が高くなっている。

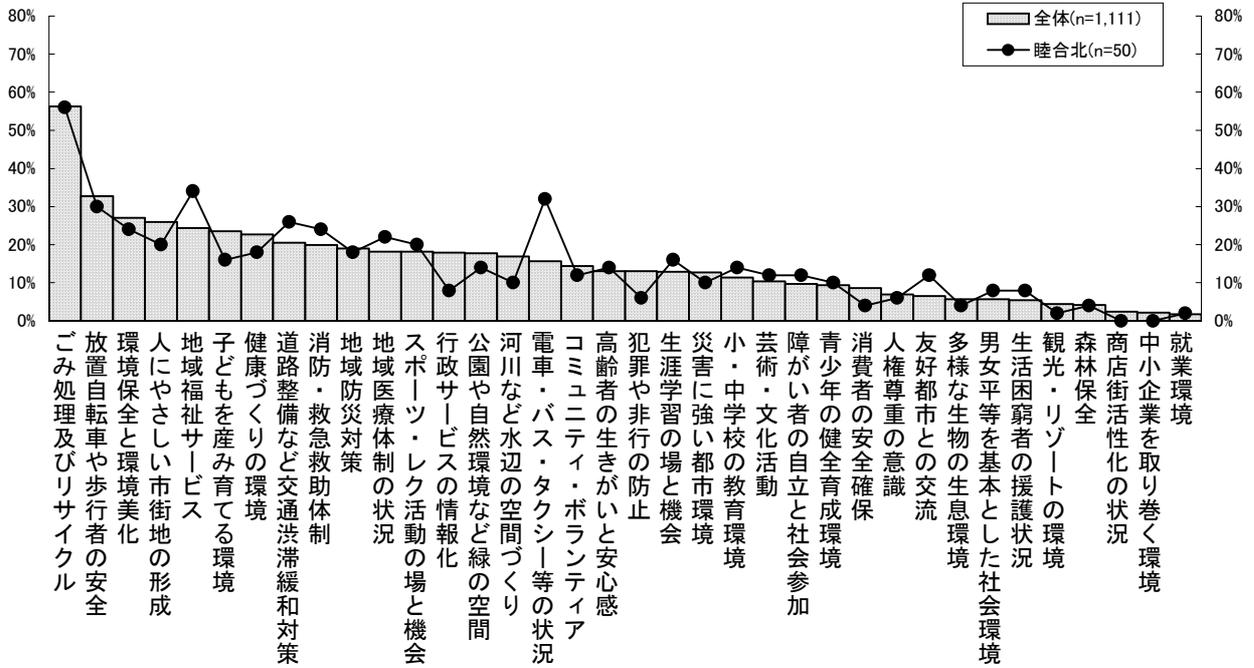
図 14-2-9 まちづくり全般の変化－依知南地区（悪くなったもの）



〔睦合北地区〕

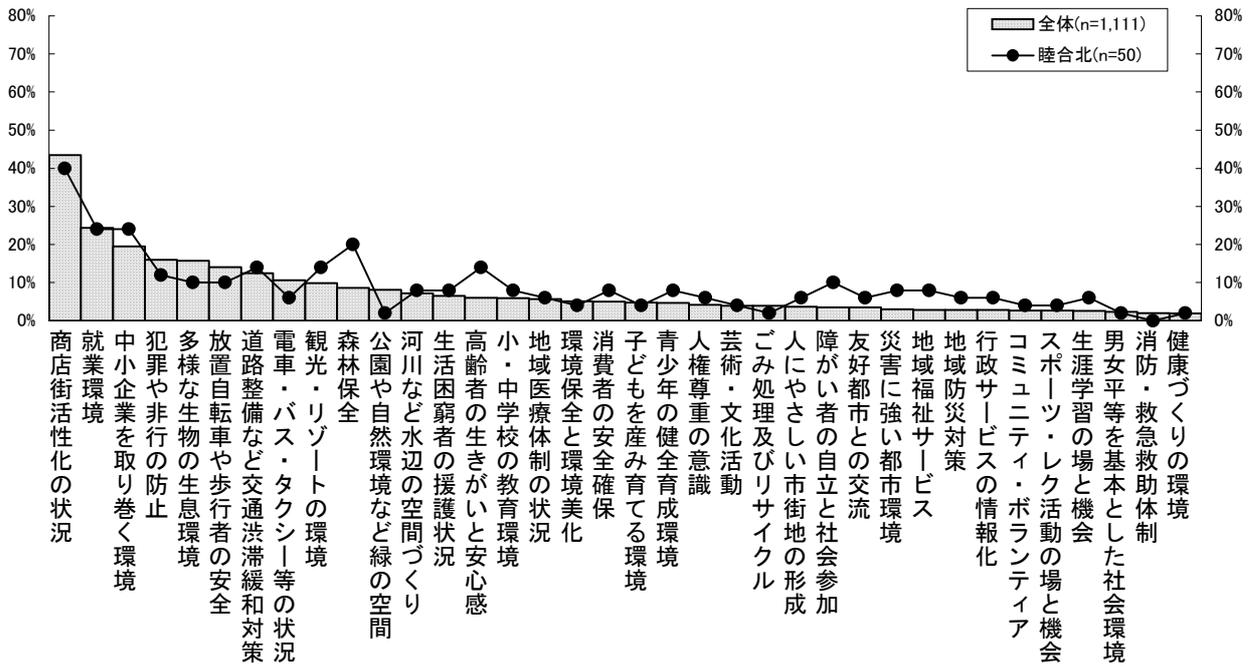
良くなったものでは、全体と比べて「電車、バス、タクシー等の状況」が特に高く、次いで「地域福祉サービス」、「友好都市との交流」、「道路整備など交通渋滞緩和対策」が高くなっている。一方、「行政サービスの情報化」、「子どもを産み育てる環境」、「犯罪や非行の防止」、「河川など水辺の空間づくり」、「人にやさしい市街地の形成」が低くなっている。

図 14-2-10 まちづくり全般の変化—睦合北地区（良くなったもの）



悪くなったものでは、全体と比べて「森林保全」が特に高く、「高齢者の生きがいと安心感」、「障がい者の自立と社会参加」、「地域福祉サービス」、「災害に強い都市環境」などが高くなっている。一方、「公園や自然環境など緑の空間」、「多様な生物の生息環境」などが低くなっている。

図 14-2-11 まちづくり全般の変化—睦合北地区（悪くなったもの）

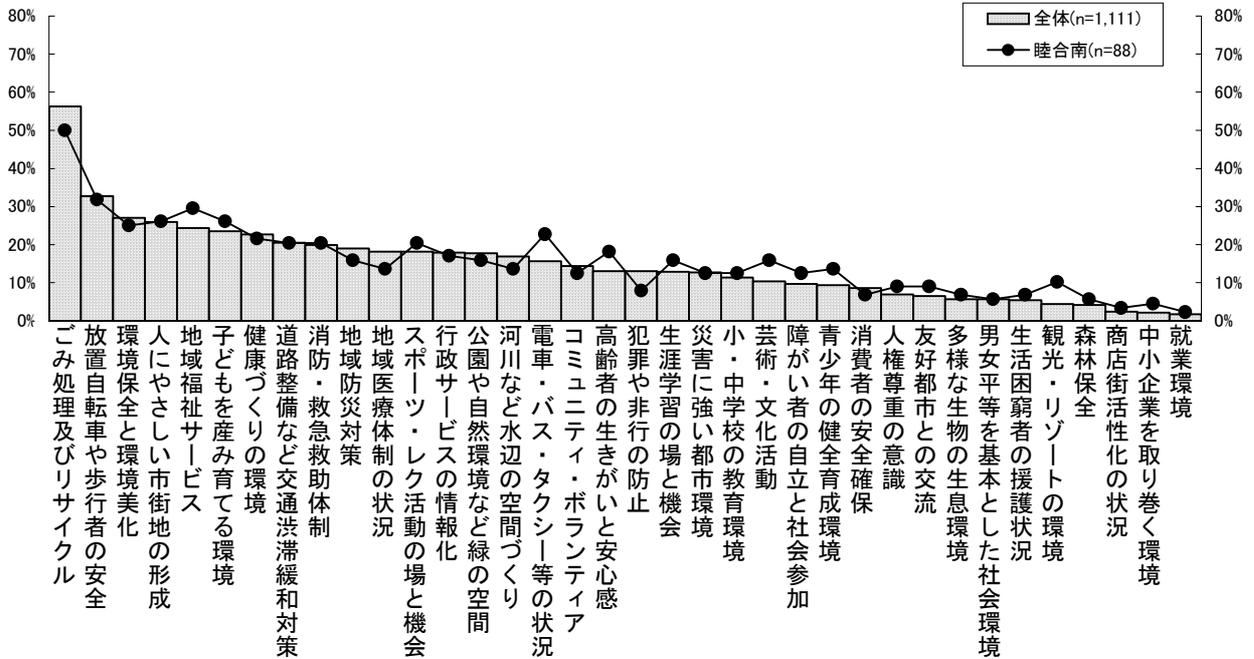


〔睦合南地区〕

良くなったものでは、全体と比べて「電車、バス、タクシー等の状況」、「観光・リゾートの環境」、「芸術・文化活動」、「地域福祉サービス」、「高齢者の生きがいと安心感」が高くなっている。

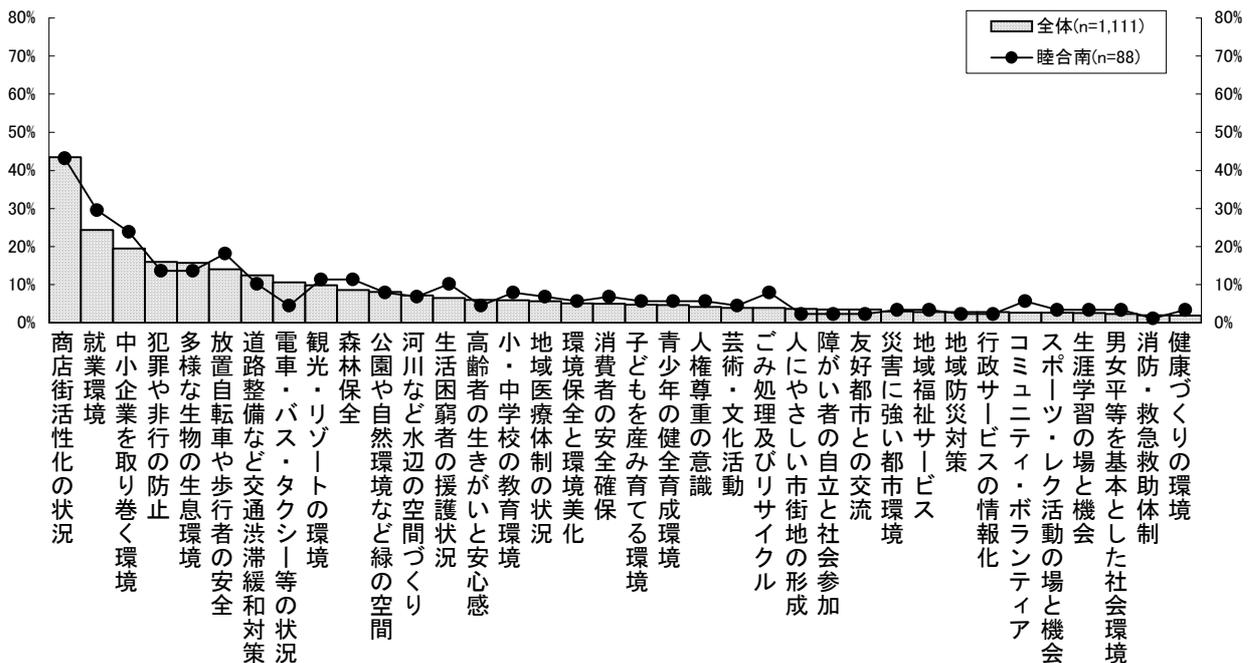
一方、「ごみ処理及びリサイクル」、「犯罪や非行の防止」は低くなっている。

図 14-2-12 まちづくり全般の変化—睦合南地区（良くなったもの）



悪くなったものでは、全体と比べて「就業環境」が高くなっている。また、「電車、バス、タクシー等の状況」が低くなっている。

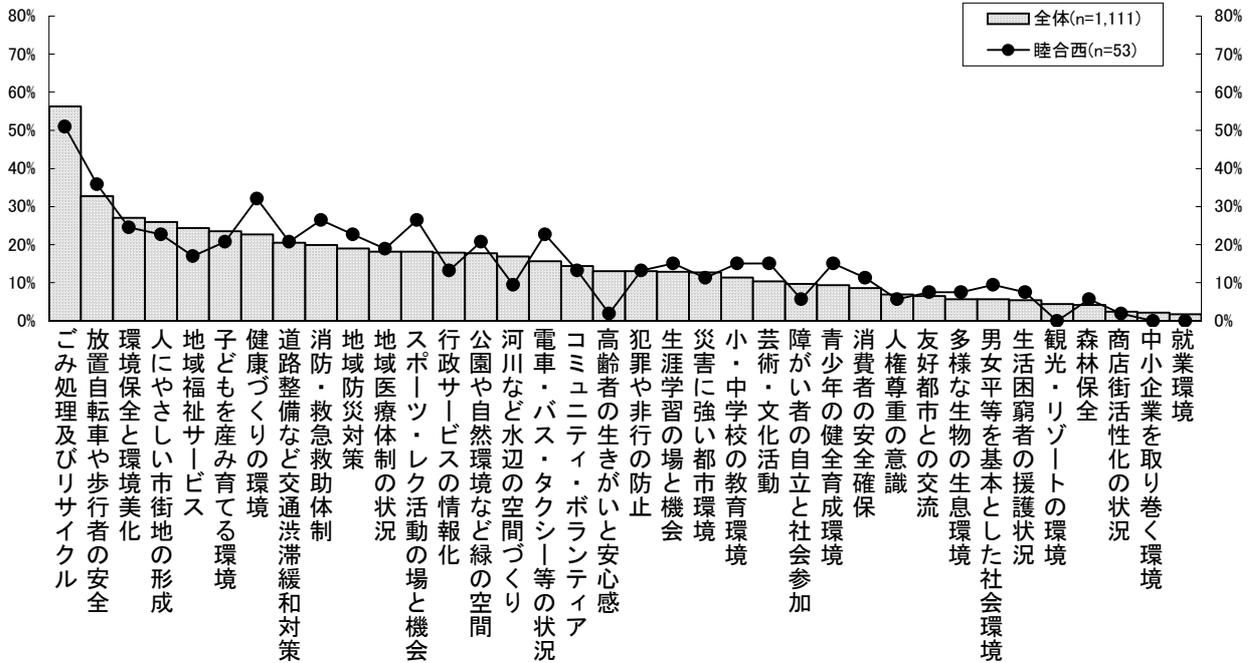
図 14-2-13 まちづくり全般の変化—睦合南地区（悪くなったもの）



〔睦合西地区〕

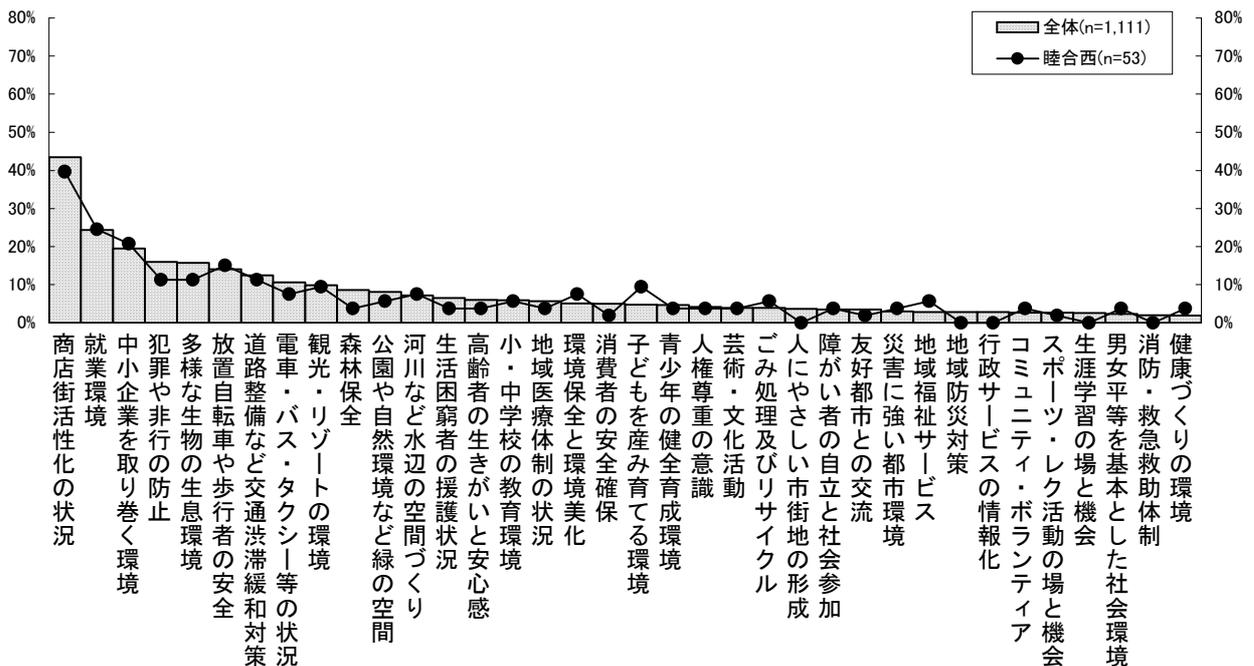
良くなったものでは、全体と比べて「健康づくりの環境」、「スポーツ・レク活動の場と機会」、「電車、バス、タクシー等の状況」、「消防・救急救助体制」、「青少年の健全育成環境」が高くなっている。一方、「高齢者の生きがいと安心感」は特に低く、「河川など水辺の空間づくり」、「地域福祉サービス」、「ごみ処理及びリサイクル」などが低くなっている。

図 14-2-14 まちづくり全般の変化—睦合西地区（良くなったもの）



悪くなったものは、全ての項目で全体と比べて±5 ポイント以内の差となっており、目立った傾向はみられない。

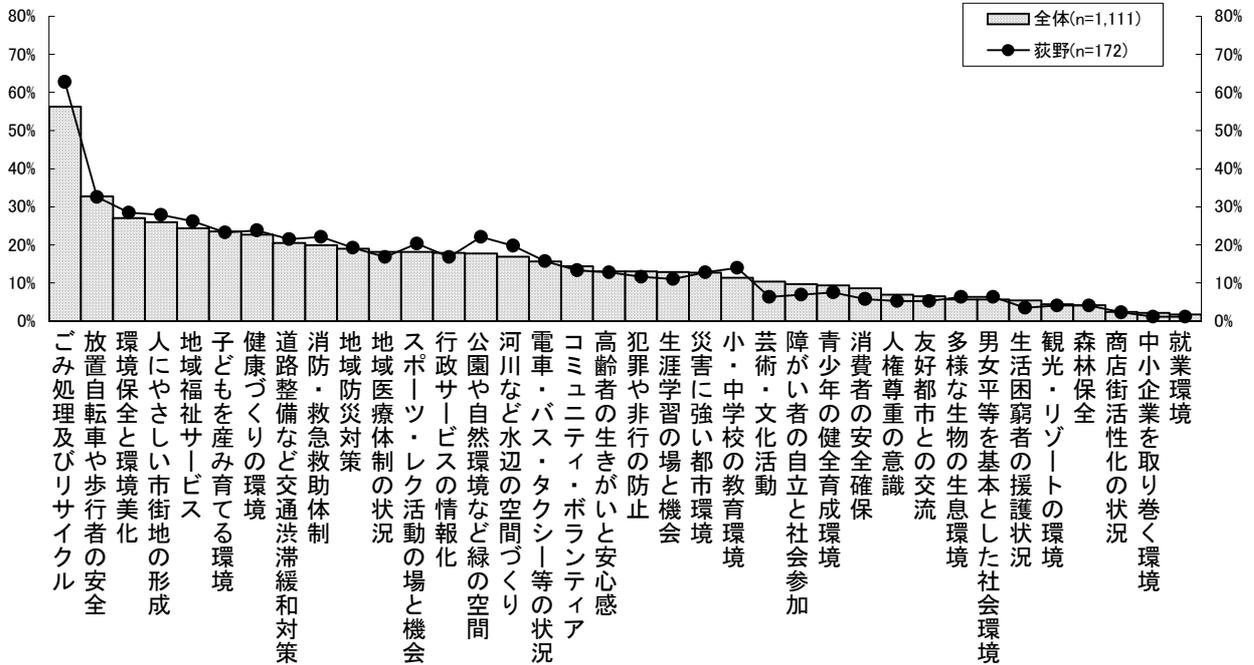
図 14-2-15 まちづくり全般の変化—睦合西地区（悪くなったもの）



〔荻野地区〕

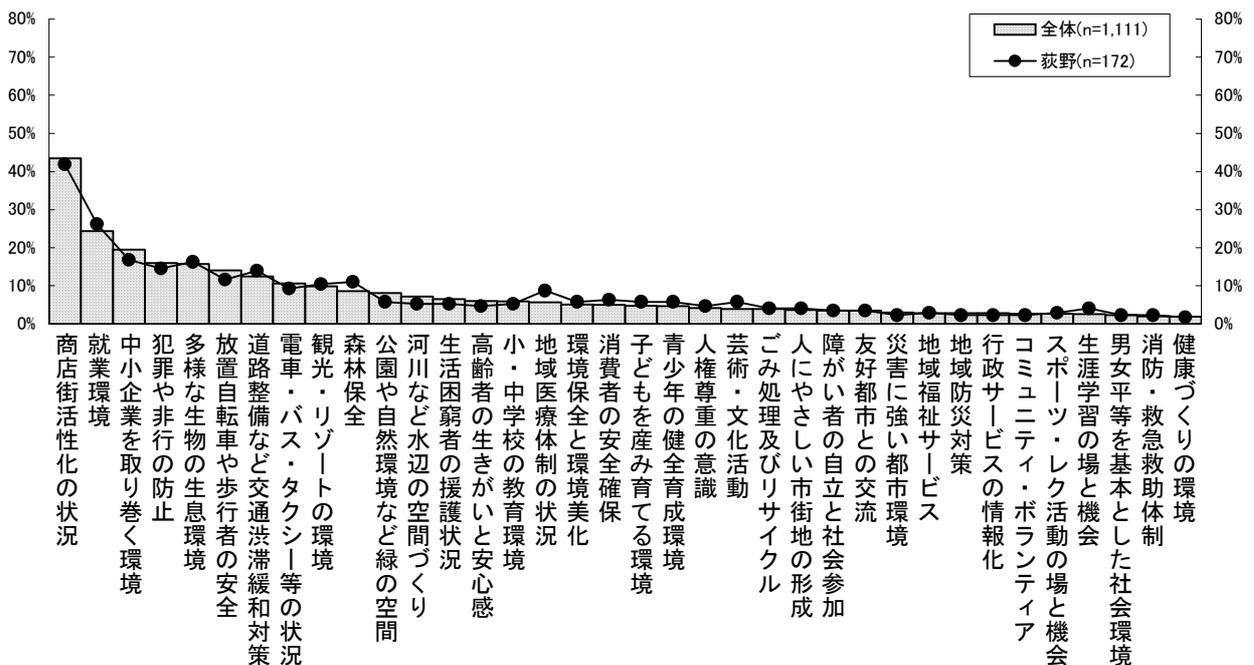
良くなったものでは、全体と比べて「ごみ処理及びリサイクル」、「公園等の緑の空間」が高くなっている。

図 14-2-16 まちづくり全般の変化—荻野地区（良くなったもの）



悪くなったものは、全ての項目で全体と比べて±5 ポイント以内の差となっており、目立った傾向はみられない。

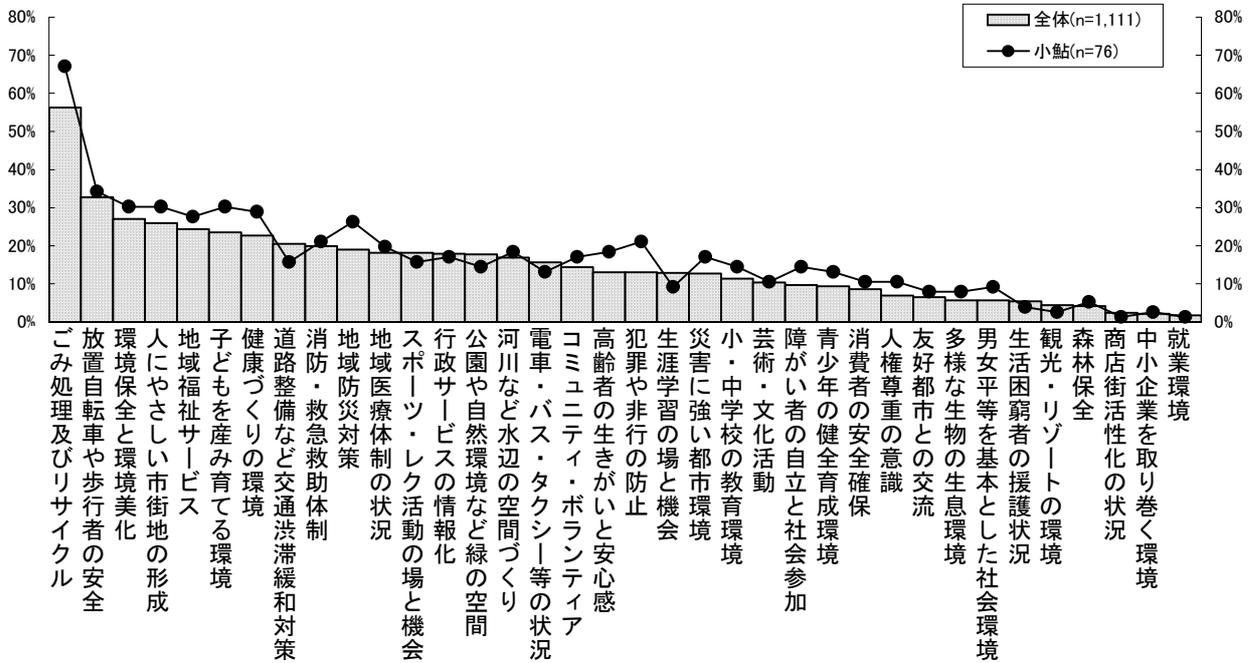
図 14-2-17 まちづくり全般の変化—荻野地区（悪くなったもの）



〔小鮎地区〕

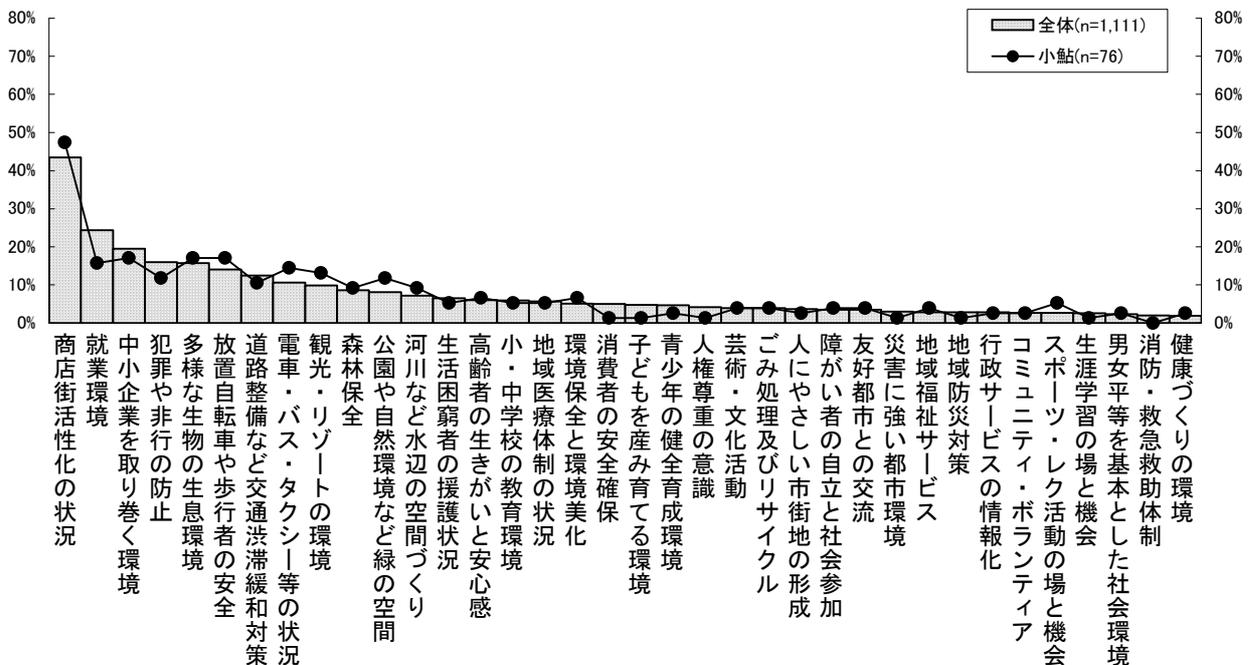
良くなったものでは、全体と比べて、特に「ごみ処理及びリサイクル」をはじめ、「犯罪や非行の防止」、「地域防災対策」、「子どもを産み育てる環境」、「健康づくりの環境」、「高齢者の生きがいと安心感」が高くなっている。

図 14-2-18 まちづくり全般の変化—小鮎地区（良くなったもの）



悪くなったものでは、全体と比べて「就業環境」が特に低くなっている。

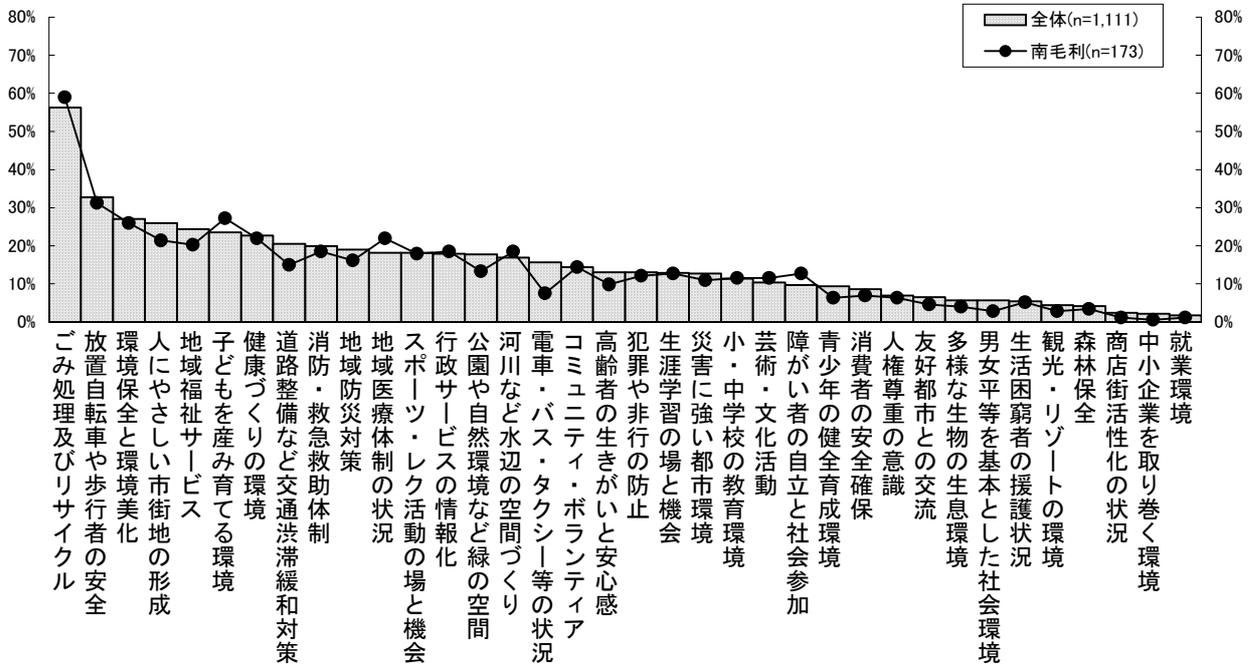
図 14-2-19 まちづくり全般の変化—小鮎地区（悪くなったもの）



〔南毛利地区〕

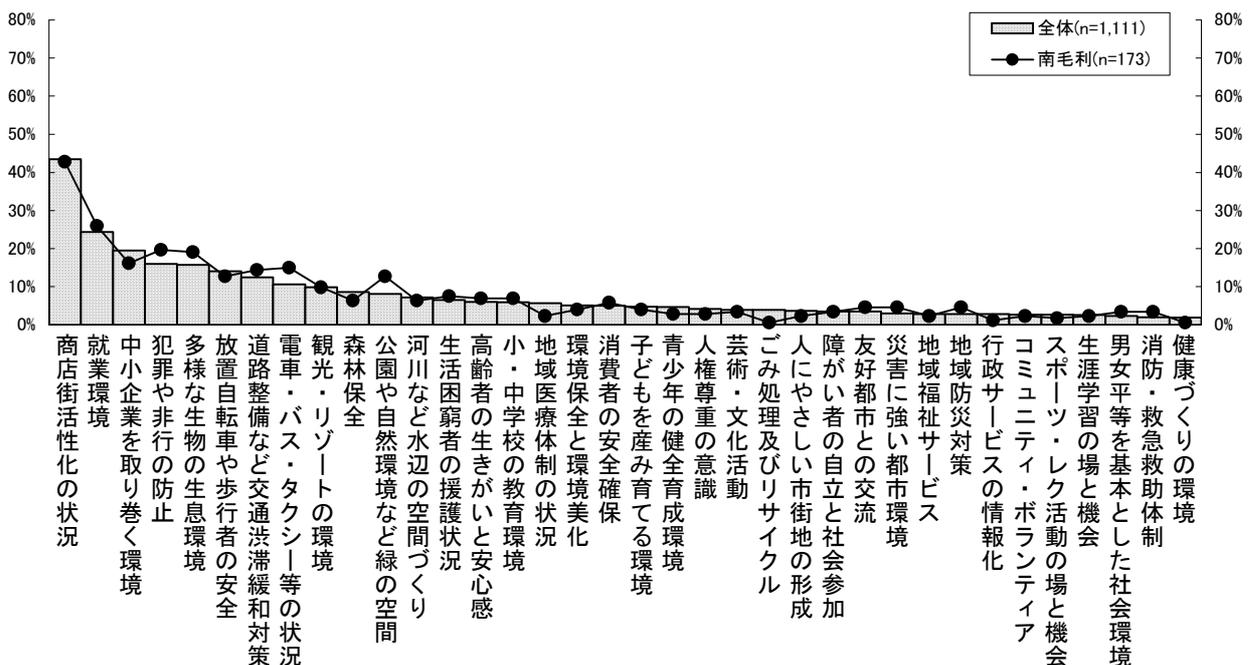
良くなったものでは、全体と比べて「地域医療体制の状況」、「ごみ処理及びリサイクル」、「子どもを産み育てる環境」が高くなっている。一方、「電車、バス、タクシー等の状況」、「道路整備など交通渋滞緩和対策」が低くなっている。

図 14-2-20 まちづくり全般の変化—南毛利地区（良くなったもの）



悪くなったものは、全ての項目で全体と比べて±5 ポイント以内の差となっており、目立った傾向はみられない。

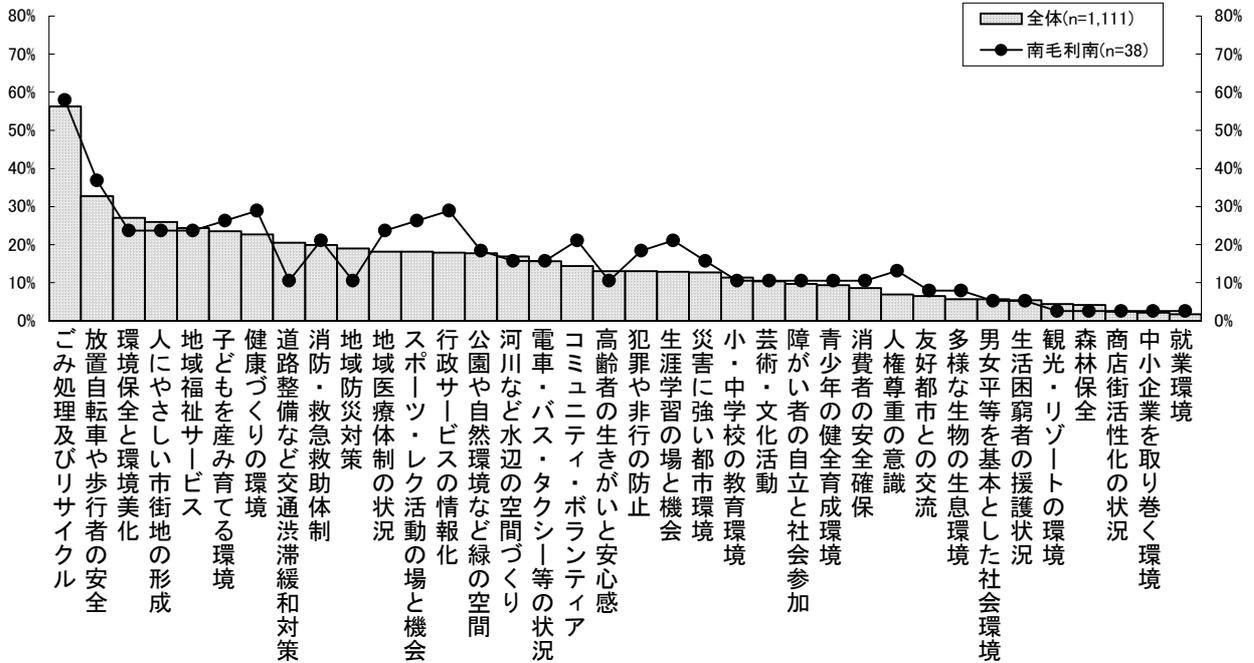
図 14-2-21 まちづくり全般の変化—南毛利地区（悪くなったもの）



〔南毛利南地区〕

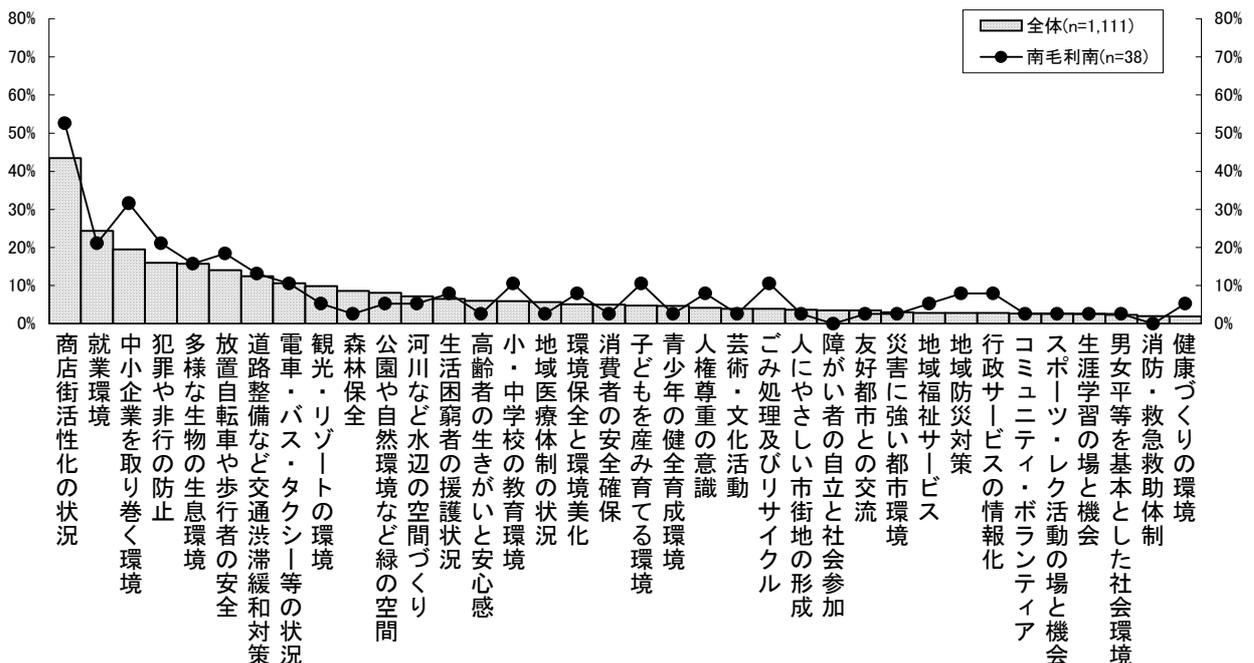
良くなったものでは、全体と比べて「行政サービスの情報化」が特に高く、「生涯学習の場と機会」、「スポーツ・レク活動の場と機会」、「コミュニティ・ボランティア」、「健康づくりの環境」、「人権尊重の意識」、「地域医療体制の状況」、「犯罪や非行の防止」が高くなっている。一方、「道路整備など交通渋滞緩和対策」が特に低く、「地域防災対策」も低くなっている。

図 14-2-22 まちづくり全般の変化—南毛利南地区（良くなったもの）



悪くなったものでは、全体と比べて「中小企業を取り巻く環境」が特に高く、「商店街活性化の状況」、「ごみ処理及びリサイクル」、「子どもを産み育てる環境」、「犯罪や非行の防止」、「地域防災対策」、「行政サービスの情報化」などが高くなっている。一方、「森林保全」が低くなっている。

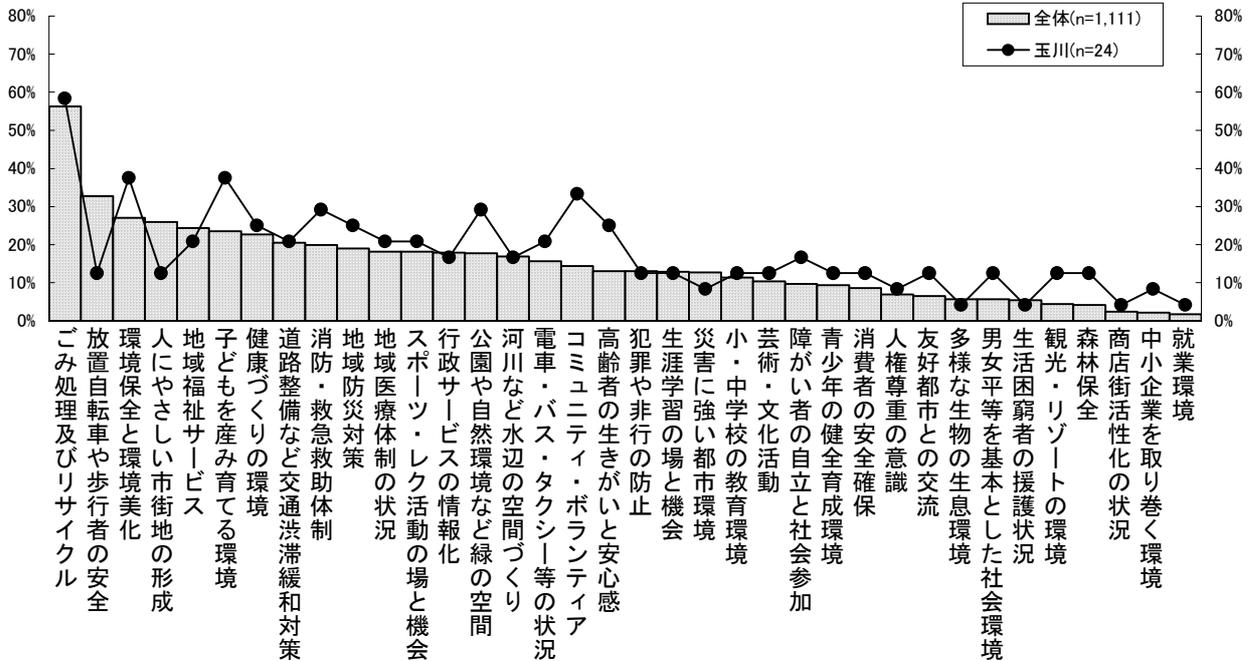
図 14-2-23 まちづくり全般の変化—南毛利南地区（悪くなったもの）



〔玉川地区〕

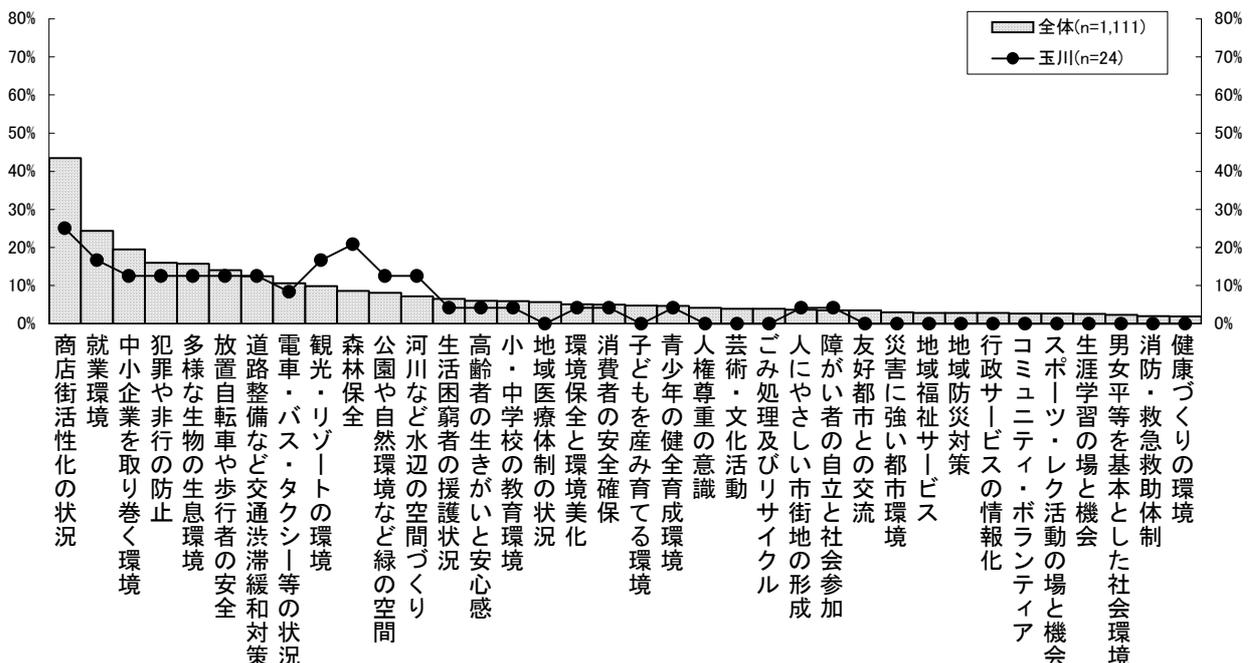
良くなったものでは、全体と比べて「コミュニティ・ボランティア」、「子どもを産み育てる環境」、「高齢者の生きがいと安心感」、「公園や自然環境など緑の空間」、「環境保全と環境美化」が特に高くなっている。一方、「放置自転車や歩行者の安全」、「人にやさしい市街地の形成」が特に低くなっている。

図 14-2-24 まちづくり全般の変化—玉川地区（良くなったもの）



悪くなったものでは、全体と比べて「森林保全」が特に高く、「観光・リゾートの環境」、「河川など水辺の空間づくり」などが高くなっている。一方、「商店街活性化の状況」が特に低く、「就業環境」、「中小企業を取り巻く環境」、「地域医療体制の状況」などが低くなっている。

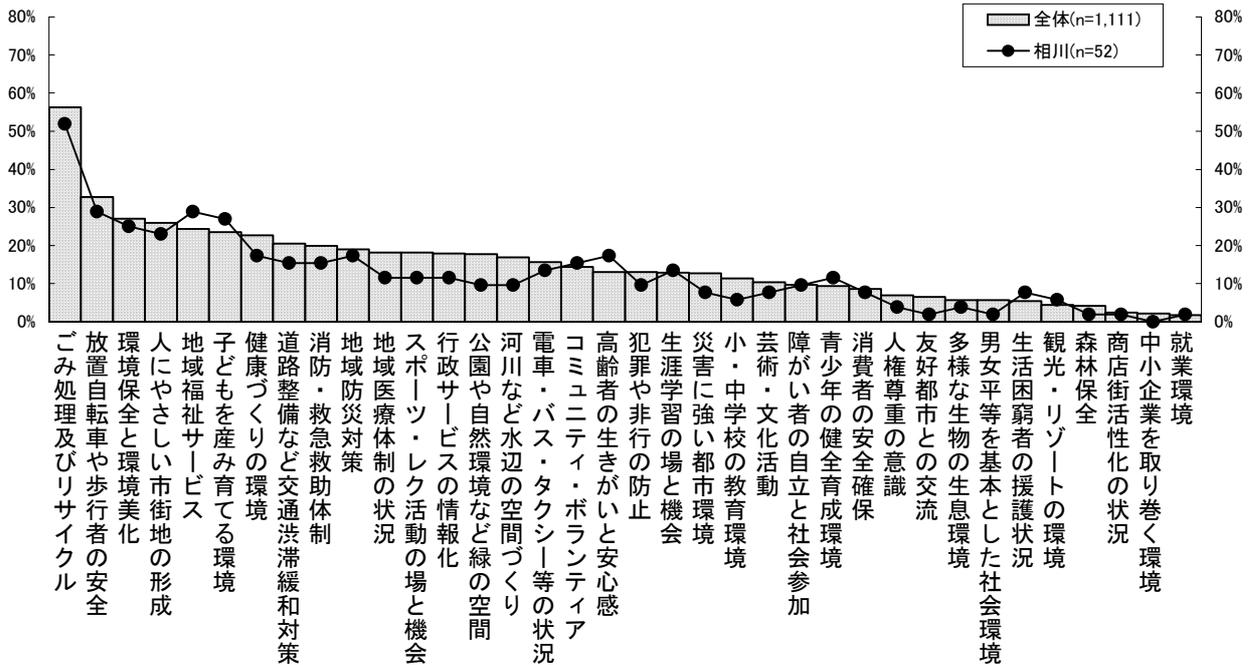
図 14-2-25 まちづくり全般の変化—玉川地区（悪くなったもの）



〔相川地区〕

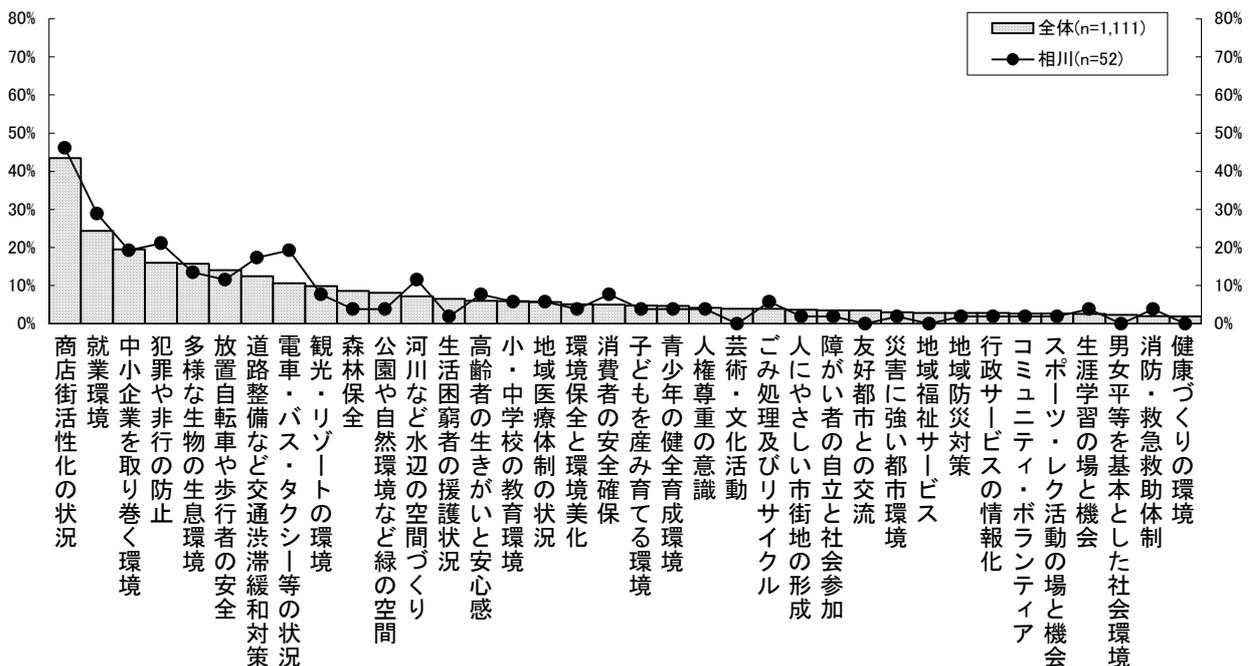
良くなったものでは、全体と比べて、「地域福祉サービス」、「高齢者の生きがいと安心感」「子どもを産み育てる環境」が高くなっている。一方、「公園や自然環境など緑の空間」、「河川など水辺の空間づくり」、「地域医療体制の状況」、「スポーツ・レク活動の場と機会」、「行政サービスの情報化」、「小・中学校の教育環境」、「健康づくりの環境」、「道路整備など交通渋滞緩和対策」、「災害に強い都市環境」が低くなっている。

図 14-2-26 まちづくり全般の変化—相川地区（良くなったもの）



悪くなったものでは、全体と比べて「電車、バス、タクシー等の状況」、「犯罪や非行の防止」が高くなっている。

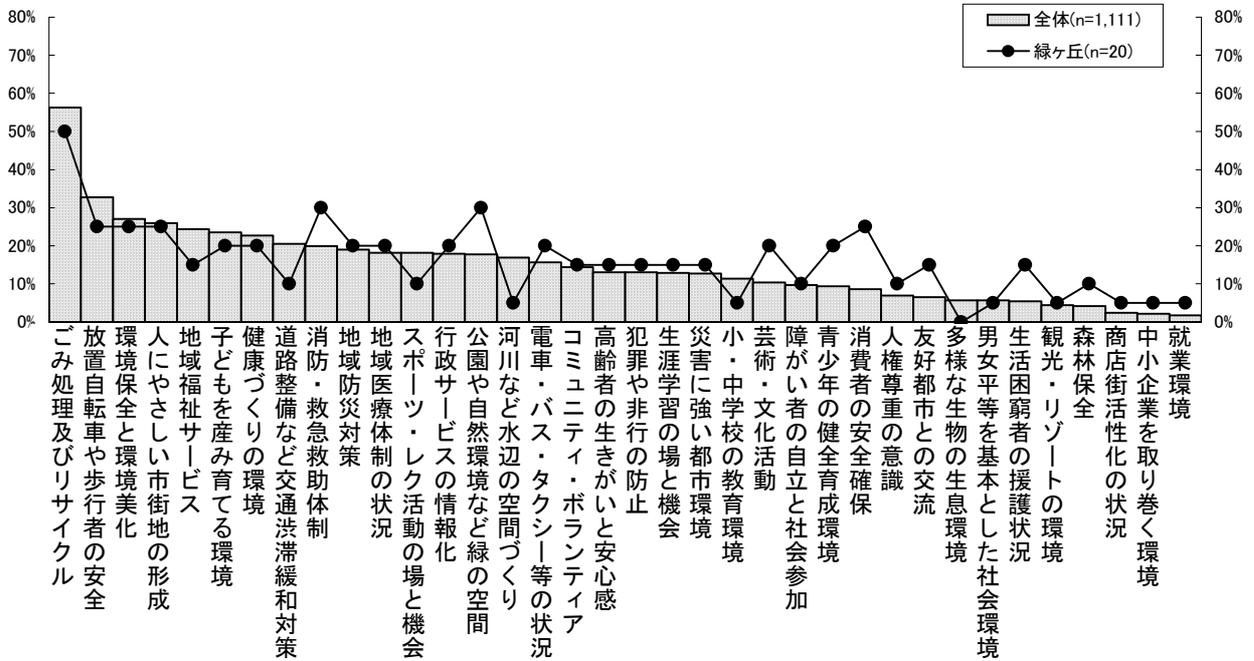
図 14-2-27 まちづくり全般の変化—相川地区（悪くなったもの）



〔緑ヶ丘地区〕

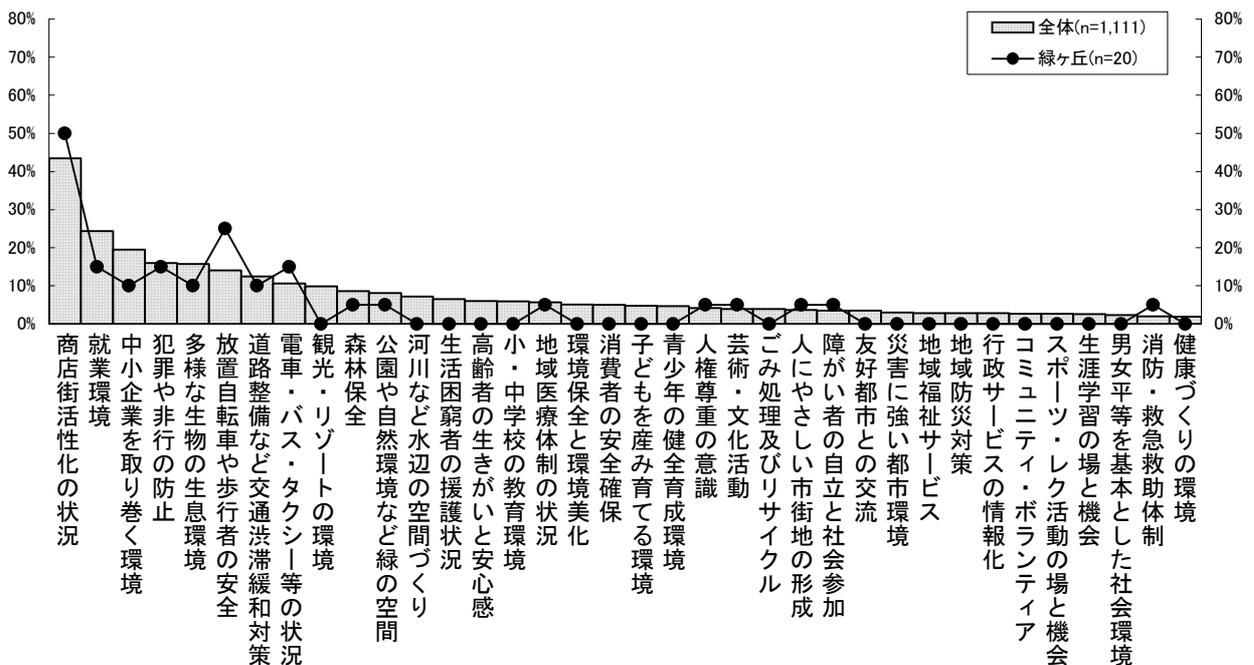
良くなったものでは、全体と比べて「消費者の安全確保」、「公園や自然環境など緑の空間」、「青少年の健全育成環境」、「消防・救急救助体制」が特に高くなっている。一方、「河川など水辺の空間づくり」、「道路整備など交通渋滞緩和対策」が特に低くなっている。

図 14-2-28 まちづくり全般の変化—緑ヶ丘地区（良くなったもの）



悪くなったものでは、全体と比べて「放置自転車や歩行者の安全」が特に高く、他には「商店街活性化の状況」も高くなっている。

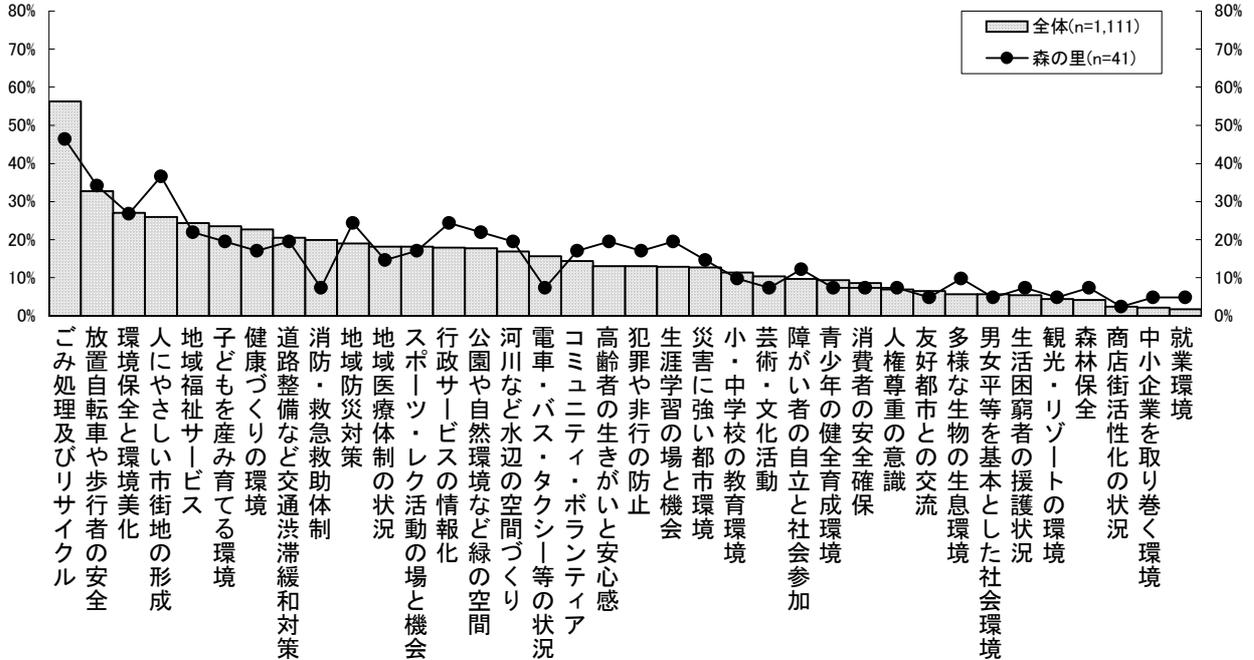
図 14-2-29 まちづくり全般の変化—緑ヶ丘地区（悪くなったもの）



〔森の里地区〕

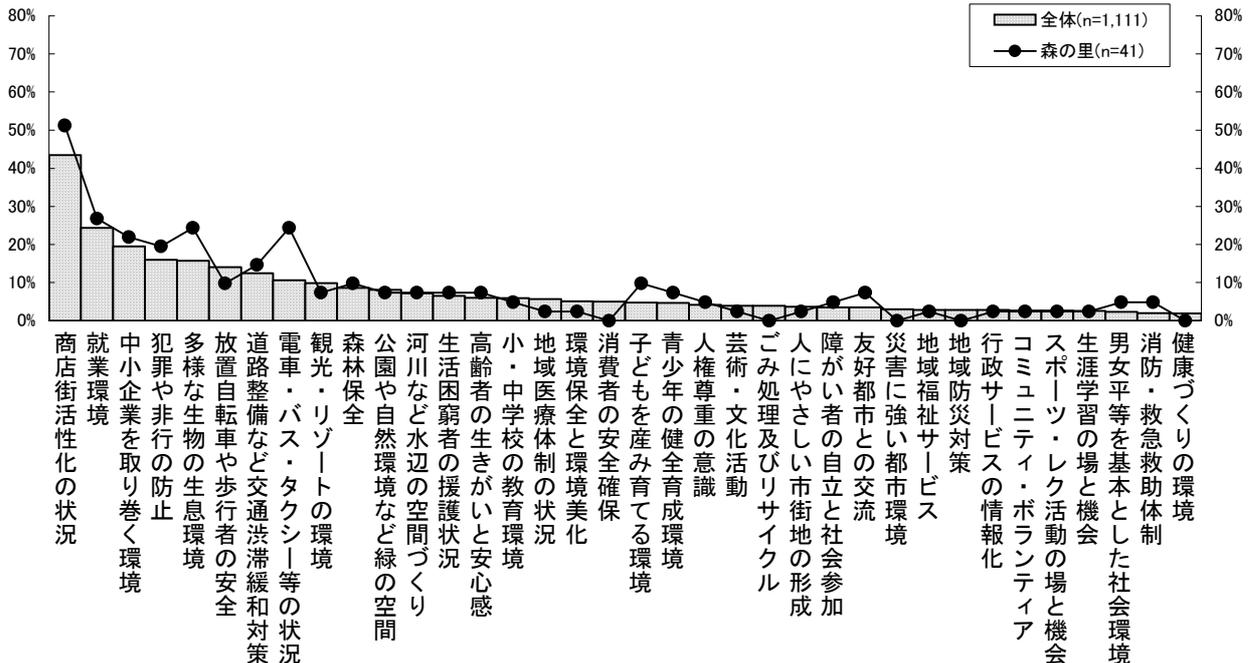
良くなったものでは、全体と比べて「人にやさしい市街地の形成」が特に高く、「生涯学習の場と機会」、「行政サービスの情報化」、「高齢者の生きがいと安心感」、「地域防災対策」も高くなっている。一方、「消防・救急救助体制」は特に低く、「ごみ処理及びリサイクル」、「電車、バス、タクシー等の状況」、「健康づくりの環境」などが低くなっている。

図 14-2-30 まちづくり全般の変化—森の里地区（良くなったもの）

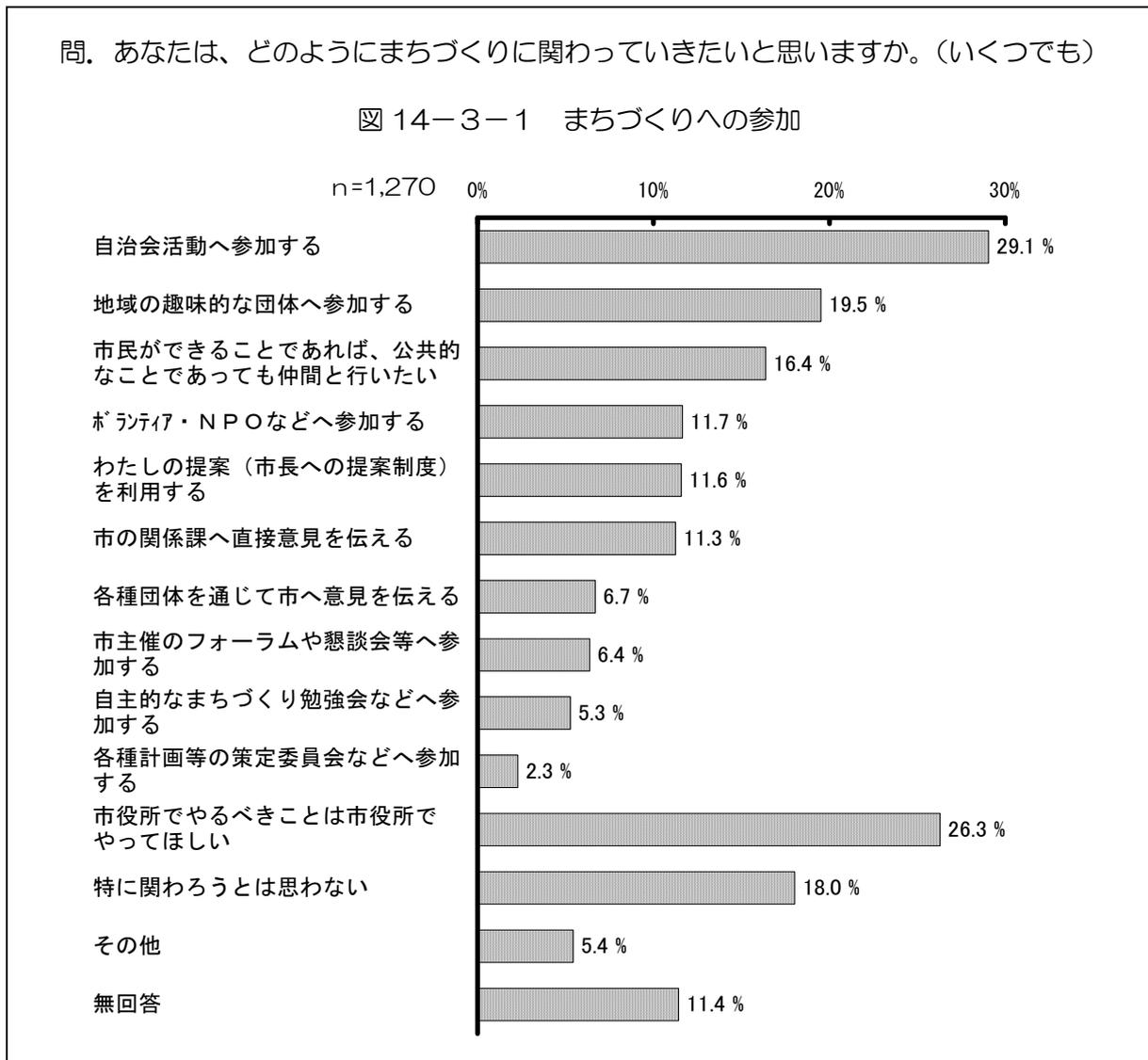


悪くなったものでは、全体と比べて「電車、バス、タクシー等の状況」が特に高く、「多様な生物の生息環境」、「商店街活性化の状況」、「子どもを産み育てる環境」なども高くなっている。一方、「消費者の安全確保」が低くなっている。

図 14-2-31 まちづくり全般の変化—森の里地区（悪くなったもの）



(3) まちづくりへの参加 (A:問31)



【全体】

どのようにしてまちづくりに関わっていきたいと思うか聞いたところ、「自治会活動へ参加する」(29.1%)が3割に近く最も高くなっている。次いで、「地域の趣味的な団体へ参加する」(19.5%)、「市民ができることであれば、公共的なことであっても仲間と行いたい」(16.4%)となっている。

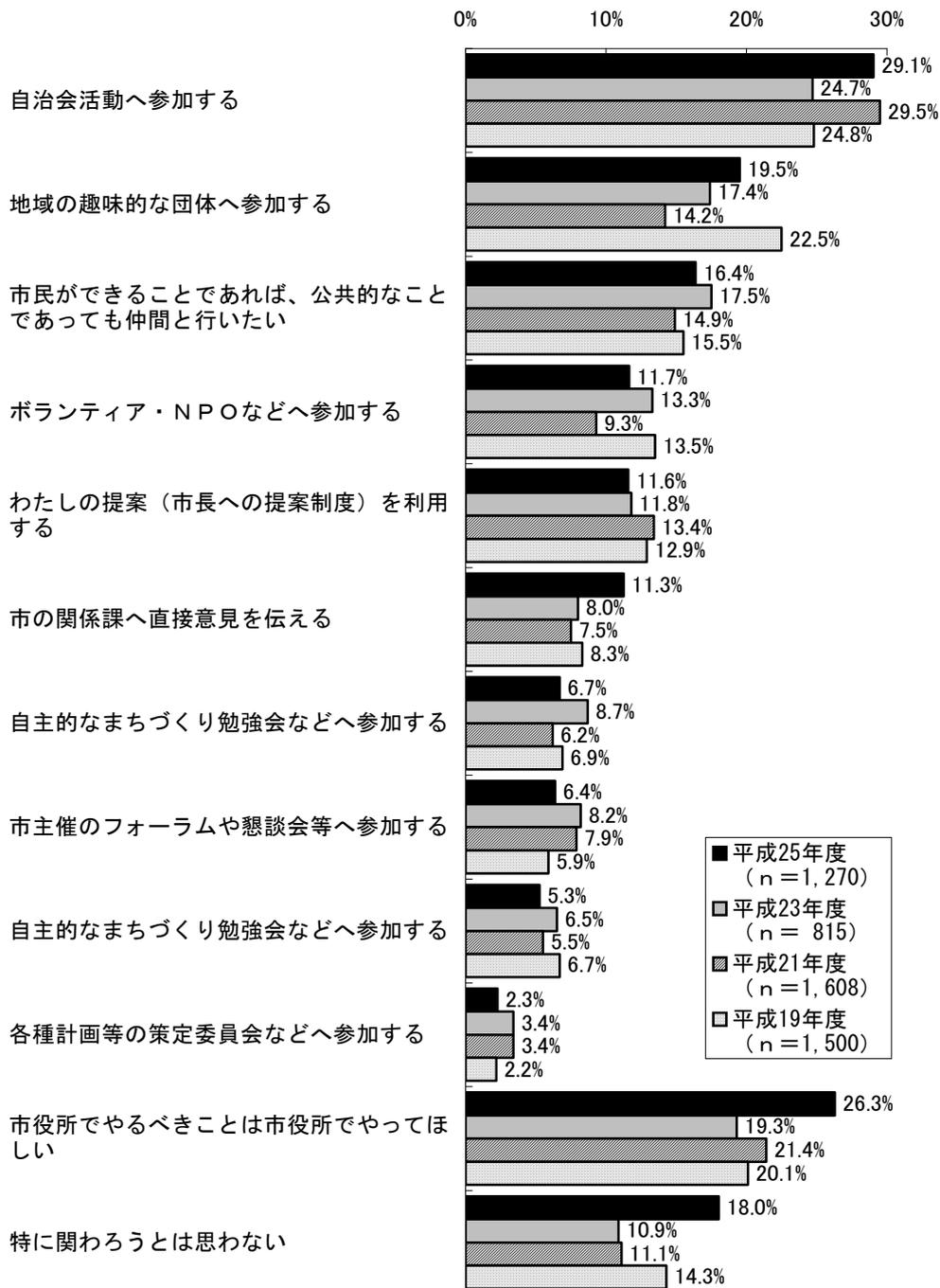
一方、「市役所でやるべきことは市役所でやってほしい」(26.3%)、「特に関わろうとは思わない」(18.0%)等の意見も見られる。

【経年変化】

経年による変化としては、「自治会活動へ参加する」が引き続き最も高い。また「市役所でやるべきことは市役所でやってほしい」、「市の関係課へ直接意見を伝える」の2項目は、直近4回の調査で最も高い結果となっている。

前回調査との比較では、「市役所でやるべきことは市役所でやってほしい」（26.3%）が前回より7.0ポイントの増加、「特に関わろうとは思わない」（18.0%）が7.1ポイントの増加となっている。

図 14-3-2 まちづくりへの参加—経年変化



【属性別】

性別で見ると、男女ともほぼ同じ傾向になっている。

年齢別で見ると、20～39歳では「自治会活動へ参加する」は1割台と全体より低く、一方で「特に関わろうとは思わない」が2割台と全体より高くなっている。70歳代では「自治会活動へ参加する」が3割台と全体より高く、一方「特に関わろうとは思わない」が1割を下回り、全体より低くなっている。

表 14-3-1 まちづくりへの参加—性別、年齢別

(単位：%)	わたしの提案（市長への提案制度）を利用する	市主催のフォーラムや懇談会等へ参加する	各種計画等の策定委員会などへ参加する	市の関係課へ直接意見を伝える	自治会活動へ参加する	各種団体を通じて市へ意見を伝える	ボランティア・NPOなどへ参加する	自主的なまちづくり勉強会などへ参加する	地域の趣味的な団体へ参加する	市民ができることであれば、公共的なことであっても仲間と行いたい	市役所でやってほしい	市役所でやるべきことは	特に関わろうとは思わない	その他	無回答
全体 (n=1,270)	11.6	6.4	2.3	11.3	29.1	6.7	11.7	5.3	19.5	16.4	26.3	18.0	5.4	11.4	
男性 (n=556)	13.5	8.5	3.2	12.8	30.8	8.5	11.0	6.5	19.2	16.5	27.3	20.5	4.9	11.0	
女性 (n=685)	10.4	4.5	1.2	9.9	27.9	5.4	12.1	4.1	19.4	16.2	25.4	16.1	5.8	11.8	
20歳未満 (n=15)	6.7	0.0	0.0	0.0	13.3	6.7	13.3	0.0	20.0	33.3	26.7	6.7	6.7	6.7	
20～29歳 (n=100)	10.0	2.0	0.0	7.0	14.0	5.0	27.0	5.0	23.0	17.0	29.0	25.0	4.0	2.0	
30～39歳 (n=185)	15.7	3.8	2.7	10.3	19.5	7.0	9.2	5.4	17.3	18.4	26.5	23.2	8.6	3.2	
40～49歳 (n=191)	14.1	5.2	1.6	12.6	28.8	8.4	11.0	2.6	21.5	16.2	23.0	19.9	7.9	4.2	
50～59歳 (n=186)	8.6	5.9	1.6	10.8	31.7	5.9	10.2	3.2	18.8	10.2	23.1	22.6	4.3	8.6	
60～69歳 (n=310)	7.4	8.7	2.6	9.7	35.8	6.1	9.7	5.5	19.7	18.7	25.5	15.2	2.6	15.8	
70～79歳 (n=190)	16.3	7.9	3.7	17.9	34.7	8.9	11.1	10.0	18.4	17.9	33.2	9.5	5.3	22.1	
80歳以上 (n=76)	11.8	7.9	1.3	7.9	26.3	3.9	10.5	3.9	15.8	9.2	27.6	15.8	7.9	26.3	

居住地区別の結果

表 14-3-2 まちづくりへの参加—居住地区別

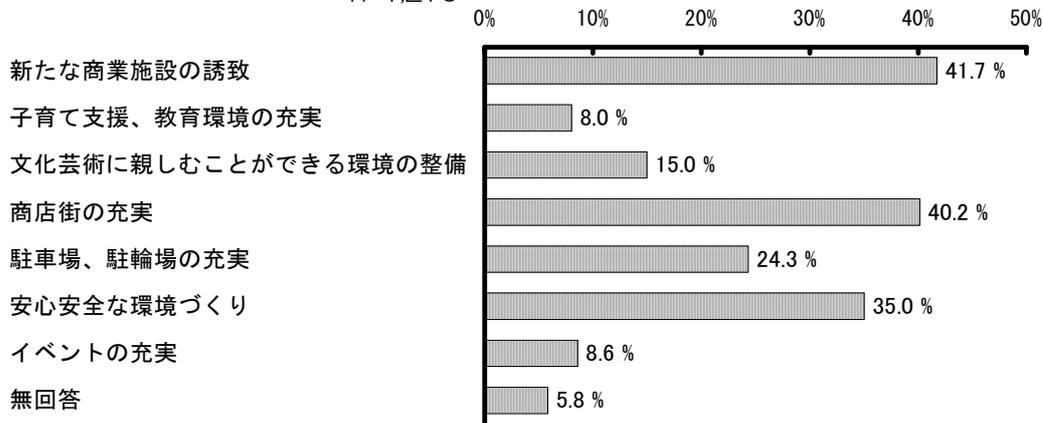
(単位：%)	わたしの提案（市長への提案制度）を利用する	市主催のフォーラムや懇談会等へ参加する	各種計画等の策定委員会などへ参加する	市の関係課へ直接意見を伝える	自治会活動へ参加する	各種団体を通じて市へ意見を伝える	ボランティア・NPOなどへ参加する	自主的なまちづくり勉強会などへ参加する	地域の趣味的な団体へ参加する	市民ができることであれば、公共的なことであっても仲間と行いたい	市役所でやってほしい	市役所でやるべきことは 市役所でやってほしい	特に関わろうとは思わない	その他	無回答
全体 (n=1, 270)	11.6	6.4	2.3	11.3	29.1	6.7	11.7	5.3	19.5	16.4	26.3	18.0	5.4	11.4	
厚木北 (n=147)	12.2	10.9	3.4	8.2	14.3	4.1	15.6	4.8	14.3	17.7	25.2	25.9	4.8	10.2	
厚木南 (n= 94)	7.4	5.3	4.3	7.4	28.7	4.3	12.8	6.4	16.0	16.0	21.3	19.1	8.5	12.8	
依知北 (n= 89)	12.4	4.5	1.1	9.0	22.5	14.6	11.2	3.4	18.0	19.1	30.3	22.5	5.6	14.6	
依知南 (n= 51)	11.8	3.9	2.0	11.8	33.3	7.8	5.9	5.9	21.6	25.5	33.3	13.7	5.9	13.7	
睦合北 (n= 58)	17.2	8.6	3.4	17.2	27.6	3.4	13.8	10.3	29.3	20.7	34.5	8.6	6.9	12.1	
睦合南 (n= 95)	12.6	4.2	0.0	8.4	31.6	8.4	6.3	6.3	20.0	11.6	25.3	22.1	7.4	9.5	
睦合西 (n= 59)	8.5	8.5	1.7	18.6	27.1	11.9	6.8	3.4	20.3	13.6	33.9	15.3	1.7	13.6	
荻野 (n=177)	11.9	3.4	1.7	16.4	29.9	6.8	11.3	7.9	18.6	19.8	25.4	15.3	4.5	11.9	
小 鮎 (n= 78)	10.3	6.4	2.6	7.7	43.6	3.8	12.8	2.6	24.4	9.0	23.1	15.4	1.3	9.0	
南毛利 (n=195)	13.8	7.2	2.6	12.8	28.2	7.2	9.2	3.6	18.5	14.4	26.7	19.5	5.1	9.7	
南毛利南 (n=50)	10.0	2.0	0.0	6.0	32.0	4.0	20.0	2.0	16.0	22.0	24.0	12.0	4.0	16.0	
玉 川 (n= 25)	12.0	4.0	0.0	8.0	44.0	0.0	4.0	0.0	12.0	28.0	28.0	24.0	4.0	8.0	
相 川 (n= 62)	9.7	6.5	1.6	8.1	22.6	4.8	12.9	3.2	25.8	9.7	25.8	17.7	11.3	16.1	
緑ヶ丘 (n= 22)	4.5	0.0	0.0	9.1	45.5	4.5	22.7	4.5	22.7	13.6	31.8	13.6	9.1	4.5	
森の里 (n= 48)	12.5	10.4	4.2	12.5	43.8	10.4	12.5	8.3	22.9	12.5	20.8	10.4	4.2	8.3	

(4) 本厚木駅周辺の活性化 (A: 問 33)

問. 本厚木駅周辺を活性化するための特に必要だと思うことは何ですか。(2つまで)

図 14-4-1 本厚木駅周辺の活性化

n=1,270



【全体】

本厚木駅周辺の活性化に必要なことについて聞いたところ、「新たな商業施設の誘致」(41.7%)が最も高く、「商店街の充実」(40.2%)も4割を超えている。次いで、「安心安全な環境づくり」(35.0%)となっている。

【経年変化】

新規設問のため、経年変化は掲載していない。

【属性別】

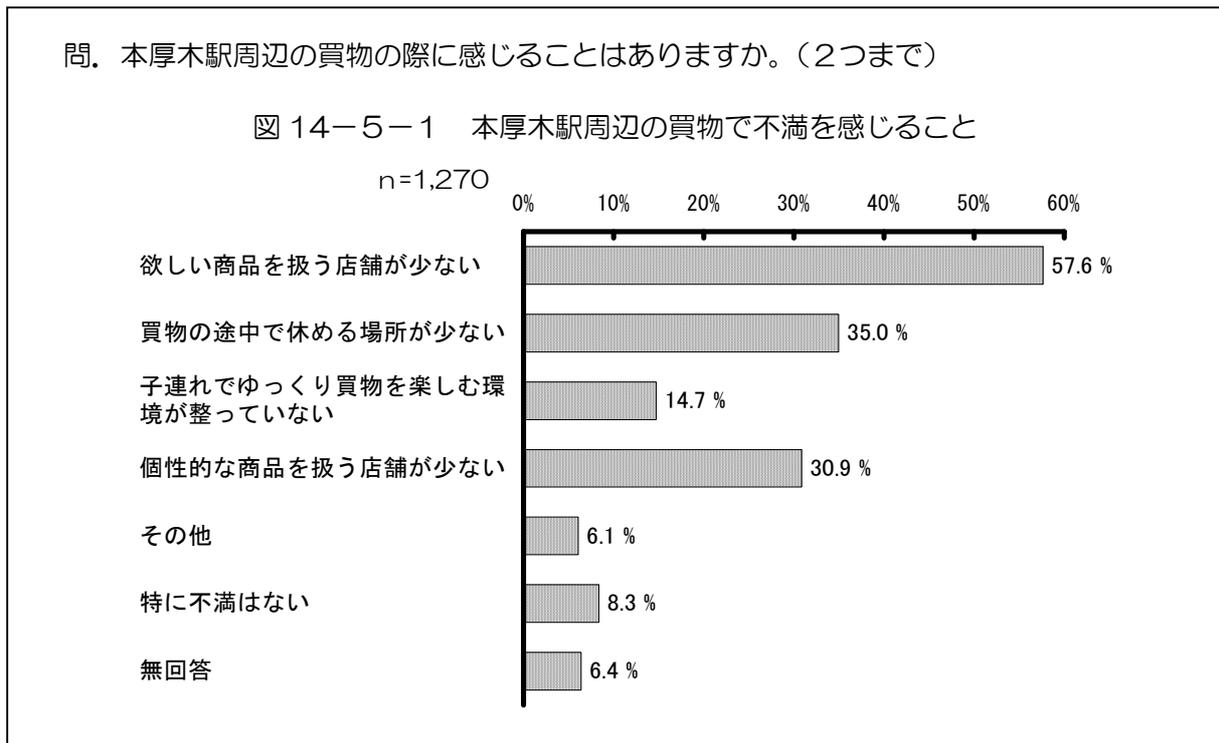
性別で見ると、男性では「新たな商業施設の誘致」（46.4％）が女性より 8.6 ポイント高くなっている。

年齢別で見ると、30～49 歳で「新たな商業施設の誘致」が高くなっている。20～39 歳では「子育て支援、教育環境の充実」や「イベントの充実」が全体よりも高い結果となっている。

表 14-4-1 本厚木駅周辺の活性化—性別、年齢別

(単位：％)	新たな商業施設の誘致	子育て支援、 教育環境の充実	文化芸術に 親しむことができる 環境の整備	商店街の充実	駐車場、 駐輪場の充実	安心安全な環境づくり	イベントの充実	無回答
全体 (n=1, 270)	41.7	8.0	15.0	40.2	24.3	35.0	8.6	5.8
男性 (n=556)	46.4	5.6	12.8	38.7	24.1	34.9	9.4	4.7
女性 (n=685)	37.8	10.4	16.8	41.0	23.9	35.2	8.3	7.0
20 歳未満 (n= 15)	26.7	6.7	20.0	33.3	26.7	40.0	20.0	0.0
20～29 歳 (n=100)	40.0	14.0	16.0	39.0	20.0	32.0	16.0	1.0
30～39 歳 (n=185)	54.6	15.1	8.1	32.4	16.8	34.6	17.8	1.6
40～49 歳 (n=191)	49.7	11.0	16.2	34.6	26.7	35.6	8.9	1.6
50～59 歳 (n=186)	40.9	7.5	17.2	38.2	24.7	38.7	7.5	3.2
60～69 歳 (n=310)	40.6	3.5	17.4	43.9	24.8	34.5	4.5	8.4
70～79 歳 (n=190)	29.5	4.7	13.2	47.4	29.5	35.3	4.7	11.1
80 歳以上 (n= 76)	32.9	5.3	15.8	46.1	22.4	28.9	3.9	18.4

(5) 本厚木駅周辺の買物で不満を感じること (A: 問 34)



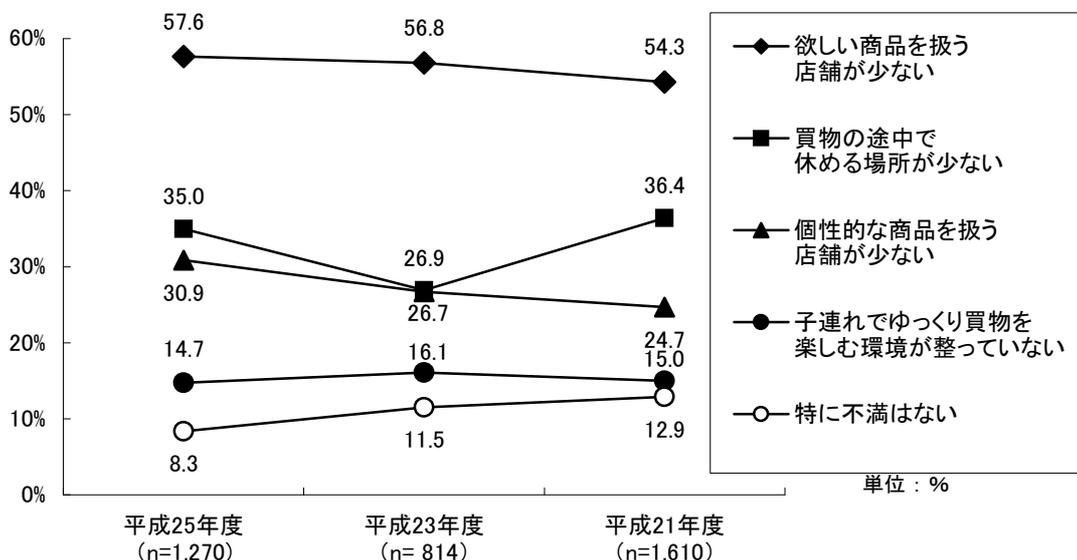
【全体】

本厚木駅周辺の買物で不満を感じることにについて聞いたところ、「欲しい商品を扱う店舗が少ない」(57.6%)が6割近くで最も高くなっている。次いで、「買物の途中で休める場所が少ない」(35.0%)、「個性的な商品を扱う店舗が少ない」(30.9%)が3割を超えて高くなっている。

【経年変化】

経年による変化では、「個性的な商品を扱う店舗が少ない」が、平成21年度調査と今回の調査と比べて6.2ポイントの増加となっている。

図 14-5-2 本厚木駅周辺の買物で不満を感じること—経年変化



【属性別】

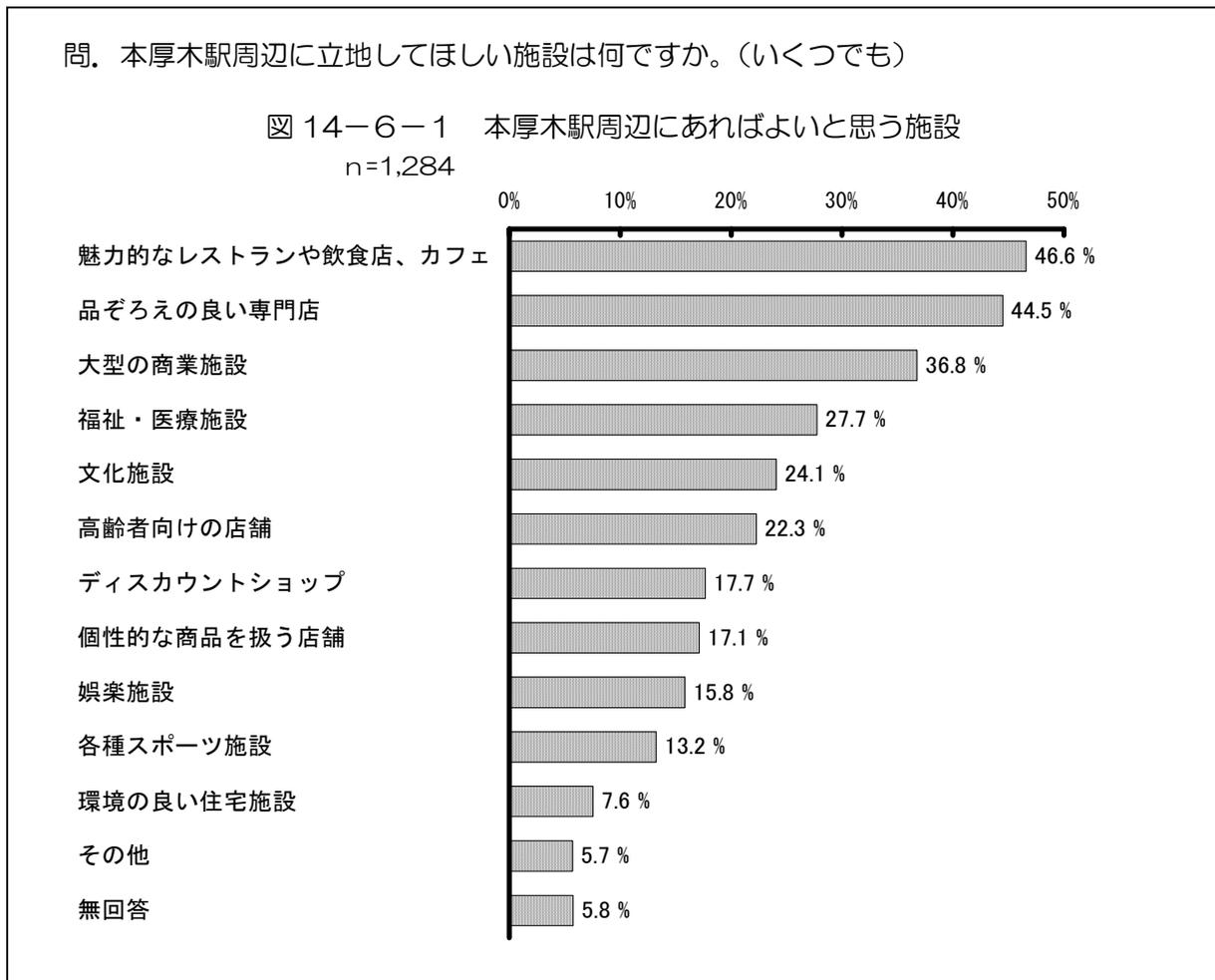
性別で見ると、男女ともほぼ同じ傾向になっている。

年齢別に見ると、70歳以上で「買物の途中で休める場所が少ない」については5割に近く、30～49歳で「子連れでゆっくり買物を楽しむ環境が整っていない」が2割を超えて、それぞれ全体より高くなっている。

表 14-5-1 本厚木駅周辺の買物で不満を感じること—性別、年齢別

(単位：%)	欲しい商品が扱 店舗が少ない	買物の途中で 休める場所が少 ない	子連れでゆっく り買物を楽しむ 環境が整って いない	個人的な商品 が扱店舗が少 ない	その他	特に不満は ない	無 回 答
全体 (n=1,270)	57.6	35.0	14.7	30.9	6.1	8.3	6.4
男性 (n=556)	56.5	32.7	14.0	31.8	6.7	8.8	7.0
女性 (n=685)	58.7	36.8	15.0	29.5	5.7	8.0	6.1
20歳未満 (n=15)	60.0	26.7	6.7	46.7	6.7	6.7	6.7
20～29歳 (n=100)	62.0	30.0	19.0	23.0	10.0	16.0	0.0
30～39歳 (n=185)	71.9	27.6	24.3	28.6	4.9	8.6	0.5
40～49歳 (n=191)	67.0	27.2	20.4	31.9	6.8	7.9	2.1
50～59歳 (n=186)	62.9	33.3	14.0	32.8	9.7	7.5	3.8
60～69歳 (n=310)	54.2	35.2	11.6	31.3	4.8	8.7	9.0
70～79歳 (n=190)	43.7	48.4	6.3	33.2	4.2	5.8	12.6
80歳以上 (n=76)	31.6	47.4	7.9	26.3	3.9	6.6	21.1

(6) 本厚木駅周辺にあればよいと思う施設 (B: 問 25)



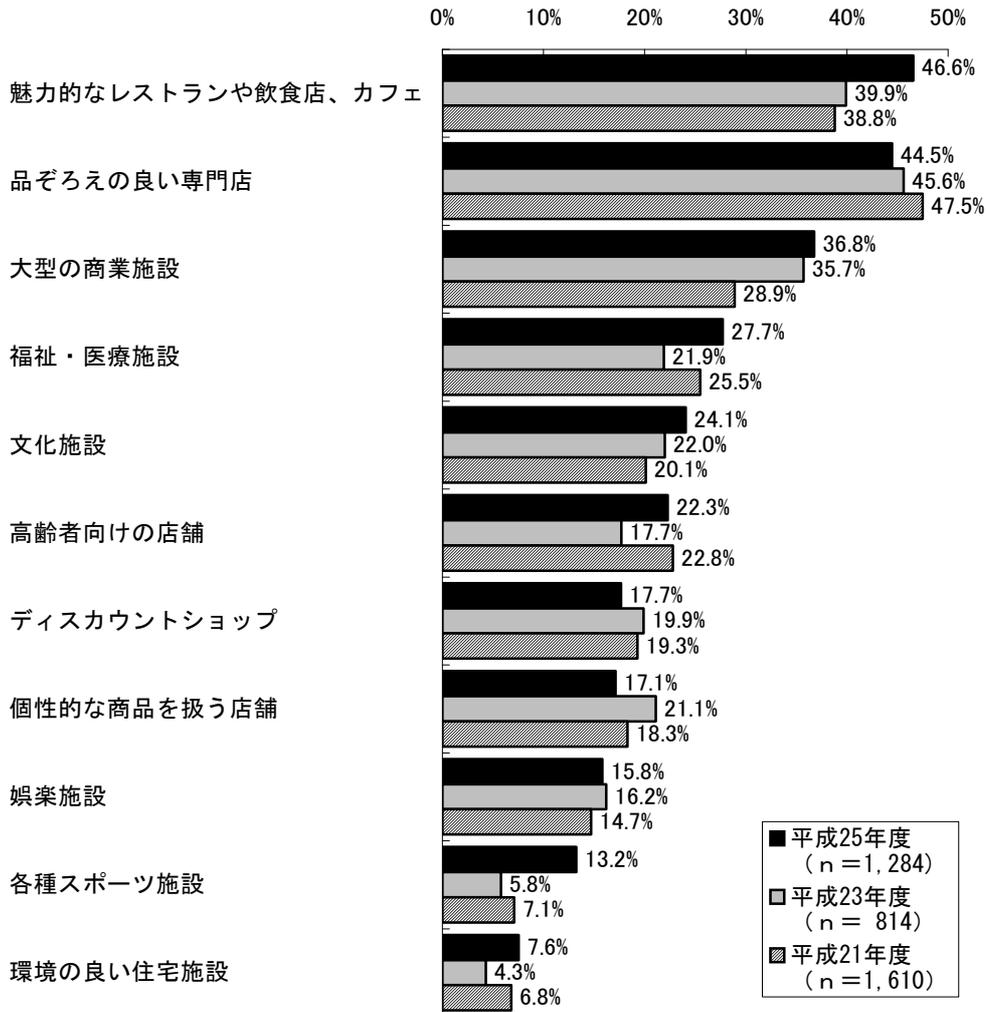
【全体】

本厚木駅周辺にあればよいと思う施設について聞いたところ、「魅力的なレストランや飲食店、カフェ」(46.6%)が最も高く、「品ぞろえの良い専門店」(44.5%)とともに4割を超えている。次いで、「大型の商業施設」(36.8%)、「福祉・医療施設」(27.7%) などとなっている。

【経年変化】

経年による変化では、前回までは「品ぞろえの良い専門店」が最も高かったものの、今回の調査では「魅力的なレストランや飲食店、カフェ」が最も高くなっている。次いで、「魅力的なレストランや飲食店、カフェ」、「大型の商業施設」、「文化施設」の3項目については、増加傾向となっている。

図 14-6-2 本厚木駅周辺にあればよいと思う施設—経年変化



【属性別】

性別に見ると、女性で「品ぞろえの良い専門店」（48.4%）が男性より8.9ポイント高くなっている。次いで、他にも「魅力的なレストランや飲食店、カフェ」（49.9%）、「高齢者向けの店舗」（25.0%）、「大型の商業施設」（39.9%）で、それぞれ男性より高くなっている。

年齢別に見ると、30歳代では「文化施設」は1割台と全体より低い一方、「魅力的なレストランや飲食店、カフェ」は5割を超えて全体より高くなっている。

「福祉・医療施設」は、おおむね年齢層が上がるごとに高くなっている。また、「高齢者向けの店舗」については、60歳代（31.5%）、70歳代（42.2%）、80歳以上（64.4%）と高齢者で急激に増加している。

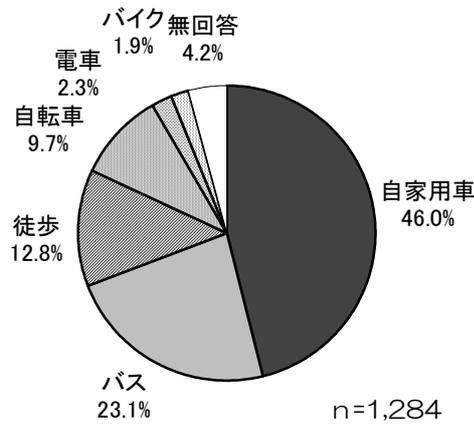
表 14-6-1 本厚木駅周辺にあればよいと思う施設—性別、年齢別

(単位：%)	品ぞろえの良い専門店	娯楽施設	文化施設	ディスカウントショップ	高齢者向けの店舗	個性的な商品を扱う店舗	魅力的なレストランや飲食店、カフェ	大型の商業施設	福祉・医療施設	各種スポーツ施設	環境の良い住宅施設	その他	無回答
全体 (n=1,284)	44.5	15.8	24.1	17.7	22.3	17.1	46.6	36.8	27.7	13.2	7.6	5.7	5.8
男性 (n=560)	39.5	16.6	23.2	16.6	18.4	18.9	43.0	33.6	25.4	14.8	6.4	6.1	7.3
女性 (n=697)	48.4	15.2	25.5	18.4	25.0	15.9	49.9	39.9	29.6	12.2	8.3	5.5	4.2
20歳未満 (n=15)	40.0	46.7	0.0	40.0	13.3	6.7	60.0	66.7	26.7	46.7	6.7	13.3	0.0
20～29歳 (n=126)	59.5	26.2	19.0	23.8	6.3	19.8	50.0	45.2	18.3	24.6	8.7	4.0	2.4
30～39歳 (n=170)	45.3	25.9	18.2	22.9	4.1	15.9	57.6	57.6	20.0	16.5	8.8	3.5	1.8
40～49歳 (n=224)	42.4	18.3	25.9	14.3	8.5	12.9	49.1	46.0	24.1	15.6	8.5	10.7	4.5
50～59歳 (n=176)	50.6	5.7	23.3	22.2	14.8	17.6	49.4	34.7	30.1	8.0	5.7	6.8	4.5
60～69歳 (n=276)	42.0	11.6	29.3	15.6	31.5	21.0	44.6	29.0	32.2	10.9	8.0	5.1	4.7
70～79歳 (n=204)	36.3	10.3	27.9	10.8	42.2	18.6	36.3	21.6	33.3	9.3	5.4	3.4	11.8
80歳以上 (n=73)	43.8	15.1	23.3	20.5	64.4	12.3	37.0	20.5	38.4	6.8	8.2	2.7	9.6

(7) 本厚木駅周辺で買物をするときの交通手段 (B: 問 26)

問. 本厚木駅周辺で買物をするとき、自宅からの交通手段は何ですか。(1つだけ)

図 14-7-1 本厚木駅周辺で買物をするときの交通手段



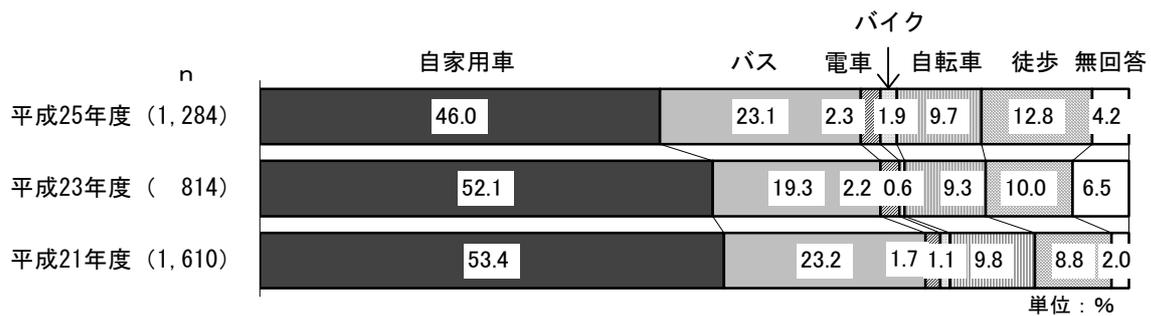
【全体】

本厚木駅周辺で買物をするときの交通手段について聞いたところ、「自家用車」(46.0%)が最も高くなっている。次いで、「バス」(23.1%)、「徒歩」(12.8%)となっている。

【経年変化】

経年による変化を見ると、「自家用車」との回答が減少傾向となっている。

図 14-7-2 本厚木駅周辺で買物をするときの交通手段—経年変化



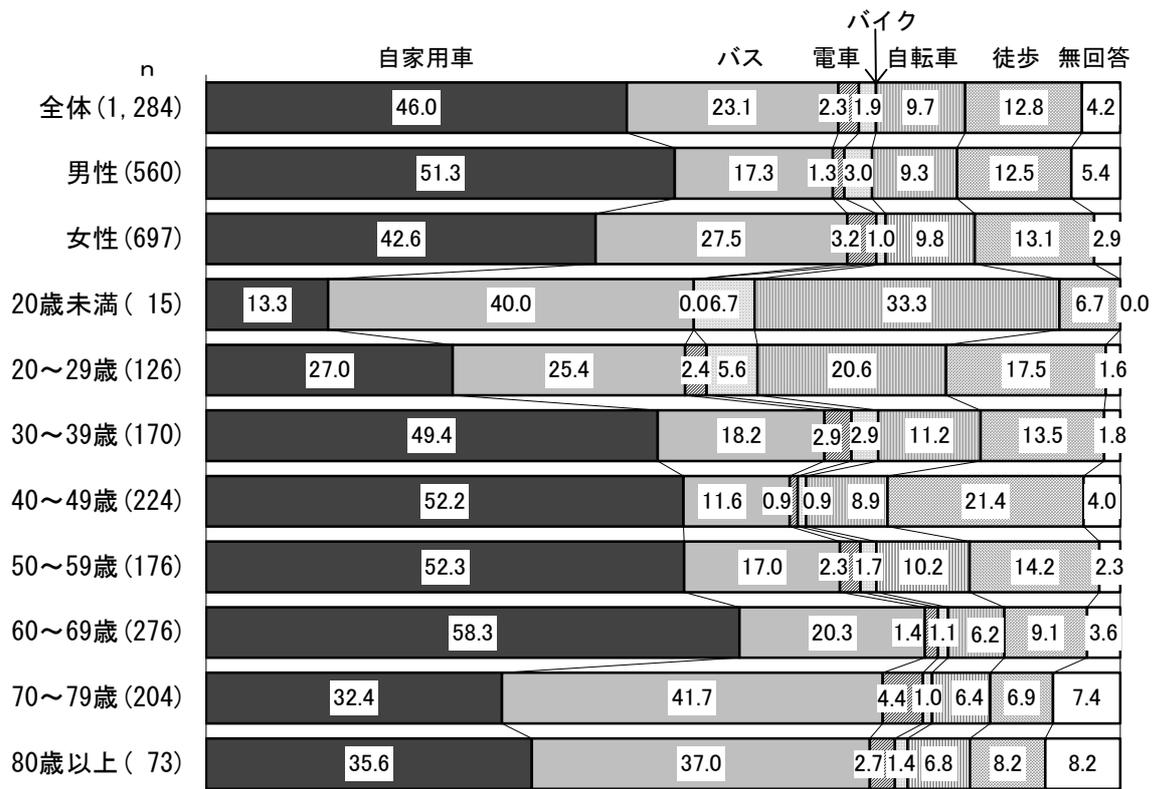
【属性別】

性別で見ると、女性では「バス」(27.5%)が男性より10.2ポイント高くなっている。一方、男性では「自家用車」(51.3%)が女性より8.7ポイント高くなっている。

年齢別で見ると、30～69歳までは年齢層が上がるごとに「自家用車」との回答が高くなる傾向となっている。

70歳以上では、自家用車との回答が3割台と低くなっている。一方、「バス」との回答が最も高くなっている。

図 14-7-3 本厚木駅周辺で買物をするときの交通手段—性別、年齢別



単位：%

居住地区別の結果

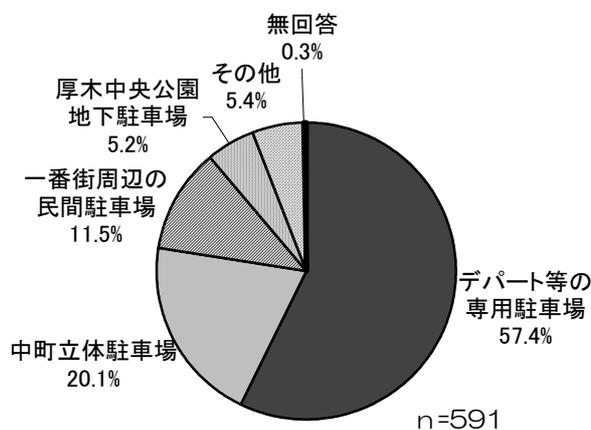
表 14-7-1 本厚木駅周辺で買物をするときの交通手段－居住地区別

(単位：%)	自家用車	バス	電車	バイク	自転車	徒歩	無回答
全体 (n=1,284)	46.0	23.1	2.3	1.9	9.7	12.8	4.2
厚木北 (n=156)	12.2	5.1	0.0	1.3	16.7	62.2	2.6
厚木南 (n= 80)	8.8	5.0	0.0	0.0	31.3	50.0	5.0
依知北 (n= 93)	65.6	28.0	0.0	4.3	1.1	0.0	1.1
依知南 (n= 54)	59.3	22.2	0.0	5.6	3.7	0.0	9.3
睦合北 (n= 47)	59.6	34.0	0.0	2.1	2.1	2.1	0.0
睦合南 (n= 98)	44.9	34.7	0.0	0.0	10.2	5.1	5.1
睦合西 (n= 57)	45.6	31.6	0.0	1.8	17.5	0.0	3.5
荻野 (n=178)	58.4	33.7	0.0	2.2	1.7	0.0	3.9
小 鮎 (n= 75)	61.3	21.3	0.0	4.0	6.7	1.3	5.3
南毛利 (n=198)	50.0	27.3	0.5	0.0	11.6	6.6	4.0
南毛利南 (n=58)	41.4	5.2	37.9	0.0	12.1	1.7	1.7
玉 川 (n= 23)	82.6	8.7	0.0	4.3	0.0	0.0	4.3
相 川 (n= 66)	51.5	12.1	9.1	4.5	10.6	6.1	6.1
緑ヶ丘 (n= 33)	30.3	51.5	0.0	0.0	9.1	3.0	6.1
森の里 (n= 46)	65.2	26.1	0.0	4.3	0.0	0.0	4.3

(8) 本厚木駅周辺で主に利用する駐車場（B：問 27）

問. 自家用車とお答えの方にお聞きします。主に利用される駐車場は、どこですか（1つだけ）

図 14-8-1 本厚木駅周辺で主に利用する駐車場



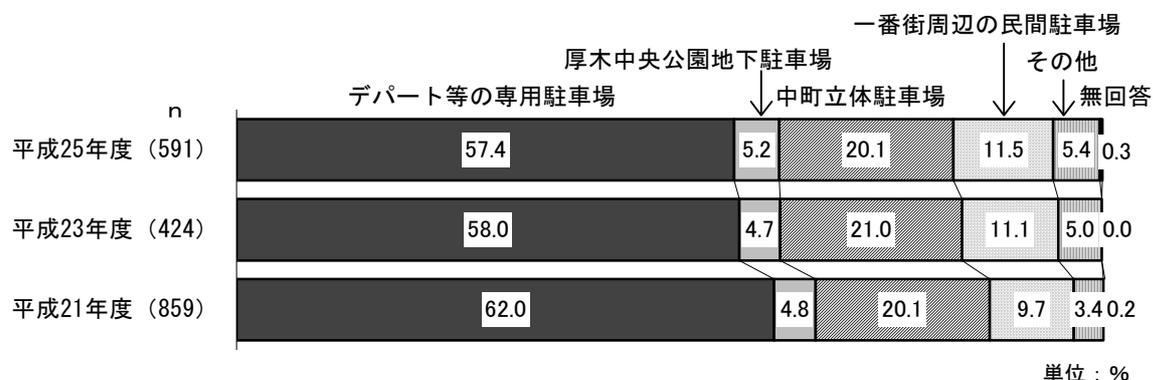
【全体】

本厚木駅周辺で買物をするときの交通手段で「自家用車」と答えた人（591人）に主に利用する駐車場について聞いたところ、「デパート等の専用駐車場」（57.4%）が6割近くで最も高くなっている。次いで、「中町立体駐車場」（20.1%）、「一番街周辺の民間駐車場」（11.5%）となっている。

【経年変化】

経年による変化では、大きな変化は見られない。

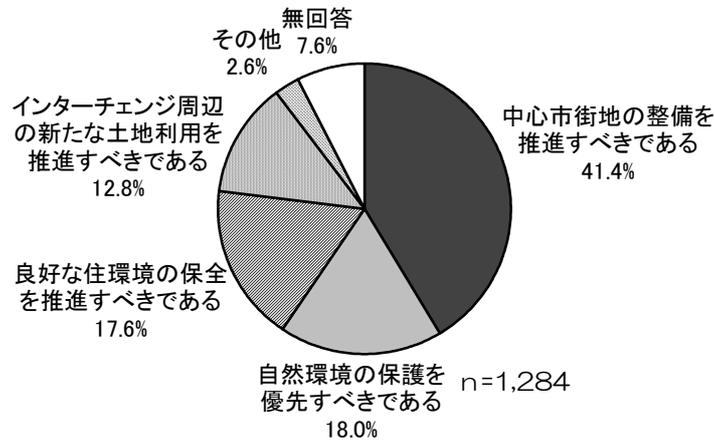
図 14-8-2 本厚木駅周辺で主に利用する駐車場—経年変化



(9) 市の将来の土地利用 (B: 問 28)

問. 厚木市の将来的な土地利用について、最も力を入れた方が良いと思うことは何ですか。
(1つだけ)

図 14-9-1 市の将来の土地利用



【全体】

厚木市の将来的な土地利用についてどう思うか聞いたところ、「中心市街地の整備を推進すべきである」(41.4%)が最も高くなっている。次いで、「自然環境の保護を優先すべきである」(18.0%)、「良好な住環境の保全を推進すべきである」(17.6%)となっている。

【経年変化】

選択肢が異なるため、経年変化は掲載していない。

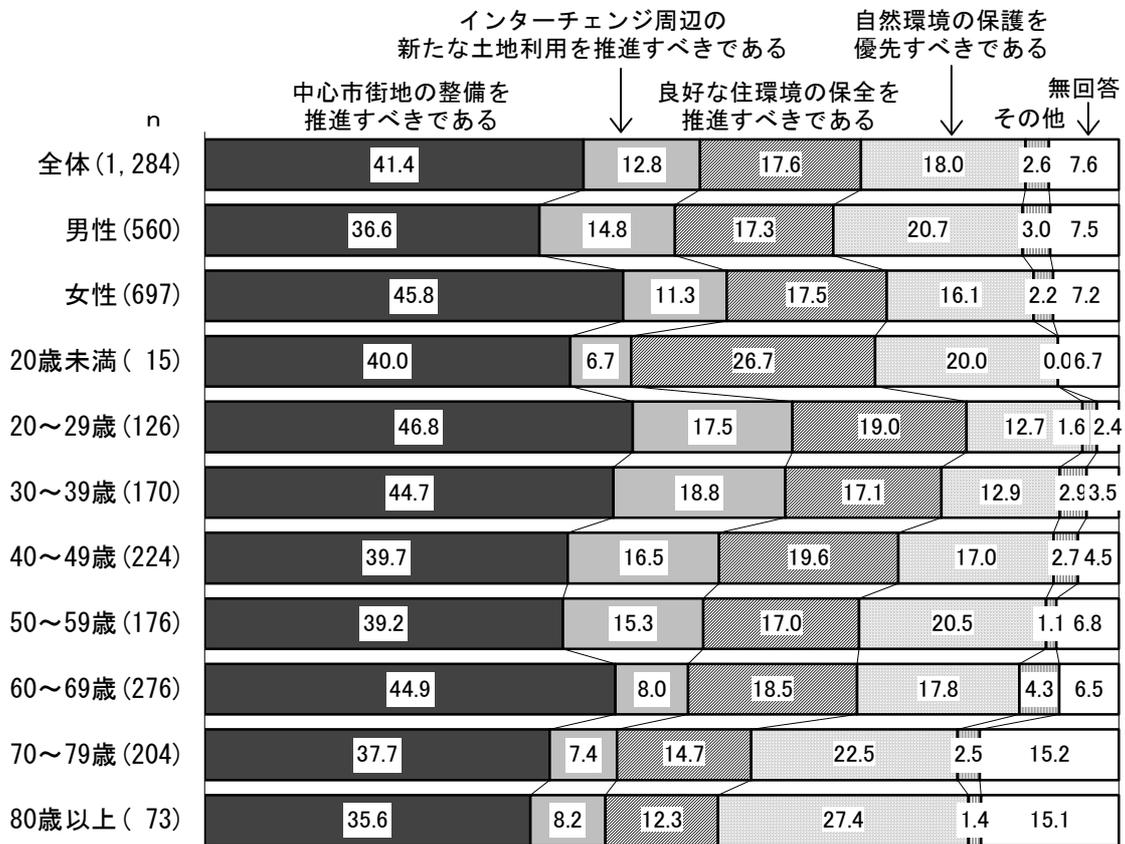
【属性別】

性別で見ると、女性では「中心市街地の整備を推進すべきである」（45.8%）が男性よりも9.2ポイント高くなっている。

年齢別で見ると、「自然環境の保護を優先すべきである」と「良好な住環境の保全を推進すべきである」の2項目で、20～49歳では「良好な住環境の保全」との回答が「自然環境の保護」より高くなっている。50歳以上では「自然環境の保護」との回答が「良好な住環境の保全」より高い結果となっている。

また、「インターチェンジ周辺の新たな土地利用を推進すべきである」については、60歳以上では1割を下回り、他の年齢層よりも低い結果となっている。

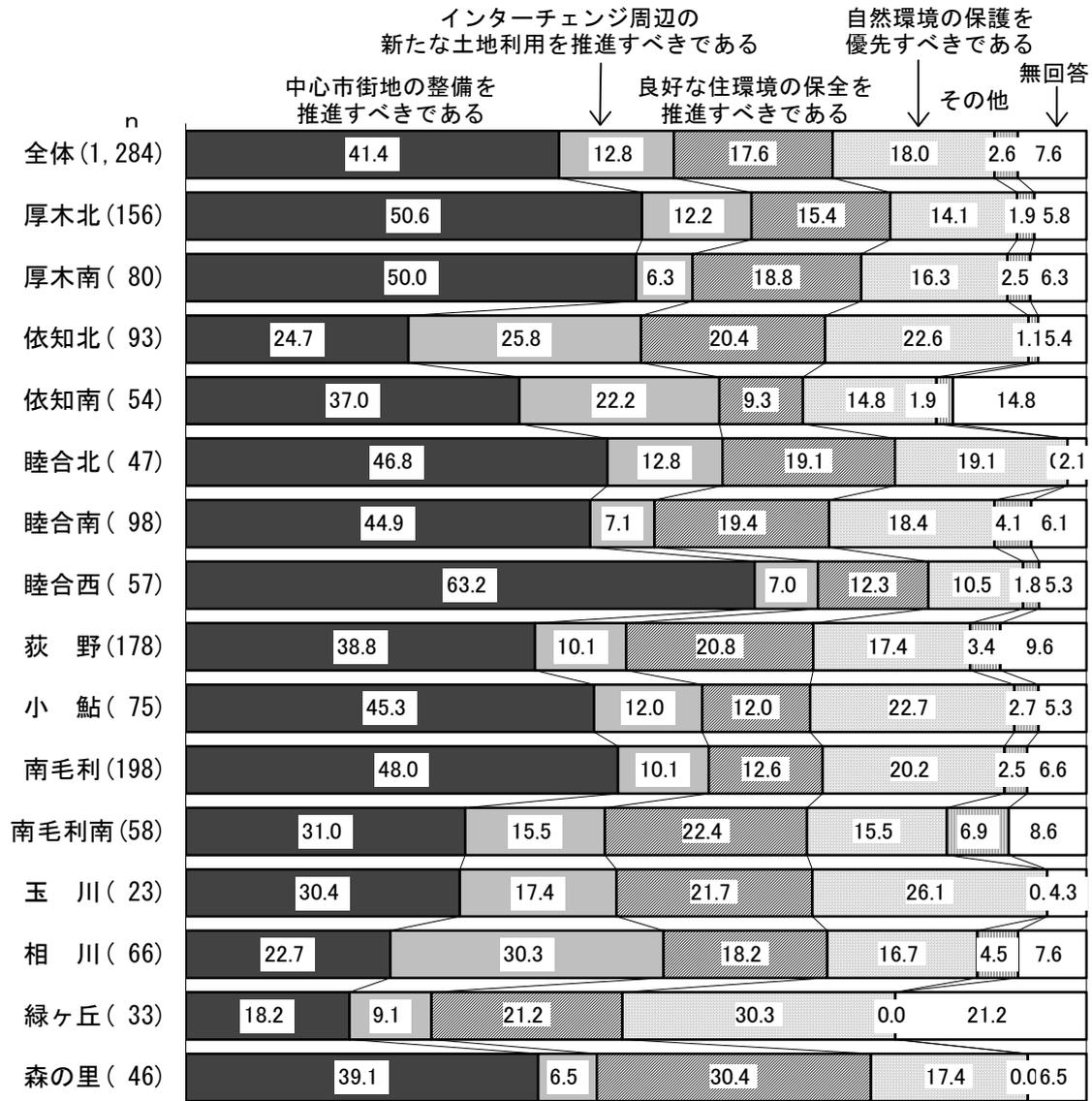
図 14-9-2 市の将来の土地利用—性別、年齢別



単位：%

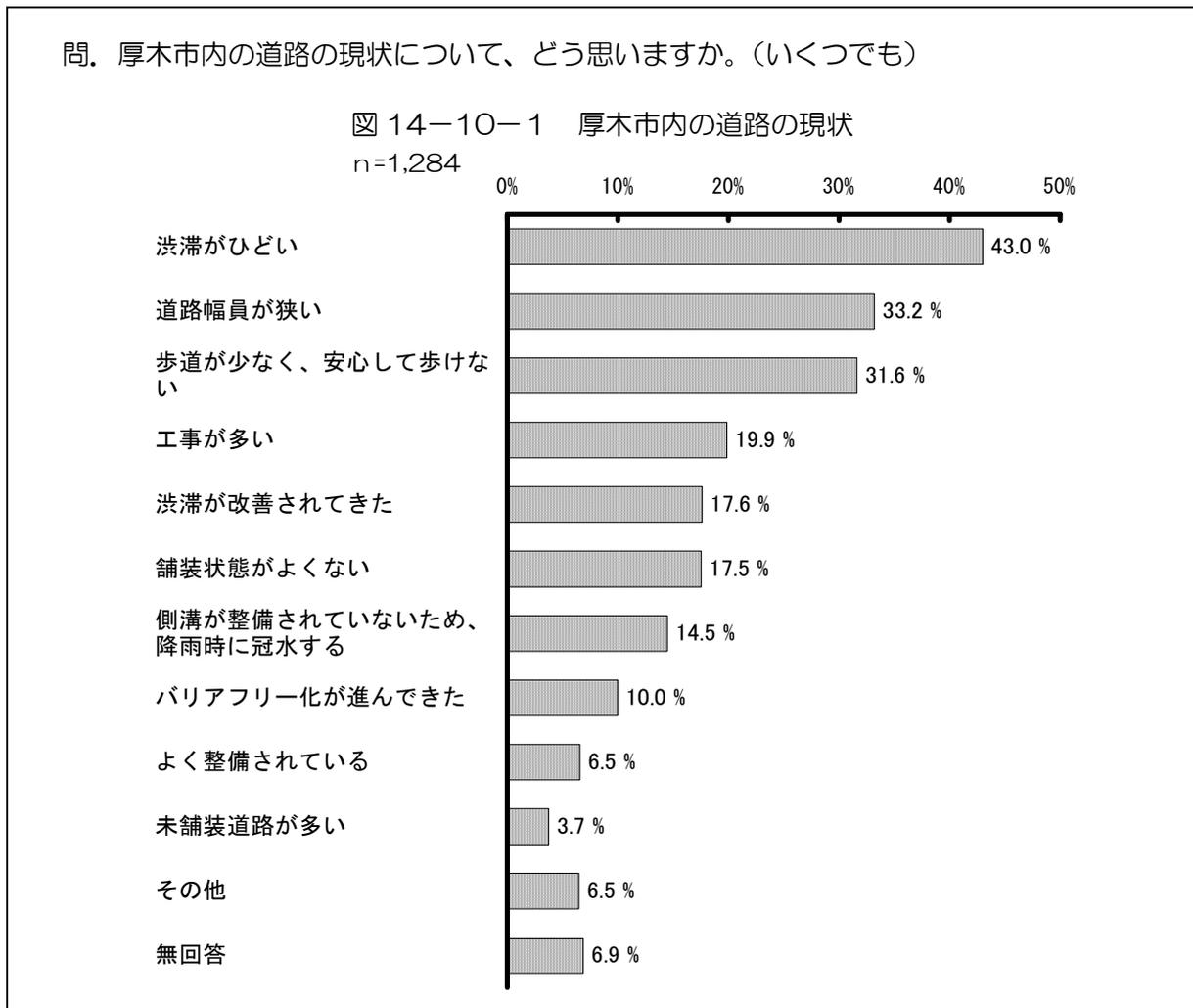
居住地区別の結果

図 14-9-3 市の将来の土地利用—居住地区別



単位：%

(10) 厚木市内の道路の現状 (B:問29)



【全体】

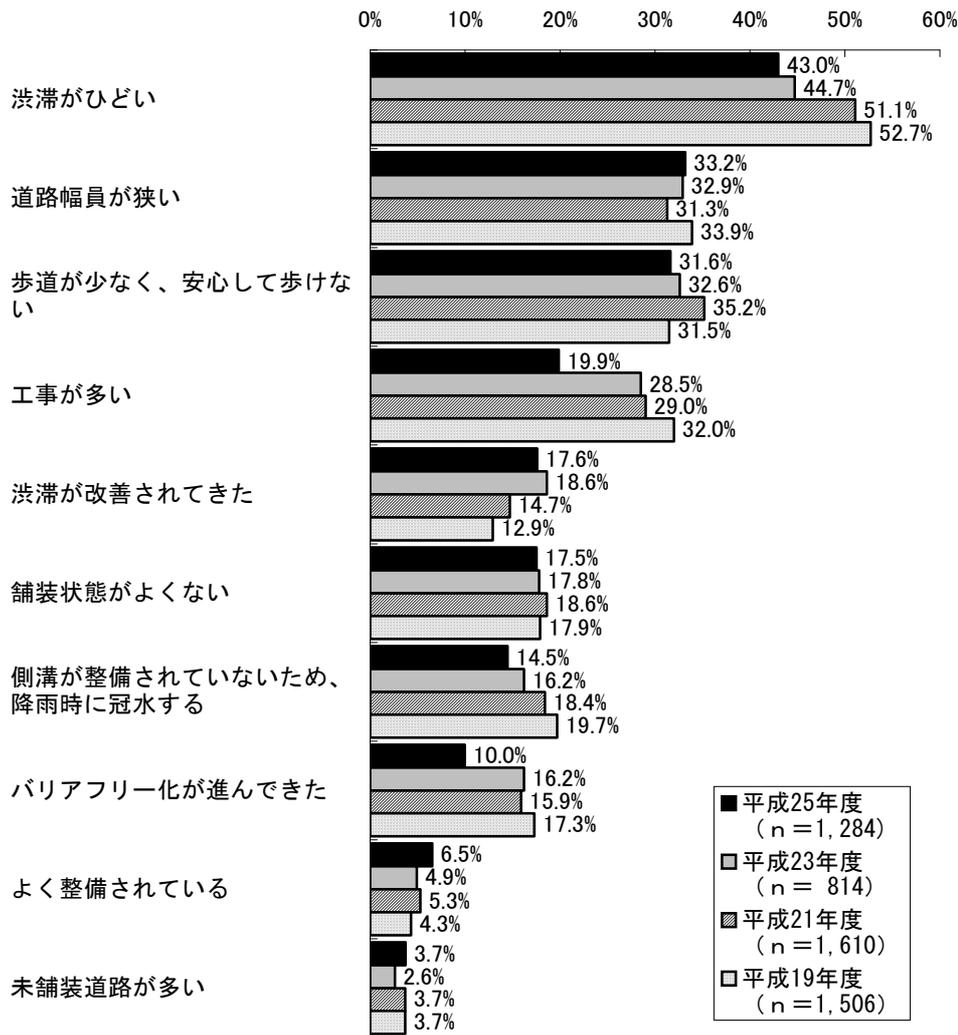
厚木市内の道路の現状について聞いたところ、「渋滞がひどい」(43.0%)が4割を超えて最も高くなっている。次いで、「道路幅員が狭い」(33.2%)、「歩道が少なく、安心して歩けない」(31.6%)が3割を超えて高くなっている。

【経年変化】

直近4回の調査では「渋滞がひどい」との回答が連続して最も高く、いずれも唯一4割を超えているが、減少傾向となっている。

次いで、「道路幅員が狭い」、「歩道が少なく、安心して歩けない」、「工事が多い」との3項目がこれまで3割前後の回答として続いていたが、今回調査では「工事が多い」との回答が19.9%と減少している。

図 14-10-2 厚木市内の道路の現状—経年変化



【属性別】

性別で見ると、男性で「渋滞がひどい」（46.8%）が女性より6.2ポイント高く、「渋滞が改善されてきた」も女性より5.2ポイント高くなっている。

年齢別で見ると、50歳代で「渋滞がひどい」（50.6%）、「歩道が少なく、安心して歩けない」（39.8%）、「道路幅員が狭い」（38.6%）の3項目が全体よりも高くなっている。また、20歳代では「工事が多い」（37.3%）、40歳代では「側溝が整備されていないため、降雨時に冠水する」（20.1%）、60歳代では「渋滞が改善されてきた」（23.9%）が全体よりも高くなっている。

表 14-10-1 厚木市内の道路の現状—性別、年齢別

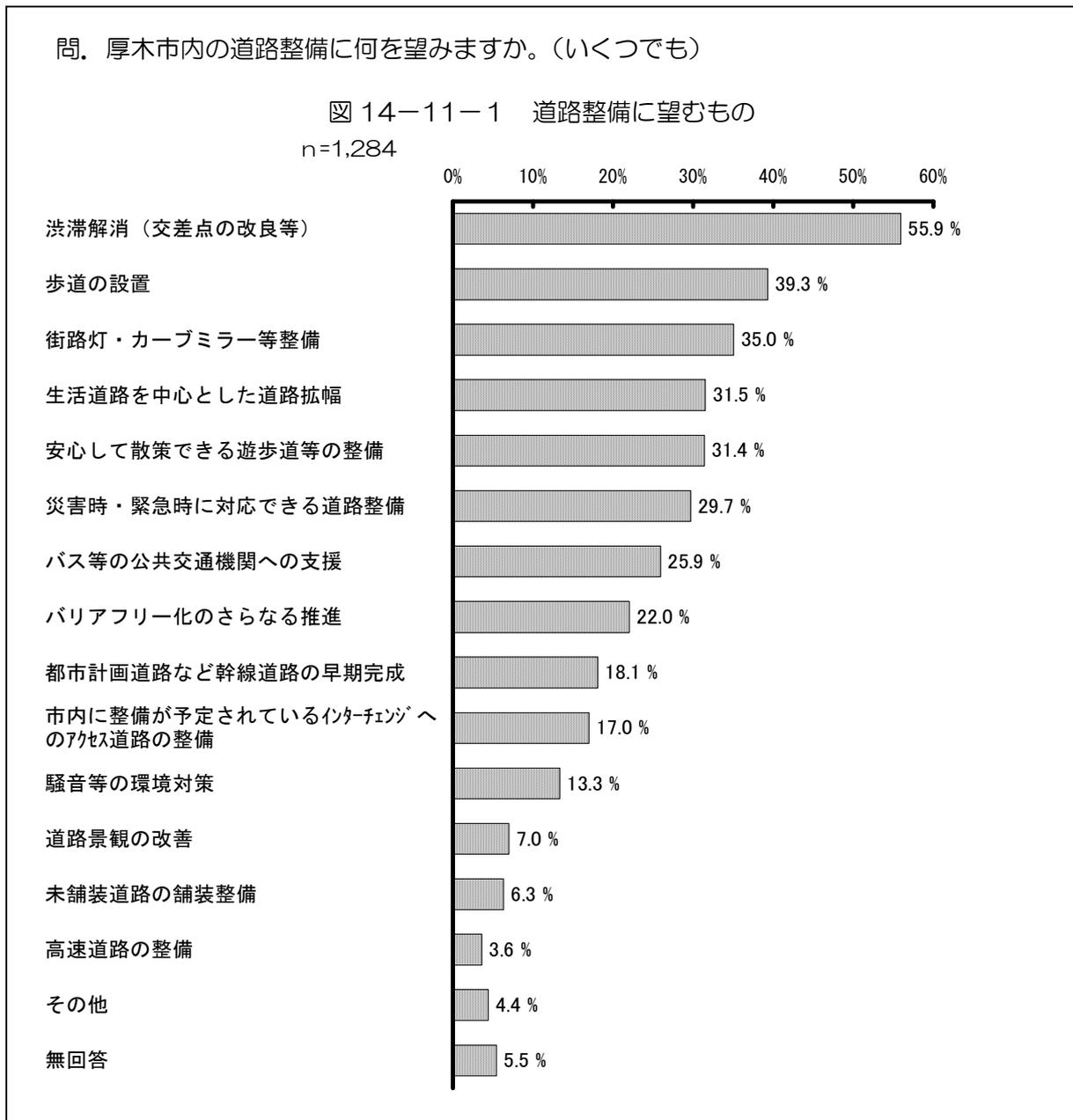
(単位：%)	渋滞がひどい	渋滞が改善されてきた	バリアフリー化が進んできた	よく整備されている	道路幅員が狭い	工事が多い	歩道が少なく、安心して歩けない	未舗装道路が多い	舗装状態がよくない	側溝が整備されていないため、降雨時に冠水する	その他	無回答
全体 (n=1,284)	43.0	17.6	10.0	6.5	33.2	19.9	31.6	3.7	17.5	14.5	6.5	6.9
男性 (n=560)	46.8	20.4	10.5	7.0	35.2	17.7	30.7	2.0	18.2	13.2	7.1	7.3
女性 (n=697)	40.6	15.2	9.5	6.3	32.1	21.8	32.6	5.3	17.5	16.1	6.0	5.9
20歳未満 (n=15)	53.3	20.0	13.3	0.0	46.7	20.0	20.0	0.0	6.7	0.0	20.0	6.7
20～29歳 (n=126)	45.2	10.3	7.9	7.1	29.4	37.3	31.0	5.6	17.5	12.7	8.7	5.6
30～39歳 (n=170)	48.8	15.3	4.7	8.8	30.6	20.0	27.6	4.7	16.5	14.7	4.1	4.1
40～49歳 (n=224)	43.3	12.5	8.0	8.9	28.6	17.4	33.9	2.2	20.1	20.1	8.9	5.8
50～59歳 (n=176)	50.6	18.2	9.1	5.1	38.6	19.9	39.8	4.0	16.5	15.9	4.5	5.1
60～69歳 (n=276)	42.4	23.9	12.3	6.5	34.8	14.1	27.5	2.2	17.8	12.7	9.1	5.4
70～79歳 (n=204)	33.3	22.1	14.2	3.9	36.3	19.1	33.3	4.4	19.1	14.2	2.9	10.8
80歳以上 (n=73)	41.1	12.3	13.7	5.5	37.0	23.3	28.8	8.2	15.1	11.0	2.7	12.3

居住地区別の結果

表 14-10-2 厚木市内の道路の現状—居住地区別

(単位：%)	渋滞がひどい	渋滞が改善されてきた	バリアフリー化が進んできた	よく整備されている	道路幅員が狭い	工事が多い	歩道が少なく、 安心して歩けない	未舗装道路が多い	舗装状態がよくない	側溝が整備されていないため、 降雨時に冠水する	その他	無回答
全体 (n=1, 284)	43.0	17.6	10.0	6.5	33.2	19.9	31.6	3.7	17.5	14.5	6.5	6.9
厚木北 (n=156)	33.3	12.2	12.8	14.1	21.2	17.3	27.6	3.2	17.9	19.9	6.4	6.4
厚木南 (n= 80)	33.8	13.8	8.8	3.8	25.0	21.3	25.0	5.0	16.3	15.0	7.5	11.3
依知北 (n= 93)	44.1	22.6	6.5	4.3	47.3	20.4	30.1	5.4	19.4	16.1	4.3	3.2
依知南 (n= 54)	42.6	25.9	9.3	5.6	51.9	16.7	46.3	5.6	27.8	11.1	5.6	9.3
睦合北 (n= 47)	48.9	29.8	12.8	4.3	40.4	27.7	34.0	4.3	19.1	19.1	4.3	0.0
睦合南 (n= 98)	42.9	23.5	9.2	5.1	31.6	12.2	35.7	1.0	22.4	7.1	8.2	6.1
睦合西 (n= 57)	45.6	17.5	10.5	3.5	38.6	14.0	42.1	0.0	10.5	8.8	5.3	7.0
荻野 (n=178)	51.7	23.6	11.2	4.5	32.6	21.9	30.9	2.8	14.6	10.7	6.2	5.6
小 鮎 (n= 75)	40.0	17.3	9.3	6.7	40.0	28.0	32.0	8.0	16.0	12.0	5.3	5.3
南毛利 (n=198)	54.0	12.1	9.1	5.1	37.4	25.3	37.4	4.0	17.7	20.2	8.6	6.1
南毛利南 (n=58)	31.0	15.5	12.1	10.3	19.0	13.8	20.7	6.9	22.4	10.3	13.8	8.6
玉 川 (n= 23)	43.5	13.0	0.0	4.3	43.5	17.4	26.1	4.3	13.0	8.7	8.7	4.3
相 川 (n= 66)	42.4	12.1	13.6	10.6	27.3	16.7	30.3	3.0	18.2	18.2	4.5	7.6
緑ヶ丘 (n= 33)	39.4	6.1	12.1	6.1	30.3	9.1	21.2	3.0	9.1	15.2	0.0	15.2
森の里 (n= 46)	30.4	17.4	6.5	8.7	32.6	17.4	23.9	0.0	15.2	15.2	4.3	8.7

(11) 道路整備に望むもの（B：問 30）



【全体】

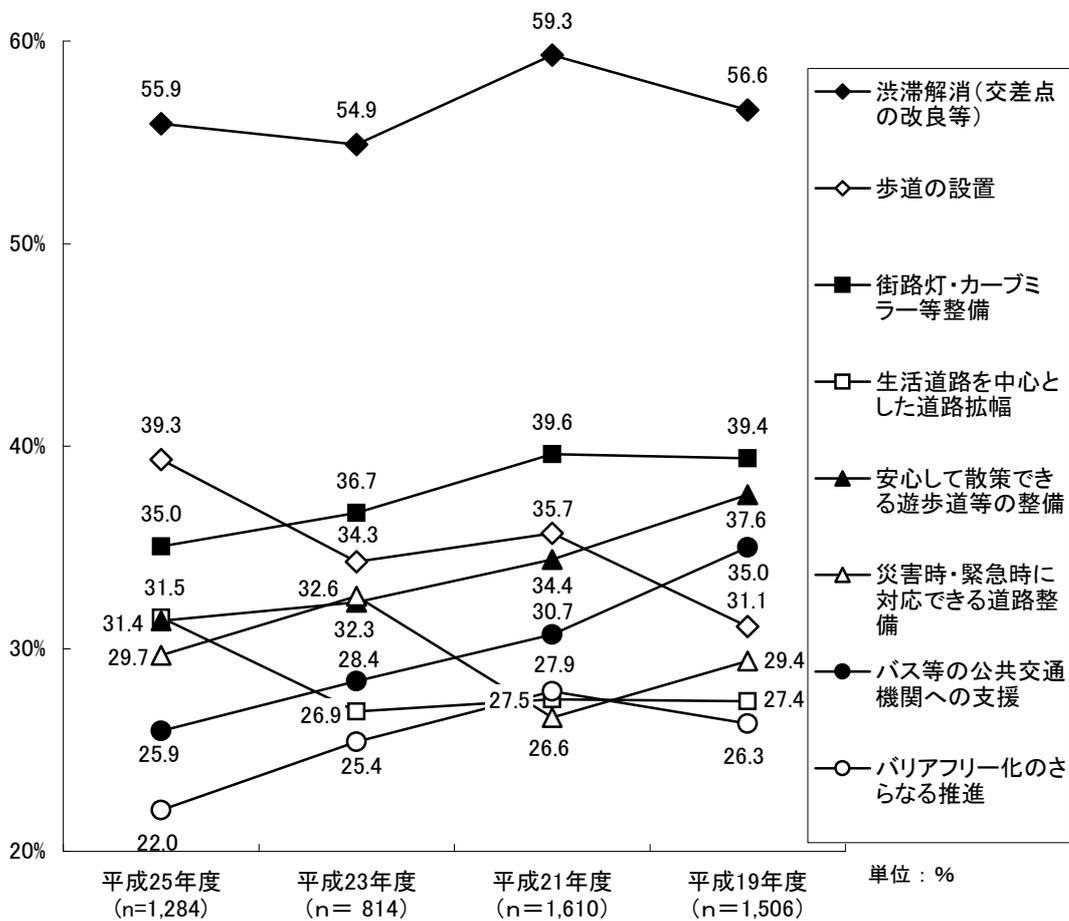
厚木市内の道路整備に何を望むか聞いたところ、「渋滞解消（交差点の改良等）」（55.9%）が半数を超えて最も高くなっている。次いで、「歩道の設置」（39.3%）、「街路灯・カーブミラー等整備」（35.0%）、「生活道路を中心とした道路拡幅」（31.5%）、「安心して散歩できる遊歩道等の整備」（31.4%）、「災害時・緊急時に対応できる道路整備」（29.7%）となっている。

【経年変化】

直近4回の調査では、上位8項目に同じ項目が選ばれている。これらの項目に注目して経年による変化を見ると、「渋滞解消（交差点の改良等）」は半数を超えて最も高くなっている。2位から8位は調査ごとに順位に変動が見られるが、「街路灯・カーブミラー等整備」、「安心して散策できる遊歩道等の整備」、「バス等の公共交通機関への支援」、「バリアフリー化のさらなる推進」の4項目は、おおむね減少傾向にある。

一方で、「歩道の設置」については、近年意向が高まってきている傾向にあり、平成19年度調査と比べて、今回の調査結果（39.3%）は、8.2ポイントの増加となっている。

図 14-11-2 道路整備に望むもの一経年変化



【属性別】

性別で見ると、男性は「都市計画道路など幹線道路の早期完成」（25.4%）が13.1ポイント高く、「市内に整備が予定されているインターチェンジへのアクセス道路の整備」（20.9%）、「渋滞解消（交差点の改良等）」（59.1%）が、それぞれ女性より高くなっている。

一方、女性では「街路灯・カーブミラー等整備」（40.6%）が11.8ポイント男性より高くなっているほか、「災害時・緊急時に対応できる道路整備」（34.3%）、「バリアフリー化のさらなる推進」（25.4%）、「安心して散策できる遊歩道等の整備」（34.4%）がそれぞれ男性より高くなっており、性別の差が目立つ結果となっている。

年齢別で見ると、「渋滞解消（交差点の改良等）」では、70歳以上の回答が4割台で少なくなっている。「街路灯・カーブミラー等整備」では20歳代（45.2%）、40歳代（42.0%）、「安心して散策できる遊歩道等の整備」では、70歳代（40.2%）の回答がそれぞれ高くなっている。

表 14-11-1 道路整備に望むもの一性別、年齢別

(単位：%)	渋滞解消 (交差点の改良等)	バリアフリー化のさらなる推進	都市計画道路など幹線道路の早期完成	生活道路を中心とした道路拡幅	歩道の設置	未舗装道路の舗装整備	安心して散策できる遊歩道等の整備	災害時・緊急時に対応できる道路整備	街路灯・カーブミラー等整備	騒音等の環境対策	高速道路の整備	バス等の公共交通機関への支援	道路景観の改善	市内に整備が予定されている インターチェンジへのアクセス道路の整備	その他	無回答
全体 (n=1,284)	55.9	22.0	18.1	31.5	39.3	6.3	31.4	29.7	35.0	13.3	3.6	25.9	7.0	17.0	4.4	5.5
男性 (n=560)	59.1	17.5	25.4	32.3	37.7	4.8	28.0	23.9	28.8	12.1	5.2	24.6	8.8	20.9	5.2	5.9
女性 (n=697)	53.4	25.4	12.3	31.4	40.6	7.7	34.4	34.3	40.6	14.2	2.3	27.4	5.3	14.3	3.9	4.7
20歳未満 (n=15)	66.7	26.7	13.3	40.0	46.7	20.0	40.0	20.0	33.3	13.3	0.0	33.3	13.3	6.7	13.3	0.0
20～29歳 (n=126)	63.5	19.0	14.3	30.2	42.1	8.7	24.6	29.4	45.2	18.3	5.6	28.6	4.8	18.3	5.6	3.2
30～39歳 (n=170)	63.5	19.4	17.6	34.7	34.7	7.6	25.3	29.4	37.6	15.3	4.1	28.2	5.9	22.4	3.5	1.8
40～49歳 (n=224)	58.9	24.6	17.0	26.8	44.6	5.8	27.7	32.6	42.0	14.3	4.5	25.4	8.5	21.0	8.0	4.9
50～59歳 (n=176)	62.5	24.4	15.3	33.5	39.2	5.1	35.2	28.4	32.4	15.3	2.8	25.6	11.9	17.0	2.8	4.0
60～69歳 (n=276)	52.9	23.2	24.3	31.9	36.6	4.3	31.9	27.5	30.1	12.0	2.2	25.7	5.1	15.2	4.3	4.3
70～79歳 (n=204)	45.1	17.6	18.6	32.4	41.2	6.4	40.2	30.4	33.3	9.8	2.9	25.5	5.9	14.7	2.0	8.8
80歳以上 (n=73)	45.2	27.4	11.0	31.5	35.6	9.6	31.5	32.9	23.3	8.2	6.8	23.3	2.7	8.2	4.1	13.7

居住地区別の結果

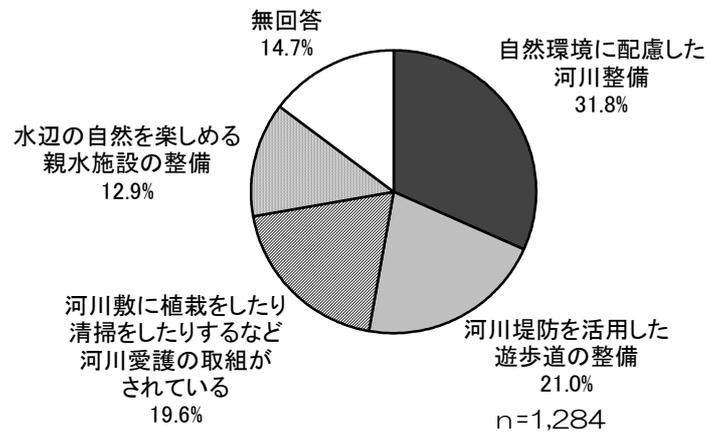
表 14-11-2 道路整備に望むもの—居住地区別

(単位：%)	渋滞解消 (交差点の改良等)	バリアフリー化のさらなる推進	都市計画道路など幹線道路の早期完成	生活道路を中心とした道路拡幅	歩道の設置	未舗装道路の舗装整備	安心して散策できる遊歩道等の整備	災害時・緊急時に対応できる道路整備	街路灯・カーブミラー等整備	騒音等の環境対策	高速道路の整備	バス等の公共交通機関への支援	道路景観の改善	市内に整備が予定されている インターチェンジへのアクセス道路の整備	その他	無回答
全体 (n=1, 284)	55.9	22.0	18.1	31.5	39.3	6.3	31.4	29.7	35.0	13.3	3.6	25.9	7.0	17.0	4.4	5.5
厚木北 (n=156)	47.4	25.0	11.5	18.6	35.3	4.5	34.6	31.4	31.4	20.5	4.5	17.3	5.8	13.5	7.1	3.8
厚木南 (n= 80)	47.5	25.0	12.5	30.0	45.0	3.8	27.5	28.8	30.0	7.5	3.8	16.3	11.3	12.5	3.8	3.8
依知北 (n= 93)	60.2	16.1	22.6	37.6	39.8	4.3	34.4	25.8	36.6	12.9	5.4	30.1	6.5	22.6	2.2	4.3
依知南 (n= 54)	55.6	24.1	18.5	51.9	38.9	11.1	37.0	24.1	40.7	13.0	5.6	22.2	5.6	14.8	3.7	9.3
睦合北 (n= 47)	61.7	25.5	21.3	44.7	38.3	8.5	27.7	34.0	40.4	8.5	2.1	23.4	6.4	25.5	0.0	0.0
睦合南 (n= 98)	54.1	22.4	19.4	28.6	42.9	8.2	29.6	24.5	32.7	20.4	2.0	20.4	6.1	11.2	4.1	6.1
睦合西 (n= 57)	61.4	26.3	21.1	29.8	49.1	3.5	33.3	31.6	35.1	10.5	3.5	22.8	7.0	19.3	10.5	8.8
荻野 (n=178)	66.9	22.5	19.7	33.1	32.6	6.2	28.1	30.3	33.1	11.8	3.4	30.3	7.9	22.5	3.9	4.5
小 鮎 (n= 75)	52.0	22.7	29.3	40.0	40.0	12.0	37.3	32.0	46.7	12.0	4.0	30.7	6.7	21.3	2.7	5.3
南毛利 (n=198)	61.6	18.7	17.2	33.3	44.4	6.6	32.3	34.3	38.9	12.1	4.5	30.3	4.5	16.2	5.1	5.1
南毛利南 (n=58)	51.7	20.7	10.3	34.5	37.9	3.4	31.0	34.5	27.6	17.2	0.0	22.4	6.9	15.5	5.2	5.2
玉 川 (n= 23)	56.5	17.4	13.0	17.4	39.1	4.3	30.4	21.7	34.8	13.0	0.0	21.7	17.4	4.3	0.0	4.3
相 川 (n= 66)	50.0	25.8	16.7	27.3	45.5	9.1	28.8	30.3	27.3	10.6	4.5	27.3	6.1	22.7	9.1	6.1
緑ヶ丘 (n= 33)	45.5	12.1	12.1	12.1	24.2	6.1	24.2	27.3	30.3	6.1	0.0	36.4	9.1	0.0	0.0	12.1
森の里 (n= 46)	47.8	23.9	26.1	30.4	34.8	4.3	26.1	15.2	47.8	8.7	4.3	39.1	6.5	19.6	0.0	4.3

(12) 河川環境の整備状況 (B: 問 31)

問. 河川環境の整備がされていると思うと感じることは何ですか。(1つだけ)

図 14-12-1 河川環境の整備状況



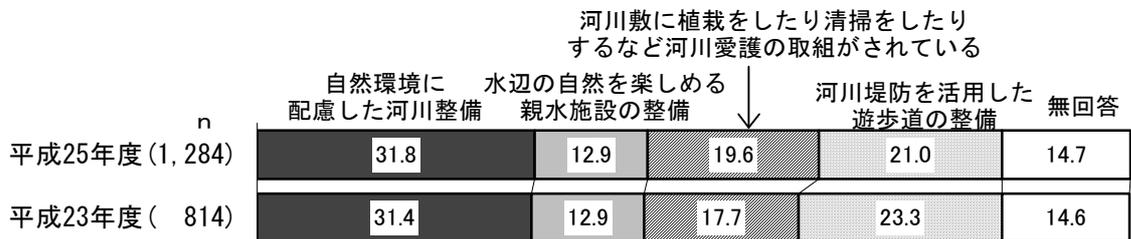
【全体】

河川環境の整備状況について聞いたところ、「自然環境に配慮した河川整備」(31.8%)が3割を超えて最も高くなっている。次いで、「河川堤防を活用した遊歩道の整備」(21.0%)、「河川敷に植栽をしたり清掃をしたりするなど河川愛護の取組がされている」(19.6%)、「水辺の自然を楽しむ親水施設の整備」(12.9%)となっている。

【経年変化】

経年による大きな変化は見られない。

図 14-12-2 河川環境の整備状況—経年変化



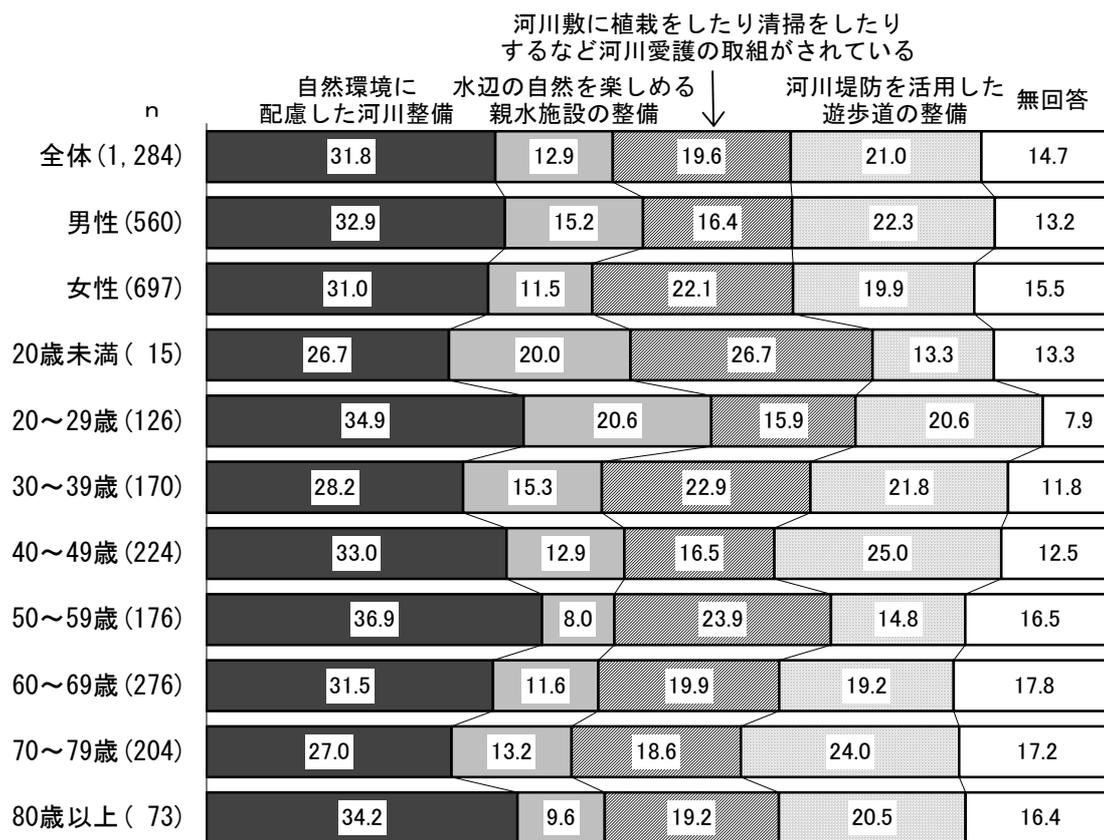
単位: %

【属性別】

性別で見ると、女性では「河川敷に植栽をしたり清掃をしたりするなど河川愛護の取組がされている」(22.1%)が、男性より5.7ポイント高くなっている。

年齢別で見ると、50歳代では「自然環境に配慮した河川整備」(36.9%)が全体より高くなっているのに対し、「河川堤防を活用した遊歩道の整備」(14.8%)が全体より低いという傾向となっている。

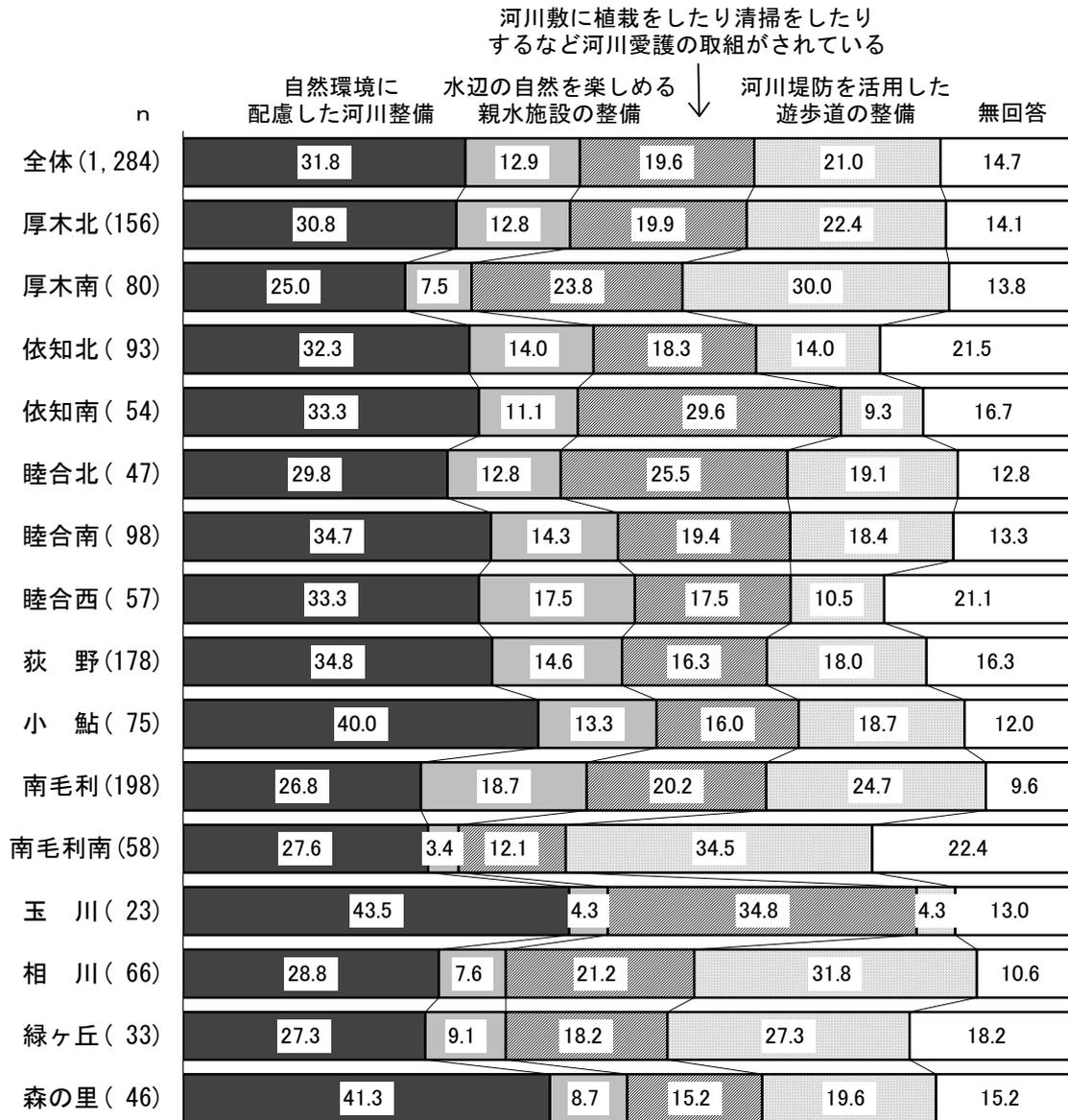
図 14-12-3 河川環境の整備状況—性別、年齢別



単位：%

居住地区別の結果

図 14-12-4 河川環境の整備状況—居住地区別

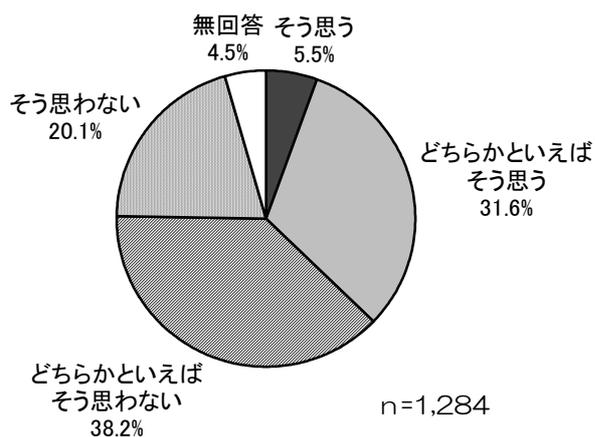


15 行政

(1) 市民の声を行政に反映させる仕組み（B：問32）

問. 市民の声を政策や市の取組に反映させるための仕組みは十分だと思いますか。（1つだけ）

図 15-1-1 市民の声を行政に反映させる仕組み



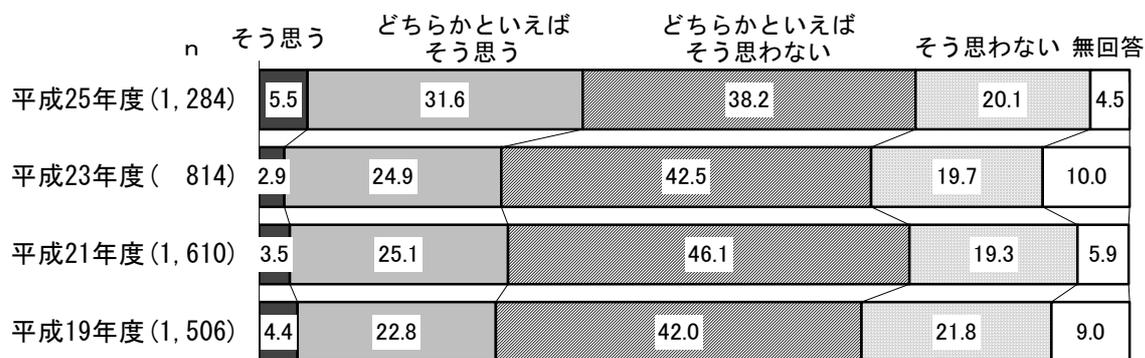
【全体】

市民の声を行政に反映させるための仕組みは十分だと思うか聞いたところ、「そう思う」（5.5%）と「どちらかといえばそう思う」（31.6%）を合わせた『そう思う』が37.1%となっている。一方、「どちらかといえばそう思わない」（38.2%）と「そう思わない」（20.1%）を合わせた『そう思わない』が58.3%で6割に近く、『そう思う』よりも高い結果となっている。

【経年変化】

経年による変化では、「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」を合わせた『そう思う』が、過去3回の調査では全体の3割弱だったが、今回調査（37.1%）では高い結果となっている。

図 15-1-2 市民の声を行政に反映させる仕組み—経年変化



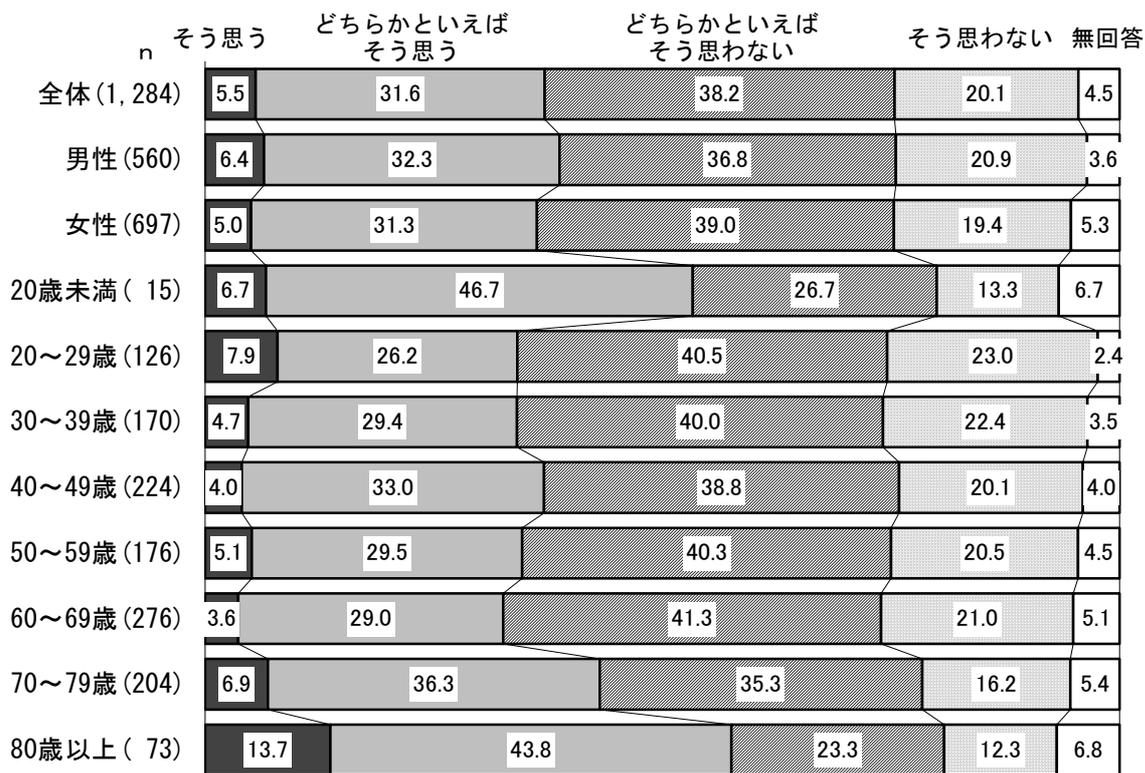
単位：%

【属性別】

性別で見ると、男女ともほぼ同じ傾向になっている。

年齢別で見ると、「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」を合わせた『そう思う』が70歳以上で4割以上と高くなっている。

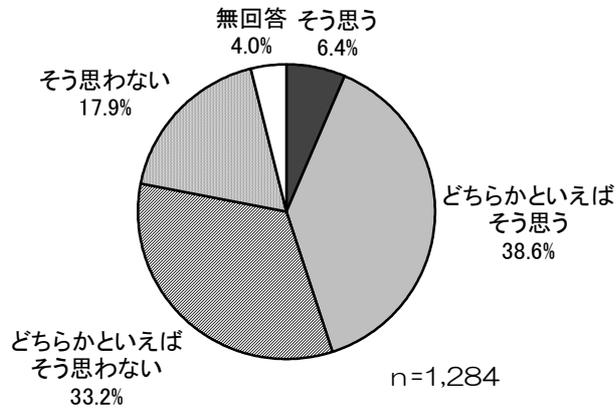
図 15-1-3 市民の声を行政に反映させる仕組み—性別、年齢別



(2) 行政情報の公開状況 (B: 問 33)

問. 行政の情報が積極的に公開されていると思いますか。(1つだけ)

図 15-2-1 行政情報の公開状況



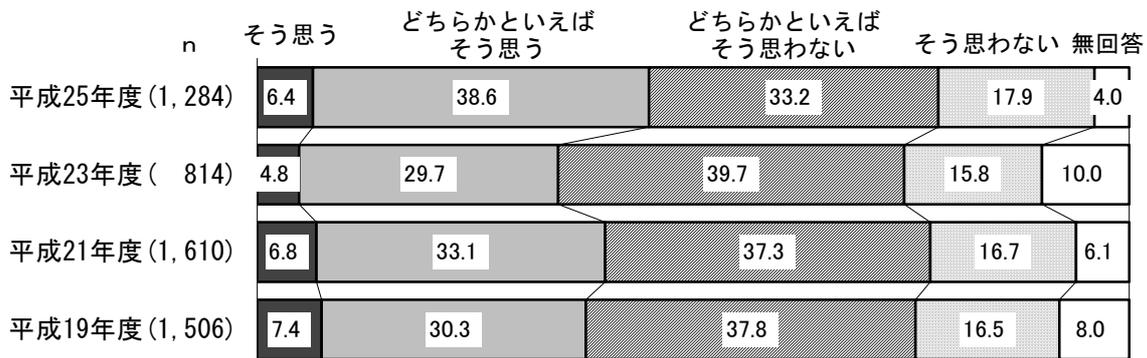
【全体】

行政の情報が積極的に公開されていると思うか聞いたところ、「そう思う」(6.4%)、「どちらかといえばそう思う」(38.6%)を合わせた『そう思う』が45.0%となっている。一方、「そう思わない」(17.9%)と「どちらかといえばそう思わない」(33.2%)を合わせた『そう思わない』が51.1%で半数を超えている。

【経年変化】

経年による変化では、「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」を合わせた『そう思う』が45.0%と増加しており、直近4回の調査で最も高い結果となっている。

図 15-2-2 行政情報の公開状況—経年変化

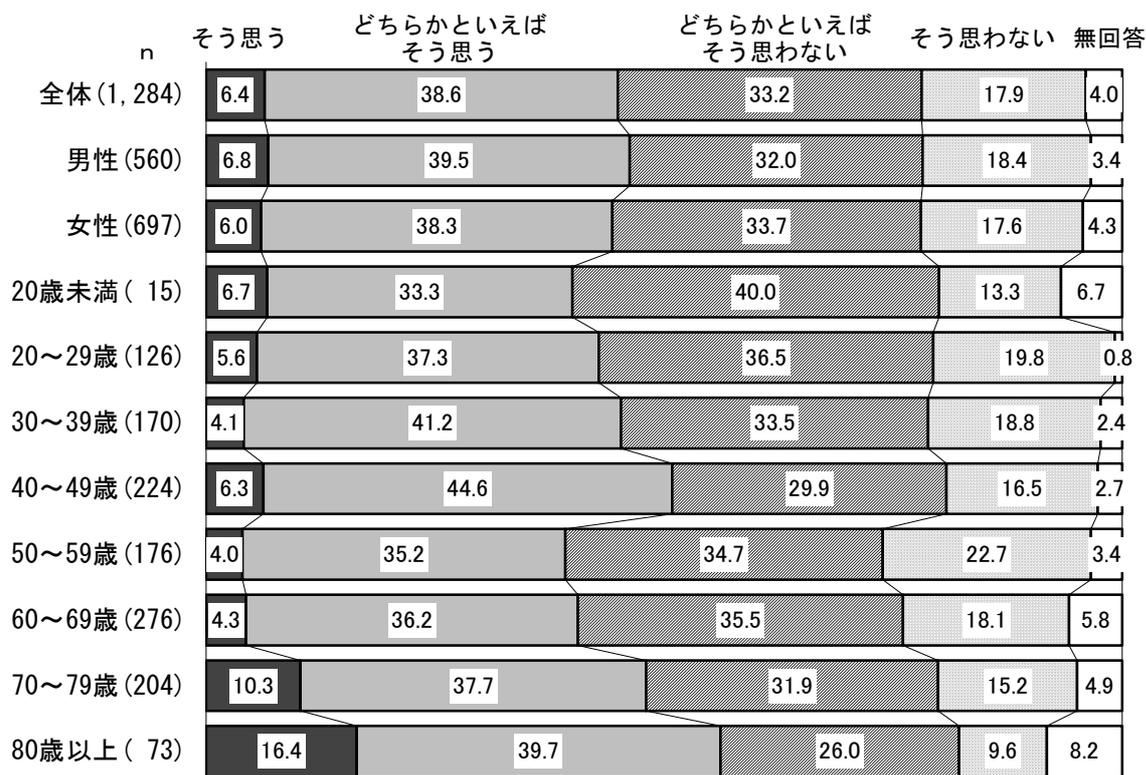


【属性別】

性別で見ると、男女ともほぼ同じ傾向になっている。

年齢別で見ると、「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」を合わせた『そう思う』が40歳代（50.9%）、80歳以上（56.1%）で5割を超え高くなっている。

図 15-2-3 行政情報の公開状況—性別、年齢別

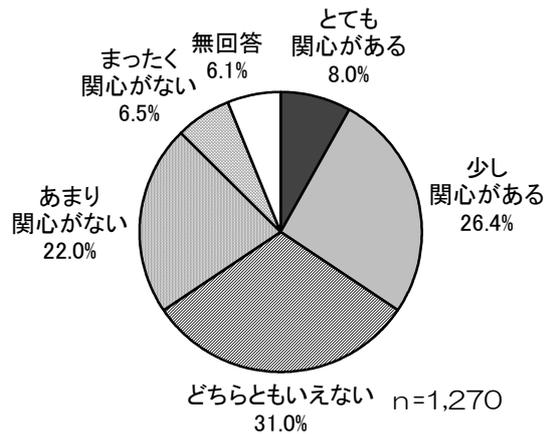


単位：%

(3) 「市民協働によるまちづくり」(A：問 32)

問. 市民協働のルールとして、平成 24 年 10 月に厚木市市民協働推進条例が制定されました。市民と行政が連携・協力して共に取り組む「市民協働によるまちづくり」に関心はありますか。(1つだけ)

図 15-3-1 「市民協働によるまちづくり」



【全体】

「市民協働によるまちづくり」に関心があるか聞いたところ、「とても関心がある」(8.0%)、「少し関心がある」(26.4%)を合わせた『関心がある』(34.4%)が3割半ばとなっている。一方、「まったく関心がない」(6.5%)と「あまり関心がない」(22.0%)を合わせた『関心がない』(28.5%)は3割弱となっている。

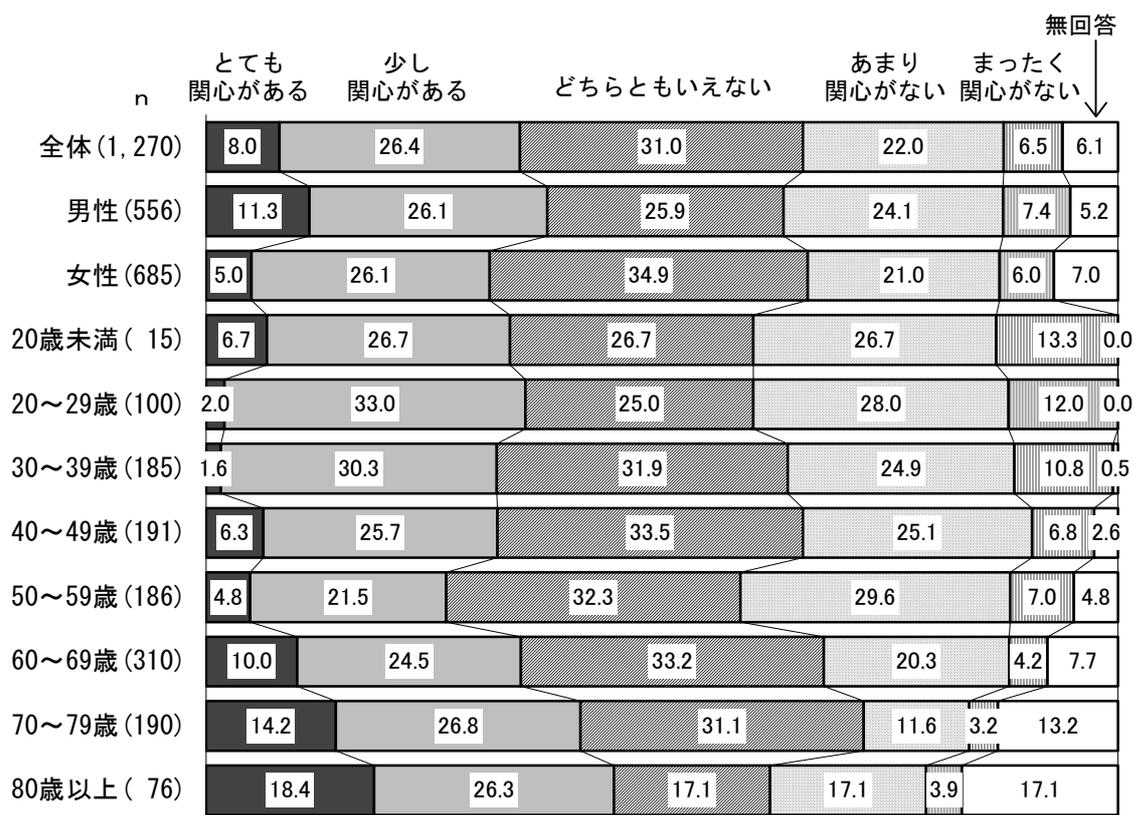
【経年変化】

新規設問のため、経年変化は掲載していない。

【属性別】

性別で見ると、男性では「とても関心がある」（11.3%）が女性よりも6.3ポイント高い。
 年齢別で見ると、「とても関心がある」と「少し関心がある」を合わせた『関心がある』は、70歳代（41.0%）と80歳以上（44.7%）で4割を超えて高くなっている。

図 15-3-2 「市民協働によるまちづくり」－性別、年齢別



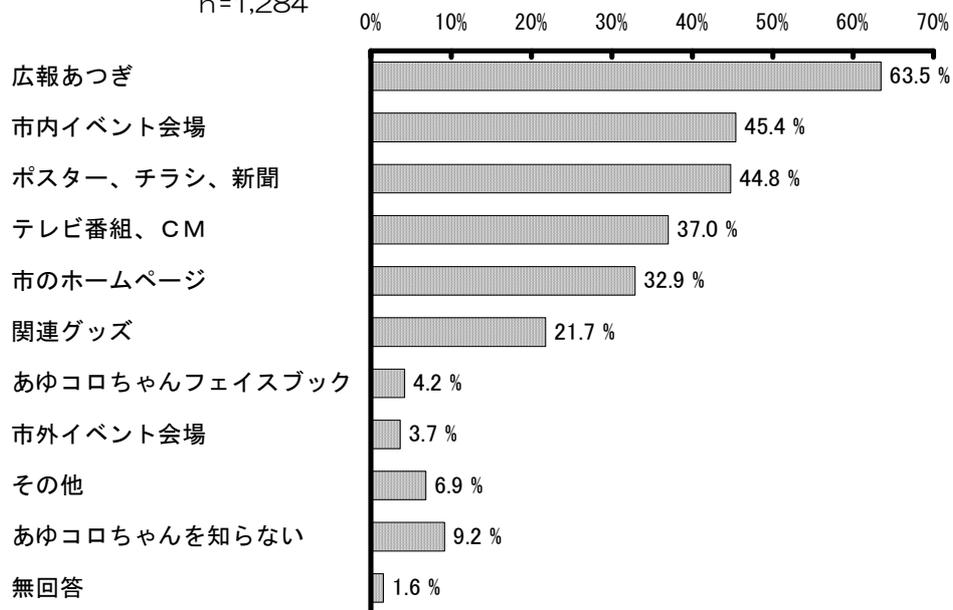
単位：%

(4)「あゆコロちゃん」の認知度 (B:問34)

問. あなたは厚木市のマスコットキャラクター「あゆコロちゃん」をどこで見たことがありますか。(いくつでも)

図 15-4-1 「あゆコロちゃん」の認知度

n=1,284



【全体】

厚木市のマスコットキャラクター「あゆコロちゃん」についてどこで見たかを聞いたところ、「広報あつぎ」(63.5%)が最も高く、次いで「市内イベント会場」(45.4%)、「ポスター、チラシ、新聞」(44.8%)、「テレビ番組、CM」(37.0%)、「市のホームページ」(32.9%)となっている。

【経年変化】

新規設問のため、経年変化は掲載していない。

【属性別】

性別で見ると、女性は「テレビ番組、CM」（43.9%）が男性を 14.6 ポイント上回っている。次いで、「広報あつぎ」（69.9%）、「市内イベント会場」（50.8%）、「関連グッズ」（26.8%）、「ポスター、チラシ、新聞」（49.5%）など 10 ポイント以上大きく上回っている項目が多くなっている。

年齢別で見ると、20 歳代では「広報あつぎ」を除いたその他の選択肢では、全体より高い結果となった。また、20～49 歳では「広報あつぎ」、「市内イベント会場」、「ポスター、チラシ、新聞」での回答が半数を超えるなど、若い年代に浸透していることがわかる。

一方、おおむね年齢が上がるにつれ「あゆコロちゃんを知らない」との回答が高くなる傾向にあり、60 歳以上では 1 割を超えている。

表 15-4-1 「あゆコロちゃん」の認知度—性別、年齢別

(単位：%)	市のホームページ	あゆコロちゃんフェイスブック	広報あつぎ	市内イベント会場	市外イベント会場	テレビ番組、CM	ポスター、チラシ、新聞	関連グッズ	その他	あゆコロちゃんを知らない	無回答
全体 (n=1,284)	32.9	4.2	63.5	45.4	3.7	37.0	44.8	21.7	6.9	9.2	1.6
男性 (n=560)	33.8	3.8	55.7	39.5	3.0	29.3	39.1	15.7	7.0	11.8	1.8
女性 (n=697)	32.7	4.7	69.9	50.8	4.3	43.9	49.5	26.8	6.9	6.5	1.3
20歳未満 (n=15)	33.3	6.7	60.0	33.3	6.7	60.0	73.3	33.3	20.0	6.7	0.0
20～29歳 (n=126)	42.9	8.7	56.3	57.9	10.3	56.3	60.3	33.3	13.5	3.2	0.0
30～39歳 (n=170)	43.5	8.8	62.4	60.0	3.5	51.8	57.6	33.5	10.6	3.5	0.6
40～49歳 (n=224)	45.5	2.7	70.1	62.1	4.9	45.5	54.9	31.7	8.0	5.4	1.3
50～59歳 (n=176)	26.7	4.0	60.8	36.9	1.7	41.5	42.6	22.2	5.1	9.1	1.7
60～69歳 (n=276)	25.0	2.5	64.9	37.0	2.9	23.9	34.4	13.8	3.6	12.7	1.1
70～79歳 (n=204)	23.0	2.5	62.3	33.8	2.5	24.0	35.3	8.8	3.4	14.7	2.5
80歳以上 (n=73)	27.4	2.7	65.8	26.0	0.0	16.4	21.9	6.8	5.5	16.4	4.1

IV. 調査票と集計結果

厚木市民意識調査調査票(A)

【最初に、あなたご自身のことについてお伺いします。】

■該当する数字を○印で囲んでください。

ア あなたの性別は。(n=1, 270)

1 男性 43.8	2 女性 53.9	無回答 2.3
-----------	-----------	---------

イ 年齢はおいくつですか。(n=1, 270)

1 20歳未満 1.2	3 30～39歳 14.6	5 50～59歳 14.6	7 70～79歳 15.0
2 20～29歳 7.9	4 40～49歳 15.0	6 60～69歳 24.4	8 80歳以上 6.0
			無回答 1.3

ウ 家族構成はどれに該当しますか。(n=1, 270)

1 夫婦 31.2	3 親子(子との二世帯) 22.9	5 一人暮らし 20.6	
2 親子(親との二世帯) 13.1	4 親子孫(三世帯) 6.8	6 その他 3.6	
			無回答 1.8

エ お住まいはどういう形態ですか。(n=1, 270)

1 持ち家(分譲マンション含む) 72.9	5 社宅・寮・官舎 2.3
2 民営借家 2.6	6 借間 0.4
3 民営アパート(賃貸マンション含む) 14.8	7 その他 1.3
4 公営住宅 3.9	無回答 1.8

オ どの地区にお住まいですか。(n=1, 270)

1 厚木北(松枝、元町、東町、厚木町、寿町、吾妻町、水引、栄町、中町、田村町)	11.6
2 厚木南(幸町、泉町、旭町、南町、温水一部、船子一部、岡田1丁目8番)	7.4
3 依知北(上依知、猿ヶ島、山際、関口、下川入)	7.0
4 依知南(関口一部、中依知、下依知、金田)	4.0
5 睦合北(三田、三田南、棚沢)	4.6
6 睦合南(妻田)	7.5
7 睦合西(林、及川、王子1丁目)	4.6
8 荻野(上荻野、まつかげ台、みはる野、中荻野、下荻野、鳶尾)	13.9
9 小鮎(飯山、上古沢、下古沢、宮の里)	6.1
10 南毛利(戸室、恩名、温水、温水西、愛名、長谷、毛利台)	15.4
11 南毛利南(船子、愛甲)	3.9
12 玉川(小野、七沢、岡津古久)	2.0
13 相川(岡田、酒井、戸田、下津古久、上落合、長沼)	4.9
14 緑ヶ丘(緑ヶ丘、王子2丁目、王子3丁目)	1.7
15 森の里	3.8
無回答 1.6	

カ 厚木市にどのくらいお住まいですか。 (n=1, 270)

1	20年以上（生まれてからずっと）	23.1	5	5～9年	6.6
2	20年以上（転入して以来）	40.9	6	3～4年	4.6
3	10～19年（生まれてからずっと）	2.3	7	2年以下	4.7
4	10～19年（転入して以来）	14.6		無回答	3.1

キ 日ごろ、鉄道を利用する際の最寄駅はどこですか。 (n=1, 270)

1	本厚木駅	78.5	3	海老名駅	7.4	5	その他	1.2
2	愛甲石田駅	10.1	4	厚木駅	0.5		無回答	2.4

ク 自宅からその駅まではどうやって行きますか。 (n=1, 270)

1	徒歩	26.5	3	自家用車	22.6	5	バイク	1.7
2	バス	51.6	4	自転車	9.9	6	その他	1.1
							無回答	1.8

ケ 職業は何ですか。 (n=1, 270)

1	会社員・公務員	29.4	5	専業主婦（主夫）	18.8
2	自営業	4.6	6	学生	2.6
3	農林業	0.4	7	無職	23.6
4	パート・アルバイトなど	14.4	8	その他	4.7
				無回答	1.7

コ 通勤（通学）先はどこですか。（1つのみ。：主婦・主夫、無職の方を除く） (n=712)

1	自宅	4.2	3	横浜・川崎市内	6.2	5	東京23区内	8.8	7	その他	4.6
2	厚木市内	51.5	4	その他の県内	18.0	6	その他の都内	2.5		無回答	4.1

サ あなたは、自治会に加入していますか。 (n=1, 270)

1	加入している	71.3	
2	加入していない	22.0	
3	分からない	4.8	
		無回答	1.8

【ここからは、あなたご自身のお考えについて、お伺いします。】

■該当する数字を○印で囲んでください。

問1 厚木市にずっと住み続けたいですか。(1つだけ選んでください) (n=1,270)

1	ずっと住み続けたい	41.6	
2	できれば住み続けたい	31.4	
3	できれば市外に転出したい	8.4	
4	すぐにでも市外に転出したい	0.9	
5	どちらともいえない	15.0	→ 問4へ
			無回答 2.8

問2 問1で1、2(住み続けたい)とお答えの方にお聞きします。理由は何ですか。

(2つまで選んでください) (n=927)

1	自然環境が良い	33.4	8	交通の便が良い	15.2
2	教育環境が良い	0.4	9	人間関係が良い	4.6
3	子育て環境が充実している	5.0	10	生まれ育ったところである	12.5
4	保健福祉施策が充実している	3.7	11	住み慣れて愛着がある	32.3
5	自分の家や土地がある	44.0	12	通勤・通学に便利	4.4
6	仕事や学校の関係がある	8.3	13	その他	2.8
7	買物に便利である	10.1			無回答 1.1

問3 問1で3、4(転出したい)とお答えの方にお聞きします。理由は何ですか。

(2つまで選んでください) (n=118)

1	自然環境が良くない	1.7	7	買物に不便	34.7
2	教育環境が不十分	5.1	8	交通の便が悪い	44.1
3	子育て環境が不十分	2.5	9	人間関係が希薄である	9.3
4	保健福祉施策が不十分	5.1	10	通勤・通学に不便	21.2
5	自分の家や土地でない	14.4	11	その他	27.1
6	仕事や学校の関係がない	4.2			無回答 0.0

問4 厚木市のまちとして現在のイメージはどれですか。また、将来どのようなまちになってほしいですか。

(1~11の中からそれぞれ3つまで選び該当するものに○印を記入してください)

(n=1, 270)

		① 現在の厚木市のイメージ	② あなたが望む将来の厚木
1	自然環境の豊かなまち	46.1	19.4
2	都市と自然が共存しているまち	22.3	30.1
3	交通の利便性の高いまち	21.5	31.5
4	花火大会や温泉のある商業・レジャーのまち	27.8	8.5
5	防犯・防災対策が充実したまち	6.3	28.0
6	保健福祉・子育て環境が充実したまち	15.8	30.2
7	研究所・大学等のある研究学園都市	10.2	6.5
8	若者が多い活気のあるまち	4.6	17.9
9	居住環境・生活環境の整備されたまち	11.7	36.0
10	自治活動の活発なふれあいのまち	8.3	4.4
11	インターチェンジをいかした流通機能の高いまち	18.3	11.7
無回答		18.7	16.7

問5 ふだんどこで買物をしますか。

(それぞれ①~⑪についてア~エの中から該当するものを1つ選び○印を記入してください) (n=1, 270)

	① 本厚木駅 周辺	② 愛甲 石田 駅周 辺	③ その 他 厚木 市内	④ 伊勢 原駅 周辺	⑤ 海老 名駅 周辺	⑥ 平塚 駅 周辺	⑦ 横浜 市内	⑧ 町田 市内	⑨ 東京 23区 内	⑩ イン ター ネット ショッピング	⑪ その 他	無 回 答
ア 食料品	37.2	2.6	52.0	1.4	1.8	0.8	0.2	0.2	0.2	0.6	3.5	3.8
イ 日用 衣料品	38.8	0.6	30.0	0.9	8.0	0.9	2.7	5.0	2.5	4.3	4.3	8.4
ウ 高級 衣料品 装飾品	16.1	0.1	5.2	0.0	7.4	0.3	18.1	12.3	19.8	4.3	7.4	15.6
エ 書籍	48.5	2.3	20.9	0.3	1.5	0.1	1.0	1.0	1.7	7.2	2.8	13.7

問6 産業の活性化について、どう考えますか。(2つまで選んでください) (n=1, 270)

1 積極的な推進が必要である	40.9	
2 将来のまちづくりの財源確保に必要である	38.2	
3 雇用の場の確保に必要である	47.6	
4 企業誘致や新産業創造が必要である	39.4	
5 その他	3.6	
		無回答 4.3

問7 観光地の活性化には、どのような取組が必要だと思いますか。

(2つまで選んでください) (n=1, 270)

1 テレビ・インターネットを利用した厚木の観光地の紹介	24.8	
2 四季折々のイベントの開催	22.0	
3 ハイキングコースや公園など自然をいかした観光資源の整備	23.8	
4 温泉地(飯山温泉郷、東丹沢七沢温泉郷)の整備	18.3	
5 食(グルメ)、特産品など地域性のある観光資源の育成	20.5	
6 駐車場の整備などの交通利便性の向上	22.0	
7 観光ガイドなどの人材の育成	3.2	
8 他市と連携した広域的な観光ルートの創出	11.8	
9 高齢者や障がい者などが利用しやすい観光地づくり	25.8	
10 外国人旅行者向け観光プランの充実	4.6	
11 スポーツイベント等をいかした新たな観光分野の開拓	6.8	
12 その他	2.1	
		無回答 2.3

問8 都市農業や林業の振興には、どのような取組が必要だと思いますか。

(2つまで選んでください) (n=1, 270)

1 農業・林業の担い手、新規就農者の育成	62.0	
2 農業・林業体験の開催	14.9	
3 農業者への施設・技術支援	21.6	
4 地場農畜産物を身近で購入できる直売所、朝市・夕焼け市の充実	40.8	
5 農林業従事者への経営安定支援	32.3	
		無回答 5.1

問9 介護保険制度の介護保険料の額は、見込まれる介護サービスの総量によって決まる仕組となっています。介護保険料額と介護サービス量のバランスについて、どう考えますか。（1つだけ選んでください）

（対象年齢でない方は、対象者になることを想定して回答してください。）（n=1, 270）

1 介護保険料額が多少高くても、介護サービス量が充実している方がよい	14.6
2 介護保険料額も介護サービス量も、バランスが良い方がよい	67.0
3 介護サービス量が充実しなくても、介護保険料額は低い方がよい	7.6
4 その他	1.8
5 分からない	6.3
	無回答 2.7

問10 あなた自身が高齢になった場合、どのような居住形態を望んでいますか。

（現在65歳以上の方は、どのような居住形態を望んでいますか。）

（1つだけ選んでください）（n=1, 270）

1 従来型住宅での子どもの世帯との同居	11.3
2 子どもの世帯との二世帯住宅	18.0
3 子どもの世帯とは別居	32.1
4 高齢者専用共同住宅への入居	22.8
5 その他（例えば有料老人ホームへの入所）	10.4
	無回答 5.4

問11 次にあげる分野で、男女の地位は平等になっていると思いますか。

（それぞれ①～④の中から該当するものを選び○印を記入してください）（n=1, 270）

分野 \ 答	①平等	②男性優位	③女性優位	④分からない	無回答
1 家庭生活で	43.6	26.0	14.0	10.4	6.0
2 職場で	18.7	55.6	2.0	13.1	10.6
3 学校教育の場で	42.8	11.0	2.8	31.8	11.5
4 自治会など地域活動の場で	25.9	39.5	4.0	22.4	8.1
5 政治の場や政策決定の場で	11.3	63.6	0.6	14.6	10.0
6 法律や制度上で	30.3	36.5	2.8	20.3	10.2
7 社会通念、慣習上で	14.5	59.3	2.5	14.2	9.5

問12 安心して子どもを産み育てられる環境を整える施策について、必要だと思うことは何ですか。（5つまでお選びください）（n=1, 270）

1	産前産後における育児や家事などの支援の充実	44.6
2	延長保育、休日保育など、保育サービスの充実	56.7
3	親のリフレッシュの場や機会の提供	17.9
4	健康相談などを通じた母親や乳幼児の健康の確保	25.2
5	子ども医療費助成制度の充実	49.7
6	父親の育児参加に関する意識啓発	21.3
7	事業主等への仕事と育児の両立支援に関する意識啓発	36.5
8	子育て相談体制の充実	21.3
9	子育てサークル、自主グループ、NPO等の育成	8.6
10	サロン（児童館等における子育て支援活動）の充実	7.4
11	ファミリー・サポート・センター（会員相互による育児の援助活動）の充実	8.8
12	放課後児童クラブ（留守家庭児童クラブ）の充実	37.8
13	子育て支援センター「もみじの手」の充実	10.2
14	幼稚園の預かり保育(教育時間外・長期休業保育)の充実	49.9
15	その他	5.3
	無回答	7.5

問13 国際化に対応するために、どのような取組が必要だと思いますか。

（2つまで選んでください）（n=1, 270）

1	文化・スポーツ等の交流の推進	30.2	7	国際理解を推進する講座等の開催	9.2
2	青少年海外研修の推進	17.7	8	外国の大学・企業等の誘致	13.4
3	市内在住外国人との交流促進	24.7	9	国際交流施設の整備	10.1
4	新たな友好都市の締結	3.9	10	外国人との共生意識の推進	17.4
5	国際友好都市との交流	10.1	11	市内企業の国際活動の支援	9.6
6	市のパンフレット、道路標識等の 外国語表示の整備	15.6	12	その他	4.0
				無回答	9.8

問14 ごみの減量化・資源化を推進する上で、特に重要だと思うことは何ですか。

（2つまで選んでください）（n=1, 270）

1	家庭における資源とごみの分別の徹底	50.9
2	資源とごみの分別方法に関する情報提供の充実	24.4
3	ごみ減量化・資源化に関する情報提供の充実	20.2
4	小・中学校への環境学習の充実	16.7
5	環境問題(ごみ減量化・資源化)を学習できる場の提供や施設見学会の実施	13.9
6	行政による住民説明会の開催	3.9
7	買い物袋の持参	13.9
8	販売店の過剰包装の削減	28.8
9	生ごみ処理機等の購入	10.4
	無回答	3.1

問15 資源とごみの分別方法を理解し、積極的に分別していますか。

(1つだけ選んでください) (n=1, 270)

1 理解して分別している	58.9	4 全く分別していない	0.4
2 おおむね理解して分別している	36.5	5 分別方法が分からない	0.6
3 あまり分別していない	1.7	6 その他	0.5
		無回答	1.5

問16 本厚木駅周辺の治安について、どう思いますか。(1つだけ選んでください) (n=1, 270)

1 大変良くなったと思う	3.3	4 悪くなったと思う	18.3
2 良くなったと思う	29.0	5 大変悪くなったと思う	6.0
3 変わらない	38.8	無回答	4.6

問17 防犯対策について、どのような取組を強化してほしいと思いますか。

(1つだけ選んでください) (n=1, 270)

1 夜道を明るくする防犯灯の設置及び既存防犯灯の照度アップ	39.1
2 道路・公園・駐車場等において、犯罪の発生しやすい死角をなくす	41.9
3 地域住民等によるパトロール	10.9
4 広報等により市民に防犯を呼びかける	2.0
5 その他	3.8
	無回答 2.3

問18 厚木市は、平成22年11月19日にWHO（世界保健機関）が推進しているセーフコミュニティの認証を取得しました。今後も、市民と行政が協働して交通安全や防犯、けがの予防など、安心・安全なまちづくりを推進するという考え方に関心がありますか。

(1つだけ選んでください) (n=1, 270)

1 とても関心がある	30.7	4 あまり関心がない	10.2
2 少し関心がある	39.7	5 全く関心がない	2.8
3 どちらともいえない	14.3	無回答	2.3

問19 安心・安全なまちづくりの一環として、地域で実施している「防犯パトロール」や「児童・生徒の登下校時の見守り活動（愛の目運動）」などの活動に参加していますか。(1つだけ選んでください) (n=1, 270)

1 積極的に参加している	6.1	3 あまり参加していない	13.2
2 たまに参加している	12.5	4 全く参加していない	64.3
		無回答	3.9

問20 生活をする上で、特に必要な施設は何だと思いますか。(3つまで選んでください)

(n=1, 270)

1 公園	22.8	13 音楽・演劇等ホール	3.9	25 百貨店・スーパー	54.8
2 ちびっこ広場	3.5	14 音楽・演劇等専用練習場	0.6	26 ホテル	0.3
3 図書館	13.7	15 美術館	2.5	27 駐車場・駐輪場	19.1
4 スポーツ施設	10.4	16 映画館	13.3	28 大型備蓄倉庫	5.8
5 公民館・地区市民センター	10.4	17 植物園	1.7	29 その他	2.8
6 児童館	1.9	18 動物園	0.8		
7 老人憩の家	4.6	19 水族館	1.9		
8 老人ホーム	9.6	20 科学館	0.7		
9 病院・診療所	60.7	21 遊園地	1.6		
10 霊園	1.5	22 市民休暇村	3.1		
11 葬祭場	3.6	23 市民農園	2.0		
12 博物館	0.9	24 地場農産物直売所	10.6		
				無回答	3.3

問21 この1年間に利用された「市の施設」をお答えください。(いくつでも選んでください) (n=1, 270)

1 市役所	62.8	14 老人憩の家	6.7	27 児童館	6.5
2 中央図書館	29.1	15 青少年広場	2.1	28 ヤングコミュニティセンター	5.0
3 小・中学校の体育館	7.5	16 スポーツ広場	2.0	29 勤労福祉センター	5.6
4 荻野運動公園	25.7	17 東町スポーツセンター	4.5	30 市立公民館・地区市民センター	22.4
5 ぼうさいの丘公園	26.8	18 猿ヶ島スポーツセンター	2.0	31 郷土資料館	3.5
6 厚木中央公園	20.4	19 市営水泳プール	3.1	32 市民ギャラリー	4.6
7 玉川野球場	1.3	20 ふれあいプラザ	3.9	33 パートナーセンター	6.3
8 及川球技場	5.5	21 南毛利スポーツセンター	5.0	34 老人福祉センター(寿荘)	2.3
9 厚木野球場	1.1	22 若宮公園テニスコート	0.8	35 保健センター	8.7
10 文化会館	25.6	23 厚木テニスコート	0.3	36 その他	1.8
11 七沢自然ふれあいセンター	5.5	24 小・中学校の校庭	6.8	37 利用したことがない	7.6
12 情報プラザ	2.0	25 総合福祉センター	12.6		
13 子ども科学館	6.8	26 子育て支援センター	2.9		
				無回答	4.3

問22 現在、住民票の申請等の窓口は、平日の8:30~17:15、毎週土曜の午前が開庁していますが、どう思いますか。(n=1, 270)

1 満足	43.3	4 やや不満	9.9
2 やや満足	20.9	5 不満	5.4
3 どちらともいえない	17.0		
			無回答 3.4

問23 市立病院に対するあなたがお持ちのイメージについて、近いものを選んでください。
(1つだけ選んでください) (n=1, 270)

1 高度・専門的医療を受けるために受診する病院	12.4
2 診療所からの紹介や入院・救急時に受診する病院	45.4
3 身近な医療機関として、何か症状があれば受診する病院	27.2
4 その他	10.8
	無回答 4.3

問24 かかりつけ医(主に医院や診療所など)は、日ごろから医療や健康相談等を受け持ち、病院は入院の必要な患者を受け持つという役割分担がありますが、あなたはかぜなどにかかった時、通院する医療機関は決まっていますか。
(1つだけ選んでください) (n=1, 270)

1 かかりつけの医院や診療所	57.2	3 特に決まっていない	29.4
2 総合病院などの大きな病院	10.2	4 その他	0.8
			無回答 2.4

問25 あなたは、24時間フリーダイヤルで医師やカウンセラーが健康相談や医療機関情報についてお答えする「あつぎ健康相談ダイヤル24」を知っていますか。
(1つだけ選んでください) (n=1, 270)

1 利用したことがある	5.8
2 知っているが、利用したことがない	23.1
3 知らない	68.7
	無回答 2.4

問26 市の情報は、どのように入手していますか。(3つまで選んでください) (n=1, 270)

1 広報あつぎ	82.0	5 公民館だより	33.1	9 新聞(日刊紙)	11.6
2 市のホームページ	22.8	6 ラジオ	0.7	10 ケーブルテレビ	8.7
3 市の携帯版ウェブサイト	2.4	7 パンフレット・チラシ	6.6	11 タウン誌・ミニコミ誌	21.7
4 本厚木駅前大型映像装置 (あつぎビジョン)	7.8	8 掲示板やポスター	10.8	12 その他	5.6
				無回答	3.3

問27 「広報あつぎ」をどのように入手していますか。(1つだけ選んでください) (n=1, 270)

1	自治会からの配布	77.5
2	市役所、公民館などの公共施設	4.2
3	駅、病院、スーパーなどの民間施設	3.5
4	勤務先	1.3
5	市のホームページ	1.5
6	その他	7.8
	無回答	4.3

問28 ケーブルテレビの「あゆチャンネル」で放映している市提供番組「あつぎ元気Wave」を見たことがありますか。(1つだけ選んでください) (n=1, 270)

1	よく見ている	4.5	4	ケーブルテレビに加入していない	52.3
2	たまに見ている	22.0	5	その他	3.1
3	ケーブルテレビに加入しているが、 番組は見たことがない	14.6		無回答	3.4

問29 現在の本厚木駅周辺(中心市街地)のイメージについて、どう思いますか。

(それぞれ①~③の中から該当するものを選び○で囲んでください。) (n=1, 270)

1	活気	(①ある	14.8	②普通	45.0	③ない	34.6	無回答	5.6)
2	明るさ・清潔感	(①ある	9.8	②普通	57.5	③ない	26.0	無回答	6.8)
3	駐車場	(①多い	11.7	②普通	44.3	③少ない	36.6	無回答	7.3)
4	駐輪場	(①多い	5.2	②普通	41.3	③少ない	44.4	無回答	9.1)
5	商店(飲食店等)	(①多い	16.1	②普通	51.3	③少ない	24.6	無回答	8.0)
6	マンション(住宅)	(①多い	29.8	②普通	53.5	③少ない	7.9	無回答	8.8)
7	緑	(①多い	8.0	②普通	36.5	③少ない	48.3	無回答	7.2)
8	歩道の整備	(①良い	12.0	②普通	56.5	③悪い	24.3	無回答	7.2)
9	治安	(①良い	5.7	②普通	56.0	③悪い	30.9	無回答	7.3)
10	交通渋滞の状況	(①良い	2.3	②普通	46.8	③悪い	44.4	無回答	6.5)

問30 まちづくり全般の変化について、どう思いますか。

(それぞれ①～③の中から該当するものを選び○印を記入してください。)

(厚木市に転入されて5年未満の方は、問31へお進みください。) (n=1,270)

項目	5年前と比べ			項目	5年前と比べ				
	①良くなった	②変わらない	③悪くなった		①良くなった	②変わらない	③悪くなった		
質問				質問					
1	地域福祉サービス	24.4	59.6	2.9	19	犯罪や非行の防止	13.1	56.1	15.9
2	高齢者の生きがいと安心感	13.1	66.7	6.0	20	消費者の安全確保	8.6	70.3	5.0
3	障がい者の自立と社会参加	9.7	67.3	3.5	21	生涯学習の場と機会	12.9	66.7	2.6
4	子どもを産み育てる環境	23.5	54.8	4.8	22	スポーツ・レクリエーション活動の場と機会	18.2	61.9	2.7
5	健康づくりの環境	22.7	60.7	1.9	23	青少年の健全育成環境	9.4	66.7	4.7
6	地域医療体制の状況	18.2	61.1	5.7	24	小・中学校の教育環境	11.3	63.5	5.9
7	コミュニティ活動・ボランティア活動	14.4	65.3	2.7	25	芸術・文化活動	10.4	67.1	4.0
8	人権尊重の意識	6.9	70.7	4.2	26	友好都市との交流	6.5	69.3	3.5
9	生活困窮者の援護状況	5.4	68.0	6.5	27	男女平等を基本とした社会環境	5.7	72.7	2.3
10	環境保全と環境美化	27.1	52.1	5.1	28	人にやさしい市街地の形成(バリアフリー等)	26.0	53.7	3.7
11	ごみ処理及びリサイクル	56.3	29.6	3.9	29	道路整備など交通渋滞緩和対策	20.5	52.4	12.4
12	多様な生物の生息環境	5.7	62.5	15.8	30	電車、バス、タクシー等の状況	15.7	61.1	10.6
13	公園や自然環境など緑の空間	17.7	60.5	8.1	31	行政サービスの情報化(情報通信基盤の整備等)	17.9	60.8	2.8
14	河川など水辺の空間づくり	16.9	60.6	7.2	32	中小企業を取り巻く環境	2.2	58.2	19.5
15	災害に強い都市環境	12.7	67.8	3.0	33	商店街活性化の状況	2.4	39.7	43.4
16	地域防災対策	19.0	62.6	2.8	34	就業環境	1.7	53.9	24.3
17	消防・救急救助体制	19.9	62.8	2.0	35	森林保全	4.1	67.2	8.6
18	放置自転車や歩行者の安全	32.8	42.1	14.0	36	観光・リゾートの環境	4.5	66.6	9.9

問31 あなたは、どのようにまちづくりに関わっていきたいと思いますか。

(いくつでも選んでください) (n=1, 270)

1 わたしの提案(市長への提案制度)を利用する	11.6
2 市主催のフォーラムや懇談会等へ参加する	6.4
3 各種計画等の策定委員会などへ参加する	2.3
4 市の関係課へ直接意見を伝える	11.3
5 自治会活動へ参加する	29.1
6 各種団体を通じて市へ意見を伝える	6.7
7 ボランティア・NPOなどへ参加する	11.7
8 自主的なまちづくり勉強会などへ参加する	5.3
9 地域の趣味的な団体へ参加する	19.5
10 市民ができることであれば、公共的なことであっても仲間と行いたい	16.4
11 市役所でやるべきことは市役所でやってほしい	26.3
12 特に関わろうとは思わない	18.0
13 その他	5.4
無回答	11.4

問32 市民協働のルールとして、平成24年10月に厚木市市民協働推進条例が制定されました。市民と行政が連携・協力して共に取り組む「市民協働によるまちづくり」に関心はありますか。(1つだけ選んでください) (n=1, 270)

1 とても関心がある	8.0
2 少し関心がある	26.4
3 どちらともいえない	31.0
4 あまり関心がない	22.0
5 まったく関心がない	6.5
無回答	6.1

問33 本厚木駅周辺を活性化するために、特に必要だと思うことは何ですか。

(2つまで選んでください) (n=1, 270)

1 新たな商業施設の誘致	41.7
2 子育て支援、教育環境の充実	8.0
3 文化芸術に親しむことができる環境の整備	15.0
4 商店街の充実	40.2
5 駐車場、駐輪場の充実	24.3
6 安心安全な環境づくり	35.0
7 イベントの充実	8.6
無回答	5.8

問34 本厚木駅周辺の買物の際に感じることはありますか。(2つまで選んでください)

(n=1, 270)

1	欲しい商品を扱う店舗が少ない	57.6
2	買物の途中で休める場所が少ない	35.0
3	子連れでゆっくり買物を楽しむ環境が整っていない	14.7
4	個性的な商品を扱う店舗が少ない	30.9
5	その他	6.1
6	特に不満はない	8.3
	無回答	6.4

厚木市民意識調査調査票(B)

【最初に、あなたご自身のことについてお伺いします。】

■該当する数字を○印で囲んでください。

ア あなたの性別は。(n=1, 284)

1 男性	43.6	2 女性	54.3	無回答	2.1
------	------	------	------	-----	-----

イ 年齢はおいくつですか。(n=1, 284)

1 20歳未満	1.2	3 30~39歳	13.2	5 50~59歳	13.7	7 70~79歳	15.9	
2 20~29歳	9.8	4 40~49歳	17.4	6 60~69歳	21.5	8 80歳以上	5.7	
							無回答	1.6

ウ 家族構成はどれに該当しますか。(n=1, 284)

1 夫婦	29.6	3 親子(子との二世)	24.5	5 一人暮らし	21.6	
2 親子(親との二世)	13.2	4 親子孫(三世)	5.8	6 その他	3.4	
					無回答	1.9

エ お住まいはどのような形態ですか。(n=1,284)

1 持ち家(分譲マンション含む)	69.5	5 社宅・寮・官舎	2.6
2 民営借家	3.3	6 借間	1.1
3 民営アパート(賃貸マンション含む)	16.8	7 その他	0.7
4 公営住宅	4.7	無回答	1.3

オ どの地区にお住まいですか。(n=1, 284)

1 厚木北(松枝、元町、東町、厚木町、寿町、吾妻町、水引、栄町、中町、田村町)	12.1	
2 厚木南(幸町、泉町、旭町、南町、温水一部、船子一部、岡田1丁目8番)	6.2	
3 依知北(上依知、猿ヶ島、山際、関口、下川入)	7.2	
4 依知南(関口一部、中依知、下依知、金田)	4.2	
5 睦合北(三田、三田南、棚沢)	3.7	
6 睦合南(妻田)	7.6	
7 睦合西(林、及川、王子1丁目)	4.4	
8 荻野(上荻野、まつかげ台、みはる野、中荻野、下荻野、鳶尾)	13.9	
9 小鮎(飯山、上古沢、下古沢、宮の里)	5.8	
10 南毛利(戸室、恩名、温水、温水西、愛名、長谷、毛利台)	15.4	
11 南毛利南(船子、愛甲)	4.5	
12 玉川(小野、七沢、岡津古久)	1.8	
13 相川(岡田、酒井、戸田、下津古久、上落合、長沼)	5.1	
14 緑ヶ丘(緑ヶ丘、王子2丁目、王子3丁目)	2.6	
15 森の里	3.6	
無回答		1.7

カ 厚木市にどのくらいお住まいですか。 (n=1,284)

1	20年以上（生まれてからずっと）	24.6	5	5～9年	7.7
2	20年以上（転入して以来）	39.3	6	3～4年	5.4
3	10～19年（生まれてからずっと）	1.8	7	2年以下	4.8
4	10～19年（転入して以来）	15.0		無回答	1.5

キ 日ごろ、鉄道を利用する際の最寄駅はどこですか。 (n=1,284)

1	本厚木駅	78.9	3	海老名駅	7.7	5	その他	1.1
2	愛甲石田駅	9.7	4	厚木駅	0.9		無回答	1.7

ク 自宅からその駅まではどうやって行きますか。 (n=1,284)

1	徒歩	25.0	3	自家用車	23.0	5	バイク	2.4
2	バス	53.0	4	自転車	10.2	6	その他	1.0
							無回答	1.6

ケ 職業は何ですか。 (n=1,284)

1	会社員・公務員	29.7	5	専業主婦（主夫）	16.6
2	自営業	6.0	6	学生	3.4
3	農林業	0.5	7	無職	22.5
4	パート・アルバイトなど	15.5	8	その他	4.4
				無回答	1.7

コ 通勤（通学）先はどこですか。（1つのみ。：主婦・主夫、無職の方を除く） (n=764)

1	自宅	5.8	3	横浜・川崎市内	6.7	5	東京23区内	6.4	7	その他	6.4
2	厚木市内	51.8	4	その他の県内	17.1	6	その他の都内	2.5		無回答	3.3

サ あなたは、自治会に加入していますか。 (n=1,284)

1	加入している	68.2	
2	加入していない	24.8	
3	分からない	5.4	
		無回答	1.6

【ここからは、あなたご自身のお考えについて、お伺いします。】

■該当する数字を○印で囲んでください。

問1 厚木市にずっと住み続けたいですか。（1つだけ選んでください）（n=1,284）

1	ずっと住み続けたい	37.6	
2	できれば住み続けたい	33.6	
3	できれば市外に転出したい	7.6	
4	すぐにでも市外に転出したい	0.9	
5	どちらともいえない	15.2	→ 問4へ 無回答 5.1

問2 問1で1、2（住み続けたい）とお答えの方にお聞きします。理由は何ですか。

（2つまで選んでください）（n=915）

1	自然環境が良い	30.6	8	交通の便が良い	14.9
2	教育環境が良い	0.5	9	人間関係が良い	6.0
3	子育て環境が充実している	5.2	10	生まれ育ったところである	14.2
4	保健福祉施策が充実している	3.3	11	住み慣れて愛着がある	32.2
5	自分の家や土地がある	44.3	12	通勤・通学に便利	4.5
6	仕事や学校の関係がある	10.3	13	その他	3.7
7	買物に便利である	9.7			無回答 0.4

問3 問1で3、4（転出したい）とお答えの方にお聞きします。理由は何ですか。

（2つまで選んでください）（n=109）

1	自然環境が良くない	5.5	7	買物に不便	27.5
2	教育環境が不十分	0.9	8	交通の便が悪い	32.1
3	子育て環境が不十分	0.0	9	人間関係が希薄である	14.7
4	保健福祉施策が不十分	5.5	10	通勤・通学に不便	17.4
5	自分の家や土地でない	13.8	11	その他	34.9
6	仕事や学校の関係がない	3.7			無回答 0.0

問4 厚木市のまちとして現在のイメージはどれですか。また、将来どのようなまちになってほしいですか。

(1~11の中からそれぞれ3つまで選び該当するものに○印を記入してください)

(n=1, 284)

		① 現在の厚木市 のイメージ	② あなたが望む 将来の厚木
1	自然環境の豊かなまち	51.3	21.7
2	都市と自然が共存しているまち	27.0	33.8
3	交通の利便性の高いまち	25.7	35.6
4	花火大会や温泉のある商業・レジャーのまち	32.5	8.5
5	防犯・防災対策が充実したまち	7.9	33.1
6	保健福祉・子育て環境が充実したまち	18.2	34.7
7	研究所・大学等のある研究学園都市	11.1	6.8
8	若者が多い活気のあるまち	4.9	17.8
9	居住環境・生活環境の整備されたまち	13.2	42.5
10	自治活動の活発なふれあいのまち	8.2	4.6
11	インターチェンジをいかした流通機能の高いまち	18.5	12.3
無回答		11.9	11.3

問5 あなたは、スポーツ（運動）をどの程度やっていますか。

(1つだけ選んでください) (n=1, 284)

1	ほぼ毎日やっている	7.9	4	月に1~3回やっている	10.3	
2	週に3~4回やっている	8.5	5	年数回やっている	6.9	
3	週に1、2回やっている	15.7	6	ほとんどやらない	47.4	
					無回答	3.3

問6 今度、参加してみたいと思うスポーツイベントがあればお答えください。

(いくつでも選んでください) (n=1, 284)

1	順位を競う大会やイベント	4.0
2	参加型の大会やイベント	18.1
3	公民館で実施する各種スポーツイベントやスポーツ教室	16.6
4	上級者向けのスポーツ教室やイベント	2.2
5	初心者向けのスポーツ教室やイベント	24.1
6	有名スポーツ選手を招いての講演会やスポーツ教室、イベント	13.3
7	特になし	43.1
無回答		7.7

問7 現在、あなたがやっているスポーツの種目をお答えください。

(いくつでも選んでください) (n=1, 284)

1	ウォーキング(散歩)	36.5	19	乗馬	0.5	
2	体操・ストレッチ・筋力トレーニング	16.9	20	クレー射撃	0.1	
3	ゴルフ	7.6	21	スキー・スノーボード	5.1	
4	ジョギング・ランニング	5.5	22	ゲートボール	0.3	
5	水泳(アクアビクス・水中ウォーク)	7.4	23	社交ダンス・エアビクス・ジャズダンス	2.6	
6	登山・ハイキング・ウォークライミク	6.5	24	なぎなた	0.1	
7	ボウリング	3.4	25	ラグビー・アメフト	0.2	
8	陸上競技	0.3	26	バウンドテニス	0.4	
9	野球	2.4	27	ヨガ・気功・太極拳	3.1	
10	ソフトボール	1.0	28	サイクリング	3.4	
11	柔道・剣道・空手・少林寺拳法・ボクシング	0.8	29	釣り	5.7	
12	テニス・ソフトテニス	3.7	30	スケートボード・インラインスケート	0.4	
13	バレーボール・ソフトバレーボール	1.2	31	ターゲットバードゴルフ	0.9	
14	バスケットボール	0.9	32	グラウンドゴルフ	0.9	
15	弓道・アーチェリー	0.2	33	アイススケート・アイスホッケー	0.2	
16	卓球	1.9	34	サーフィン・ウィンドサーフィン	0.6	
17	サッカー・フットサル	1.9	35	ダイビング	0.5	
18	バドミントン	2.1	36	特になし	29.9	
					無回答	4.9

問8 地球温暖化防止への取組について、特に必要だと思うものは何ですか。

(2つまで選んでください) (n=1, 284)

1	各家庭や企業における省エネルギーの推進	70.1	
2	家電製品等省エネルギー技術の開発・製品化	47.7	
3	行政による地球温暖化防止のPR活動	22.4	
4	地球温暖化防止に関する市民学習の機会の充実	18.5	
5	その他	6.2	
		無回答	3.1

問9 厚木市では、市民の方に地球温暖化防止に関する情報を広報紙やホームページなどで提供していますが、他にはどのような提供方法が必要だと思いますか。

(1つだけ選んでください) (n=1, 284)

1	イベントを通じた情報提供(講演会や展示会など)	59.0	
2	省エネルギーに関する個別相談会の実施	8.7	
3	メールマガジンの充実	9.0	
4	その他	15.3	
		無回答	8.0

問10 全ての住宅へ住宅用火災警報器の設置が義務付けられています。あなたの家には、住宅用火災警報器が寝室、階段に設置されていますか。（1つだけ選んでください）

(n=1, 284)

1 設置している	74.5	
2 設置していないが、すぐに設置する	7.0	
3 賃貸住宅などのため、自分で設置する必要がない	5.5	
4 設置したいが、自分で設置することができない	4.7	
5 その他	6.2	
		無回答 2.0

問11 救急車が到着するまでの間の応急手当では、傷病者の生存率を高めるためにとても重要であり、そのための知識も必要とされています。あなたは、次の応急手当のうち、いざという時に実行できるものはどれですか。（該当するものを全て選んでください）

(n=1, 284)

1 何もできない	5.8	
2 119番に通報する	91.5	
3 周囲の人に助けを求める	69.4	
4 状況により止血などを行う	34.0	
5 人工呼吸を行う	21.3	
6 心臓マッサージ（胸骨圧迫）を行う	26.9	
7 自動体外式除細動器（AED）を使用する	21.4	
8 車などで近くの病院に運ぶ	34.2	
		無回答 0.9

問12 大規模地震災害等に備え、家庭で行っている対策はどのようなものですか。

（該当するものを全て選んでください。） (n=1, 284)

1 自主防災隊等の防災訓練に参加している	22.7
2 災害時に備え水や食糧などを備蓄している	54.7
3 災害時に必要な懐中電灯やラジオなどの備えをしている	72.2
4 防災に関する講演会や研修会等に参加している	3.4
5 地震による家具等の転倒防止策を実施している	31.9
6 災害時に備え、避難場所の確認や家族会議をしている	27.0
7 隣近所の方と協力し合うようにしている	11.3
8 パンフレットやインターネットなどで防災に関する情報を収集している	11.7
	無回答 7.0

問13 自転車事故を対象にした保険等に加入していますか。

（1つだけ選んでください。） (n=1, 284)

1 加入している	20.7	
2 加入していないが、加入したいと考えている	14.5	
3 加入しない	19.4	
4 自転車を使用しない	43.3	
		無回答 2.1

問14 市の公民館など、現在使用料が無料の施設を有料化することについて、どう思いますか。（1つだけ選んでください）（n=1, 284）

1	施設の維持管理のために有料化した方がよい。	13.8
2	施設を利用する内容や目的を考慮して有料化した方がよい。	30.7
3	市の財政状況を考慮して有料化した方がよい。	4.4
4	施設の利用者と未利用者の公平性を考慮（受益者負担）し有料化した方がよい。	20.9
5	有料化する必要はない	26.8
	無回答	3.4

問15 現在無料である公共施設の駐車場を有料化することについて、どう思いますか。（1つだけ選んでください）（n=1, 284）

1	施設の維持管理のために有料化した方がよい。	9.9
2	不正駐車抑制等のために有料化した方がよい。	13.0
3	施設の利用目的を考慮して有料化した方がよい。	13.7
4	施設の立地場所を考慮して有料化した方がよい。	5.7
5	市の財政状況を考慮して有料化した方がよい。	3.0
6	駐車場の利用者と未利用者の公平性を考慮（受益者負担）し有料化した方がよい。	15.3
7	有料化する必要はない	35.2
	無回答	4.1

問16 将来（65歳以降）は、主にどのような交通手段を利用すると思いますか。（現在、65歳以上の方は、どのような交通手段を利用していますか。）

（2つまで選んでください）（n=1, 284）

1	徒歩	24.9	4	自家用車（自分が運転）	38.7	7	バス	57.9
2	自転車	11.7	5	自家用車（家族が運転）	17.0	8	タクシー	11.8
3	オートバイ	1.9	6	電車	14.8	9	その他	0.4
							無回答	2.2

問17 子どもの教育には、何が大切だと思いますか。（1つだけ選んでください）（n=1, 284）

1	学校教育	8.8	4	学校・家庭・地域の協力	62.4
2	家庭教育	20.9	5	わからない	3.4
3	地域の教育力	2.1		無回答	2.4

問18 講座、教室などの学習活動に参加する際、最も支障になると思う理由はどれですか。

(1つだけ選んでください) (n=1, 284)

1	参加する時間がない	38.4	4	一緒に学ぶ仲間がない	10.5
2	学習機会に関する情報がない	17.5	5	その他	17.9
3	学習しても成果をいかす場がない	8.3		無回答	7.4

問19 厚木市に優先的に取り組んでほしい文化芸術施策は何ですか。

(3つまで選んでください) (n=1, 284)

1	文化芸術活動や鑑賞活動などの情報提供	34.3	6	文化芸術を通じた国際交流、	
2	市民の文化芸術活動に対する支援	16.3		地域間交流	15.6
3	市街地での文化芸術イベントの充実	22.8	7	文化芸術施設の整備	15.1
4	文化会館での鑑賞機会の充実	30.1	8	文化財展示や郷土芸能などの情報	
5	学校や福祉施設など、文化会館以外での鑑賞機会の充実	26.5		提供について	13.5
			9	魅力ある都市景観の創造	32.9
				無回答	9.6

問20 あなたは、なんらかのがん検診を受診していますか。

(主なものを1つだけ選んでください) (n=1, 284)

1	厚木市のがん検診を受診している	30.9		
2	人間ドックを受診している	9.2		
3	学校や職場の健康診査を受診している	25.7		
4	受診していない	31.4		
				無回答 2.8

問21 自殺で亡くなる方は全国で年間2万5千人を超え、厚木市でも少なくありません。このことに対して、どのような対策が重要だと思いますか。(1つだけ選んでください)

(n=1, 284)

1	相談事業を積極的に展開する	30.7
2	広報やキャンペーン事業等で啓発を進める	6.0
3	早期対策の役割を果たす人材を育成する	14.6
4	自殺対策を行っている関係機関等との連携を強化する	12.5
5	うつ病や自殺未遂者に対する正しい理解と偏見解消に努める	21.7
6	自殺は個人の問題なので、特に有効な対策がない	10.5
		無回答 3.9

問22 行政サービスの情報化を推進するために何を優先するべきだと考えますか。

(2つまで選んでください) (n=1, 284)

1 CATV (ケーブルテレビ) や地域 FM 放送などの情報通信メディアの育成・振興	26.0
2 パソコンやスマートフォンなどを活用できる生活に密着した環境の整備	36.8
3 パソコン等に習熟するための講座や研修の充実	14.9
4 ワンストップサービス、電子申請などを活用した行政サービスの提供	12.7
5 個人情報保護など情報セキュリティの確保	35.9
6 ポータルサイト、地域 SNSなどを活用した地域活性化の促進	11.0
7 その他	7.6
無回答	11.4

問23 ご家庭でどのような情報機器やサービスを利用していますか。

(いくつでも選んでください) (n=1, 284)

1 パソコン	60.2	6 ゲーム機	10.8
2 タブレット型パソコン	8.7	7 インターネット	50.5
3 携帯電話 (スマートフォン含む)	65.0	8 電子メール	31.4
4 テレビ	81.8	9 その他	2.6
5 ラジオ	36.1	無回答	5.1

問24 市インターネットサービス「マイタウンクラブ」が提供しているサービスの中で、利用したことのある、または知っているサービスは何ですか。

(いくつでも選んでください。) (n=1, 284)

1 図書館情報 (図書予約・検索) システム	29.1
2 施設予約システム	23.7
3 講座・イベントシステム	12.0
4 公募・募集システム	6.9
5 サークル情報 (地域のサークル、ボランティア団体の活動情報の紹介)	8.3
6 チケット予約システム	6.6
7 お店・サービス情報	12.1
8 あつぎ地域 SNS	6.5
9 マイタウンクラブを知らない	33.8
無回答	15.9

問25 本厚木駅周辺に立地してほしい施設は何ですか。(いくつでも選んでください)

(n=1, 284)

1 品ぞろえの良い専門店	44.5	7 魅力的なレストランや飲食店、カフェ	46.6
2 娯楽施設	15.8	8 大型の商業施設	36.8
3 文化施設	24.1	9 福祉・医療施設	27.7
4 ディスカウントショップ	17.7	10 各種スポーツ施設	13.2
5 高齢者向けの店舗	22.3	11 環境の良い住宅施設	7.6
6 個性的な商品を扱う店舗	17.1	12 その他	5.7
無回答			5.8

問26 本厚木駅周辺で買物をするとき、自宅からの交通手段は何ですか。

(1つだけ選んでください) (n=1, 284)

1	自家用車	46.0	4	バイク	1.9	
2	バス	23.1	5	自転車	9.7	
3	電車	2.3	6	徒歩	12.8	
					無回答	4.2

→問27 問26で自家用車とお答えの方にお聞きします。主に利用される駐車場は、どこですか。

(1つだけ選んでください) (n=591)

1	デパート等の専用駐車場	57.4	4	一番街周辺の民間駐車場	11.5	
2	厚木中央公園地下駐車場	5.2	5	その他	5.4	
3	中町立体駐車場	20.1			無回答	0.3

問28 厚木市の将来的な土地利用について、最も力を入れた方が良いと思うことは何ですか。

(1つだけ選んでください) (n=1, 284)

1	中心市街地の整備を推進すべきである。	41.4	
2	インターチェンジ周辺の新たな土地利用を推進すべきである。	12.8	
3	良好な住環境の保全を推進すべきである。	17.6	
4	自然環境の保護を優先すべきである。	18.0	
5	その他	2.6	
		無回答	7.6

問29 厚木市内の道路の現状について、どう思いますか。(いくつでも選んでください)

(n=1, 284)

1	渋滞がひどい	43.0	7	歩道が少なく、安心して歩けない	31.6	
2	渋滞が改善されてきた	17.6	8	未舗装道路が多い	3.7	
3	バリアフリー化が進んできた	10.0	9	舗装状態がよくない	17.5	
4	よく整備されている	6.5	10	側溝が整備されていないため、降雨時に		
5	道路幅員が狭い	33.2		冠水する	14.5	
6	工事が多い	19.9	11	その他	6.5	
					無回答	6.9

問30 厚木市内の道路整備に何を望みますか。(いくつでも選んでください) (n=1, 284)

1	渋滞解消(交差点の改良等)	55.9	9	街路灯・カーブミラー等整備	35.0	
2	バリアフリー化のさらなる推進	22.0	10	騒音等の環境対策	13.3	
3	都市計画道路など幹線道路の早期完成	18.1	11	高速道路の整備	3.6	
4	生活道路を中心とした道路拡幅	31.5	12	バス等の公共交通機関への支援	25.9	
5	歩道の設置	39.3	13	道路景観の改善	7.0	
6	未舗装道路の舗装整備	6.3	14	市内に整備が予定されている		
7	安心して散策できる遊歩道等の整備	31.4		インターチェンジへのアクセス道路の整備	17.0	
8	災害時・緊急時に対応できる道路整備	29.7	15	その他	4.4	
					無回答	5.5

問31 河川環境の整備がされていると感じることは何ですか。(1つだけ選んでください)

(n=1, 284)

1	自然環境に配慮した河川整備			31.8
2	水辺の自然を楽しめる親水施設の整備			12.9
3	河川敷に植栽をしたり清掃をしたりするなど河川愛護の取組がされている			19.6
4	河川堤防を活用した遊歩道の整備			21.0
			無回答	14.7

問32 市民の声を政策や市の取組に反映させるための仕組みは十分だと思いますか。

(1つだけ選んでください) (n=1, 284)

1	そう思う	5.5	3	どちらかといえばそう思わない	38.2
2	どちらかといえばそう思う	31.6	4	そう思わない	20.1
				無回答	4.5

問33 行政の情報が積極的に公開されていると思いますか。(1つだけ選んでください)

(n=1, 284)

1	そう思う	6.4	3	どちらかといえばそう思わない	33.2
2	どちらかといえばそう思う	38.6	4	そう思わない	17.9
				無回答	4.0

問34 あなたは厚木市のマスコットキャラクター「あゆコロちゃん」をどこで見たことがありますか。(あてはまるものを全て選んでください) (n=1, 284)

1	市のホームページ	32.9	6	テレビ番組、CM	37.0
2	あゆコロちゃんフェイスブック	4.2	7	ポスター、チラシ、新聞	44.8
3	広報あつぎ	63.5	8	関連グッズ	21.7
4	市内イベント会場	45.4	9	その他	6.9
5	市外イベント会場	3.7	10	あゆコロちゃんを知らない	9.2
				無回答	1.6